

# 愛知県ヤングケアラー実態調査 報告書

2022年3月

愛知県福祉局児童家庭課





# 目次

<b>第1章 調査の背景・目的</b> .....	<b>1</b>
1. ヤングケアラーについて.....	1
(1) ヤングケアラーとは .....	1
(2) ヤングケアラーへの支援がなぜ必要か .....	1
2. 国における実態調査と検討経緯 .....	2
(1) 2020年度厚生労働省全国調査の概要 .....	2
(2) ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム .....	2
3. 本県におけるヤングケアラー実態調査の目的と調査概要 .....	2
(1) 本県のヤングケアラー実態調査の目的.....	2
(2) 調査のフレーム .....	3
(3) 小中高生に対するアンケート調査について.....	4
<b>第2章 小中高生の生活実態に関する調査</b> .....	<b>5</b>
1. 小中高生調査の実施概要 .....	5
(1) 調査対象 .....	5
(2) 実施時期 .....	5
(3) 調査方法 .....	5
(4) 回収状況 .....	5
2. 生活実態に関するアンケート調査結果 .....	6
(1) 子どもの属性.....	6
(2) ふだんの生活について .....	10
(3) 家庭や家族のこと.....	16
(4) ヤングケアラーについて .....	35
3. テーマ別の分析.....	37
(1) 家族のお世話をしている人について.....	37
(2) 健康状態と学校生活等 .....	126
(3) 生活の満足度と学校生活等 .....	134
4. 自由意見について.....	140
<b>第3章 学校におけるヤングケアラーへの対応に関する調査</b> .....	<b>143</b>
1. 学校調査の実施概要.....	143
(1) 調査対象 .....	143
(2) 実施時期 .....	143
(3) 調査方法 .....	143
(4) 回収状況 .....	143

2. 学校におけるヤングケアラーへの対応に関する調査結果.....	144
(1) 学校の概要.....	144
(2) 支援が必要だと思われる子どもへの対応 .....	146
(3) ヤングケアラーについて .....	153
(4) 個別の事例.....	163
<b>第4章 インタビュー調査.....</b>	<b>177</b>
1. インタビュー調査の実施概要.....	177
(1) 調査対象・実施時期 .....	177
(2) 調査方法 .....	177
2. 元ヤングケアラーインタビュー調査結果.....	178
(1) インタビュー対象者.....	178
(2) インタビュー結果.....	178
3. 自治体・関係機関インタビュー調査結果.....	184
(1) 豊橋市こども未来部こども若者総合相談支援センター ココエール.....	184
(2) 豊田市福祉総合相談課 .....	187
(3) 愛知県中央児童・障害者相談センター.....	189
(4) 愛知県西三河児童・障害者相談センター.....	192
(5) 愛知県立学校スクールソーシャルワーカー(総合教育センター勤務).....	194
(6) 半田市社会福祉協議会 .....	197
(7) わいわい子ども食堂・寺子屋学習塾.....	201
(8) 公益財団法人豊田市文化振興財団.....	203
(9) NPO 法人葵風障がい者デイサービスいちほし.....	206
(10) 愛知県居宅介護支援事業者連絡協議会.....	209
(11) 愛知県医療ソーシャルワーカー協会 .....	211
(12) 名古屋大学医学部附属病院 .....	213
(13) 愛知県重症心身障害児(者)を守る会 .....	216
(14) 愛知県自閉症協会つぼみの会 .....	218
(15) きょうだい会@Nagoya .....	220
4. 学校インタビュー調査結果.....	224
(1) 名古屋地域 小学校.....	224
(2) 西三河地域 小学校.....	226
(3) 西三河地域 小学校.....	229
(4) 尾張地域 中学校.....	231
(5) 西三河地域 中学校.....	234
(6) 西三河地域 中学校.....	236

(7) 東三河地域 中学校 .....	239
(8) 名古屋地域 高等学校 .....	242
(9) 西三河地域 高等学校 .....	245
(10) 東三河地域 高等学校.....	248
<b>第5章 調査結果の考察 .....</b>	<b>251</b>
1. 小・中・高校生の生活実態に関するアンケート調査より .....	251
(1) お世話をしている家族が「いる」子どもの割合とお世話による影響 .....	251
(2) ヤングケアラーの自覚と認知度 .....	252
(3) お世達の悩みについでの相談状況.....	252
(4) ヤングケアラー支援において必要な視点 .....	253
2. 学校へのアンケート調査・インタビュー調査より .....	253
(1) 「ヤングケアラーの可能性がある子どもは身近にいる」という意識が必要.....	253
(2) 学校で抱え込まず早期に福祉につなぐ体制づくり.....	254
(3) スクールソーシャルワーカーの役割 .....	254
(4) 教職員のヤングケアラーに関する理解の促進 .....	254
(5) 子ども自身のヤングケアラーに関する理解.....	254
3. 関係機関へのインタビュー調査より.....	255
(1) ヤングケアラーへの支援における基本的な考え方の確認 .....	255
(2) 子どもに対する支援として必要なこと.....	256
(3) ヤングケアラー支援において学校に期待される役割 .....	256
(4) 支援にあたる関係機関に求められる役割とそのため必要な取組み.....	257

(参考)

- 市町村相談窓口一覧
- 児童相談所一覧
- 全国共通相談窓口
- アンケート調査票



# 第1章 調査の背景・目的

## 1. ヤングケアラーについて

### (1) ヤングケアラーとは

「ヤングケアラー」について、法令上の定義はないが、一般に、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども」とされており、一般社団法人日本ケアラー連盟のヤングケアラープロジェクトでは、ヤングケアラーの具体例として以下のように紹介されている。

図表-1 ヤングケアラーのイメージ(例)



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている



目を離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている



アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟

### (2) ヤングケアラーへの支援がなぜ必要か

ヤングケアラーといわれる子どもたちは、家事や家族の世話を日常的に行うことにより、学校に行けない、勉強する時間がとれない、友達と遊んだりクラブ活動に参加したりするなど、自分がしたいと思っていることに時間を割けない状況にある可能性がある。また、年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担を負っている可能性もあり、その結果、勉強がうまくいかなくなる、人間関係をうまく築くことができなくなる等、本人の育ちや教育など、精神面を含めて子どもの将来に影響を及ぼす可能性が指摘されている。

しかし、ヤングケアラーについては、家庭内のデリケートな問題、本人や家族に自覚がない、不安や不満を抱えていても言い出すことができない子どももあり、支援が必要であっても表面化しにくい。

そのため、このような状況にあるヤングケアラーに、まわりの大人が早くに気づき、子どもの想いを聴いて支援につなぐことで「子どもらしく生きる権利」を守り、子どもたちの心身の健やかな育ちを支えていく取組みが求められている。

## 2. 国における実態調査と検討経緯

### (1) 2020年度厚生労働省全国調査の概要

国では、2020年度にヤングケアラーの実態を把握するための初の全国調査を実施した。

当該調査によると、その結果、中高生へのアンケート調査では、中学2年生の5.7%、全日制高校2年生の4.1%が、「世話をしている家族がいる」と回答した。

そのうち、家族への世話を「ほぼ毎日」している中高生は5割弱で、平日一日に平均7時間以上家族の世話をしている中高生は約1割という結果であり、子どもにとって負担が大きい状況にある子どもがいることが確認されている。「世話をしているでも自分のやりたいことへの影響は特にない」と回答した子どもが半数程度ではあるものの、一方で本人にヤングケアラーという自己認識のない子どもの存在や、子どもらしい生活が送れていないが誰にも相談できずにいる子どもがいることが推察される結果であった。

なお、当該調査で実施された学校へのアンケート調査では、中学校の46.6%、全日制高校の49.8%が、「本校にヤングケアラーに該当すると思われる子どもがいる」と回答している。

### (2) ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム

2021年3月、厚生労働副大臣と文部科学副大臣を共同議長とする「ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム」（以下、「PT」という。）が設置された。

本PTは、ヤングケアラーについては、福祉、介護、医療、教育等といった様々な分野が連携し、ヤングケアラーを早期に発見したうえで支援を行うことが重要であることから、関係機関の連携をより一層推進し、ヤングケアラーの支援につなげるための方策について、厚生労働省及び文部科学省が連携し、検討を進めることを目的として設置され、2021年5月17日に検討結果がとりまとめられている。

報告では、関係機関が連携し、ヤングケアラーを早期に発見して適切な支援につなげるために、早期発見・把握、支援策の推進、社会的認知度の向上に関して今後取り組むべき施策が挙げられている。そのうち、早期発見・把握に関する取組の一つとして「地方自治体における現状把握の推進」が位置付けられており、各地域でヤングケアラーに対する支援を適切に行うとともに、ヤングケアラーに関する問題意識を喚起するためには各自自治体において実態調査を行うことが有効であるとされている。

## 3. 本県におけるヤングケアラー実態調査の目的と調査概要

### (1) 本県のヤングケアラー実態調査の目的

前述のとおり、ヤングケアラーの支援においては、子どものまわりにいる大人が早く気づき、子どもに向き合い、その地域にある資源を活用した支援につなげていくことが必要であり、対象の子どもがいる各地域において、関係機関・団体がヤングケアラーの認知度・理解度を高め、しっかりと連携を図っていくことが必要である。PTにおいて「地方自治体における現状把握の推進」が示されているよ



うに、そのような環境・体制としていくためには、県内におけるヤングケアラーに関する関心・意識を高めるとともに、県内の子どもの状況や、学校を始めとした関係機関・団体における取組みの状況や抱えている課題等を踏まえたうえで、必要な施策を検討する必要があることから、本県独自で県内全域を対象とした「愛知県ヤングケアラー実態調査」を実施することとした。

なお、国の調査では、「世話をしている家族がいる」と回答した子どもの割合が中学2年生の5.7%、全日制高校2年生の4.1%となっており、身近なところにヤングケアラーの可能性のある子どもがいる、という意識をもつ必要がある。本県での調査においてもヤングケアラーである可能性のある子どもの割合や数を把握することで「身近にいる」ということを改めて確認するという目的はあるが、その割合や数に関わらず、ヤングケアラーの子どもたちをどう支援していくかを重視して調査を行う。

## (2) 調査のフレーム

### ① 県内の小学生・中学生・高校生を対象としたアンケート調査

子どもの生活実態等を把握するため、県内の公立学校(約2割)の小学5年生、中学2年生、高校2年生を対象としたアンケート調査を実施した。

WEB 回答での調査とし、学校の授業時間等を利用して回答することとした。

### ② 県内全公立学校を対象としたアンケート調査

県内の公立学校 1,573 校(小学校:965 校、中学校:416 校、高校:192 校(定時制:31 校、通信制:2校を含む))を対象として、アンケート調査を実施した。

### ③ 元ヤングケアラーへのインタビュー調査

当事者の声・意見を踏まえた施策検討を行うため、ヤングケアラーとして家族のケアを担っていた8名の方へのインタビュー調査を実施した。

### ④ 学校・関係機関・自治体へのインタビュー調査

PT の報告書において、ヤングケアラーの早期発見・把握のために今後取り組むべき施策として「学校においてヤングケアラーを把握する取組み」「医療機関・福祉事業者の関わりがある場合に、ヤングケアラーを把握する取組み」「児童委員や子ども食堂等の地域や民間の目でヤングケアラーを把握する取組み」の3つがあげられていることを踏まえ、これらの機関(学校:10 校、関係機関:15 か所)を対象としたインタビュー調査を実施した。

図表-2 本調査の構成



### (3) 小中高生に対するアンケート調査について

#### ① 小学生に対する調査の実施

国の全国調査は、中学2年生、高校2年生を対象に実施したが、その調査において、「世話を始めた年齢」が平均 11 歳程度との結果であったことを踏まえ、本県の実態調査では、中学2年生、高校2年生に加えて、独自に小学5年生を調査対象とした。

#### ② 国の全国調査と比較できるよう、国の調査にあわせた設問での調査の実施

本県の調査は、国の全国調査の結果と比較できるよう、国の調査にあわせた設問にて実施した。そのため、本調査におけるヤングケアラーについての説明は、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話等を日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」とした。

また、ヤングケアラーの実態を把握する方法として、子どもに自身がヤングケアラーに該当するか確認したうえで、そのケアの内容を聞いていくことも考えられるが、同様の理由より、子どもが担っているお世話の実態を確認したうえで、ヤングケアラーについて説明し、自身が該当すると思うかを問う設問構成としている。

#### ③ 県独自の設問を追加

前述の通り、国の全国調査の結果と比較できるよう、国の調査にあわせた項目としつつ、本県独自の設問として「将来の進路希望」「現在の生活への満足度」「利用しやすい相談方法」の3項目を追加し、家族のお世話を行っていることとの関係性や相談支援体制の充実につながる分析をできるようにした。

## 第2章 小中高生の生活実態に関する調査

### 1. 小中高生調査の実施概要

#### (1) 調査対象

愛知県内公立小中学校、高等学校から地域性に配慮した上で、約2割の学校を無作為抽出した該当校の調査対象学年全員

図表-3 対象数

	対象数
小学5年生	13,931人
中学2年生	13,404人
高校2年生	10,393人
合計	37,728人

※対象数は2021年5月1日時点

#### (2) 実施時期

2021年11月17日(水)～2021年12月17日(金)

#### (3) 調査方法

調査対象となった学校を通じて対象者に調査回答フォームのQRコード、URLを記載した調査概要を配布。Web上で回答、回収を実施。

#### (4) 回収状況

各調査種別での回収状況は以下の通り。

図表-4 回収状況

	回収数
小学5年生	11,970
中学2年生	11,116
高校2年生	7,511
合計	30,597

※調査結果の表示方法

- 集計結果の百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入した値を表記している。  
このため、選択肢ごとの構成比の見かけ上の合計が100.0%にならない場合がある。
- 報告書中の表において、値の小さい項目は表が省略されている場合がある。

## 2. 生活実態に関するアンケート調査結果

### (1) 子どもの属性

#### ① 性別

図表-5 性別

(%)

	調査数 (n=)	男性	女性	答えたくない、 わからない、 その他	無回答
小学5年生	11,970	49.9	47.9	1.8	0.4
中学2年生	11,116	49.9	47.6	2.5	0.1
高校2年生(全日制)	7,145	46.8	51.1	2.1	0.0
高校2年生(定時制)	327	60.6	36.7	2.8	0.0
高校2年生(通信制)	39	25.6	71.8	2.6	0.0

② 現在住んでいる市町村

現在住んでいる市町村は、以下のとおりとなっている。

図表－6 現在住んでいる市町村

	小学 5年生	中学 2年生	高校 2年生 (全日制)	高校 2年生 (定時制)	高校 2年生 (通信制)		小学 5年生	中学 2年生	高校 2年生 (全日制)	高校 2年生 (定時制)	高校 2年生 (通信制)
調査数 (n=)	11,970	11,116	7,145	327	39	調査数 (n=)	11,970	11,116	7,145	327	39
名古屋市	21.0	23.4	23.7	27.2	0.0	豊明市	0.4	1.6	0.8	0.3	2.6
豊橋市	3.0	3.8	2.9	6.4	5.1	日進市	0.1	1.0	1.0	0.6	0.0
岡崎市	4.7	2.6	7.2	2.4	15.4	田原市	1.2	1.1	0.5	0.9	0.0
一宮市	6.0	2.4	5.3	8.9	0.0	愛西市	0.3	1.0	0.4	0.9	0.0
瀬戸市	0.9	1.5	2.5	3.1	0.0	清須市	0.7	1.1	1.0	0.6	0.0
半田市	2.2	0.9	2.6	1.2	7.7	北名古屋市	0.5	0.8	1.0	2.4	0.0
春日井市	5.6	3.2	3.6	2.8	0.0	弥富市	1.2	0.0	0.5	0.0	0.0
豊川市	1.6	2.1	1.5	0.3	2.6	みよし市	1.6	1.6	1.3	1.2	0.0
津島市	0.3	1.1	0.5	4.3	0.0	あま市	0.3	0.5	1.2	0.3	2.6
碧南市	0.4	0.6	1.6	1.5	2.6	長久手市	1.4	2.1	1.2	1.8	0.0
刈谷市	1.6	1.5	1.6	1.2	2.6	東郷町	0.5	1.8	0.5	0.0	0.0
豊田市	3.4	1.8	7.2	2.4	7.7	豊山町	0.4	1.3	0.2	1.2	0.0
安城市	2.7	3.8	3.4	0.9	2.6	大口町	0.5	0.4	0.2	0.0	0.0
西尾市	2.2	2.2	1.6	1.2	10.3	扶桑町	0.5	1.5	0.3	0.3	0.0
蒲郡市	1.0	1.3	1.6	0.0	2.6	大治町	0.8	2.6	0.6	0.6	0.0
犬山市	2.6	1.8	0.8	0.9	0.0	蟹江町	0.4	0.9	0.4	1.2	0.0
常滑市	2.6	0.7	1.8	1.2	0.0	飛島村	0.4	0.3	0.1	0.9	0.0
江南市	0.5	0.7	1.3	0.0	0.0	阿久比町	0.3	2.2	0.5	0.0	2.6
小牧市	3.9	2.2	1.8	0.9	0.0	東浦町	0.6	0.4	1.0	0.6	2.6
稲沢市	1.0	2.9	2.3	2.4	0.0	南知多町	0.1	0.2	0.1	0.0	0.0
新城市	0.7	0.5	0.1	0.0	0.0	美浜町	0.1	0.5	0.3	0.0	0.0
東海市	1.3	1.4	1.5	4.3	0.0	武豊町	0.5	0.8	0.6	0.6	2.6
大府市	0.8	0.8	0.5	0.0	2.6	幸田町	0.3	1.5	0.6	0.0	2.6
知多市	0.8	0.9	1.7	2.8	5.1	設楽町	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
知立市	0.7	1.9	1.5	0.3	10.3	東栄町	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0
尾張旭市	1.5	1.9	1.9	2.1	0.0	豊根村	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
高浜市	1.6	2.7	0.7	0.9	5.1	無回答	11.6	3.1	2.4	4.6	2.6
岩倉市	0.2	0.7	0.6	0.9	0.0						

【名古屋市内の区】

図表－7 名古屋市内の区

(%)

	小学5年生	中学2年生	高校2年生 (全日制)	高校2年生 (定時制)	高校2年生 (通信制)
調査数 (n=)	2,516	2,605	1,691	89	—
千種区	5.9	4.2	4.0	3.4	—
東区	2.0	2.6	1.9	1.1	—
北区	3.1	3.8	7.6	15.7	—
西区	3.8	3.6	6.4	11.2	—
中村区	6.6	3.6	6.3	6.7	—
中区	6.5	4.6	1.9	3.4	—
昭和区	9.1	10.8	2.7	3.4	—
瑞穂区	1.1	5.3	3.3	4.5	—
熱田区	2.0	3.3	2.7	2.2	—
中川区	5.9	5.8	10.5	7.9	—
港区	8.5	5.7	6.7	6.7	—
南区	9.4	5.4	6.0	4.5	—
守山区	2.0	12.0	10.1	11.2	—
緑区	16.8	15.8	15.7	5.6	—
名東区	10.8	10.6	7.0	7.9	—
天白区	4.9	2.1	6.6	3.4	—
無回答	1.4	0.8	0.5	1.1	—

③ 家族構成

家族構成については、「父母と自分、きょうだい」が、小学5年生:72.1%、中学2年生:70.3%、高校2年生(全日制):69.5%、高校2年生(定時制):59.6%となっている。

図表－8 家族構成

(%)

	調査数 (n=)	父母と 自分、 きょうだい	3世代	ひとり親	その他	無回答
小学5年生	11,970	72.1	15.9	7.1	4.2	0.7
中学2年生	11,116	70.3	16.6	9.2	3.3	0.5
高校2年生(全日制)	7,145	69.5	17.2	10.6	2.4	0.3
高校2年生(定時制)	327	59.6	16.5	18.3	4.9	0.6
高校2年生(通信制)	39	56.4	15.4	12.8	12.8	2.6

#### ④ 健康状態

健康状態については、「よい」「まあよい」といった比較的よいとする人が、小学5年生:78.2%、中学2年生:75.4%、高校2年生(全日制):72.0%、高校2年生(定時制):55.3%となっている。一方で、「あまりよくない」「よくない」といった人は、小学5年生:3.1%、中学2年生:4.9%、高校2年生(全日制):5.0%、高校2年生(定時制):12.2%となっている。

図表-9 健康状態

	調査数 (n=)	よい	まあよい	ふつう	あまり よくない	よくない	無回答
小学5年生	11,970	58.8	19.4	17.5	2.8	0.3	1.2
中学2年生	11,116	52.1	23.3	19.2	4.3	0.6	0.5
高校2年生(全日制)	7,145	48.3	23.7	22.7	4.3	0.7	0.3
高校2年生(定時制)	327	39.4	15.9	31.8	10.1	2.1	0.6
高校2年生(通信制)	39	30.8	12.8	48.7	2.6	5.1	0.0

#### ⑤ 現在在籍している学校に入学した理由(高校2年生(通信制)のみ)

現在在籍している学校に入学した理由については、「学習スタイルが自分に合っている(登校頻度など)」が71.8%と最も高く、次いで「仕事やアルバイト、自分のやりたいこと等と両立しやすい」46.2%、「集団生活に入らなくてもよい」28.2%などとなっている。

図表-10 現在在籍している学校に入学した理由(複数回答)

	調査数 (n=)	学習スタイルが自分に合っている(登校頻度など)	自分に合った授業内容が提供されている	集団生活に入らなくてもよい	自分のやりたいこと等と両立しやすい	仕事やアルバイト、自分のやりたいこと等と両立しやすい	家族の世話や介護と両立しやすい	全日制高校に通っていたが辞めた	高校進学機会が過ぎなかった	その他	無回答
高校2年生(通信制)	39	71.8	5.1	28.2	46.2	5.1	12.8	7.7	0.0	0.0	

#### ⑥ 「全日制高校に通っていたが辞めた」理由(高校2年生(通信制)のみ)

図表-11 「全日制高校に通っていたが辞めた」理由(複数回答)

	調査数 (n=)	通学スタイルが自分に合わなかった(登校頻度など)	授業内容が自分に合わなかった	集団生活が自分に合わなかった	経済的な理由で通えなくなった	家族の世話や介護をする必要があった	トラブル等が理由で退学になった	その他	無回答
高校2年生(通信制)	5	0.0	20.0	60.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0

## (2) ふだんの生活について

### ① 学校への通学状況

#### i) 出席状況

出席状況については、「ほとんど欠席しない」が、小学5年生:75.9%、中学2年生:77.4%、高校2年生(全日制):76.0%、高校2年生(定時制):60.2%となっている。また、「たまに欠席する」「よく欠席する」は高校2年生(定時制)が他に比べて高くなっている。

図表-12 出席状況

(%)

	調査数 (n=)	ほとんど 欠席しない	たまに 欠席する	よく欠席 する	無回答
小学5年生	11,970	75.9	13.9	9.9	0.3
中学2年生	11,116	77.4	11.2	11.4	0.1
高校2年生(全日制)	7,145	76.0	13.9	10.0	0.1
高校2年生(定時制)	327	60.2	23.9	15.9	0.0

#### ii) 遅刻や早退の状況

遅刻や早退の状況については、「ほとんどしない」が、小学5年生:86.1%、中学2年生:87.4%、高校2年生(全日制):87.4%、高校2年生(定時制):70.3%となっている。

図表-13 遅刻や早退の状況

(%)

	調査数 (n=)	ほとんど しない	たまにする	よくする	無回答
小学5年生	11,970	86.1	11.9	1.7	0.3
中学2年生	11,116	87.4	10.8	1.6	0.2
高校2年生(全日制)	7,145	87.4	11.3	1.2	0.1
高校2年生(定時制)	327	70.3	21.7	8.0	0.0

### ② 部活動(学校以外での活動を含む)への参加の有無

部活動(学校以外での活動を含む)に参加しているかについては、中学2年生、高校2年生(全日制)、高校2年生(定時制)は「参加している」が半数以上を占めている。

図表-14 部活動への参加の有無

(%)

	調査数 (n=)	参加している	参加していない	無回答
中学2年生	11,116	89.3	10.4	0.3
高校2年生(全日制)	7,145	81.9	18.0	0.1
高校2年生(定時制)	327	59.9	39.8	0.3
高校2年生(通信制)	39	10.3	89.7	0.0



### ③ ふだんの学校生活

ふだんの学校生活の状況として当てはまるものは、小学5年生、中学2年生では「持ち物の忘れ物が多い」(それぞれ 25.3%、20.4%)が、高校2年生(全日制)、高校2年生(定時制)では「授業中に居眠りすることが多い」(それぞれ 45.3%、32.4%)が高くなっている。

高校2年生(定時制)では、「学校では1人で過ごすことが多い」(12.8%)、「友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」(12.2%)が高校2年生(全日制)に比べて高くなっている。

図表－15 ふだんの学校生活(複数回答)

	調査数 (n=)	授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	※クラブ活動や習い事を休むことが多い	提出しなければならない書類などの提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する
小学5年生	11,970	5.8	12.7	25.3	1.7	14.1	0.6
中学2年生	11,116	16.0	19.2	20.4	6.7	20.1	0.5
高校2年生 (全日制)	7,145	45.3	19.1	13.6	5.9	13.2	1.0
高校2年生 (定時制)	327	32.4	17.7	13.8	5.8	17.4	4.3
	調査数 (n=)	保健室で過ごすことが多い	学校では1人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答	
小学5年生	11,970	1.0	6.1	5.2	59.1	2.7	
中学2年生	11,116	1.1	6.3	5.3	52.2	3.3	
高校2年生 (全日制)	7,145	0.8	6.7	7.2	37.6	2.2	
高校2年生 (定時制)	327	1.5	12.8	12.2	40.7	2.8	

※「クラブ活動」は中高生では「部活動」

#### ④ 現在、悩んだり困ったりしていること

現在、悩んだり困ったりしていることについては、小学5年生は「特にない」(57.5%)が最も高く、次いで「勉強や成績のこと」(23.9%)となっている。また、中学2年生は「勉強や成績のこと」(43.7%)、「進路のこと」(42.1%)の順に高く、高校2年生(全日制)は「進路のこと」(53.5%)、「勉強や成績のこと」(45.4%)の順に高く、高校2年生(定時制)では「進路のこと」(46.2%)、「特にない」(32.7%)の順に高くなっている。

図表-16 現在、悩んだり困ったりしていること(複数回答)

	調査数 (n=)	友人との関係のこと	勉強や成績のこと	進路のこと	※部活動のこと	※学級費など学校で必要なお金のこと	塾(通信教育を含む)や習い事ができない	※(生活が苦しいなど)家のお金のこと	
小学5年生	11,970	16.9	23.9	7.3	—	2.2	1.4	1.8	
中学2年生	11,116	16.0	43.7	42.1	14.9	3.6	2.1	4.0	
高校2年生(全日制)	7,145	11.7	45.4	53.5	14.4	5.6	1.9	5.2	
高校2年生(定時制)	327	14.1	31.2	46.2	8.6	10.7	3.7	10.1	
高校2年生(通信制)	39	5.1	5.1	46.2	0.0	7.7	2.6	23.1	
	調査数 (n=)	自分と家族との関係のこと	家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)	家族のこと	病気や障がいのある家族のこと	自分のために使える時間が少ない	その他	特にない	無回答
小学5年生	11,970	5.6	3.4	1.5	4.6	2.6	57.5	2.7	
中学2年生	11,116	6.4	5.1	1.6	5.7	2.6	34.7	2.4	
高校2年生(全日制)	7,145	5.2	4.7	1.4	12.0	1.7	26.8	2.1	
高校2年生(定時制)	327	7.6	4.3	2.8	8.3	2.8	32.7	3.1	
高校2年生(通信制)	39	7.7	12.8	5.1	12.8	2.6	33.3	0.0	

※「部活動のこと」は中高生のみ

※「学級費など学校で必要なお金のこと」は中高生では「学費(授業料)など学校生活に必要なお金のこと」

※「(生活が苦しいなど)家のお金のこと」は中高生では「家庭の経済的状況のこと」

⑤ 悩みや困りごとについて、相談にのってくれたり話を聞いてくれる人の有無

現在何らかの悩みや困りごとがあると回答した人に、悩みや困りごとについて、相談にのってくれたり話を聞いてくれる人がいるか聞いたところ、「相談相手や話を聞いてくれる人がいる」が、小学5年生:68.0%、中学2年生:72.0%、高校2年生(全日制):81.0%、高校2年生(定時制):72.4%となっている。

図表-17 悩みや困りごとについて、相談にのってくれたり話を聞いてくれる人の有無

(%)

	調査数 (n=)	相談相手や話を聞いてくれる人がいる	相談相手や話を聞いてくれる人がいない	相談や話はしたくない	無回答
小学5年生	4,760	68.0	5.2	25.2	1.6
中学2年生	6,985	72.0	3.6	23.9	0.5
高校2年生(全日制)	5,086	81.0	3.3	15.4	0.3
高校2年生(定時制)	210	72.4	5.2	21.0	1.4
高校2年生(通信制)	26	80.8	7.7	11.5	0.0

⑥ 家族の人以外に相談するときに、相談したい方法

現在何らかの悩みや困りごとがあると回答した人に、悩みや困りごとについて、家族の人以外に相談する時に、相談したい方法について聞いたところ、「面接(直接対面で話す)」が小学5年生:36.4%、中学2年生:33.8%、高校2年生(全日制):38.3%、高校2年生(定時制):32.4%と高くなっている。また、中学2年生、高校2年生では、面接に次いで、SNS相談が高くなっている。

図表-18 家族の人以外に相談するときに、相談したい方法(複数回答)

(%)

	調査数 (n=)	面接(直接対面で話す)	電話相談(フリーダイヤル(通話料がからないもの))	電話相談(通話料のかかるもの)	メールでの相談	SNS相談(LINE、チャットなど)	その他	特にない	無回答
小学5年生	4,760	36.4	12.1	1.3	12.4	13.4	3.0	39.5	3.3
中学2年生	6,985	33.8	11.4	1.1	12.6	29.7	1.2	39.3	1.4
高校2年生(全日制)	5,086	38.3	9.7	1.2	7.7	29.9	0.4	39.3	1.1
高校2年生(定時制)	210	32.4	10.0	1.0	6.2	22.4	1.4	49.5	2.4
高校2年生(通信制)	26	34.6	15.4	0.0	19.2	50.0	0.0	26.9	0.0

⑦ 電話やメール(SNS)で相談する環境の有無

家族の人以外に相談するときに、相談したい方法として面接以外の通信手段を回答した人に、電話やメール(SNS)で相談する環境があるか聞いたところ、大半が「相談できる手段(携帯やタブレット、PC)はある」(小学5年生:79.8%、中学2年生:93.7%、高校2年生(全日制):97.7%、高校2年生(定時制):95.3%)と回答した。

図表-19 電話やメール(SNS)で相談する環境の有無

(%)

	調査数 (n=)	相談できる手段 (携帯やタブレット、PC)はある	相談できる手段 (携帯やタブレット、PC)はない	無回答
小学5年生	1,354	79.8	14.2	6.0
中学2年生	2,743	93.7	4.8	1.6
高校2年生(全日制)	1,854	97.7	0.7	1.6
高校2年生(定時制)	64	95.3	3.1	1.6
高校2年生(通信制)	14	100.0	0.0	0.0

⑧ 進路希望(中学2年生、高校2年生(全日制、定時制)のみ)

将来の進路希望について聞いたところ、いずれにおいても「大学・大学院まで」(中学2年生:51.3%、高校2年生(全日制):70.8%、高校2年生(定時制):44.3%)が最も高くなっている。

図表-20 進路希望

(%)

	調査数 (n=)	中学校まで	高校まで	短期大学・ 専門学校まで	大学・大学院まで	その他	わからない	無回答
中学2年生	11,116	0.4	16.3	13.4	51.3	0.3	18.1	0.2
高校2年生 (全日制)	7,145	0.1	9.8	11.6	70.8	0.2	7.3	0.3
高校2年生 (定時制)	327	0.0	19.9	15.6	44.3	1.2	18.0	0.9

### ⑨ 今の生活の満足度

今の生活(学校生活や家族のことを含めて)にどのくらい満足しているか、まったく満足していないを0点、たいへん満足を10点として聞いたところ、小学5年生では「10点」(29.9%)、中学2年生、高校2年生(全日制)では「8点」(それぞれ20.4%、20.8%)、高校2年生(定時制)では「5点」(16.5%)が最も高くなっている。平均点では、小学5年生:7.85点、中学2年生:7.15点、高校2年生(全日制):6.92点、高校2年生(定時制):6.31点となっている。

図表-21 今の生活の満足度

	(調査数)	←-----→											無回答	平均点
		まったく満足していない ←-----→ たいへん満足												
		0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点		
小学5年生	11,970	1.2	0.6	1.1	2.2	3.7	7.7	6.0	11.0	18.5	17.6	29.9	0.4	7.85
中学2年生	11,116	1.2	0.9	1.6	3.6	4.9	10.5	10.2	16.2	20.4	13.2	16.9	0.4	7.15
高校2年生 (全日制)	7,145	1.2	0.7	1.1	4.1	5.0	12.5	12.0	19.5	20.8	9.6	13.1	0.3	6.92
高校2年生 (定時制)	327	2.1	1.2	4.0	6.7	7.6	16.5	10.7	15.0	15.6	7.3	12.2	0.9	6.31
高校2年生 (通信制)	39	2.6	0.0	2.6	7.7	7.7	25.6	7.7	10.3	23.1	7.7	5.1	0.0	6.10

### (3) 家庭や家族のこと

#### ① 家族の中にお世話をしている人の有無

家族の中にお世話をしている人がいるか聞いたところ、「いる」と回答した割合は、小学5年生：16.7%、中学2年生：11.3%、高校2年生(全日制)：7.1%、高校2年生(定時制)：11.0%となっている。

図表-22 家族の中にお世話をしている人の有無

	調査数 (n=)	いる	いない	無回答
小学5年生	11,970	16.7	81.6	1.7
中学2年生	11,116	11.3	87.4	1.3
高校2年生(全日制)	7,145	7.1	92.2	0.7
高校2年生(定時制)	327	11.0	87.2	1.8
高校2年生(通信制)	39	20.5	79.5	0.0

※高校2年生(通信制)は「いる」に19歳以上の「いた(現在はお世話をしていない)」を含む

#### ② お世話の状況について

##### i) お世話を必要としている人

家族の中にお世話をしている人が「いる」と回答した人に、お世話をしている人が誰か聞いたところ、「きょうだい」(小学5年生：45.1%、中学2年生：46.2%、高校2年生(全日制)：46.5%、高校2年生(定時制)：27.8%)と「母親」(小学5年生：43.2%、中学2年生：32.1%、高校2年生(全日制)：29.3%、高校2年生(定時制)：33.3%)が高くなっている。

図表-23 お世話を必要としている人(複数回答)

	調査数 (n=)	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他	無回答
小学5年生	2,004	43.2	28.1	14.3	10.4	45.1	2.3	21.6
中学2年生	1,260	32.1	17.6	11.3	7.4	46.2	2.5	22.7
高校2年生 (全日制)	508	29.3	14.8	12.2	7.3	46.5	2.8	19.5
高校2年生 (定時制)	36	33.3	25.0	5.6	2.8	27.8	8.3	19.4

※高校2年生(通信制)は調査数が少ないため、掲載していない

ii) お世話を必要としている人の状況やお世話の内容

a) お世話を必要としている人の状況とその内容

誰のお世話をしているのか回答した人に、お世話している人の状況とお世話の内容について聞いたところ、回答は以下のとおり。

図表-24 【小学5年生】父母の状況×父母のお世話の内容(複数回答)

	調査数 (n=)	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り
全体	890	79.8	18.3	49.4	15.1	24.4	38.2
高齢(65歳以上)	12	83.3	33.3	50.0	16.7	16.7	50.0
要介護(介護が必要な状態)	12	91.7	41.7	91.7	41.7	58.3	66.7
認知症	6	83.3	16.7	50.0	16.7	33.3	33.3
身体障がい	20	55.0	20.0	50.0	25.0	25.0	50.0
知的障がい	4	75.0	25.0	75.0	50.0	75.0	50.0
精神疾患(疑い含む)	14	64.3	21.4	50.0	14.3	50.0	64.3
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症(疑い含む))	8	87.5	37.5	62.5	37.5	50.0	75.0
精神疾患・依存症以外の病気	13	76.9	23.1	38.5	23.1	15.4	46.2
その他	81	81.5	11.1	44.4	9.9	25.9	28.4
わからない	552	83.7	19.9	52.4	15.9	24.6	41.5
	調査数 (n=)	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答	
全体	890	9.6	33.6	21.3	4.0	6.1	
高齢(65歳以上)	12	16.7	16.7	16.7	0.0	16.7	
要介護(介護が必要な状態)	12	33.3	50.0	50.0	0.0	0.0	
認知症	6	33.3	16.7	16.7	16.7	0.0	
身体障がい	20	30.0	15.0	30.0	15.0	0.0	
知的障がい	4	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	
精神疾患(疑い含む)	14	14.3	14.3	21.4	7.1	0.0	
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症(疑い含む))	8	25.0	37.5	37.5	0.0	0.0	
精神疾患・依存症以外の病気	13	15.4	23.1	38.5	7.7	7.7	
その他	81	22.2	21.0	14.8	7.4	0.0	
わからない	552	7.6	37.5	22.6	3.8	4.0	

図表-25 【中学2年生】父母の状況×父母のお世話の内容(複数回答)

(%)

	調査数 (n=)	家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い (買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り
全体	429	73.7	9.8	42.9	10.7	31.2	19.1
高齢 (65 歳以上)	9	77.8	33.3	66.7	22.2	33.3	22.2
要介護 (介護が必要な状態)	6	100.0	33.3	33.3	33.3	50.0	50.0
認知症	3	100.0	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7
身体障がい	25	80.0	16.0	56.0	24.0	36.0	44.0
知的障がい	6	83.3	33.3	66.7	50.0	66.7	66.7
精神疾患 (疑い含む)	17	64.7	11.8	58.8	17.6	88.2	17.6
依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症 (疑い含む))	19	84.2	21.1	57.9	36.8	52.6	36.8
精神疾患・依存症以外の病気	15	73.3	6.7	33.3	26.7	66.7	26.7
その他	74	71.6	4.1	29.7	5.4	24.3	13.5
	調査数 (n=)	通訳 (日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答	
全体	429	13.8	14.7	9.3	3.7	5.1	
高齢 (65 歳以上)	9	33.3	33.3	22.2	11.1	0.0	
要介護 (介護が必要な状態)	6	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	
認知症	3	66.7	66.7	66.7	0.0	0.0	
身体障がい	25	16.0	12.0	12.0	8.0	0.0	
知的障がい	6	50.0	50.0	33.3	0.0	0.0	
精神疾患 (疑い含む)	17	17.6	17.6	17.6	5.9	0.0	
依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症 (疑い含む))	19	15.8	57.9	26.3	0.0	0.0	
精神疾患・依存症以外の病気	15	20.0	13.3	26.7	6.7	6.7	
その他	74	25.7	10.8	5.4	4.1	0.0	



図表-26 【高校2年生(全日制)】父母の状況×父母のお世話の内容(複数回答)

(%)

	調査数 (n=)	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り
全体	170	67.6	4.7	33.5	5.3	28.2	10.6
高齢(65歳以上)	3	66.7	66.7	100.0	66.7	66.7	66.7
要介護(介護が必要な状態)	5	60.0	60.0	40.0	40.0	40.0	60.0
認知症	3	33.3	66.7	100.0	66.7	66.7	66.7
身体障がい	13	23.1	38.5	38.5	23.1	30.8	53.8
知的障がい	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
精神疾患(疑い含む)	21	52.4	9.5	38.1	19.0	76.2	47.6
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症(疑い含む))	6	50.0	33.3	33.3	33.3	83.3	33.3
精神疾患・依存症以外の病気	8	62.5	37.5	62.5	37.5	25.0	50.0
その他	38	68.4	0.0	26.3	5.3	26.3	2.6
	調査数 (n=)	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答	
全体	170	14.1	4.1	4.1	0.6	3.5	
高齢(65歳以上)	3	66.7	66.7	66.7	0.0	0.0	
要介護(介護が必要な状態)	5	40.0	40.0	60.0	0.0	0.0	
認知症	3	100.0	66.7	100.0	0.0	0.0	
身体障がい	13	23.1	23.1	30.8	0.0	0.0	
知的障がい	1	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	
精神疾患(疑い含む)	21	9.5	9.5	19.0	4.8	0.0	
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症(疑い含む))	6	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	
精神疾患・依存症以外の病気	8	25.0	37.5	25.0	0.0	0.0	
その他	38	28.9	0.0	0.0	2.6	0.0	

※高校2年生(定時制)、高校2年生(通信制)は調査数が少ないため、掲載していない

図表-27 【小学5年生】祖父母の状況×祖父母のお世話の内容(複数回答)

(%)

	調査数 (n=)	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り
全体	335	51.3	18.2	44.8	13.7	22.4	51.0
高齢(65歳以上)	200	51.5	18.5	50.0	16.0	24.0	54.5
要介護(介護が必要な状態)	24	29.2	45.8	41.7	33.3	37.5	54.2
認知症	27	29.6	33.3	48.1	22.2	40.7	55.6
身体障がい	17	35.3	35.3	58.8	17.6	23.5	70.6
知的障がい	8	50.0	37.5	62.5	25.0	25.0	62.5
精神疾患(疑い含む)	4	50.0	50.0	100.0	25.0	50.0	75.0
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症(疑い含む))	3	33.3	0.0	66.7	33.3	33.3	66.7
精神疾患・依存症以外の病気	8	25.0	37.5	62.5	0.0	37.5	12.5
その他	13	30.8	23.1	46.2	7.7	23.1	76.9
わからない	90	56.7	18.9	40.0	12.2	23.3	53.3
	調査数 (n=)	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答	
全体	335	6.6	19.1	17.9	2.4	11.9	
高齢(65歳以上)	200	4.5	19.0	18.0	2.5	6.0	
要介護(介護が必要な状態)	24	4.2	20.8	33.3	8.3	4.2	
認知症	27	3.7	18.5	33.3	7.4	7.4	
身体障がい	17	5.9	17.6	47.1	5.9	5.9	
知的障がい	8	12.5	25.0	37.5	12.5	0.0	
精神疾患(疑い含む)	4	0.0	50.0	75.0	25.0	0.0	
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症(疑い含む))	3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	
精神疾患・依存症以外の病気	8	0.0	12.5	12.5	12.5	0.0	
その他	13	15.4	15.4	7.7	7.7	0.0	
わからない	90	7.8	22.2	21.1	2.2	16.7	

図表-28 【中学2年生】祖父母の状況×祖父母のお世話の内容(複数回答)

(%)

	調査数 (n=)	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り
全体	168	36.9	19.0	41.1	14.3	28.0	45.8
高齢(65歳以上)	120	36.7	21.7	45.8	13.3	33.3	48.3
要介護(介護が必要な状態)	29	34.5	48.3	27.6	44.8	37.9	72.4
認知症	30	33.3	30.0	33.3	13.3	46.7	70.0
身体障がい	18	33.3	33.3	50.0	44.4	33.3	55.6
知的障がい	2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
精神疾患(疑い含む)	4	75.0	50.0	75.0	75.0	100.0	75.0
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症(疑い含む))	7	71.4	42.9	57.1	28.6	57.1	85.7
精神疾患・依存症以外の病気	5	60.0	20.0	80.0	20.0	60.0	100.0
その他	12	16.7	25.0	25.0	8.3	16.7	58.3
	調査数 (n=)	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答	
全体	168	5.4	6.0	7.7	4.8	9.5	
高齢(65歳以上)	120	5.8	5.8	8.3	4.2	2.5	
要介護(介護が必要な状態)	29	10.3	10.3	27.6	10.3	0.0	
認知症	30	10.0	16.7	23.3	3.3	0.0	
身体障がい	18	11.1	11.1	27.8	5.6	0.0	
知的障がい	2	50.0	100.0	100.0	0.0	0.0	
精神疾患(疑い含む)	4	50.0	50.0	75.0	0.0	0.0	
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症(疑い含む))	7	42.9	42.9	28.6	0.0	0.0	
精神疾患・依存症以外の病気	5	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	
その他	12	8.3	0.0	8.3	25.0	0.0	

図表-29 【高校2年生(全日制)】祖父母の状況×祖父母のお世話の内容(複数回答)

(%)

	調査数 (n=)	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り
全体	78	32.1	20.5	24.4	9.0	25.6	41.0
高齢(65歳以上)	65	33.8	21.5	26.2	7.7	27.7	44.6
要介護(介護が必要な状態)	15	20.0	46.7	20.0	20.0	20.0	46.7
認知症	14	50.0	21.4	14.3	14.3	35.7	64.3
身体障がい	12	25.0	50.0	33.3	8.3	41.7	75.0
知的障がい	2	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	100.0
精神疾患(疑い含む)	2	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0	100.0
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症(疑い含む))	2	50.0	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0
精神疾患・依存症以外の病気	4	25.0	25.0	75.0	25.0	25.0	50.0
その他	6	50.0	33.3	16.7	16.7	16.7	33.3
	調査数 (n=)	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答	
全体	78	3.8	2.6	7.7	6.4	10.3	
高齢(65歳以上)	65	4.6	3.1	7.7	6.2	6.2	
要介護(介護が必要な状態)	15	6.7	6.7	13.3	0.0	6.7	
認知症	14	7.1	7.1	28.6	0.0	7.1	
身体障がい	12	8.3	8.3	16.7	8.3	0.0	
知的障がい	2	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	
精神疾患(疑い含む)	2	50.0	50.0	100.0	0.0	0.0	
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症(疑い含む))	2	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	
精神疾患・依存症以外の病気	4	25.0	25.0	25.0	0.0	25.0	
その他	6	16.7	16.7	16.7	33.3	0.0	

※高校2年生(定時制)、高校2年生(通信制)は調査数が少ないため、掲載していない

図表-30 【小学5年生】きょうだいの状況×きょうだいのお世話の内容(複数回答)

	調査数 (nII)	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)
全体	904	25.9	17.3	12.9	24.6	2.9	16.4
幼い	395	22.0	23.5	21.8	24.3	4.1	15.9
要介護(介護が必要な状態)	8	25.0	37.5	75.0	50.0	25.0	37.5
認知症	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
身体障がい	8	37.5	25.0	25.0	25.0	25.0	12.5
知的障がい	15	26.7	6.7	6.7	40.0	0.0	13.3
精神疾患(疑い含む)	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症(疑い含む))	5	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0
精神疾患・依存症以外の病気	7	14.3	14.3	14.3	28.6	14.3	28.6
その他	59	23.7	10.2	5.1	23.7	0.0	13.6
わからない	306	29.1	13.4	5.6	25.2	2.0	19.0
	調査数 (nII)	見守り	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
全体	904	56.2	2.4	6.1	3.0	6.9	9.2
幼い	395	68.4	1.5	4.3	2.8	6.6	1.8
要介護(介護が必要な状態)	8	75.0	0.0	25.0	12.5	0.0	0.0
認知症	2	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
身体障がい	8	75.0	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0
知的障がい	15	80.0	6.7	0.0	0.0	20.0	0.0
精神疾患(疑い含む)	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症(疑い含む))	5	20.0	0.0	40.0	0.0	20.0	0.0
精神疾患・依存症以外の病気	7	100.0	0.0	0.0	28.6	28.6	0.0
その他	59	55.9	5.1	3.4	0.0	32.2	1.7
わからない	306	48.4	3.3	6.5	3.3	5.6	12.4

図表-31 【中学2年生】きょうだいの状況×きょうだいのお世話の内容(複数回答)

(%)

	調査数 (n=)	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)
全体	582	32.0	25.8	17.2	29.0	2.9	24.2
幼い	341	29.3	36.7	23.8	31.7	1.5	23.2
要介護(介護が必要な状態)	4	25.0	25.0	75.0	25.0	75.0	25.0
認知症	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
身体障がい	14	14.3	7.1	35.7	21.4	35.7	14.3
知的障がい	46	26.1	30.4	43.5	45.7	10.9	30.4
精神疾患(疑い含む)	8	37.5	62.5	37.5	50.0	25.0	75.0
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症(疑い含む))	3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3
精神疾患・依存症以外の病気	5	20.0	20.0	20.0	40.0	40.0	60.0
その他	47	46.8	12.8	0.0	25.5	2.1	40.4
	調査数 (n=)	見守り	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
全体	582	56.7	2.1	2.2	3.3	2.4	6.0
幼い	341	67.2	2.3	2.9	3.8	1.8	1.8
要介護(介護が必要な状態)	4	100.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0
認知症	1	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0
身体障がい	14	42.9	28.6	7.1	21.4	0.0	7.1
知的障がい	46	76.1	6.5	4.3	15.2	2.2	2.2
精神疾患(疑い含む)	8	62.5	12.5	25.0	25.0	0.0	12.5
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症(疑い含む))	3	33.3	33.3	33.3	33.3	0.0	66.7
精神疾患・依存症以外の病気	5	80.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0
その他	47	31.9	0.0	2.1	0.0	10.6	0.0

図表-32 【高校2年生(全日制)】きょうだいの状況×きょうだいのお世話の内容(複数回答)

(%)

	調査数 (n=)	家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)
全体	236	39.4	26.3	8.1	22.5	1.7	25.0
幼い	136	44.1	36.0	11.0	25.7	2.2	22.8
要介護(介護が必要な状態)	4	75.0	50.0	100.0	50.0	50.0	50.0
認知症	2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
身体障がい	7	42.9	57.1	57.1	28.6	28.6	28.6
知的障がい	21	23.8	52.4	28.6	33.3	9.5	9.5
精神疾患(疑い含む)	9	44.4	33.3	33.3	55.6	22.2	77.8
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症(疑い含む))	2	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
精神疾患・依存症以外の病気	3	66.7	66.7	66.7	66.7	66.7	100.0
その他	22	50.0	9.1	4.5	18.2	4.5	27.3
	調査数 (n=)	見守り	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
全体	236	55.1	1.7	3.0	1.3	2.1	5.5
幼い	136	70.6	1.5	2.2	1.5	0.0	0.0
要介護(介護が必要な状態)	4	100.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0
認知症	2	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0
身体障がい	7	100.0	28.6	28.6	28.6	0.0	0.0
知的障がい	21	85.7	14.3	14.3	9.5	0.0	0.0
精神疾患(疑い含む)	9	66.7	22.2	22.2	22.2	0.0	0.0
依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症(疑い含む))	2	100.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0
精神疾患・依存症以外の病気	3	100.0	66.7	66.7	66.7	0.0	0.0
その他	22	22.7	9.1	13.6	4.5	22.7	0.0

※高校2年生(定時制)、高校2年生(通信制)は調査数が少ないため、掲載していない

### iii) 一緒にお世話をしている人

家族の中にお世話をしている人が「いる」と回答した人に、一緒にお世話をしている人を聞いたところ、いずれも「母親」(小学5年生:51.2%、中学2年生:44.3%、高校2年生(全日制):45.9%)が最も高くなっている。

図表-33 一緒にお世話をしている人(複数回答)

	調査数 (n <sub>II</sub> )	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	親戚の人	自分のみ	福祉サービス (ヘルパーなど) を利用	その他	無回答
小学5年生	2,004	51.2	37.4	11.6	7.3	30.5	4.3	9.3	1.7	1.2	25.0
中学2年生	1,260	44.3	32.1	9.5	5.3	29.9	3.0	11.8	3.1	1.5	27.4
高校2年生 (全日制)	508	45.9	30.3	7.1	4.7	27.0	2.2	13.0	4.7	1.2	24.8
高校2年生 (定時制)	36	30.6	11.1	2.8	5.6	30.6	5.6	16.7	0.0	8.3	19.4

※高校2年生(通信制)は調査数が少ないため、掲載していない

### iv) お世話を始めた年齢

家族の中にお世話をしている人が「いる」と回答した人に、お世話を始めた年齢を聞いたところ、小学5年生では「小学生(低学年)」(18.9%)、中学2年生では「小学生(高学年)」(14.7%)、高校2年生(全日制)では「高校生以降」(12.6%)が最も高くなっている。

図表-34 お世話を始めた年齢

	調査数 (n <sub>II</sub> )	就学前	小学生 (低学年)	小学生 (高学年)	中学生	高校生 以降	無回答	平均値 (歳)
小学5年生	2,004	10.7	18.9	14.1	—	—	56.3	6.81
中学2年生	1,260	4.2	6.0	14.7	10.4	—	64.8	11.82
高校2年生 (全日制)	508	2.4	4.3	10.0	11.2	12.6	59.4	13.56
高校2年生 (定時制)	36	2.8	5.6	8.3	8.3	19.4	55.6	13.00

※高校2年生(通信制)は調査数が少ないため、掲載していない



#### v) お世話をしている頻度(日数)

家族の中にお世話をしている人が「いる」と回答した人に、お世話をしている頻度を聞いたところ、いずれにおいても「ほぼ毎日」(小学5年生:35.6%、中学2年生:33.7%、高校2年生(全日制):30.5%)が最も高くなっている。

図表-35 お世話をしている頻度(日数)

	調査数 (n=)	ほぼ毎日	週に3 ~5日	週に1 ~2日	1 か月に 数日	その他	無回答
小学5年生	2,004	35.6	13.6	15.4	8.8	3.0	23.7
中学2年生	1,260	33.7	14.3	13.5	9.2	3.0	26.3
高校2年生(全日制)	508	30.5	15.4	16.3	10.0	3.1	24.6
高校2年生(定時制)	36	36.1	22.2	11.1	11.1	5.6	13.9

※高校2年生(通信制)は調査数が少ないため、掲載していない

#### vi) 平日にお世話をしている時間(1日あたり)

家族の中にお世話をしている人が「いる」と回答した人に、平日にお世話をしている時間を聞いたところ、いずれも「1日3時間未満」(小学5年生:28.7%、中学2年生:19.2%、高校2年生(全日制):28.3%)が最も高くなっている。

図表-36 平日にお世話をしている時間(1日あたり)

	調査数 (n=)	1日3時間 未満	1日3時間 ~7時間 未満	1日7時間 以上	無回答	平均値 (時間)
小学5年生	2,004	28.7	11.5	8.7	51.0	4.22
中学2年生	1,260	19.2	11.8	4.7	64.3	3.66
高校2年生(全日制)	508	28.3	10.6	3.5	57.5	2.79
高校2年生(定時制)	36	33.3	13.9	2.8	50.0	2.22

※日によって異なる場合は、この1か月の中で最も長かった日の時間を聞いている。

### ③ お世話をしていることで、やりたいけど、できていないこと

家族の中にお世話をしている人が「いる」と回答した人に、お世話をしていることで、やりたいけど、できていないことがあるか聞いたところ、いずれにおいても「特にない」が最も多くなっている。一方、何らかのできないことの中では、小学5年生、中学2年生、高校2年生(全日制)とも「自分の時間がとれない」が最も高くなっている。

図表-37 お世話をしていることで、やりたいけど、できていないこと(複数回答)

	調査数 (n)	学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	※クラブ活動や習い事ができない、もしくはやめるしかなかった
小学5年生	2,004	1.3	1.3	7.3	10.7	7.3	1.0
中学2年生	1,260	0.7	0.9	9.0	8.7	8.3	1.8
高校2年生 (全日制)	508	1.4	2.0	9.4	7.7	7.5	1.4
高校2年生 (定時制)	36	5.6	11.1	13.9	25.0	5.6	2.8
	調査数 (n)	※進路の変更を考えた	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答	
小学5年生	2,004	1.0	11.2	0.2	60.9	15.2	
中学2年生	1,260	0.9	12.4	1.0	56.8	19.9	
高校2年生 (全日制)	508	2.4	12.2	0.4	55.7	21.3	
高校2年生 (定時制)	36	2.8	8.3	2.8	44.4	19.4	

※「クラブ活動や習い事ができない、もしくはやめるしかなかった」は中高生では「部活動や習い事ができない、もしくはやめざるを得なかった」

※「進路の変更を考えた」は中高生では「進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した」

※高校2年生(通信制)は調査数が少ないため、掲載していない

#### ④ お世話をすることについて、「辛い」と思うことの有無

家族の中にお世話をしている人が「いる」と回答した人に、お世話をすることで辛さを感じているかを聞いたところ、小学5年生では「よく辛いと思うことがある」(5.3%)や「ときどき辛いと思うことがある」(11.9%)といった、「辛いと思うことがある」が17.2%、「あまり辛いと思うことがない」(10.5%)や「ほとんど辛いと思うことがない」(31.0%)といった「辛いと思うことがない」が41.5%となっている。また、お世話をすることで辛さを感じていると回答した人に、それはどのようなときか聞いたところ、「疲れているとき」が69.4%と最も高く、次いで「自分の時間がほしいと思うとき」(55.5%)などとなっている。

中学生以上では「特に辛さを感じていない」(中学2年生:59.8%、高校2年生(全日制):57.3%)が半数以上を占めている。一方、辛さを感じている人の中では、「時間的余裕がない」(中学2年生:9.8%、高校2年生(全日制):11.4%)が最も高くなっている。

図表-38 お世話をすることについて、「辛い」と思うことの有無

	調査数 (n=)	よく辛い と思うこと がある	ときどき 辛いと思う ことがある	あまり辛い と思うこと がない	ほとんど 辛いと思う ことがない	わからない	無回答
小学5年生	2,004	5.3	11.9	10.5	31.0	24.5	16.7

図表-39 「辛い」と思うとき(複数回答)

	調査数 (n=)	自分の時間 がほしい と思うとき	友人と 遊びたい とき	学校の勉強 や宿題を しないとい けないとき	疲れて いるとき	お世話の 内容が大 変なとき	その他	無回答
小学5年生	346	55.5	33.2	32.9	69.4	7.5	8.4	2.0

図表-40 お世話をすることに辛さを感じるか(複数回答)

	調査数 (n=)	身体的に 辛い	精神的に 辛い	時間的余裕 がない	特に辛さは 感じていない	無回答
中学2年生	1,260	2.7	6.4	9.8	59.8	25.2
高校2年生 (全日制)	508	2.6	11.2	11.4	57.3	24.4
高校2年生 (定時制)	36	13.9	11.1	13.9	58.3	16.7

※高校2年生(通信制)は調査数が少ないため、掲載していない

⑤ お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを相談したことの有無

家族の中にお世話をしている人が「いる」と回答した人に、お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことがあるか聞いたところ、「ある」が、小学5年生:29.7%、中学2年生:14.5%、高校2年生(全日制):13.6%、「ない」が、小学5年生:61.9%、中学2年生:65.9%、高校2年生(全日制):64.8%となっている。

図表-41 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを相談したことの有無

	調査数 (n=)	ある	ない	無回答
小学5年生	2,004	29.7	61.9	8.4
中学2年生	1,260	14.5	65.9	19.6
高校2年生(全日制)	508	13.6	64.8	21.7
高校2年生(定時制)	36	8.3	69.4	22.2

※高校2年生(通信制)は調査数が少ないため、掲載していない

⑥ お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを相談した人

お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことが「ある」と回答した人に、誰に相談したか聞いたところ、「家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)」「友人」「学校の先生(保健室の先生以外)」が上位にあがっている。

図表-42 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを相談した人(複数回答)

	調査数 (n=)	家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	親戚(おじ、おばなど)	友人	学校の先生(保健室の先生以外)	保健室の先生	スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	塾や家庭教師、習い事の先生	※学校の先輩	医師や看護師、その他の病院の人
小学5年生	595	84.0	9.2	44.9	21.2	3.4	3.5	4.2	—	1.5
中学2年生	183	71.6	10.4	47.0	17.5	3.8	3.8	3.8	3.3	2.2
高校2年生(全日制)	69	59.4	8.7	59.4	20.3	7.2	7.2	7.2	7.2	4.3
	調査数 (n=)	ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人	役所や保健センターの人	学習支援、子ども食堂などの人	近所の人	SNS上での知り合い	電話相談(チャイルドラインあいちなど)	その他	無回答	
小学5年生	595	1.3	0.3	0.3	2.2	2.2	1.8	0.5	3.2	
中学2年生	183	0.0	0.5	0.0	2.2	5.5	2.2	1.6	2.2	
高校2年生(全日制)	69	5.8	4.3	5.8	5.8	8.7	5.8	1.4	1.4	

※「学校の先輩」は中高生のみ

※高校2年生(定時制)、高校2年生(通信制)は調査数が少ないため、掲載していない

⑦ 悩みを相談していない理由

お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことが「ない」と回答した人に、その理由を聞いたところ、いずれも「誰かに相談するほどの悩みではない」が最も高く、それ以外では「家族以外の人に相談するような悩みではない」「相談しても状況が変わるとは思わない」が上位にあがっている。

図表－43 悩みを相談していない理由(複数回答)

	調査数 (n)	誰かに相談するほどの悩みではない	家族以外の人に相談するような悩みではない	誰に相談するのがよいかわからない	相談できる人が身近にいない	家族のこのため話しにくい・話しづらい
小学5年生	1,241	63.8	14.3	8.3	3.1	10.8
中学2年生	830	67.8	14.1	8.7	4.3	10.4
高校2年生(全日制)	329	71.4	10.9	4.3	2.7	7.3
高校2年生(定時制)	25	72.0	12.0	0.0	0.0	8.0
	調査数 (n)	家族のことを知られたくない(家族の病気や障がいのことを知られたくない)	家族に対して偏見を持たれない、子どもにケアをさせたい(子どもに悪く思われたくない)	相談しても状況が変わるとは思わない	その他	無回答
小学5年生	1,241	2.3	3.5	7.8	3.6	18.2
中学2年生	830	4.5	6.0	16.1	6.3	11.4
高校2年生(全日制)	329	2.4	3.3	15.5	3.0	8.8
高校2年生(定時制)	25	4.0	4.0	12.0	0.0	8.0

※高校2年生(通信制)は調査数が少ないため、掲載していない

⑧ お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みや愚痴を聞いてくれる人の有無

お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことが「ない」と回答した人に、お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人がいるかを聞いたところ、「いる」が、小学5年生:60.9%、中学2年生:61.8%、高校2年生(全日制):66.6%、高校2年生(定時制):68.0%、「いない」が、小学5年生:28.9%、中学2年生:32.3%、高校2年生(全日制):30.1%)となっている。

図表-44 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みや愚痴を聞いてくれる人の有無

(%)				
	調査数 (n=)	いる	いない	無回答
小学5年生	1,241	60.9	28.9	10.2
中学2年生	830	61.8	32.3	5.9
高校2年生(全日制)	329	66.6	30.1	3.3
高校2年生(定時制)	25	68.0	28.0	4.0

※高校2年生(通信制)は調査数が少ないため、掲載していない

⑨ 学校や周りの大人に助けてほしいこと、必要としている支援

家族の中にお世話をしている人が「いる」と回答した人に、学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援があるか聞いたところ、いずれも「特にない」が最も高くなっている。一方、何らかの支援については、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」「自由に使える時間がほしい」「進路や将来のことについて相談にのってほしい」「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」などが上位にあがっている。

図表－45 学校や周りの大人に助けてほしいこと、必要としている支援(複数回答)

		(%)						
	調査数 (n=)	自分の今の状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	自分と同じようにお世話をしている人と話をしたい	家族の病気や障がい、お世話の方法などについてわかりやすく教えてほしい	自分が行っているお世話をすべてを代わってほしい	自分が行っているお世話を一部を代わってほしい	自由に使える時間がほしい
小学5年生	2,004	11.2	3.9	5.7	2.3	1.8	1.5	15.1
中学2年生	1,260	13.3	3.4	3.3	2.5	1.7	0.6	16.8
高校2年生(全日制)	508	9.1	2.6	3.3	2.8	1.6	0.4	15.0
高校2年生(定時制)	36	13.9	2.8	5.6	0.0	0.0	0.0	13.9
	調査数 (n=)	※進路や将来のことについて相談にのってほしい	学校の勉強や受験勉強など学習のサポート	※家の生活などのお金の支援	その他	特にない	わからない	無回答
小学5年生	2,004	5.9	8.1	2.3	0.5	55.5	8.4	6.1
中学2年生	1,260	13.1	17.2	4.5	1.0	45.6	10.9	8.3
高校2年生(全日制)	508	12.8	13.6	8.3	0.0	46.9	9.3	10.2
高校2年生(定時制)	36	11.1	5.6	13.9	2.8	33.3	8.3	13.9

※「進路や将来のことについて相談にのってほしい」は中高生では「進路や就職など将来の相談にのってほしい」

※「家の生活などのお金の支援」は中高生では「家庭への経済的な支援」

※高校2年生(通信制)は調査数が少ないため、掲載していない



#### (4) ヤングケアラーについて

##### ① あなた自身が「ヤングケアラー」にあてはまると思うか

あなた自身が「ヤングケアラー」にあてはまると思うか聞いたところ、「あてはまる」は、小学5年生：2.9%、中学2年生：2.2%、高校2年生(全日制)：1.7%、高校2年生(定時制)：4.9%、「あてはまらない」は、小学5年生：78.0%、中学2年生：82.5%、高校2年生(全日制)：83.6%、高校2年生(定時制)：75.5%となっている。

図表-46 あなた自身が「ヤングケアラー」にあてはまると思うか

(%)					
	調査数 (n=)	あてはまる	あてはまらない	わからない	無回答
小学5年生	11,970	2.9	78.0	17.5	1.6
中学2年生	11,116	2.2	82.5	14.4	0.9
高校2年生(全日制)	7,145	1.7	83.6	13.7	1.0
高校2年生(定時制)	327	4.9	75.5	16.8	2.8
高校2年生(通信制)	39	7.7	59.0	33.3	0.0

※高校2年生(通信制)19歳以上は「あてはまった・あてはまらなかった」

##### ② 「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがあるか

「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあるか聞いたところ、「聞いたことがあり、内容も知っている」は、小学5年生：8.9%、中学2年生：13.7%、高校2年生(全日制)：16.8%、高校2年生(定時制)：9.8%、「聞いたことはない」は、小学5年生：74.4%、中学2年生：69.9%、高校2年生(全日制)：66.1%、高校2年生(定時制)：74.0%となっている。

図表-47 「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがあるか

(%)					
	調査数 (n=)	聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことはあるが、よく知らない	聞いたことはない	無回答
小学5年生	11,970	8.9	15.8	74.4	0.9
中学2年生	11,116	13.7	15.6	69.9	0.7
高校2年生(全日制)	7,145	16.8	16.1	66.1	1.0
高校2年生(定時制)	327	9.8	14.4	74.0	1.8
高校2年生(通信制)	39	23.1	10.3	66.7	0.0

③「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったか

「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあると回答した人に、どこで知ったかを聞いたところ、いずれも「テレビや新聞、ラジオ」が最も高く、次いで「学校」「SNS やインターネット」などが上位にあがっている。

図表－48 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知ったか

	調査数 (n)	テレビや新聞、 ラジオ	雑誌や本	SNS やインターネット	広報やチラシ、 掲示物	イベントや交流会など	学校	友人・知人から聞いた	その他	無回答
小学5年生	2,959	57.7	11.8	18.7	11.4	1.9	28.0	11.9	4.9	1.6
中学2年生	3,261	61.5	15.1	26.3	8.3	1.4	26.5	6.4	3.3	1.1
高校2年生 (全日制)	2,354	58.9	7.9	26.5	6.6	1.3	40.7	4.8	1.9	1.0
高校2年生 (定時制)	78	48.7	9.0	32.1	1.3	1.3	28.2	1.3	2.6	2.6
高校2年生 (通信制)	13	61.5	7.7	53.8	7.7	0.0	7.7	7.7	0.0	0.0

(%)

### 3. テーマ別の分析

#### (1) 家族のお世話をしている人について

家族のお世話の状況について、小学5年生、中学2年生、高校2年生(全日制)別に特徴のあるものをあげると次のとおりとなっている。

##### ① 小学5年生

小学5年生の家族のお世話をしている人の状況は下記のようになっている。

###### <世話が「辛い」と感じるかによる違い>

- ・1日あたりの世話をしている時間については、「辛いと思うことがある」人の方が他に比べて平均時間が長い。
- ・世話をすることが「辛いと思うことがある」人は、「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」、「睡眠が十分に取れない」、「友人と遊ぶことができない」、「自分の時間が取れない」などが多い。
- ・家族のお世話について相談をしていない人は61.9%いるが、その理由について、世話をすることが「辛いと思うことがある」人は、「誰に相談するのがよいかわからない」、「家族のここのため話しにくい・話づらい」、「相談しても状況が変わるとは思わない」をあげる人が多くっており、相談のしづらさの他、相談することすらあきらめている人もいることがうかがえる。また、「辛いと思うことがある」人の4割は世話の悩みを聞いてくれる人がおらず、孤立化している人がいることもうかがえる。
- ・学校や周りの大人に助けてほしいことについては、「辛いと思うことがある」人は「自分の今の状況について話を聞いてほしい」、「自由に使える時間がほしい」をあげる人が多く、話を聞いたり相談にのってくれる人を求めていることがうかがえる。

###### <生活の満足度>

- ・世話をすることでできていないことがある人は生活の満足度が低い人が多い。
- ・世話は「辛いと思うことがある」人の約3割が生活の満足度が低く、「辛いと思うことがない」人に比べて生活満足度が全体的に低い。
- ・周りの大人に支援してほしいことがある人や、してほしいことがあるかわからない人の2割前後が生活の満足度が低い。
- ・自身が「ヤングケアラー」にあてはまる人、あてはまるかわからない人の約1.5割が生活の満足度が低い。

図表-49 【小学5年生】お世話は「辛い」か×平日の1日あたりのお世話をしている時間

(%)

	調査数 (n=)	平日の1日あたりのお世話をしている時間						
		3時間未満	3~7時間未満	7時間以上	無回答	平均(時間)	標準偏差	
全体	2,004	28.7	11.5	8.7	51.0	4.22	5.49	
お世話は「辛い」か	辛いと思うことがある	346	27.7	18.2	14.2	39.9	4.90	5.44
	辛いと思うことがない	833	41.5	16.1	10.2	32.2	3.94	5.24
	わからない	490	23.9	6.5	6.9	62.7	4.29	6.16
	無回答	335	5.1	0.3	2.1	92.5	4.34	6.08

図表-50 【小学5年生】お世話は「辛い」か×お世話をしていることで、できないこと

(%)

	調査数 (n=)	お世話をしていることで、できないこと											
		学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	ついクラブ活動や習い事ができなかった、もしくははやめるしかなかった	進路の変更を考えた	自分の時間が取れない	その他	特になし	無回答	
全体	2,004	1.3	1.3	7.3	10.7	7.3	1.0	1.0	11.2	0.2	60.9	15.2	
お世話は「辛い」か	辛いと思うことがある	346	3.5	3.2	20.5	31.8	18.8	2.6	2.9	32.1	0.6	35.8	3.8
	辛いと思うことがない	833	1.0	1.2	6.5	7.2	7.2	1.1	0.7	9.2	0.1	75.3	4.1
	わからない	490	1.2	0.8	3.3	7.6	3.7	0.6	0.6	6.3	0.4	76.3	6.9
	無回答	335	0.0	0.3	1.8	2.4	1.2	0.0	0.3	1.5	0.0	28.4	66.9

図表－51 【小学5年生】お世話は「辛い」か×相談していない理由

(%)

	調査数 (n=)	相談していない理由										
		誰かに相談するほどの悩みではない	家族以外の人に相談するような悩みではない	誰に相談するのがよいかわからない	相談できる人が身近にいない	話しづらい	家族のこのため話しにくい・知られたくない	家族のことを知られたくない (家族の病気や障がいのことを)	たよりに悪く思われたくない	家族に対して偏見を持たれたくない (親が何もしてくれない、子どもにケアをさせているといったように)	相談しても状況が変わるとは思わない	その他
全体	1,241	63.8	14.3	8.3	3.1	10.8	2.3	3.5	7.8	3.6	18.2	
お世話は「辛い」か	辛いと思うことがある	187	51.3	13.4	21.9	9.1	29.9	6.4	10.2	24.6	5.9	5.3
	辛いと思うことがない	572	81.1	19.6	4.5	2.3	7.0	1.6	2.6	3.3	2.4	7.9
	わからない	326	53.7	8.6	9.2	2.5	8.6	2.5	2.5	7.7	4.6	27.9
	無回答	156	36.5	7.7	3.8	0.6	6.4	0.0	1.3	4.5	3.2	51.3

図表－52 【小学5年生】お世話は「辛い」か×お世話の悩みを聞いてくれる人の有無

(%)

	調査数 (n=)	お世話の悩みを聞いてくれる人の有無			
		いる	いない	無回答	
全体	1,241	60.9	28.9	10.2	
「お世話は「辛い」か	辛いと思うことがある	187	56.1	39.6	4.3
	辛いと思うことがない	572	71.9	24.0	4.2
	わからない	326	54.0	32.2	13.8
	無回答	156	41.0	27.6	31.4

図表-53 【小学5年生】お世話は「辛い」か×学校や周りの大人に助けてほしいこと

(%)

	調査数 (n=)	学校や周りの大人に助けてほしいこと																		
		話を聞いてほしい	自分の今の状況について	相談ののってほしい	家族のお世話について	自分と同じようにお世話をしている人と話をしたい	自分とほしい	家族の病気や障がい、お世話の方法などについてわかりやすく教えてほしい	すべてを代わってほしい	自分が行っているお世話の一部を代わってほしい	自由に行っているお世話の自由に使える時間がほしい	相談ののってほしい	進路や将来のことについて	学習のサポート	学校の勉強や受験勉強など	家の生活などのお金の支援	その他	特にない	わからない	無回答
全体	2,004	11.2	3.9	5.7	2.3	1.8	1.5	15.1	5.9	8.1	2.3	0.5	55.5	8.4	6.1					
お世話は「辛い」か	辛いところがある	346	22.8	10.1	15.9	5.8	8.4	5.5	38.4	10.1	13.0	5.5	0.9	28.3	9.0	3.8				
	辛いところがない	833	8.8	3.6	5.3	2.6	0.2	1.0	10.2	4.8	8.5	1.4	0.6	67.7	4.7	1.6				
	わからない	490	7.6	2.2	2.9	0.8	1.2	0.4	10.6	4.5	5.3	1.4	0.4	59.6	15.7	2.7				
	無回答	335	10.4	0.6	0.6	0.0	0.0	0.3	9.6	6.6	6.3	2.4	0.0	47.5	6.3	25.1				

図表-54 【小学5年生】お世話をするのでできないことの有無×生活の満足度(10点満点で)

(%)

	調査数 (n=)	生活の満足度(10点満点で)						
		0~4点	5~7点	8~10点	無回答	平均(点)	標準偏差	
全体	11,970	8.8	24.8	66.0	0.4	7.85	2.24	
お世話をするのでできないことの有無	ある	479	23.8	33.6	42.2	0.4	6.50	2.72
	特にない	1,220	9.2	25.5	64.9	0.4	7.79	2.27
	無回答	305	13.8	27.5	58.0	0.7	7.42	2.50

図表-55 【小学5年生】お世話は「辛い」か×生活の満足度(10点満点で)

(%)

		調査数 (n=)	生活の満足度(10点満点で)					平均 (点)	標準偏差
			0~4点	5~7点	8~10点	無回答			
全体		11,970	8.8	24.8	66.0	0.4	7.85	2.24	
お世話は「辛い」か	辛いと思うことがある	346	30.3	36.4	32.7	0.6	5.90	2.71	
	辛いと思うことがない	833	7.8	23.8	68.2	0.2	7.94	2.15	
	わからない	490	12.7	29.0	58.0	0.4	7.47	2.53	
	無回答	335	10.7	26.9	61.5	0.9	7.66	2.26	

図表-56 【小学5年生】周りの大人に支援してほしいこと×生活の満足度(10点満点で)

(%)

		調査数 (n=)	生活の満足度(10点満点で)					平均 (点)	標準偏差
			0~4点	5~7点	8~10点	無回答			
全体		11,970	8.8	24.8	66.0	0.4	7.85	2.24	
こ支援周りの大人に と援りの大人に してほしい	ある	600	22.8	32.8	44.0	0.3	6.58	2.68	
	特にない	1,113	8.1	22.8	68.6	0.4	7.96	2.21	
	わからない	168	17.9	39.9	41.7	0.6	6.82	2.41	
	無回答	123	8.9	30.9	59.3	0.8	7.57	2.43	

図表-57 【小学5年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×生活の満足度(10点満点で)

(%)

		調査数 (n=)	生活の満足度(10点満点で)					平均 (点)	標準偏差
			0~4点	5~7点	8~10点	無回答			
全体		11,970	8.8	24.8	66.0	0.4	7.85	2.24	
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	349	17.2	28.1	54.7	0.0	7.16	2.66	
	あてはまらない	9,342	7.1	22.9	69.8	0.2	8.04	2.11	
	わからない	2,089	15.0	32.9	51.5	0.6	7.10	2.51	
	無回答	190	10.0	22.6	57.4	10.0	7.71	2.64	

## ② 中学2年生

中学2年生の家族の世話をしている人の状況は下記のようになっている。

### <世話が「辛い」と感じるかによる違い>

- ・世話をしていることでできないことについては、世話をすることが「辛いと思うことがある」人は、「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」、「睡眠が十分に取れない」、「友人と遊ぶことができない」、「自分の時間が取れない」など、多くのできないことをあげている。
- ・家族の世話について相談をしていない人は 65.9%いるが、世話をすることが「辛いと思うことがある」人は、「家族以外の人に相談するような悩みではない」、「誰に相談するのがよいかわからない」、「相談できる人が身近にいない」、「家族のこのため話しにくい・話しづらい」、「家族のことを知られたくない(家族の病気や障がいのことを知られたくない)」、「家族に対して偏見を持たれたくない(親が何もしてくれない、子どもにケアをさせているといったように悪く思われたくない)」、「相談しても状況が変わると思わない」など、さまざまな理由から相談していない。家族についての相談の難しさや、相談することすらあきらめている人もいることがうかがえる。
- ・学校や周りの大人に助けてほしいことについては、「辛いと思うことがある」人は「自分の今の状況について話を聞いてほしい」、「家族のお世話について相談に乗ってほしい」、「家族の世話をしている同じ境遇の人と話したい」、「自由に使える時間がほしい」、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」、「家庭への経済的な支援」をあげる人が多く、話を聞いたり相談にのってくれる人のほか、学習面で不安をカバーするサポートを求めている。
- ・「ヤングケアラー」にあてはまるかどうかについては、「辛いと思うことがある」人は「あてはまる」とする人が約2割、「わからない」とする人が約半数と、それぞれ他に比べて高くなっているが、自身が「ヤングケアラー」と自覚していない人も辛いとする人が多いことがうかがえる。

### <生活の満足度>

- ・世話をしている人がいる人の約 1.5 割が、生活満足度が低い。
- ・世話は「辛いと思うことがある」人の約 3.5 割が生活の満足度が低く、「辛いと思うことがない」人に比べて生活満足度が全体的に低い。
- ・周りの大人に支援してほしいことがある人や、してほしいことがあるかわからない人の2割前後が生活の満足度が低い。
- ・自身が「ヤングケアラー」にあてはまる人、あてはまるかわからない人の2割前後が生活の満足度が低い。



図表－58 【中学2年生】お世話は「辛い」か×お世話をしていることで、できないこと

(%)

	調査数 (n=)	お世話をしていることで、できないこと												
		学校に行きたくても行けない	早退してしまう	どうしても学校を遅刻・退席してしまう	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	い	得なかつた	部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得ない	進路の変更を考えた進路を変更した	自分の時間が取れない	その他	特にな
全体	1,260	0.7	0.9	9.0	8.7	8.3	1.8	0.9	12.4	1.0	56.8	19.9		
お世話は「辛い」か	辛いと思うことがある	189	2.6	2.1	32.3	33.3	28.6	5.3	4.8	47.1	2.1	25.9	2.6	
	辛いと思うことがない	753	0.4	0.9	6.0	5.2	6.0	1.3	0.3	8.5	0.8	77.3	4.2	
	無回答	318	0.3	0.0	2.2	2.2	1.6	0.9	0.0	0.9	0.9	26.7	67.3	

図表－59 【中学2年生】お世話は「辛い」か×相談していない理由

(%)

	調査数 (n=)	相談していない理由										
		誰かに相談するほどの悩みではない	家族以外の人に相談するような悩みではない	誰に相談するのがよいかかわからない	相談できる人が身近にいない	話づらい	家族のこのため話にくい・知られたくない	家族のことを知られたくない(家族の病気や障がいのことを)	たよりに悪く思われたくない	家族に対して偏見を持たれたくない(親が何もしてくれない、子どもにケアをさせているといったように)	相談しても状況が変わるとは思わない	その他
全体	830	67.8	14.1	8.7	4.3	10.4	4.5	6.0	16.1	6.3	11.4	
お世話は「辛い」か	辛いと思うことがある	126	54.8	26.2	27.0	14.3	33.3	17.5	23.0	49.2	4.8	2.4
	辛いと思うことがない	625	74.2	13.1	5.3	2.4	6.7	2.4	3.2	10.9	6.9	8.3
	無回答	79	38.0	2.5	6.3	3.8	2.5	0.0	1.3	5.1	3.8	50.6

図表-60 【中学2年生】お世話は「辛い」か×学校や周りの大人に助けてほしいこと

(%)

	調査数 (n=)	学校や周りの大人に助けてほしいこと														
		自分の今の状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談に乗ってほしい	家族の世話をしている同じ境遇の人と話したい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職など将来の相談に乗ってほしい	学校の勉強や受験勉強など学習のサポート	家庭への経済的な支援	その他	特になし	わからない	無回答	
全体	1,260	13.3	3.4	3.3	2.5	1.7	0.6	16.8	13.1	17.2	4.5	1.0	45.6	10.9	8.3	
お世話は「辛い」か	辛いと思うことがある	189	31.7	14.3	13.2	7.4	7.4	3.2	49.2	19.0	31.7	14.8	2.1	16.9	10.1	2.1
	辛いと思うことがない	753	10.0	2.0	2.1	1.5	0.8	0.3	11.2	12.4	15.4	3.3	1.1	57.4	11.3	2.0
	無回答	318	10.4	0.3	0.0	2.2	0.3	0.0	11.0	11.3	12.9	1.3	0.0	34.9	10.4	27.0

図表-61 【中学2年生】お世話は「辛い」か×「ヤングケアラー」にあてはまるか

(%)

	調査数 (n=)	「ヤングケアラー」にあてはまるか				
		あてはまる	あてはまらない	わからない	無回答	
全体	11,116	2.2	82.5	14.4	0.9	
「お世話は「辛い」か	辛いと思うことがある	189	21.2	29.1	49.2	0.5
	辛いと思うことがない	753	10.2	56.4	32.8	0.5
	無回答	318	3.8	61.6	23.6	11.0

図表-62 【中学2年生】お世話をしている人の有無×生活の満足度(10点満点で)

(%)

		調査数 (n=)	生活の満足度(10点満点で)					平均 (点)	標準偏差
			0~4点	5~7点	8~10点	無回答			
全体		11,116	12.3	36.9	50.5	0.4	7.15	2.26	
のしお 有てお 無している 人話を るを	いる	1,260	17.1	39.6	43.0	0.2	6.75	2.38	
	いない	9,715	11.6	36.6	51.6	0.2	7.21	2.24	
	無回答	141	15.6	31.2	41.1	12.1	6.90	2.46	

図表-63 【中学2年生】お世話は「辛い」か×生活の満足度(10点満点で)

(%)

		調査数 (n=)	生活の満足度(10点満点で)					平均 (点)	標準偏差
			0~4点	5~7点	8~10点	無回答			
全体		11,116	12.3	36.9	50.5	0.4	7.15	2.26	
かお 世世 話はは「辛 い」	辛いと思うこと がある	189	37.0	40.7	22.2	0.0	5.26	2.55	
	辛いと思うこと がない	753	12.2	40.0	47.8	0.0	7.07	2.20	
	無回答	318	17.0	38.1	44.0	0.9	6.87	2.38	

図表-64 【中学2年生】周りの大人に支援してほしいこと×生活の満足度(10点満点で)

(%)

		調査数 (n=)	生活の満足度(10点満点で)					平均 (点)	標準偏差
			0~4点	5~7点	8~10点	無回答			
全体		11,116	12.3	36.9	50.5	0.4	7.15	2.26	
こと支 援周 してりの 大人 にほ しい	ある	443	25.5	43.1	31.2	0.2	6.06	2.36	
	特にな	575	9.9	36.0	54.1	0.0	7.37	2.11	
	わからない	137	19.0	47.4	33.6	0.0	6.20	2.49	
	無回答	105	19.0	34.3	44.8	1.9	6.88	2.78	

図表-65 【中学2年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×生活の満足度(10点満点で)

(%)

		調査数 (n=)	生活の満足度(10点満点で)					平均 (点)	標準偏差
			0~4点	5~7点	8~10点	無回答			
全体		11,116	12.3	36.9	50.5	0.4	7.15	2.26	
「 か に あ て は ま ら な い 」 に あ て は ま る か	あてはまる	242	19.0	37.2	43.0	0.8	6.64	2.51	
	あてはまらない	9,173	10.6	36.4	52.8	0.2	7.28	2.19	
	わからない	1,606	20.8	39.9	38.9	0.5	6.48	2.51	
	無回答	95	15.8	29.5	41.1	13.7	6.85	2.59	

### ③ 高校2年生(全日制)

高校2年生(全日制)の家族の世話をしている人の状況は下記のようになっている。

#### <世話が「辛い」と感じるかによる違い>

- ・世話をしていることでできないことについては、世話をすることが「辛いと思うことがある」人は、「宿題をする時間や勉強する時間が取れない」、「睡眠が十分に取れない」、「友人と遊ぶことができない」、「自分の時間が取れない」など、多くのできないことをあげている。
- ・家族の世話について相談をしていない人は 64.8%いるが、世話をすることが「辛いと思うことがある」人は、「家族以外の人に相談するような悩みではない」、「誰に相談するのがよいかわからない」、「相談できる人が身近にいない」、「家族のこのため話しにくい・話しづらい」、「家族のことを知られたくない(家族の病気や障がいのことを知られたくない)」、「家族に対して偏見を持たれたくない(親が何もしてくれない、子どもにケアをさせているといったように悪く思われたくない)」、「相談しても状況が変わると思わない」など、さまざまな理由から相談していない。家族についての相談の難しさや相談することすらあきらめている人もいることがうかがえる。
- ・学校や周りの大人に助けてほしいことについては、「辛いと思うことがある」人は「自分の今の状況について話を聞いてほしい」、「家族のお世話について相談に乗ってほしい」、「家族の世話をしている同じ境遇の人と話したい」、「自由に使える時間がほしい」、「進路や就職など将来の相談に乗ってほしい」、「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」、「家庭への経済的な支援」をあげる人が多く、話を聞いたり相談にのってくれる人の他、学習面で不安をカバーするサポートを求めている。
- ・「ヤングケアラー」にあてはまるかどうかについては、「辛いと思うことがある」人は「あてはまる」とする人が約2割、「わからない」とする人が半数弱と、それぞれ他に比べて高くなっているが、自身が「ヤングケアラー」と自覚していない人も辛いとする人が多くいることがうかがえる。

#### <生活の満足度>

- ・世話をしている人がいる人の約 1.5 割が、生活満足度が低い。
- ・世話は「辛いと思うことがある」人の4割弱が生活の満足度が低く、「辛いと思うことがない」人に比べて生活満足度が全体的に低い。
- ・周りの大人に支援してほしいことがある人や、してほしいことがあるかわからない人の 2.5～3割が生活の満足度が低い。
- ・自身が「ヤングケアラー」にあてはまる人、あてはまるかわからない人の約 1.5～2割が生活の満足度が低い。

図表-66 【高校2年生(全日制)】お世話は「辛い」か×お世話をしていることで、できないこと

(%)

	調査数 (n=)	お世話をしていることで、できないこと												
		学校に行きたくても行けない	早退してしまう	どうしても学校を遅刻・	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	い	得なかつた	部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得ない	進路の変更を考えた進路を変えたい	自分の時間が取れない	その他	特にな
全体	508	1.4	2.0	9.4	7.7	7.5	1.4	2.4	12.2	0.4	55.7	21.3		
お世話は「辛い」か	辛いと思うことがある	93	6.5	8.6	34.4	31.2	25.8	7.5	11.8	44.1	2.2	22.6	3.2	
	辛いと思うことがない	291	0.0	0.3	4.5	3.1	4.8	0.0	0.3	6.9	0.0	82.5	3.1	
	無回答	124	0.8	0.8	2.4	0.8	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	17.7	77.4	

図表-67 【高校2年生(全日制)】お世話は「辛い」か×相談していない理由

(%)

	調査数 (n=)	相談していない理由											
		誰かに相談するほどの悩みではない	家族以外の人に相談するような悩みではない	誰に相談するのがよいかかわからない	相談できる人が身近にいない	話しづらい	家族のこのため話しにくい・知られたくない	家族の病気や障がいのことを知られたくない	たよりに悪く思われたくない	家族(親が)何もしてくれない、子どもにケアをさせているといったように悪く思われたくない	家族に対して偏見を持たれたくない	相談しても状況が変わるとは思わない	その他
全体	329	71.4	10.9	4.3	2.7	7.3	2.4	3.3	15.5	3.0	8.8		
お世話は「辛い」か	辛いと思うことがある	53	50.9	26.4	17.0	11.3	30.2	9.4	15.1	45.3	1.9	3.8	
	辛いと思うことがない	254	79.1	7.9	2.0	1.2	2.4	1.2	10.2	3.5	6.3		
	無回答	22	31.8	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0	4.5	0.0	50.0		

図表-68 【高校2年生(全日制)】お世話は「辛い」か×学校や周りの大人に助けてほしいこと

(%)

	調査数 (n=)	学校や周りの大人に助けてほしいこと														
		ほしい	自分の今の状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談に乗ってほしい	家族の世話をしている同じ境遇の人と話したい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話をすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	自分が行っているお世話を一部を代わってくれる人やサービスがほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職など将来の相談に乗ってほしい	1ト	学校の勉強や受験勉強など学習のサポート	家庭への経済的な支援	その他	特にない	わからない
全体	508	9.1	2.6	3.3	2.8	1.6	0.4	15.0	12.8	13.6	8.3	0.0	46.9	9.3	10.2	
お世話は「辛い」か	辛いと思うことがある	93	21.5	11.8	11.8	9.7	7.5	2.2	35.5	24.7	22.6	24.7	0.0	20.4	12.9	6.5
	辛いと思うことがない	291	6.2	0.0	1.0	1.4	0.0	0.0	11.0	12.0	12.7	5.5	0.0	58.4	10.7	1.4
	無回答	124	6.5	1.6	2.4	0.8	0.8	0.0	8.9	5.6	8.9	2.4	0.0	39.5	3.2	33.9

図表-69 【高校2年生(全日制)】お世話は「辛い」か×「ヤングケアラー」にあてはまるか

(%)

	調査数 (n=)	「ヤングケアラー」にあてはまるか				
		あてはまる	あてはまらない	わからない	無回答	
全体	7,145	1.7	83.6	13.7	1.0	
「お世話は「辛い」か	辛いと思うことがある	93	19.4	29.0	47.3	4.3
	辛いと思うことがない	291	8.2	56.7	33.7	1.4
	無回答	124	5.6	50.0	29.8	14.5

図表-70 【高校2年生(全日制)】お世話をしている人の有無×生活の満足度(10点満点で)

(%)

		調査数 (n=)	生活の満足度(10点満点で)					平均 (点)	標準偏差
			0~4点	5~7点	8~10点	無回答			
全体		7,145	12.1	44.0	43.5	0.3	6.92	2.16	
のしお 有てお 無無世 い話 るを 人	いる	508	17.9	40.6	41.3	0.2	6.61	2.46	
	いない	6,589	11.7	44.3	43.8	0.2	6.95	2.13	
	無回答	48	8.3	37.5	27.1	27.1	6.71	2.53	

図表-71 【高校2年生(全日制)】お世話は「辛い」か×生活の満足度(10点満点で)

(%)

		調査数 (n=)	生活の満足度(10点満点で)					平均 (点)	標準偏差
			0~4点	5~7点	8~10点	無回答			
全体		7,145	12.1	44.0	43.5	0.3	6.92	2.16	
「お 辛世 い話 」は か	辛いと思うことがある	93	38.7	33.3	28.0	0.0	5.34	2.60	
	辛いと思うことがない	291	14.8	41.9	43.3	0.0	6.89	2.27	
	無回答	124	9.7	42.7	46.8	0.8	6.91	2.48	

図表-72 【高校2年生(全日制)】周りの大人に支援してほしいこと×生活の満足度(10点満点で)

(%)

		調査数 (n=)	生活の満足度(10点満点で)					平均 (点)	標準偏差
			0~4点	5~7点	8~10点	無回答			
全体		7,145	12.1	44.0	43.5	0.3	6.92	2.16	
こ支周 と援りの 事して大 ほし人 しいに	ある	171	24.6	37.4	38.0	0.0	6.26	2.48	
	特にない	238	11.3	45.0	43.7	0.0	6.91	2.35	
	わからない	47	31.9	29.8	38.3	0.0	6.13	2.62	
	無回答	52	13.5	40.4	44.2	1.9	6.84	2.60	



図表-73 【高校2年生(全日制)】「ヤングケアラー」にあてはまるか×生活の満足度(10点満点で)  
(%)

		調査数 (n=)	生活の満足度(10点満点で)					平均 (点)	標準偏差
			0～4点	5～7点	8～10点	無回答			
全体		7,145	12.1	44.0	43.5	0.3	6.92	2.16	
「 ヤ ン グ ケ ア ラ ー」 に あ て は ま る か	あてはまる	120	18.3	46.7	35.0	0.0	6.52	2.50	
	あてはまらない	5,971	11.2	44.2	44.4	0.1	6.98	2.09	
	わからない	981	16.9	43.0	39.8	0.3	6.68	2.43	
	無回答	73	16.4	35.6	30.1	17.8	6.17	2.72	

【小学5年生 その他の家族のお世話をしている人の状況】

※以下の表ではn数が9以下の表記は除いている

図表-74 【小学5年生】お世話をしている人の有無×性別

(%)

		調査数 (n=)	性別				
			男性	女性	答えたくない、 わからない、 その他	無回答	
全体		11,970	49.9	47.9	1.8	0.4	
有 無	お世話を している 人の 有無	いる	2,004	55.5	42.1	1.9	0.5
		いない	9,766	48.7	49.3	1.7	0.3
		無回答	200	55.5	37.5	6.0	1.0

図表-75 【小学5年生】お世話をしている人の有無×家族構成

(%)

		調査数 (n=)	家族構成					
			親と自分、 きょうだい	3世代	ひとり親	その他	無回答	
全体		11,970	72.1	15.9	7.1	4.2	0.7	
有 無	お世話を している 人の 有無	いる	2,004	69.0	17.3	7.9	5.1	0.7
		いない	9,766	73.0	15.6	7.0	4.0	0.5
		無回答	200	60.0	15.5	5.5	4.5	14.5

図表-76 【小学5年生】お世話をしている人の有無×健康状態

(%)

		調査数 (n=)	健康状態				
			よい	ふつう	よくない	無回答	
全体		11,970	78.3	17.5	3.0	1.2	
人 の 有 無	お世話を している 人の 有無	いる	2,004	75.3	18.6	4.5	1.5
		いない	9,766	79.0	17.2	2.8	1.0
		無回答	200	70.5	20.0	1.5	8.0

図表－77 【小学5年生】お世話をしている人の有無×出席状況

(%)

		調査数 (n=)	出席状況			
			ほとんど 欠席しない	たまに 欠席する	よく 欠席する	無回答
全体		11,970	75.9	13.9	9.9	0.3
お世話を している 人の有無	いる	2,004	70.1	19.1	10.7	0.1
	いない	9,766	77.3	12.9	9.7	0.2
	無回答	200	67.5	13.0	12.5	7.0

図表－78 【小学5年生】お世話をしている人の有無×遅刻や早退の状況

(%)

		調査数 (n=)	遅刻や早退の状況			
			ほとんど しない	たまにする	よくする	無回答
全体		11,970	86.1	11.9	1.7	0.3
お世話を している 人の有無	いる	2,004	81.5	15.8	2.4	0.3
	いない	9,766	87.2	11.1	1.5	0.2
	無回答	200	79.0	12.5	3.5	5.0

図表－79 【小学5年生】お世話をしている人の有無×ふだんの学校生活

(%)

		調査数 (n=)	ふだんの学校生活										
			授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	クラブ活動や習い事を休むことが多い	提出しなければならない書類などの提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では1人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答
全体		11,970	5.8	12.7	25.3	1.7	14.1	0.6	1.0	6.1	5.2	59.1	2.7
お世話を している 人の有無	いる	2,004	7.4	17.4	31.3	2.8	18.6	1.1	1.6	7.2	6.7	50.0	2.6
	いない	9,766	5.6	11.7	24.0	1.5	13.1	0.5	0.9	5.9	4.9	61.3	2.4
	無回答	200	4.0	16.0	26.5	2.0	15.0	1.5	1.5	6.0	4.0	44.0	19.0

図表－80 【小学5年生】お世話をしている人の有無×生活の満足度(10点満点で)

(%)

		調査数 (n=)	生活の満足度 (10点満点で)					平均 (点)	標準偏差
			0～4点	5～7点	8～10点	無回答			
全体		11,970	8.8	24.8	66.0	0.4	7.85	2.24	
お世話をしている人の有無	いる	2,004	13.4	27.7	58.4	0.4	7.43	2.48	
	いない	9,766	7.8	24.2	67.7	0.2	7.94	2.17	
	無回答	200	11.5	21.5	56.5	10.5	7.46	2.64	

図表－81 【小学5年生】性別×父母のお世話の内容

(%)

		調査数 (n=)	父母のお世話の内容										
			家事(食事の準備や掃除、洗濯)	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	歩行などの外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
全体		890	79.8	18.3	49.4	15.1	24.4	38.2	9.6	33.6	21.3	4.0	6.1
性別	男性	527	81.2	21.1	47.8	16.1	20.1	38.9	9.3	34.5	22.6	5.1	6.8
	女性	339	76.7	13.9	52.5	13.6	30.7	37.8	10.3	32.2	20.1	2.4	5.3
	答えたくない、わからない、その他	16	87.5	31.3	37.5	12.5	43.8	31.3	6.3	37.5	12.5	6.3	0.0

図表－82 【小学5年生】性別×祖父母のお世話の内容

(%)

		調査数 (n=)	祖父母のお世話の内容										
			家事(食事の準備や掃除、洗濯)	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	聞く、話し相手になるなど)	感情面のサポート(愚痴を聞き、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他
全体		335	51.3	18.2	44.8	13.7	22.4	51.0	6.6	19.1	17.9	2.4	11.9
性別	男性	193	50.3	18.1	39.9	13.0	19.7	50.8	7.8	17.6	14.0	1.6	15.0
	女性	134	50.7	17.9	50.7	14.9	25.4	50.7	4.5	20.9	21.6	3.7	8.2

図表－83 【小学5年生】性別×きょうだいへのお世話の内容

(%)

		調査数 (n=)	きょうだいへのお世話の内容											
			家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	話し相手になるなど)	感情面のサポート(愚痴を聞き、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他
全体		904	25.9	17.3	12.9	24.6	2.9	16.4	56.2	2.4	6.1	3.0	6.9	9.2
性別	男性	481	26.2	14.8	13.1	20.0	3.3	13.5	54.1	2.5	7.5	3.3	6.0	11.6
	女性	403	26.1	20.8	12.9	29.3	2.5	19.4	60.0	2.5	4.7	2.5	6.5	6.0
	答えたくない、わからない、その他	15	13.3	6.7	13.3	33.3	0.0	26.7	26.7	0.0	0.0	6.7	40.0	13.3

図表－84 【小学5年生】性別 × お世話をしている頻度(日数)

(%)

		調査数 (n=)	お世話をしている頻度(日数)					無回答
			ほぼ毎日	週に 3～5日	週に 1～2日	1か月に 数日	その他	
全体		2,004	35.6	13.6	15.4	8.8	3.0	23.7
性別	男性	1,112	34.3	11.9	16.3	9.0	3.2	25.4
	女性	844	37.9	15.8	13.7	8.5	2.7	21.3
	答えたくない、 わからない、 その他	38	23.7	7.9	26.3	10.5	5.3	26.3
	無回答	10	30.0	40.0	10.0	0.0	0.0	20.0

図表－85 【小学5年生】性別 × 平日の1日あたりのお世話をしている時間

(%)

		調査数 (n=)	平日の1日あたりのお世話をしている時間					平均 (時間)	標準偏差
			3時間 未満	3～7時 間未満	7時間 以上	無回答			
全体		2,004	28.7	11.5	8.7	51.0	4.22	5.49	
性別	男性	1,112	28.2	9.2	8.0	54.6	4.10	5.48	
	女性	844	29.4	14.6	9.8	46.2	4.38	5.58	
	答えたくない、 わからない、その他	38	28.9	10.5	7.9	52.6	3.94	3.96	
	無回答	10	30.0	10.0	0.0	60.0	1.50	1.00	

図表－86 【小学5年生】性別×お世話をしていることで、できないこと

(%)

		調査数 (n=)	お世話をしていることで、できないこと										
			学校に行きたくても行けない しまう	どうしても学校を遅刻・早退して 取れない	宿題をする時間や勉強する時間が 取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	もしくはやめるしかなかった	クラブ活動や習い事ができない、 もしくはやめるしかなかった	進路の変更を考えた	自分の時間が取れない	その他	特にな い
全体		2,004	1.3	1.3	7.3	10.7	7.3	1.0	1.0	11.2	0.2	60.9	15.2
性別	男性	1,112	2.0	1.3	5.9	9.8	6.9	1.3	1.0	9.4	0.2	62.7	15.5
	女性	844	0.5	1.4	9.1	11.8	7.6	0.8	0.9	13.4	0.1	59.1	14.6
	答えたくない、 わからない、 その他	38	0.0	0.0	7.9	13.2	10.5	0.0	2.6	15.8	5.3	52.6	15.8
	無回答	10	0.0	0.0	10.0	10.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	40.0

図表－87 【小学5年生】性別×お世話は「辛い」か

(%)

		調査数 (n=)	お世話は「辛い」か					わから ない	無回 答
			よく辛いと思 うこと がある	ときどき辛 いと思 うこと がある	あまり辛 いと思 うこと がない	ほとんど辛 いと思 うこと がない			
全体		2,004	5.3	11.9	10.5	31.0	24.5	16.7	
性別	男性	1,112	4.9	10.4	9.6	31.1	26.0	18.0	
	女性	844	5.9	14.2	11.4	31.2	22.0	15.3	
	答えたくない、 わからない、その他	38	7.9	7.9	10.5	26.3	36.8	10.5	
	無回答	10	0.0	0.0	40.0	30.0	10.0	20.0	

図表－88 【小学5年生】家族構成×父母のお世話の内容

(%)

	調査数 (n)	父母のお世話の内容												
		家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答	
全体	890	79.8	0.0	18.3	49.4	15.1	24.4	38.2	9.6	33.6	21.3	4.0	6.1	
家族構成	親と自分、きょうだい	629	81.1	0.0	17.3	50.2	13.4	23.2	38.3	9.4	33.4	21.6	3.3	6.4
	3世代	137	77.4	0.0	22.6	52.6	21.9	29.2	42.3	6.6	38.7	22.6	7.3	5.1
	ひとり親	83	71.1	0.0	9.6	37.3	12.0	20.5	26.5	13.3	24.1	18.1	6.0	8.4
	その他	34	85.3	0.0	35.3	52.9	26.5	38.2	44.1	17.6	41.2	20.6	0.0	0.0

図表－89 【小学5年生】家族構成×祖父母のお世話の内容

(%)

	調査数 (n)	祖父母のお世話の内容												
		家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答	
全体	335	51.3	0.0	18.2	44.8	13.7	22.4	51.0	6.6	19.1	17.9	2.4	11.9	
家族構成	親と自分、きょうだい	145	49.7	0.0	15.2	45.5	11.0	22.1	51.7	4.8	16.6	18.6	1.4	15.2
	3世代	151	53.6	0.0	19.9	41.7	13.9	23.2	52.3	4.6	18.5	15.9	3.3	7.9
	ひとり親	17	41.2	0.0	11.8	41.2	17.6	11.8	52.9	11.8	29.4	23.5	5.9	29.4
	その他	20	55.0	0.0	30.0	65.0	25.0	25.0	35.0	30.0	30.0	25.0	0.0	0.0



図表-90 【小学5年生】家族構成×きょうだいへのお世話の内容

(%)

	調査数 (n=)	きょうだいへのお世話の内容												
		家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答	
全体	904	25.9	17.3	12.9	24.6	2.9	16.4	56.2	2.4	6.1	3.0	6.9	9.2	
家族構成	親と自分、きょうだい	672	26.3	17.6	12.6	24.6	2.7	15.3	58.5	1.6	5.8	2.7	5.7	8.6
	3世代	122	23.8	16.4	13.1	31.1	3.3	20.5	52.5	3.3	7.4	4.1	9.8	7.4
	ひとり親	62	29.0	17.7	14.5	14.5	4.8	14.5	45.2	4.8	4.8	1.6	12.9	17.7
	その他	44	18.2	11.4	13.6	20.5	2.3	20.5	50.0	9.1	6.8	6.8	6.8	9.1

図表-91 【小学5年生】家族構成×お世話をしている頻度(日数)

(%)

	調査数 (n=)	お世話をしている頻度(日数)						
		ほぼ毎日	週に3~5日	週に1~2日	1か月に数日	その他	無回答	
全体	2,004	35.6	13.6	15.4	8.8	3.0	23.7	
家族構成	親と自分、きょうだい	1,382	36.1	14.0	15.2	9.1	2.7	22.9
	3世代	346	34.7	13.6	15.3	8.1	3.2	25.1
	ひとり親	159	34.6	11.9	15.1	8.8	5.7	23.9
	その他	102	33.3	12.7	16.7	7.8	2.9	26.5
	無回答	15	33.3	0.0	26.7	0.0	0.0	40.0

図表-92 【小学5年生】家族構成×平日の1日あたりのお世話をしている時間

(%)

		調査数 (n=)	平日の1日あたりのお世話をしている時間					平均 (時間)	標準偏差
			3時間 未満	3~7時 間未満	7時間 以上	無回答			
全体		2,004	28.7	11.5	8.7	51.0	4.22	5.49	
家族 構成	親と自分、きょうだい	1,382	27.9	11.6	8.9	51.5	4.22	5.39	
	3世代	346	33.8	9.0	8.1	49.1	3.90	5.55	
	ひとり親	159	26.4	15.7	7.5	50.3	4.36	5.34	
	その他	102	29.4	12.7	8.8	49.0	4.47	6.36	
	無回答	15	6.7	0.0	20.0	73.3	10.75	9.61	

図表-93 【小学5年生】家族構成×お世話をしていることで、できないこと

(%)

		調査数 (n=)	お世話をしていることで、できないこと										
			学校に行きたくても行けない しまう	どうしても学校を遅刻・早退して しまう	宿題をする時間や勉強する時間 が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	クラブ活動や習い事ができない、 もしくはやめるしかなかった	進路の変更を考えた	自分の時間が取れない	その他	特にな い	無回 答
全体		2,004	1.3	1.3	7.3	10.7	7.3	1.0	1.0	11.2	0.2	60.9	15.2
家族 構成	親と自分、 きょうだい	1,382	1.4	0.9	7.8	10.4	7.1	1.1	0.9	11.5	0.2	61.6	14.8
	3世代	346	1.2	1.7	6.1	11.3	8.1	1.2	1.7	10.7	0.3	61.3	16.8
	ひとり親	159	1.9	3.1	6.3	12.6	6.9	0.6	0.0	11.3	0.0	55.3	15.7
	その他	102	0.0	2.0	6.9	10.8	8.8	1.0	1.0	7.8	0.0	60.8	13.7
	無回答	15	0.0	0.0	6.7	6.7	6.7	0.0	0.0	13.3	6.7	46.7	26.7

図表-94 【小学5年生】家族構成×お世話は「辛い」か

(%)

	調査数 (n=)	お世話は「辛い」か						
		よく辛いと思 うことがある	ある と思うとき辛 がいがい	い思あ うまり辛 ことがい なと	ない と思 うこと 辛が がい	ほと んど 辛 が い	わ か ら な い	無 回 答
全体	2,004	5.3	11.9	10.5	31.0	24.5	16.7	
家族 構 成	親と自分、きょうだい	1,382	4.7	11.9	10.8	31.8	24.2	16.6
	3世代	346	6.1	13.3	8.7	30.3	24.3	17.3
	ひとり親	159	8.8	10.7	10.1	27.7	25.2	17.6
	その他	102	6.9	8.8	12.7	32.4	25.5	13.7
	無回答	15	0.0	13.3	20.0	6.7	33.3	26.7

図表-95 【小学5年生】お世話をしている頻度×平日の1日あたりのお世話をしている時間

(%)

	調査数 (n=)	平日の1日あたりのお世話をしている時間						
		3時間 未 満	3~7時 間未 満	7時間 以 上	無 回 答	平均 (時間)	標準 偏差	
全体	2,004	28.7	11.5	8.7	51.0	4.22	5.49	
お 世 話 を し て い る 頻 度	ほぼ毎日	713	26.8	19.1	17.4	36.7	5.93	6.50
	週に3~5日	272	50.0	15.4	6.3	28.3	2.74	3.46
	週に1~2日	308	50.3	10.4	5.5	33.8	2.63	3.87
	1か月に数日	176	43.2	8.5	4.5	43.8	2.67	4.66
	その他	61	24.6	6.6	11.5	57.4	3.80	4.09
	無回答	474	0.6	0.2	0.4	98.7	4.50	4.72

図表-96 【小学5年生】お世話をしている頻度×健康状態

(%)

	調査数 (n=)	健康状態				
		よい	ふつう	よくない	無回答	
全体	11,970	78.3	17.5	3.0	1.2	
お 世 話 を し て い る 頻 度	ほぼ毎日	713	75.7	17.8	4.8	1.7
	週に3~5日	272	75.7	18.4	4.0	1.8
	週に1~2日	308	78.2	18.5	2.3	1.0
	1か月に数日	176	68.2	23.3	7.4	1.1
	その他	61	67.2	23.0	6.6	3.3
	無回答	474	76.2	17.7	4.6	1.5

図表－97 【小学5年生】お世話をしている頻度×お世話は「辛い」か

(%)

	調査数 (n=)	お世話は「辛い」か						
		よく辛いと思 うことがある	あるときどき辛 い	ときどき辛 い	あまり辛 くない	ほとんど辛 くない	わからない	無回答
全体	2,004	5.3	11.9	10.5	31.0	24.5	16.7	
お世話をしている頻度	ほぼ毎日	713	8.8	17.4	13.3	36.6	18.7	5.2
	週に3～5日	272	2.9	16.9	14.0	44.1	17.6	4.4
	週に1～2日	308	4.5	11.7	14.0	40.6	26.6	2.6
	1か月に数日	176	6.8	9.1	10.2	37.5	30.7	5.7
	その他	61	0.0	6.6	8.2	24.6	44.3	16.4
	無回答	474	2.1	2.7	2.5	7.4	30.8	54.4

図表－98 【小学5年生】平日の1日あたりのお世話をしている時間×健康状態

(%)

	調査数 (n=)	健康状態				
		よい	ふつう	よくない	無回答	
全体	11,970	78.3	17.5	3.0	1.2	
平日のお世話をした時間	3時間未満	576	78.8	17.9	2.4	0.9
	3～7時間未満	230	71.7	21.3	6.5	0.4
	7時間以上	175	72.6	18.3	7.4	1.7
	無回答	1,023	74.6	18.5	4.8	2.2

図表－99 【小学5年生】平日の1日あたりのお世話をしている時間×お世話は「辛い」か

(%)

		調査数 (n=)	お世話は「辛い」か					無回答	
			よく辛いと思う ことがある	ときどき辛い と思うことがある	あまり辛くない と思う	ほとんど辛い と思うことがない	わからない		
全体		2,004	5.3	11.9	10.5	31.0	24.5	16.7	
てり いる の 時 間	平日の1日あたりのお世話をした	3時間未満	576	3.8	12.8	12.5	47.6	20.3	3.0
		3～7時間未満	230	9.1	18.3	17.8	40.4	13.9	0.4
		7時間以上	175	10.9	17.1	13.7	34.9	19.4	4.0
		無回答	1,023	4.4	9.1	7.2	19.0	30.0	30.3

図表－100 【小学5年生】父母の状況×お世話をしている頻度(日数)

(%)

		調査数 (n=)	お世話をしている頻度(日数)					無回答
			ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	1か月に数日	その他	
全体		2,004	35.6	13.6	15.4	8.8	3.0	23.7
父 母 の 状 況	高齢(65歳以上)	12	25.0	8.3	25.0	25.0	0.0	16.7
	要介護(介護が必要な状態)	12	58.3	25.0	8.3	0.0	8.3	0.0
	身体障がい	20	30.0	40.0	15.0	10.0	5.0	0.0
	精神疾患(疑い含む)	14	35.7	42.9	0.0	7.1	7.1	7.1
	精神疾患・依存症以外の病気	13	30.8	15.4	15.4	15.4	7.7	15.4
	その他	81	25.9	19.8	33.3	13.6	4.9	2.5
	わからない	552	38.6	15.0	18.1	10.5	3.3	14.5
	無回答	200	35.0	11.0	16.0	7.0	2.0	29.0

図表－101 【小学5年生】祖父母の状況×お世話をしている頻度(日数)

(%)

		調査数 (n=)	お世話をしている頻度(日数)					無回答
			ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	1か月に数日	その他	
全体		2,004	35.6	13.6	15.4	8.8	3.0	23.7
祖父母の状況	高齢(65歳以上)	200	38.0	11.0	23.0	12.0	4.5	11.5
	要介護(介護が必要な状態)	24	45.8	20.8	8.3	8.3	12.5	4.2
	認知症	27	37.0	18.5	18.5	11.1	11.1	3.7
	身体障がい	17	35.3	35.3	11.8	11.8	0.0	5.9
	その他	13	23.1	15.4	38.5	0.0	23.1	0.0
	わからない	90	28.9	11.1	14.4	15.6	5.6	24.4
	無回答	28	50.0	7.1	3.6	0.0	7.1	32.1

図表－102 【小学5年生】お世話をしているきょうだいの状況×お世話をしている頻度(日数)

(%)

		調査数 (n=)	お世話をしている頻度(日数)					無回答
			ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	1か月に数日	その他	
全体		2,004	35.6	13.6	15.4	8.8	3.0	23.7
きょうだいをしている状況	幼い	395	60.3	19.2	12.7	4.6	0.8	2.5
	知的障がい	15	66.7	13.3	20.0	0.0	0.0	0.0
	その他	59	39.0	18.6	23.7	8.5	6.8	3.4
	わからない	306	43.1	16.7	18.0	9.8	2.0	10.5
	無回答	125	46.4	11.2	8.0	7.2	0.8	26.4

図表－103 【小学5年生】父母の状況×平日の1日あたりのお世話をしている時間

(%)

		調査数 (n=)	平日の1日あたりのお世話をしている時間			
			3時間未満	3～7時間未満	7時間以上	無回答
全体		2,004	28.7	11.5	8.7	51.0
父母の状況	高齢(65歳以上)	12	16.7	8.3	0.0	75.0
	要介護(介護が必要な状態)	12	0.0	33.3	41.7	25.0
	身体障がい	20	50.0	15.0	20.0	15.0
	精神疾患(疑い含む)	14	35.7	35.7	14.3	14.3
	精神疾患・依存症以外の病気	13	15.4	23.1	23.1	38.5
	その他	81	35.8	14.8	11.1	38.3
	わからない	552	29.9	8.7	9.6	51.8
	無回答	200	23.0	4.5	6.0	66.5

図表－104 【小学5年生】祖父母の状況×平日の1日あたりのお世話をしている時間

(%)

		調査数 (n=)	平日の1日あたりのお世話をしている時間			
			3時間未満	3～7時間未満	7時間以上	無回答
全体		2,004	28.7	11.5	8.7	51.0
祖父母の状況	高齢(65歳以上)	200	34.0	10.5	13.0	42.5
	要介護(介護が必要な状態)	24	33.3	20.8	20.8	25.0
	認知症	27	29.6	14.8	18.5	37.0
	身体障がい	17	29.4	35.3	11.8	23.5
	その他	13	61.5	7.7	0.0	30.8
	わからない	90	24.4	4.4	7.8	63.3
	無回答	28	17.9	10.7	10.7	60.7

図表－105 【小学5年生】お世話をしているきょうだいの状況×平日の1日あたりのお世話をしている時間

(%)

		調査数 (n=)	平日の1日あたりのお世話をしている時間			
			3時間未満	3～7時間未満	7時間以上	無回答
全体		2,004	28.7	11.5	8.7	51.0
きょうだいをしている状況	幼い	395	41.8	24.1	13.4	20.8
	知的障がい	15	26.7	33.3	13.3	26.7
	その他	59	37.3	22.0	15.3	25.4
	わからない	306	33.7	12.1	9.8	44.4
	無回答	125	23.2	7.2	8.0	61.6

図表－106 【小学5年生】父母の状況×お世話は「辛い」か

(%)

	調査数 (n=)	お世話は「辛い」か						
		よく辛いと思うことがある	ときどき辛いと思うことがある	あまり辛いと思うことがない	ほとんど辛いと思うことがない	わからない	無回答	
全体	2,004	5.3	11.9	10.5	31.0	24.5	16.7	
父母の状況	高齢（65歳以上）	12	25.0	25.0	0.0	25.0	16.7	8.3
	要介護（介護が必要な状態）	12	25.0	8.3	8.3	41.7	8.3	8.3
	身体障がい	20	5.0	30.0	20.0	35.0	5.0	5.0
	精神疾患（疑い含む）	14	28.6	14.3	7.1	28.6	21.4	0.0
	精神疾患・依存症以外の病気	13	7.7	0.0	7.7	38.5	15.4	30.8
	その他	81	7.4	12.3	14.8	42.0	18.5	4.9
	わからない	552	5.4	11.6	10.0	28.4	37.1	7.4
	無回答	200	3.5	10.5	10.0	28.0	18.0	30.0

図表－107 【小学5年生】祖父母の状況×お世話は「辛い」か

(%)

	調査数 (n=)	お世話は「辛い」か						
		よく辛いと思うことがある	ときどき辛いと思うことがある	あまり辛いと思うことがない	ほとんど辛いと思うことがない	わからない	無回答	
全体	2,004	5.3	11.9	10.5	31.0	24.5	16.7	
祖父母の状況	高齢（65歳以上）	200	3.0	16.5	13.0	33.5	23.0	11.0
	要介護（介護が必要な状態）	24	0.0	29.2	12.5	29.2	16.7	12.5
	認知症	27	0.0	33.3	14.8	29.6	14.8	7.4
	身体障がい	17	5.9	47.1	5.9	41.2	0.0	0.0
	その他	13	0.0	15.4	0.0	53.8	7.7	23.1
	わからない	90	2.2	13.3	8.9	23.3	41.1	11.1
	無回答	28	7.1	10.7	3.6	21.4	25.0	32.1



図表－108 【小学5年生】お世話をしているきょうだいの状況×お世話は「辛い」か

(%)

		調査数 (n)	お世話は「辛い」か					わからない	無回答
			よく辛いと思う ことがある	ときどき辛いと 思うことがある	あまり辛いと思 うことがない	ほとんど辛いと 思うことがない			
全体		2,004	5.3	11.9	10.5	31.0	24.5	16.7	
きょうだいの状況 お世話をしている	幼い	395	8.1	19.2	14.4	43.5	12.2	2.5	
	知的障がい	15	26.7	33.3	0.0	33.3	6.7	0.0	
	その他	59	5.1	16.9	16.9	45.8	13.6	1.7	
	わからない	306	8.2	9.8	11.1	32.7	35.0	3.3	
	無回答	125	4.0	7.2	12.8	26.4	17.6	32.0	

図表－109 【小学5年生】父母のお世話の内容×お世話は「辛い」か

(%)

		調査数 (n)	お世話は「辛い」か					わからない	無回答
			よく辛いと思う ことがある	ときどき辛いと 思うことがある	あまり辛いと思 うことがない	ほとんど辛いと 思うことがない			
全体		2,004	5.3	11.9	10.5	31.0	24.5	16.7	
父母のお世話の内容	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	710	5.1	13.0	11.7	30.6	29.3	10.4	
	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	163	5.5	13.5	14.7	31.3	25.2	9.8	
	外出の付き添い（買い物、散歩など）	440	4.8	12.7	11.4	31.6	29.8	9.8	
	通院の付き添い	134	7.5	16.4	8.2	27.6	28.4	11.9	
	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	217	8.8	14.7	7.8	27.2	29.0	12.4	
	見守り	340	7.1	12.1	11.2	27.9	31.2	10.6	
	通訳（日本語や手話など）	85	10.6	10.6	10.6	41.2	20.0	7.1	
	お金の管理	299	5.0	12.7	9.7	28.4	32.1	12.0	
	薬の管理	190	8.4	15.8	10.0	24.7	26.8	14.2	
	その他	36	8.3	5.6	16.7	19.4	38.9	11.1	
	無回答	54	5.6	5.6	3.7	9.3	27.8	48.1	

図表－110 【小学5年生】祖父母のお世話の内容×お世話は「辛い」か

(%)

	調査数 (n)	お世話は「辛い」か						
		よく辛いと思う ことがある	ときどき辛いと 思うことがある	あまり辛いと思 うことがない	ほとんど辛いと思 うことがない	わからない	無回答	
全体	2,004	5.3	11.9	10.5	31.0	24.5	16.7	
祖父母のお世話の内容	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	172	2.9	16.9	12.2	27.9	31.4	8.7
	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	61	8.2	24.6	16.4	24.6	16.4	9.8
	外出の付き添い（買い物、散歩など）	150	2.7	14.7	11.3	36.7	27.3	7.3
	通院の付き添い	46	2.2	17.4	13.0	30.4	26.1	10.9
	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	75	2.7	20.0	13.3	30.7	20.0	13.3
	見守り	171	3.5	18.7	9.4	30.4	28.1	9.9
	通訳（日本語や手話など）	22	9.1	18.2	9.1	36.4	22.7	4.5
	お金の管理	64	6.3	21.9	9.4	32.8	14.1	15.6
	薬の管理	60	5.0	23.3	10.0	33.3	20.0	8.3
	無回答	40	2.5	12.5	2.5	12.5	32.5	37.5

図表-111 【小学5年生】きょうだいへのお世話の内容×お世話は「辛い」か

(%)

		調査数 (n=)	お世話は「辛い」か					無回答
			よく辛いと思う ことがある	ときどき辛いと 思うことがある	あまり辛いと思 うことがない	ほとんど辛いと 思うことがない	わからない	
全体		2,004	5.3	11.9	10.5	31.0	24.5	16.7
きょうだいへのお世話の内容	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	234	9.4	18.4	11.5	31.2	22.6	6.8
	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	156	9.0	19.9	14.1	40.4	12.8	3.8
	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	117	6.8	13.7	17.9	47.0	11.1	3.4
	外出の付き添い（買い物、散歩など）	222	10.4	15.3	11.7	38.3	20.7	3.6
	通院の付き添い	26	15.4	3.8	11.5	50.0	15.4	3.8
	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	148	14.2	16.2	10.1	36.5	16.9	6.1
	見守り	508	9.4	13.4	14.0	40.6	18.5	4.1
	通訳（日本語や手話など）	22	18.2	13.6	18.2	27.3	13.6	9.1
	お金の管理	55	16.4	18.2	1.8	29.1	21.8	12.7
	薬の管理	27	14.8	25.9	14.8	22.2	11.1	11.1
	その他	62	9.7	11.3	8.1	37.1	30.6	3.2
	無回答	83	3.6	6.0	7.2	20.5	28.9	33.7

図表－112 【小学5年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×お世話をしている人の有無

(%)

		調査数 (n=)	お世話をしている人の有無		
			いる	いない	無回答
全体		11,970	16.7	81.6	1.7
は ラ ー 「 ヤ ン グ ケ ア ラ ー」 に あ て は ま る か	あてはまる	349	54.4	44.4	1.1
	あてはまらない	9,342	11.3	87.7	1.0
	わからない	2,089	32.6	64.8	2.6
	無回答	190	41.1	35.8	23.2

図表－113 【小学5年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×性別

(%)

		調査数 (n=)	性別			
			男性	女性	答えたくない、 わからない、 その他	無回答
全体		11,970	49.9	47.9	1.8	0.4
は ラ ー 「 ヤ ン グ ケ ア ラ ー」 に あ て は ま る か	あてはまる	349	55.3	42.4	2.0	0.3
	あてはまらない	9,342	48.6	49.7	1.3	0.4
	わからない	2,089	54.2	41.9	3.5	0.4
	無回答	190	60.5	35.3	3.7	0.5

図表－114 【小学5年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×家族構成

(%)

		調査数 (n=)	家族構成				
			親と自分、 きょうだい	3世代	ひとり親	その他	無回答
全体		11,970	72.1	15.9	7.1	4.2	0.7
は ラ ー 「 ヤ ン グ ケ ア ラ ー」 に あ て は ま る か	あてはまる	349	69.3	14.6	9.7	5.7	0.6
	あてはまらない	9,342	73.3	15.7	6.8	3.7	0.5
	わからない	2,089	68.1	17.0	8.1	5.7	1.1
	無回答	190	63.2	12.6	10.5	4.2	9.5

図表－115 【小学5年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×健康状態

(%)

		調査数 (n=)	健康状態			
			よい	ふつう	よくない	無回答
全体		11,970	78.3	17.5	3.0	1.2
は ま る か 「 ヤ ン グ ケ ア ラ ー」 に あ て は ま る か	あてはまる	349	75.9	15.8	7.2	1.1
	あてはまらない	9,342	80.2	16.3	2.6	0.9
	わからない	2,089	70.6	23.3	4.3	1.8
	無回答	190	71.1	17.4	2.1	9.5

図表－116 【小学5年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×出席状況

(%)

		調査数 (n=)	出席状況			
			ほとんど 欠席しない	たまに 欠席する	よく 欠席する	無回答
全体		11,970	75.9	13.9	9.9	0.3
は ま る か 「 ヤ ン グ ケ ア ラ ー」 に あ て は ま る か	あてはまる	349	65.9	23.5	10.0	0.6
	あてはまらない	9,342	77.6	12.7	9.6	0.1
	わからない	2,089	70.2	17.9	11.4	0.5
	無回答	190	72.6	14.2	7.9	5.3

図表－117 【小学5年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×遅刻や早退の状況

(%)

		調査数 (n=)	遅刻や早退の状況			
			ほとんど しない	たまにする	よくする	無回答
全体		11,970	86.1	11.9	1.7	0.3
は ま る か 「 ヤ ン グ ケ ア ラ ー」 に あ て は ま る か	あてはまる	349	79.7	15.5	4.9	0.0
	あてはまらない	9,342	87.5	10.9	1.4	0.2
	わからない	2,089	80.7	16.3	2.7	0.3
	無回答	190	85.3	8.9	1.6	4.2

図表-118 【小学5年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×ふだんの学校生活

(%)

	調査数 (n=)	ふだんの学校生活											
		授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	クラブ活動や習い事を休むことが多い	提出が遅れることが多い	提出しなければならない書類などの提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では1人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特になし	無回答
全体	11,970	5.8	12.7	25.3	1.7	14.1	0.6	1.0	6.1	5.2	59.1	2.7	
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	349	10.3	18.6	33.5	4.3	21.2	2.3	2.9	9.2	8.0	47.3	2.9
	あてはまらない	9,342	4.9	11.0	23.1	1.4	12.6	0.5	0.8	5.7	4.6	62.6	2.3
	わからない	2,089	9.1	19.2	33.6	2.6	19.8	0.8	1.9	7.9	7.6	46.9	3.3
	無回答	190	6.3	13.7	22.6	2.6	11.1	1.1	1.6	5.3	4.2	46.8	16.8

図表-119 【小学5年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×生活の満足度(10点満点で)

(%)

	調査数 (n=)	生活の満足度 (10点満点で)						
		0~4点	5~7点	8~10点	無回答	平均(点)	標準偏差	
全体	11,970	8.8	24.8	66.0	0.4	7.85	2.24	
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	349	17.2	28.1	54.7	0.0	7.16	2.66
	あてはまらない	9,342	7.1	22.9	69.8	0.2	8.04	2.11
	わからない	2,089	15.0	32.9	51.5	0.6	7.10	2.51
	無回答	190	10.0	22.6	57.4	10.0	7.71	2.64

図表－120 【小学5年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×お世話をしている頻度(日数)

(%)

		調査数 (n=)	お世話をしている頻度(日数)					無回答
			ほぼ毎日	週に3 ～5日	週に1 ～2日	1か月 に数日	その他	
全体		2,004	35.6	13.6	15.4	8.8	3.0	23.7
「ヤングケアラー」 にあてはまるか	あてはまる	190	54.2	14.7	12.6	8.9	4.2	5.3
	あてはまらない	1,055	30.6	12.4	15.2	8.8	2.7	30.3
	わからない	681	40.1	15.9	17.3	9.0	3.2	14.5
	無回答	78	17.9	6.4	7.7	6.4	3.8	57.7

図表－121 【小学5年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×平日の1日あたりのお世話をしている時間

(%)

		調査数 (n=)	平日の1日あたりのお世話をしている時間					平均 (時間)	標準偏差
			3時間 未満	3～7時 間未満	7時間 以上	無回答			
全体		2,004	28.7	11.5	8.7	51.0	4.22	5.49	
「ヤングケアラー」 にあてはまるか	あてはまる	190	32.1	23.2	13.7	31.1	4.82	5.42	
	あてはまらない	1,055	29.2	10.2	7.7	52.9	4.07	5.55	
	わからない	681	29.7	11.5	9.3	49.6	4.13	5.39	
	無回答	78	6.4	0.0	6.4	87.2	6.68	6.44	

図表－122 【小学5年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×お世話をしていることで、できないこと

(%)

		調査数 (n)	お世話をしていることで、できないこと										
			学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退して しまう	宿題をする時間や勉強する時間が 取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	クラブ活動や習い事ができない、 もしくはやめるしかなかった	進路の変更を考えた	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答
全体		2,004	1.3	1.3	7.3	10.7	7.3	1.0	1.0	11.2	0.2	60.9	15.2
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	190	2.6	2.1	20.5	24.2	17.4	2.6	2.6	26.3	1.1	47.9	3.7
	あてはまらない	1,055	1.0	1.3	5.2	6.7	5.5	1.0	0.9	7.8	0.1	64.5	17.9
	わからない	681	1.5	1.0	7.5	13.5	7.3	0.7	0.9	12.9	0.3	62.1	10.1
	無回答	78	0.0	1.3	2.6	7.7	7.7	0.0	0.0	5.1	0.0	32.1	51.3

図表－123 【小学5年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×お世話は「辛い」か

(%)

		調査数 (n)	お世話は「辛い」か					わからない	無回答
			よく辛いと思う ことがある	ときどき辛い と思うことがある	あまり辛い と思う	ほとんど辛い と思う	ほとんど辛い と思う		
全体		2,004	5.3	11.9	10.5	31.0	24.5	16.7	
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	190	13.7	20.5	12.1	33.2	14.7	5.8	
	あてはまらない	1,055	2.7	8.9	10.2	35.5	21.8	20.9	
	わからない	681	7.3	14.8	11.5	25.7	31.3	9.4	
	無回答	78	3.8	6.4	2.6	12.8	24.4	50.0	



図表－124 【小学5年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×世話を必要としている家族のことや、世話の悩みを誰かに相談したことの有無

(%)

		調査数 (n=)	世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことの有無		
			ある	ない	無回答
全体		2,004	29.7	61.9	8.4
は「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	190	37.9	61.6	0.5
	あてはまらない	1,055	24.5	66.0	9.5
	わからない	681	36.1	58.9	5.0
	無回答	78	23.1	34.6	42.3

図表－125 【小学5年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×相談していない理由

(%)

		調査数 (n=)	相談していない理由									
			誰かに相談するほどの悩みではない	家族以外の人に相談するような悩みではない	誰に相談するのがよいかわからない	相談できる人が身近にいない	家族のこのため話しにくい・話しづらい	家族のことを知られたくない（家族の病気や障がいのことを知られたくない）	家族に対して偏見を持たれたくない（親が何もしてくれない、子どもにケアをさせているといったように悪く思われたくない）	相談しても状況が変わるとは思わない	その他	無回答
全体		1,241	63.8	14.3	8.3	3.1	10.8	2.3	3.5	7.8	3.6	18.2
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	117	69.2	14.5	11.1	3.4	17.1	5.1	8.5	14.5	4.3	7.7
	あてはまらない	696	65.8	13.5	6.2	2.2	7.8	1.7	2.2	5.3	2.7	21.4
	わからない	401	61.1	16.5	11.5	5.0	15.0	2.7	4.7	10.5	4.5	13.5
	無回答	27	29.6	0.0	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	3.7	11.1	51.9

図表-126 【小学5年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×学校や周りの大人に助けてほしいこと

(%)

	調査数 (n <sub>II</sub> )	学校や周りの大人に助けてほしいこと														
		自分の今の状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	自分と同じようにお世話をしている人と話をしたい	自分とお話をしてほしい	家族の病気や障がい、お世話の方法などについてわかりやすく教えてほしい	自分が行っているお世話をすべてを代わってほしい	自分が行っているお世話を一部を代わってほしい	自由に使える時間がほしい	進路や将来のことについて相談にのってほしい	サポート	学校の勉強や受験勉強など学習の	家の生活などのお金の支援	その他	特にな	わからない
全体	2,004	11.2	3.9	5.7	2.3	1.8	1.5	15.1	5.9	8.1	2.3	0.5	55.5	8.4	6.1	
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	190	19.5	8.4	17.9	8.9	5.3	6.3	33.2	8.4	16.8	6.8	1.6	37.9	4.7	1.6
	あてはまらない	1,055	9.8	3.1	3.7	1.0	0.9	0.8	11.5	5.8	7.5	1.7	0.2	63.7	5.3	5.7
	わからない	681	11.9	4.1	6.2	2.5	2.5	1.5	16.6	6.0	7.5	2.2	0.7	49.2	14.8	3.8
	無回答	78	3.8	1.3	0.0	1.3	0.0	0.0	6.4	1.3	1.3	0.0	0.0	43.6	2.6	43.6

【中学2年生 その他の家族のお世話をしている人の状況】

※以下の表ではn数が9以下の表記は除いている

図表-127 【中学2年生】お世話をしている人の有無×性別

(%)

		調査数 (n=)	性別			
			男性	女性	答えたくない、 わからない、 その他	無回答
全体		11,116	49.9	47.6	2.5	0.1
有無	お世話をしている	1,260	46.5	51.0	2.5	0.0
	お世話をしていない	9,715	50.2	47.4	2.4	0.1
	無回答	141	59.6	29.1	10.6	0.7

図表-128 【中学2年生】お世話をしている人の有無×家族構成

(%)

		調査数 (n=)	家族構成				
			親と自分、 きょうだい	3世代	ひとり親	その他	無回答
全体		11,116	70.3	16.6	9.2	3.3	0.5
有無	お世話をしている	1,260	66.3	16.3	10.9	5.5	1.0
	お世話をしていない	9,715	71.0	16.7	9.0	3.0	0.3
	無回答	141	63.1	15.6	6.4	5.0	9.9

図表-129 【中学2年生】お世話をしている人の有無×健康状態

(%)

		調査数 (n=)	健康状態			
			よい	ふつう	よくない	無回答
全体		11,116	75.4	19.2	4.9	0.5
有無	お世話をしている	1,260	71.8	21.3	6.6	0.3
	お世話をしていない	9,715	76.0	18.8	4.7	0.4
	無回答	141	61.7	27.7	3.5	7.1

図表－130 【中学2年生】お世話をしている人の有無×出席状況

(%)

		調査数 (n=)	出席状況			
			ほとんど 欠席しない	たまに 欠席する	よく 欠席する	無回答
全体		11,116	77.4	11.2	11.4	0.1
有無 お世話を している 人の有無	いる	1,260	68.7	17.5	13.8	0.0
	いない	9,715	78.6	10.3	11.1	0.1
	無回答	141	66.0	17.0	14.2	2.8

図表－131 【中学2年生】お世話をしている人の有無×遅刻や早退の状況

(%)

		調査数 (n=)	遅刻や早退の状況			
			ほとんど しない	たまにする	よくする	無回答
全体		11,116	87.4	10.8	1.6	0.2
有無 お世話を している 人の有無	いる	1,260	80.2	16.9	2.9	0.1
	いない	9,715	88.5	9.9	1.5	0.1
	無回答	141	73.8	19.9	3.5	2.8

図表－132 【中学2年生】お世話をしている人の有無×ふだんの学校生活

(%)

		調査数 (n=)	ふだんの学校生活										
			授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活動や習い事を休むことが多い	提出しなければならない書類などの提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では1人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特になし	無回答
全体		11,116	16.0	19.2	20.4	6.7	20.1	0.5	1.1	6.3	5.3	52.2	3.3
有無 お世話を している 人の有無	いる	1,260	20.6	25.2	25.1	11.3	25.2	0.7	2.5	7.9	7.9	42.6	2.5
	いない	9,715	15.4	18.3	19.8	6.0	19.4	0.5	0.9	6.1	5.0	53.8	3.1
	無回答	141	17.0	27.0	19.9	11.3	19.1	0.7	0.0	5.0	6.4	29.1	22.0

図表－133 【中学2年生】お世話をしている人の有無×生活の満足度(10点満点で)

(%)

		調査数 (n=)	生活の満足度 (10点満点で)					平均 (点)	標準偏差
			0～4点	5～7点	8～10点	無回答			
全体		11,116	12.3	36.9	50.5	0.4	7.15	2.26	
有無 お世話をしている人のし	いる	1,260	17.1	39.6	43.0	0.2	6.75	2.38	
	いない	9,715	11.6	36.6	51.6	0.2	7.21	2.24	
	無回答	141	15.6	31.2	41.1	12.1	6.90	2.46	

図表－134 【中学2年生】お世話をしている人の有無×進路希望

(%)

		調査数 (n=)	進路希望について						無回答
			中学校まで	高校まで	短期大学・専門学校まで	大学・大学院まで	その他	わからない	
全体		11,116	0.4	16.3	13.4	51.3	0.3	18.1	0.2
有無 お世話をしている人のし	いる	1,260	1.0	21.7	17.8	41.0	0.6	17.8	0.1
	いない	9,715	0.3	15.5	12.9	52.8	0.3	18.1	0.1
	無回答	141	1.4	18.4	9.9	36.9	0.7	21.3	11.3

図表－135 【中学2年生】性別×父母の世話の内容

(%)

		調査数 (n=)	父母の世話の内容										無回答
			家事(食事の準備や掃除、洗濯)	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	歩など	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	
全体		429	73.7	9.8	42.9	10.7	31.2	19.1	13.8	14.7	9.3	3.7	5.1
性別	男性	205	75.6	11.2	38.0	11.7	25.9	22.0	8.8	16.1	10.2	4.9	5.9
	女性	210	72.4	8.6	48.1	9.5	36.2	17.1	18.6	14.3	9.0	2.4	4.3
	答えたくない、わからない、その他	14	64.3	7.1	35.7	14.3	35.7	7.1	14.3	0.0	0.0	7.1	7.1

図表－136 【中学2年生】性別×祖父母のお世話の内容

(%)

		調査数 (n=)	祖父母のお世話の内容										
			家事(食事の準備や掃除、洗濯)	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
全体		168	36.9	19.0	41.1	14.3	28.0	45.8	5.4	6.0	7.7	4.8	9.5
性別	男性	89	32.6	18.0	34.8	10.1	19.1	34.8	2.2	4.5	5.6	4.5	13.5
	女性	75	40.0	20.0	48.0	18.7	38.7	58.7	9.3	8.0	10.7	5.3	4.0

図表－137 【中学2年生】性別×きょうだいへのお世話の内容

(%)

		調査数 (n=)	きょうだいへのお世話の内容											
			家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
全体		582	32.0	25.8	17.2	29.0	2.9	24.2	56.7	2.1	2.2	3.3	2.4	6.0
性別	男性	253	28.1	19.4	14.6	22.5	2.4	15.0	54.2	2.4	2.0	2.8	2.4	10.3
	女性	314	35.7	30.6	19.4	34.4	3.2	31.2	58.9	1.6	1.9	3.5	2.2	2.5
	答えたくない、わからない、その他	15	20.0	33.3	13.3	26.7	6.7	33.3	53.3	6.7	13.3	6.7	6.7	6.7

図表－138 【中学2年生】性別×お世話をしている頻度(日数)

(%)

		調査数 (n <sub>ii</sub> )	お世話をしている頻度(日数)					無回答
			ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	1か月に数日	その他	
全体		1,260	33.7	14.3	13.5	9.2	3.0	26.3
性別	男性	586	31.9	12.8	12.8	9.6	2.7	30.2
	女性	642	35.4	16.2	13.7	8.6	3.4	22.7
	答えたくない、わからない、その他	32	34.4	3.1	21.9	15.6	0.0	25.0

図表－139 【中学2年生】性別×平日の1日あたりのお世話をしている時間

(%)

		調査数 (n <sub>ii</sub> )	平日の1日あたりのお世話をしている時間					
			未満1日3時間	時間未満1日3～7	以上1日7時間	無回答	平均(時間)	標準偏差
全体		1,260	19.2	11.8	4.7	64.3	3.66	4.62
性別	男性	586	19.6	9.7	5.1	65.5	3.54	4.65
	女性	642	19.2	13.2	4.4	63.2	3.78	4.68
	答えたくない、わからない、その他	32	12.5	21.9	3.1	62.5	3.13	2.00

図表-140 【中学2年生】性別×お世話をしていることで、できないこと

(%)

		調査数 (n <sub>ii</sub> )	お世話をしていることで、できないこと										
			学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更したい	自分の時間が取れない	その他	特にな	無回答
全体		1,260	0.7	0.9	9.0	8.7	8.3	1.8	0.9	12.4	1.0	56.8	19.9
性別	男性	586	0.9	0.9	5.6	6.5	6.5	0.9	0.9	9.0	0.7	57.2	23.5
	女性	642	0.6	0.9	11.8	10.4	10.0	2.6	0.8	15.4	1.2	57.0	16.4
	答えたくない、わからない、その他	32	0.0	0.0	12.5	12.5	6.3	3.1	3.1	12.5	3.1	46.9	25.0

図表-141 【中学2年生】性別×お世話は「辛い」か

(%)

		調査数 (n <sub>ii</sub> )	お世話は「辛い」か				
			身体的に辛い	精神的に辛い	時間的余裕がない	特に辛さは感じていない	無回答
全体		1,260	2.7	6.4	9.8	59.8	25.2
性別	男性	586	2.4	4.1	7.2	58.5	29.9
	女性	642	3.0	8.1	11.7	61.4	21.0
	答えたくない、わからない、その他	32	3.1	15.6	18.8	50.0	25.0



図表－142 【中学2年生】家族構成×父母のお世話の内容

(%)

	調査数 (n=)	父母のお世話の内容											
		家事(食事の準備や掃除、洗濯)	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	歩など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	聞く、話し相手になるなど)	感情面のサポート(愚痴を)	見守り	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他
全体	429	73.7	9.8	42.9	10.7	31.2	19.1	13.8	14.7	9.3	3.7	5.1	
家族構成	親と自分、きょうだい	282	74.5	9.6	44.0	11.0	31.2	18.4	16.7	15.2	9.2	4.3	5.7
	3世代	84	70.2	11.9	44.0	14.3	34.5	25.0	7.1	15.5	10.7	3.6	4.8
	ひとり親	51	72.5	5.9	29.4	5.9	25.5	9.8	9.8	7.8	7.8	0.0	3.9
	その他	11	81.8	18.2	63.6	0.0	36.4	36.4	9.1	27.3	9.1	9.1	0.0

図表－143 【中学2年生】家族構成×祖父母のお世話の内容

(%)

	調査数 (n=)	祖父母のお世話の内容											
		家事(食事の準備や掃除、洗濯)	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	歩など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	聞く、話し相手になるなど)	感情面のサポート(愚痴を)	見守り	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他
全体	168	36.9	19.0	41.1	14.3	28.0	45.8	5.4	6.0	7.7	4.8	9.5	
家族構成	親と自分、きょうだい	55	29.1	14.5	43.6	14.5	30.9	45.5	9.1	7.3	7.3	1.8	14.5
	3世代	92	38.0	20.7	39.1	15.2	26.1	46.7	2.2	3.3	8.7	6.5	8.7
	その他	12	50.0	16.7	41.7	16.7	25.0	58.3	8.3	16.7	0.0	0.0	0.0

図表－144 【中学2年生】家族構成×きょうだいへのお世話の内容

(%)

	調査数 (n)	きょうだいへのお世話の内容												
		家事(食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答	
全体	582	32.0	25.8	17.2	29.0	2.9	24.2	56.7	2.1	2.2	3.3	2.4	6.0	
家族構成	親と自分、きょうだい	413	34.1	26.4	17.2	27.8	2.9	24.5	56.2	1.2	1.9	2.9	2.2	5.8
	3世代	80	18.8	22.5	11.3	36.3	3.8	26.3	56.3	5.0	2.5	2.5	5.0	8.8
	ひとり親	56	33.9	30.4	21.4	32.1	3.6	23.2	58.9	5.4	3.6	8.9	0.0	5.4
	その他	33	33.3	18.2	24.2	21.2	0.0	18.2	60.6	0.0	3.0	0.0	3.0	3.0

図表－145 【中学2年生】家族構成×お世話をしている頻度(日数)

(%)

	調査数 (n)	お世話をしている頻度(日数)					その他	無回答
		ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	1か月に数日			
全体	1,260	33.7	14.3	13.5	9.2	3.0	26.3	
家族構成	親と自分、きょうだい	836	33.7	13.5	13.2	9.1	3.0	27.5
	3世代	205	32.2	16.1	17.6	11.2	2.4	20.5
	ひとり親	137	38.7	16.1	10.9	8.0	2.2	24.1
	その他	69	34.8	15.9	13.0	8.7	7.2	20.3
	無回答	13	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	92.3

図表-146 【中学2年生】家族構成×平日の1日あたりのお世話をしている時間

(%)

	調査数 (n)	平日の1日あたりのお世話をしている時間							
		間未 満	1日 3時 以上	7時 以上	1日 3時 以上	間未 満	1日 3時 以上	無回 答	平均 (時間)
全体	1,260	19.2	11.8	4.7	64.3	3.66	4.62		
家族 構成	親と自分、きょうだい	836	17.5	12.4	5.0	65.1	3.78	4.83	
	3世代	205	25.9	12.7	2.9	58.5	3.31	4.31	
	ひとり親	137	21.9	7.3	5.1	65.7	3.47	4.03	
	その他	69	18.8	13.0	5.8	62.3	3.68	3.98	
	無回答	13	0.0	0.0	0.0	100.0	-	0.000	

図表-147 【中学2年生】家族構成×お世話をしていることで、できないこと

(%)

	調査数 (n)	お世話をしていることで、できないこと											
		学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	自分の時間が取れない	その他	特にな	無回 答	
全体	1,260	0.7	0.9	9.0	8.7	8.3	1.8	0.9	12.4	1.0	56.8	19.9	
家族 構成	親と自分、きょうだい	836	0.7	0.8	9.4	8.4	8.1	1.9	0.7	12.3	1.1	57.4	19.7
	3世代	205	1.5	1.5	8.8	9.3	10.2	2.4	2.0	14.1	1.0	56.6	18.0
	ひとり親	137	0.0	0.7	8.8	10.2	8.0	0.7	0.0	11.7	0.7	56.2	18.2
	その他	69	0.0	0.0	5.8	5.8	5.8	1.4	1.4	11.6	1.4	58.0	23.2
	無回答	13	0.0	0.0	0.0	15.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.1	61.5

図表－148 【中学2年生】家族構成×お世話は「辛い」か

(%)

		調査数 (n)	お世話は「辛い」か				無回答
			身体的に辛い	精神的に辛い	時間的余裕がない	特に辛さは感じていない	
全体		1,260	2.7	6.4	9.8	59.8	25.2
家族構成	親と自分、きょうだい	836	2.5	5.7	9.2	60.0	26.1
	3世代	205	2.0	8.3	10.7	61.5	20.5
	ひとり親	137	5.1	8.0	13.1	56.2	24.1
	その他	69	2.9	7.2	8.7	65.2	21.7
	無回答	13	0.0	0.0	0.0	23.1	76.9

図表－149 【中学2年生】お世話をしている頻度×平日の1日あたりのお世話をしている時間

(%)

		調査数 (n)	平日の1日あたりのお世話をしている時間					標準偏差
			未 満 1 日 3 時 間	1 日 3 時 間 未 満 7	以 上 1 日 7 時 間	無 回 答	平均 (時間)	
全体		1,260	19.2	11.8	4.7	64.3	3.66	4.62
お世話をしている頻度	ほぼ毎日	425	21.4	19.5	10.6	48.5	4.73	5.70
	週に3～5日	180	29.4	16.7	2.2	51.7	2.83	2.76
	週に1～2日	170	37.1	8.8	4.1	50.0	2.61	3.59
	1か月に数日	116	22.4	13.8	2.6	61.2	2.60	3.00
	その他	38	15.8	13.2	0.0	71.1	2.89	1.88
	無回答	331	0.9	0.0	0.0	99.1	0.67	0.58

図表－150 【中学2年生】お世話をしている頻度×健康状態

(%)

		調査数 (n=)	健康状態			
			よい	ふつう	よくない	無回答
全体		11,116	75.4	19.2	4.9	0.5
度 お 世 話 を し て い る 頻 度	ほぼ毎日	425	71.1	21.6	7.1	0.2
	週に3～5日	180	67.2	27.2	5.6	0.0
	週に1～2日	170	64.7	24.1	11.2	0.0
	1か月に数日	116	76.7	15.5	6.9	0.9
	その他	38	81.6	15.8	2.6	0.0
	無回答	331	76.1	18.7	4.5	0.6

図表－151 【中学2年生】お世話をしている頻度×お世話は「辛い」か

(%)

		調査数 (n=)	お世話は「辛い」か				
			身体的に辛い	精神的に辛い	ない	時間的余裕が ない	特に辛さは感 じていない
全体		1,260	2.7	6.4	9.8	59.8	25.2
度 お 世 話 を し て い る 頻 度	ほぼ毎日	425	5.2	10.6	14.4	71.3	5.9
	週に3～5日	180	1.7	6.7	15.6	75.0	6.1
	週に1～2日	170	2.4	7.1	9.4	81.2	2.4
	1か月に数日	116	0.9	4.3	9.5	75.9	9.5
	その他	38	2.6	13.2	7.9	68.4	15.8
	無回答	331	0.9	0.6	1.2	19.0	78.9

図表－152 【中学2年生】平日の1日あたりのお世話をしている時間×健康状態

(%)

		調査数 (n=)	健康状態			
			よい	ふつう	よくない	無回答
全体		11,116	75.4	19.2	4.9	0.5
間 を た り の 日 あ た り の お 世 話 の 時 間	1日3時間未満	242	74.8	16.1	8.7	0.4
	1日3～7時間未満	149	68.5	24.2	7.4	0.0
	1日7時間以上	59	72.9	20.3	6.8	0.0
	無回答	810	71.5	22.3	5.8	0.4

図表－153 【中学2年生】平日の1日あたりのお世話をしている時間×お世話は「辛い」か

(%)

	調査数 (n=)	お世話は「辛い」か					
		身体的に辛い	精神的に辛い	時間的余裕がない	特に辛さは感じていない	無回答	
全体	1,260	2.7	6.4	9.8	59.8	25.2	
平日のお世話をしている時間	1日3時間未満	242	1.7	7.4	7.4	83.5	2.5
	1日3～7時間未満	149	2.0	13.4	18.8	70.5	0.7
	1日7時間以上	59	5.1	6.8	22.0	66.1	5.1
	無回答	810	3.0	4.8	7.9	50.2	38.0

図表－154 【中学2年生】父母の状況×お世話をしている頻度(日数)

(%)

	調査数 (n=)	お世話をしている頻度(日数)						
		ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	1か月に数日	その他	無回答	
全体	1,260	33.7	14.3	13.5	9.2	3.0	26.3	
父母の状況	身体障がい	25	44.0	20.0	16.0	12.0	4.0	4.0
	精神疾患(疑い含む)	17	35.3	17.6	29.4	17.6	0.0	0.0
	依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症(疑い含む))	19	52.6	21.1	15.8	5.3	0.0	5.3
	精神疾患・依存症以外の病気	15	53.3	20.0	13.3	6.7	0.0	6.7
	その他	74	39.2	14.9	16.2	9.5	16.2	4.1
	無回答	281	30.6	19.6	12.5	11.4	1.1	24.9

図表－155 【中学2年生】祖父母の状況×お世話をしている頻度(日数)

(%)

		調査数 (n=)	お世話をしている頻度(日数)					無回答
			ほぼ毎日	週に3 ～5日	週に1 ～2日	1か月に数日	その他	
全体		1,260	33.7	14.3	13.5	9.2	3.0	26.3
祖父母の状況	高齢(65歳以上)	120	32.5	16.7	20.8	17.5	7.5	5.0
	要介護(介護が必要な状態)	29	44.8	10.3	13.8	20.7	6.9	3.4
	認知症	30	40.0	16.7	16.7	13.3	10.0	3.3
	身体障がい	18	16.7	0.0	33.3	38.9	5.6	5.6
	その他	12	33.3	8.3	25.0	0.0	33.3	0.0
	無回答	31	19.4	9.7	9.7	9.7	0.0	51.6

図表－156 【中学2年生】世話をしているきょうだいの状況×お世話をしている頻度(日数)

(%)

		調査数 (n=)	お世話をしている頻度(日数)					無回答
			ほぼ毎日	週に3 ～5日	週に1 ～2日	1か月に数日	その他	
全体		1,260	33.7	14.3	13.5	9.2	3.0	26.3
世話をしているきょうだいの状況	幼い	341	59.2	17.9	14.1	5.9	1.5	1.5
	身体障がい	14	64.3	14.3	14.3	0.0	0.0	7.1
	知的障がい	46	63.0	10.9	15.2	4.3	2.2	4.3
	その他	47	36.2	23.4	29.8	6.4	4.3	0.0
	無回答	150	28.0	18.0	14.0	9.3	3.3	27.3

図表－157 【中学2年生】父母の状況×平日の1日あたりのお世話をしている時間

(%)

		調査数 (n=)	平日の1日あたりのお世話をしている時間					
			1日3時間未満	1日3～7時間未満	1日7時間以上	無回答	平均(時間)	標準偏差
全体		1,260	19.2	11.8	4.7	64.3	3.66	4.62
父母の状況	精神疾患(疑い含む)	17	23.5	17.6	5.9	52.9	5.52	7.76
	依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症(疑い含む))	19	15.8	15.8	5.3	63.2	5.54	6.49
	精神疾患・依存症以外の病気	15	13.3	26.7	0.0	60.0	6.31	8.04
	その他	74	28.4	9.5	2.7	59.5	2.48	3.06
	無回答	281	18.5	6.8	2.1	72.6	3.38	4.78

図表－158 【中学2年生】祖父母の状況×平日の1日あたりのお世話をしている時間

(%)

		調査数 (n)	平日の1日あたりのお世話をしている時間					平均 (時間)	標準 偏差
			未 満 1 日 3 時 間	時 間 未 満 1 日 3 時 間	以 上 1 日 7 時 間	無 回 答			
全体		1,260	19.2	11.8	4.7	64.3	3.66	4.62	
祖 父 母 の 状 況	高齢 (65 歳以上)	120	31.7	12.5	1.7	54.2	3.60	5.26	
	要介護 (介護が必要な 状態)	29	24.1	17.2	6.9	51.7	7.09	8.47	
	認知症	30	33.3	16.7	0.0	50.0	4.26	6.32	
	身体障がい	18	22.2	11.1	5.6	61.1	5.23	6.48	
	その他	12	33.3	25.0	0.0	41.7	2.63	2.20	
	無回答	31	9.7	6.5	6.5	77.4	5.56	7.49	

図表－159 【中学2年生】世話をしているきょうだいの状況×平日の1日あたりのお世話をしている時間

(%)

		調査数 (n)	平日の1日あたりのお世話をしている時間					平均 (時間)	標準 偏差
			未 満 1 日 3 時 間	時 間 未 満 1 日 3 時 間	以 上 1 日 7 時 間	無 回 答			
全体		1,260	19.2	11.8	4.7	64.3	3.66	4.62	
き 世 話 を し て い る き ょう だ い の 状 況	幼い	341	22.0	22.0	10.3	45.7	4.49	5.28	
	身体障がい	14	28.6	7.1	7.1	57.1	8.17	10.19	
	知的障がい	46	15.2	21.7	15.2	47.8	6.61	6.52	
	その他	47	40.4	4.3	4.3	51.1	2.64	4.49	
	無回答	150	13.3	8.0	4.0	74.7	4.23	4.83	



図表－160 【中学2年生】父母の状況×お世話は「辛い」か

(%)

		調査数 (n <sub>II</sub> )	お世話は「辛い」か				
			身体的に辛い	精神的に辛い	ない 時間的余裕が	感じていない 特に辛さはない	無回答
全体		1,260	2.7	6.4	9.8	59.8	25.2
父母の状況	身体障がい	25	16.0	28.0	20.0	56.0	4.0
	精神疾患（疑い含む）	17	11.8	47.1	23.5	41.2	5.9
	依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症（疑い含む）	19	10.5	36.8	31.6	52.6	5.3
	精神疾患・依存症以外の病気	15	13.3	46.7	40.0	46.7	6.7
	その他	74	5.4	9.5	17.6	68.9	5.4
	無回答	281	2.8	4.3	8.2	58.7	29.5

図表－161 【中学2年生】祖父母の状況×お世話は「辛い」か

(%)

		調査数 (n <sub>II</sub> )	お世話は「辛い」か				
			身体的に辛い	精神的に辛い	ない 時間的余裕が	感じていない 特に辛さはない	無回答
全体		1,260	2.7	6.4	9.8	59.8	25.2
祖父母の状況	高齢（65歳以上）	120	1.7	9.2	12.5	70.8	9.2
	要介護（介護が必要な状態）	29	6.9	10.3	20.7	55.2	13.8
	認知症	30	3.3	13.3	13.3	63.3	13.3
	身体障がい	18	5.6	16.7	5.6	72.2	11.1
	その他	12	8.3	16.7	8.3	58.3	8.3
	無回答	31	0.0	3.2	3.2	32.3	61.3

図表－162 【中学2年生】世話をしているきょうだいの状況×お世話は「辛い」か

(%)

		調査数 (n)	お世話は「辛い」か				無回答
			身体的に辛い	精神的に辛い	ない 時間的余裕が	特に辛さは 感じていない	
全体		1,260	2.7	6.4	9.8	59.8	25.2
きょうだいの 状況を している	幼い	341	2.6	6.7	14.7	79.5	1.5
	身体障がい	14	14.3	7.1	21.4	64.3	7.1
	知的障がい	46	2.2	19.6	21.7	63.0	4.3
	その他	47	2.1	6.4	19.1	76.6	2.1
	無回答	150	2.0	4.7	13.3	56.0	28.7

図表－163 【中学2年生】父母のお世話の内容×お世話は「辛い」か

(%)

		調査数 (n)	お世話は「辛い」か				無回答
			身体的に辛い	精神的に辛い	ない 時間的余裕が	特に辛さは 感じていない	
全体		1,260	2.7	6.4	9.8	59.8	25.2
父母のお 世話の 内容	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	316	5.1	9.2	14.2	61.4	17.7
	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	42	4.8	2.4	11.9	59.5	26.2
	外出の付き添い（買い物、散歩など）	184	5.4	7.6	15.2	60.3	17.9
	通院の付き添い	46	8.7	8.7	17.4	52.2	28.3
	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	134	6.0	18.7	14.2	59.7	13.4
	見守り	82	9.8	12.2	15.9	57.3	15.9
	通訳（日本語や手話など）	59	6.8	6.8	11.9	71.2	11.9
	お金の管理	63	9.5	11.1	19.0	44.4	27.0
	薬の管理	40	12.5	15.0	20.0	50.0	22.5
	その他	16	0.0	25.0	12.5	50.0	25.0
	無回答	22	0.0	0.0	0.0	13.6	86.4

図表－164 【中学2年生】祖父母のお世話の内容×お世話は「辛い」か

(%)

		調査数 (n)	お世話は「辛い」か				
			身体的に辛い	精神的に辛い	時間的余裕がない	特に辛さは感じていない	無回答
全体		1,260	2.7	6.4	9.8	59.8	25.2
祖父母のお世話の内容	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	62	3.2	9.7	12.9	64.5	12.9
	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	32	6.3	9.4	21.9	59.4	9.4
	外出の付き添い（買い物、散歩など）	69	2.9	10.1	13.0	63.8	14.5
	通院の付き添い	24	8.3	16.7	8.3	54.2	20.8
	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	47	4.3	12.8	19.1	66.0	6.4
	見守り	77	3.9	13.0	11.7	68.8	6.5
	お金の管理	10	20.0	10.0	10.0	50.0	30.0
	薬の管理	13	15.4	30.8	15.4	38.5	15.4
	無回答	16	0.0	0.0	0.0	25.0	75.0

図表－165 【中学2年生】きょうだいへのお世話の内容×お世話は「辛い」か

(%)

		調査数 (n=)	お世話は「辛い」か				
			身体的に辛い	精神的に辛い	時間的余裕がない	特に辛さは感じていない	無回答
全体		1,260	2.7	6.4	9.8	59.8	25.2
きょうだいへのお世話の内容	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	186	4.8	11.3	26.3	62.4	7.5
	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	150	4.0	10.0	17.3	75.3	1.3
	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	100	5.0	11.0	19.0	70.0	2.0
	外出の付き添い（買い物、散歩など）	169	4.1	9.5	17.8	72.2	5.9
	通院の付き添い	17	5.9	5.9	29.4	58.8	11.8
	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	141	4.3	9.2	19.9	70.9	4.3
	見守り	330	3.3	8.5	16.7	72.4	5.2
	通訳（日本語や手話など）	12	8.3	25.0	41.7	58.3	0.0
	お金の管理	13	23.1	23.1	53.8	46.2	0.0
	薬の管理	19	10.5	21.1	26.3	68.4	0.0
	その他	14	0.0	0.0	7.1	85.7	7.1
	無回答	35	5.7	2.9	17.1	31.4	48.6

図表－166 【中学2年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×お世話をしている人の有無

(%)

		調査数 (n=)	お世話をしている人の有無		
			いる	いない	無回答
全体		11,116	11.3	87.4	1.3
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	242	53.3	44.6	2.1
	あてはまらない	9,173	7.4	91.8	0.8
	わからない	1,606	25.8	71.9	2.3
	無回答	95	42.1	30.5	27.4

図表－167 【中学2年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×性別

(%)

		調査数 (n=)	性別			
			男性	女性	答えたくない、わからない、その他	無回答
全体		11,116	49.9	47.6	2.5	0.1
は ま る か 「 ヤ ン グ ケ ア ラ ー」 に あ て は ま る か	あてはまる	242	48.8	47.9	3.3	0.0
	あてはまらない	9,173	49.5	48.4	2.0	0.1
	わからない	1,606	51.5	43.8	4.5	0.2
	無回答	95	57.9	32.6	9.5	0.0

図表－168 【中学2年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×家族構成

(%)

		調査数 (n=)	家族構成				
			親と自分、 きょうだい	3世代	ひとり 親	その他	無回答
全体		11,116	70.3	16.6	9.2	3.3	0.5
は ま る か 「 ヤ ン グ ケ ア ラ ー」 に あ て は ま る か	あてはまる	242	63.2	16.5	12.8	6.2	1.2
	あてはまらない	9,173	71.6	16.4	8.8	3.0	0.3
	わからない	1,606	64.6	17.9	11.3	4.8	1.4
	無回答	95	65.3	15.8	8.4	3.2	7.4

図表－169 【中学2年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×健康状態

(%)

		調査数 (n=)	健康状態			
			よい	ふつう	よくない	無回答
全体		11,116	75.4	19.2	4.9	0.5
は ま る か 「 ヤ ン グ ケ ア ラ ー」 に あ て は ま る か	あてはまる	242	72.7	19.8	5.8	1.7
	あてはまらない	9,173	76.9	18.4	4.3	0.3
	わからない	1,606	68.0	23.0	8.0	1.1
	無回答	95	58.9	31.6	4.2	5.3

図表－170 【中学2年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×出席状況

(%)

		調査数 (n=)	出席状況			
			ほとんど 欠席しな い	たまに欠 席する	よく欠席 する	無回答
全体		11,116	77.4	11.2	11.4	0.1
は ま る か 「 ヤ ン グ ケ ア ラ ー」 に あ て	あてはまる	242	68.6	21.1	9.5	0.8
	あてはまらない	9,173	79.0	9.8	11.1	0.0
	わからない	1,606	69.9	17.0	13.1	0.0
	無回答	95	65.3	16.8	14.7	3.2

図表－171 【中学2年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×遅刻や早退の状況

(%)

		調査数 (n=)	遅刻や早退の状況			
			ほとんど しない	たまにする	よくする	無回答
全体		11,116	87.4	10.8	1.6	0.2
は ま る か 「 ヤ ン グ ケ ア ラ ー」 に あ て	あてはまる	242	76.0	17.8	5.4	0.8
	あてはまらない	9,173	89.0	9.5	1.3	0.1
	わからない	1,606	80.6	16.6	2.7	0.1
	無回答	95	73.7	18.9	4.2	3.2

図表-172 【中学2年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×ふだんの学校生活

(%)

	調査数 (n=)	ふだんの学校生活											
		授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	い部活動や習い事を休むことが多い	提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い	提出しなればいけない書類など	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	い学校では1人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にな	無回答
全体	11,116	16.0	19.2	20.4	6.7	20.1	0.5	1.1	6.3	5.3	52.2	3.3	
はまるか 「ヤングケアラー」にあて	あてはまる	242	24.0	33.1	26.9	14.0	30.6	1.7	3.7	7.4	7.0	41.3	2.5
	あてはまらない	9,173	15.0	17.5	19.1	5.9	18.7	0.4	0.8	5.8	4.9	54.8	3.0
	わからない	1,606	20.6	26.6	26.7	9.9	26.3	0.5	2.0	8.7	7.9	40.3	4.2
	無回答	95	17.9	27.4	22.1	9.5	22.1	2.1	4.2	6.3	4.2	31.6	21.1

図表-173 【中学2年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×生活の満足度(10点満点で)

(%)

	調査数 (n=)	生活の満足度(10点満点で)						
		0~4点	5~7点	8~10点	無回答	平均(点)	標準偏差	
全体	11,116	12.3	36.9	50.5	0.4	7.15	2.26	
はまるか 「ヤングケアラー」にあて	あてはまる	242	19.0	37.2	43.0	0.8	6.64	2.51
	あてはまらない	9,173	10.6	36.4	52.8	0.2	7.28	2.19
	わからない	1,606	20.8	39.9	38.9	0.5	6.48	2.51
	無回答	95	15.8	29.5	41.1	13.7	6.85	2.59

図表-174 【中学2年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×進路希望

(%)

		調査数 (n=)	進路希望について						
			中学校まで	高校まで	専門学校まで	短期大学・専 門学校まで	大学・大学院 まで	その他	わからない
全体		11,116	0.4	16.3	13.4	51.3	0.3	18.1	0.2
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	242	2.9	21.9	19.0	42.1	0.0	13.6	0.4
	あてはまらない	9,173	0.2	15.1	13.3	53.8	0.3	17.2	0.1
	わからない	1,606	0.9	21.9	13.9	38.6	0.6	24.0	0.1
	無回答	95	2.1	21.1	7.4	42.1	0.0	13.7	13.7

図表-175 【中学2年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×お世話をしている頻度(日数)

(%)

		調査数 (n=)	お世話をしている頻度(日数)					無回答
			ほぼ毎日	3週 に 5日	1週 に 2日	数日 1か 月に	その他	
全体		1,260	33.7	14.3	13.5	9.2	3.0	26.3
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	129	54.3	12.4	13.2	8.5	4.7	7.0
	あてはまらない	676	32.0	13.0	13.2	8.4	2.4	31.1
	わからない	415	33.3	17.6	14.9	11.1	3.6	19.5
	無回答	40	2.5	7.5	5.0	5.0	2.5	77.5

図表-176 【中学2年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×平日の1日あたりのお世話をしている時間

(%)

		調査数 (n=)	平日の1日あたりのお世話をしている時間					平均 (時間)	標準 偏差
			未 満 1日 3時 間	1日 3時 間 未 満 7	以 上 1日 7時 間	無 回 答			
全体		1,260	19.2	11.8	4.7	64.3	3.66	4.62	
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	129	17.8	15.5	14.0	52.7	5.53	5.75	
	あてはまらない	676	20.9	8.6	3.6	67.0	3.27	4.80	
	わからない	415	18.6	16.9	4.1	60.5	3.50	3.65	
	無回答	40	2.5	2.5	0.0	95.0	3.00	2.83	



図表-177 【中学2年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×お世話をしていることで、できないこと

(%)

	調査数 (n=)	お世話をしていることで、できないこと											
		学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	自分の時間が取れない	その他	特にない	無回答	
全体	1,260	0.7	0.9	9.0	8.7	8.3	1.8	0.9	12.4	1.0	56.8	19.9	
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	129	3.1	2.3	18.6	15.5	21.7	3.1	0.8	26.4	0.8	48.8	7.0
	あてはまらない	676	0.3	0.7	5.6	5.0	4.0	1.3	0.4	7.0	0.7	61.5	23.2
	わからない	415	0.7	0.7	11.8	13.3	11.6	2.4	1.7	17.8	1.7	55.9	12.5
	無回答	40	0.0	0.0	5.0	0.0	2.5	0.0	0.0	2.5	0.0	12.5	82.5

図表-178 【中学2年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×お世話は「辛い」か

(%)

	調査数 (n=)	お世話は「辛い」か					
		身体的に辛い	精神的に辛い	時間的余裕がない	特に辛さは感じていない	無回答	
全体	1,260	2.7	6.4	9.8	59.8	25.2	
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	129	7.8	12.4	21.7	59.7	9.3
	あてはまらない	676	1.3	4.0	4.6	62.9	29.0
	わからない	415	3.6	8.9	15.4	59.5	18.1
	無回答	40	0.0	2.5	0.0	10.0	87.5

図表－179 【中学2年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを相談したことの有無

		調査数 (n=)	世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことの有無		
			ある	ない	無回答
全体		1,260	14.5	65.9	19.6
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	129	34.1	61.2	4.7
	あてはまらない	676	10.9	66.6	22.5
	わからない	415	14.9	71.1	14.0
	無回答	40	7.5	15.0	77.5

図表－180 【中学2年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×相談していない理由

		調査数 (n=)	相談していない理由									
			誰かに相談するほどの悩みではない	家族以外の人に相談するような悩みではない	誰に相談するのがよいかわからない	相談できる人が身近にいない	家族のことのため話にくい・話づらい	家族のことを知られたくない (家族の病気や障がいのことを知られたくない)	家族に対して偏見を持たれたくない (親が何もしてくれない、子どもにケアをさせているといったように悪く思われたくない)	相談しても状況が変わると思わない	その他	無回答
全体		830	67.8	14.1	8.7	4.3	10.4	4.5	6.0	16.1	6.3	11.4
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	79	65.8	19.0	10.1	8.9	15.2	6.3	6.3	17.7	6.3	3.8
	あてはまらない	450	72.9	12.2	5.1	2.4	6.0	2.7	2.9	10.7	6.9	12.2
	わからない	295	62.0	15.6	13.9	6.1	15.6	6.8	10.8	24.4	5.4	10.8

図表-181 【中学2年生】「ヤングケアラー」にあてはまるか×学校や周りの大人に助けてほしいこと

(%)

		調査数 (n=)	学校や周りの大人に助けてほしいこと													
			自分の今の状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談に乗ってほしい	家族の世話をしている同じ境遇の人と話したい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話をすべて代わってくれる人やサービスがほしい	自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職など将来の相談に乗ってほしい	学校の勉強や受験勉強など学習のサポート	家庭への経済的な支援	その他	特になし	わからない	無回答
全体		1,260	13.3	3.4	3.3	2.5	1.7	0.6	16.8	13.1	17.2	4.5	1.0	45.6	10.9	8.3
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	129	13.2	13.2	11.6	7.0	6.2	0.8	27.9	17.8	22.5	7.8	2.3	42.6	6.2	5.4
	あてはまらない	676	11.7	1.2	1.2	1.8	0.7	0.4	12.6	10.8	14.8	2.8	0.9	53.3	8.6	7.7
	わからない	415	16.9	4.3	4.3	2.7	1.9	1.0	21.2	15.9	20.2	6.3	0.7	38.1	16.4	4.6
	無回答	40	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.5	7.5	10.0	5.0	0.0	5.0	7.5	67.5

【高校2年生(全日制) その他の家族のお世話をしている人の状況】

※以下の表ではn数が9以下の表記は除いている

図表-182 【高校2年生(全日制)】お世話をしている人の有無×性別

(%)

		調査数 (n=)	性別			
			男性	女性	答えたくない、 わからない、 その他	無回答
全体		7,145	46.8	51.1	2.1	0.0
人の有無 お世話をしている	いる	508	37.8	58.5	3.7	0.0
	いない	6,589	47.3	50.6	2.0	0.0
	無回答	48	66.7	31.3	2.1	0.0

図表-183 【高校2年生(全日制)】お世話をしている人の有無×家族構成

(%)

		調査数 (n=)	家族構成				
			親と自分、 きょうだい	3世代	ひとり親	その他	無回答
全体		7,145	69.5	17.2	10.6	2.4	0.3
人の有無 お世話をしている	いる	508	60.6	20.1	15.4	3.7	0.2
	いない	6,589	70.3	17.0	10.2	2.3	0.3
	無回答	48	62.5	16.7	8.3	2.1	10.4

図表-184 【高校2年生(全日制)】お世話をしている人の有無×健康状態

(%)

		調査数 (n=)	健康状態			
			よい	ふつう	よくない	無回答
全体		7,145	72.0	22.7	5.0	0.3
人の有無 お世話をしている	いる	508	64.2	27.4	8.1	0.4
	いない	6,589	72.7	22.3	4.8	0.2
	無回答	48	56.3	29.2	6.3	8.3

図表－185 【高校2年生(全日制)】お世話をしている人の有無×出席状況

(%)

		調査数 (n=)	出席状況			
			ほとんど 欠席しない	たまに 欠席する	よく欠席 する	無回答
全体		7,145	76.0	13.9	10.0	0.1
人して お世話を している 有無	いる	508	68.9	19.7	11.4	0.0
	いない	6,589	76.6	13.4	9.9	0.1
	無回答	48	70.8	14.6	10.4	4.2

図表－186 【高校2年生(全日制)】お世話をしている人の有無×遅刻や早退の状況

(%)

		調査数 (n=)	遅刻や早退の状況			
			ほとんど しない	たまにする	よくする	無回答
全体		7,145	87.4	11.3	1.2	0.1
人して お世話を している 有無	いる	508	80.1	16.3	3.5	0.0
	いない	6,589	88.0	10.9	1.0	0.1
	無回答	48	81.3	14.6	2.1	2.1

図表－187 【高校2年生(全日制)】お世話をしている人の有無×ふだんの学校生活

(%)

		調査数 (n=)	ふだんの学校生活										
			授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活動や習い事を休むことが多い	提出が遅ればいけない書類などの提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では1人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特にない	無回答
全体		7,145	45.3	19.1	13.6	5.9	13.2	1.0	0.8	6.7	7.2	37.6	2.2
お世話をしている人の有無	いる	508	50.8	19.7	17.7	10.4	16.1	1.6	2.0	7.3	8.3	29.1	3.1
	いない	6,589	45.0	19.1	13.3	5.6	13.0	1.0	0.7	6.7	7.1	38.3	2.0
	無回答	48	33.3	10.4	8.3	0.0	10.4	2.1	4.2	2.1	2.1	25.0	27.1

図表－188 【高校2年生(全日制)】お世話をしている人の有無×生活の満足度(10点満点で)

(%)

		調査数 (n=)	生活の満足度(10点満点で)					平均 (点)	標準偏差
			0～4点	5～7点	8～10点	無回答			
全体		7,145	12.1	44.0	43.5	0.3	6.92	2.16	
お世話をしている人の有無	いる	508	17.9	40.6	41.3	0.2	6.61	2.46	
	いない	6,589	11.7	44.3	43.8	0.2	6.95	2.13	
	無回答	48	8.3	37.5	27.1	27.1	6.71	2.53	

図表－189 【高校2年生(全日制)】お世話をしている人の有無×進路希望

(%)

		調査数 (n <sub>ii</sub> )	進路希望について						
			中学校まで	高校まで	専門学校まで	短期大学・専 門学校まで	大学・大学院 まで	その他	わからない
全体		7,145	0.1	9.8	11.6	70.8	0.2	7.3	0.3
有無 お世話をし ている人の	いる	508	0.2	14.4	15.4	60.0	0.8	9.1	0.2
	いない	6,589	0.1	9.4	11.3	71.9	0.1	7.1	0.2
	無回答	48	0.0	10.4	10.4	39.6	0.0	20.8	18.8

図表－190 【高校2年生(全日制)】性別×父母のお世話の内容

(%)

		調査数 (n <sub>ii</sub> )	父母のお世話の内容										
			洗濯 家事 (食事の準備や掃除、 身 体的な介護(入浴やトイ シのお世話など)	外出の付き添い(買い物、 散歩など)	通院の付き添い	聞く、話し相手になるなど)	感情面のサポート(愚痴を 見守り	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答	
全体		170	67.6	4.7	33.5	5.3	28.2	10.6	14.1	4.1	4.1	0.6	3.5
性別	男性	63	73.0	7.9	33.3	6.3	11.1	6.3	12.7	4.8	6.3	0.0	4.8
	女性	101	65.3	3.0	32.7	4.0	37.6	11.9	15.8	4.0	2.0	1.0	3.0

図表－191 【高校2年生(全日制)】性別×祖父母のお世話の内容

(%)

		調査数 (n <sub>ii</sub> )	祖父母のお世話の内容										
			洗濯 家事 (食事の準備や掃除、 身 体的な介護(入浴やトイ シのお世話など)	外出の付き添い(買い物、 散歩など)	通院の付き添い	聞く、話し相手になるな	感情面のサポート(愚痴を 見守り	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答	
全体		78	32.1	20.5	24.4	9.0	25.6	41.0	3.8	2.6	7.7	6.4	10.3
性別	男性	38	26.3	23.7	13.2	10.5	23.7	34.2	2.6	2.6	5.3	5.3	13.2
	女性	39	35.9	17.9	35.9	7.7	28.2	48.7	5.1	2.6	10.3	7.7	7.7

図表－192 【高校2年生(全日制)】性別×きょうだいへのお世話の内容

(%)

		調査数 (n=)	きょうだいへのお世話の内容											
			家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答
全体		236	39.4	26.3	8.1	22.5	1.7	25.0	55.1	1.7	3.0	1.3	2.1	5.5
性別	男性	79	27.8	17.7	6.3	22.8	2.5	15.2	53.2	2.5	3.8	1.3	1.3	12.7
	女性	150	44.0	31.3	8.7	23.3	1.3	30.7	57.3	1.3	2.7	1.3	2.7	2.0

図表－193 【高校2年生(全日制)】性別×お世話をしている頻度(日数)

(%)

		調査数 (n=)	お世話をしている頻度(日数)					無回答
			ほぼ毎日	3週 に 5日	1週 に 2日	数日 1か 月に	その他	
全体		508	30.5	15.4	16.3	10.0	3.1	24.6
性別	男性	192	27.1	13.0	15.1	10.9	2.1	31.8
	女性	297	32.7	17.2	17.2	10.1	3.4	19.5
	答えたくない、わからない、その他	19	31.6	10.5	15.8	0.0	10.5	31.6

図表－194 【高校2年生(全日制)】性別×平日の1日あたりのお世話をしている時間

(%)

		調査数 (n=)	平日の1日あたりのお世話をしている時間					標準偏差
			未 満 1日 3時間	7 1日 3時間 未満	以 上 1日 7時間	無 回 答	平均 (時間)	
全体		508	28.3	10.6	3.5	57.5	2.79	3.60
性別	男性	192	25.5	8.9	2.1	63.5	2.31	2.90
	女性	297	29.6	12.1	4.4	53.9	3.08	3.93
	答えたくない、わからない、その他	19	36.8	5.3	5.3	52.6	2.22	2.99



図表－195 【高校2年生(全日制)】性別×お世話をしていることで、できないこと

(%)

		調査数 (n=)	お世話をしていることで、できないこと										
			学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしま	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	睡眠が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	辞めざるを得なかった	部活や習い事ができない、もしくは	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した	自分の時間が取れない	その他	特にな
全体		508	1.4	2.0	9.4	7.7	7.5	1.4	2.4	12.2	0.4	55.7	21.3
性別	男性	192	2.1	2.1	8.9	7.3	6.3	2.1	1.6	8.3	0.0	54.2	26.6
	女性	297	1.0	2.0	10.4	7.7	8.4	1.0	3.0	14.1	0.3	57.2	17.2
	答えたくない、わからない、その他	19	0.0	0.0	0.0	10.5	5.3	0.0	0.0	21.1	5.3	47.4	31.6

図表－196 【高校2年生(全日制)】性別×お世話は「辛い」か

(%)

		調査数 (n=)	お世話は「辛い」か				無回答
			身体的に辛い	精神的に辛い	ない 時間的余裕が	特に辛さは感じていない	
全体		508	2.6	11.2	11.4	57.3	24.4
性別	男性	192	3.6	8.9	7.3	54.7	30.7
	女性	297	1.7	12.5	13.5	59.9	19.9
	答えたくない、わからない、その他	19	5.3	15.8	21.1	42.1	31.6

図表－197 【高校2年生(全日制)】家族構成×父母のお世話の内容

(%)

	調査数 (n=)	父母のお世話の内容											
		家事(食事の準備や掃除、洗濯)	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答	
全体	170	67.6	4.7	33.5	5.3	28.2	10.6	14.1	4.1	4.1	0.6	3.5	
家族構成	親と自分、きょうだい	107	65.4	2.8	33.6	2.8	30.8	9.3	15.0	1.9	3.7	0.9	1.9
	3世代	31	64.5	12.9	38.7	9.7	25.8	12.9	6.5	9.7	6.5	0.0	6.5
	ひとり親	27	77.8	0.0	22.2	7.4	18.5	7.4	18.5	3.7	0.0	0.0	7.4

図表－198 【高校2年生(全日制)】家族構成×祖父母のお世話の内容

(%)

	調査数 (n=)	祖父母のお世話の内容											
		家事(食事の準備や掃除、洗濯)	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答	
全体	78	32.1	20.5	24.4	9.0	25.6	41.0	3.8	2.6	7.7	6.4	10.3	
家族構成	親と自分、きょうだい	22	36.4	22.7	22.7	18.2	22.7	27.3	4.5	4.5	4.5	9.1	9.1
	3世代	49	30.6	16.3	22.4	4.1	24.5	44.9	2.0	0.0	8.2	6.1	10.2

図表－199 【高校2年生(全日制)】家族構成×きょうだいへのお世話の内容

(%)

	調査数 (n <sub>II</sub> )	きょうだいへのお世話の内容												
		家事(洗濯) (食事の準備や掃除、 等への送迎など)	きょうだいの世話や保育所	身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	外出の付き添い(買い物、散歩など)	通院の付き添い	感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	見守り	通訳(日本語や手話など)	お金の管理	薬の管理	その他	無回答	
全体	236	39.4	26.3	8.1	22.5	1.7	25.0	55.1	1.7	3.0	1.3	2.1	5.5	
家族構成	親と自分、きょうだい	154	39.0	29.9	8.4	24.7	1.3	25.3	60.4	1.3	3.2	0.6	2.6	3.9
	3世代	34	17.6	23.5	5.9	17.6	0.0	32.4	50.0	2.9	0.0	0.0	0.0	14.7
	ひとり親	40	62.5	15.0	5.0	15.0	2.5	15.0	37.5	0.0	0.0	2.5	0.0	5.0

図表－200 【高校2年生(全日制)】家族構成×お世話をしている頻度(日数)

(%)

	調査数 (n <sub>II</sub> )	お世話をしている頻度(日数)						
		ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	1か月に数日	その他	無回答	
全体	508	30.5	15.4	16.3	10.0	3.1	24.6	
家族構成	親と自分、きょうだい	308	31.2	17.5	12.7	10.4	3.6	24.7
	3世代	102	25.5	10.8	28.4	12.7	2.9	19.6
	ひとり親	78	32.1	14.1	14.1	7.7	2.6	29.5
	その他	19	42.1	5.3	21.1	0.0	0.0	31.6

図表-201 【高校2年生(全日制)】家族構成×平日の1日あたりのお世話をしている時間

(%)

		調査数 (n=)	平日の1日あたりのお世話をしている時間					
			未 満	1 日 3 時 間	7 時 間 未 満	1 日 3 時 間 以 上	無 回 答	平 均 (時 間)
全体		508	28.3	10.6	3.5	57.5	2.79	3.60
家族 構 成	親と自分、きょうだい	308	27.6	12.0	3.6	56.8	2.87	3.49
	3世代	102	35.3	7.8	3.9	52.9	2.36	3.70
	ひとり親	78	21.8	11.5	3.8	62.8	3.27	4.21
	その他	19	31.6	0.0	0.0	68.4	2.28	1.68

図表-202 【高校2年生(全日制)】家族構成×お世話をしていることで、できないこと

(%)

		調査数 (n=)	お世話をしていることで、できないこと										
			学 校 に 行 き た く て も 行 け な い	ま う ど う し て も 学 校 を 遅 刻 ・ 早 退 し て し ま う	宿 題 を す る 時 間 や 勉 強 す る 時 間 が 取 れ な い	睡 眠 が 十 分 に 取 れ な い	友 人 と 遊 ぶ こ と が で き な い	辞 め ぎ ら る を 得 な か っ た	部 活 や 習 い 事 が で き な い 、 も し く は し く は 進 路 を 変 更 し た	進 路 の 変 更 を 考 え ぎ ら る を 得 な い 、 も し く は 進 路 を 変 更 し た	自 分 の 時 間 が 取 れ な い	そ の 他	特 に な い
全体		508	1.4	2.0	9.4	7.7	7.5	1.4	2.4	12.2	0.4	55.7	21.3
家族 構 成	親と自分、きょうだい	308	1.3	2.6	7.5	7.1	6.5	1.3	1.6	10.4	0.3	59.1	21.4
	3世代	102	1.0	0.0	10.8	6.9	5.9	1.0	1.0	11.8	1.0	55.9	18.6
	ひとり親	78	1.3	1.3	12.8	9.0	11.5	1.3	6.4	16.7	0.0	48.7	21.8
	その他	19	5.3	5.3	21.1	15.8	15.8	5.3	5.3	21.1	0.0	31.6	31.6

図表-203 【高校2年生(全日制)】家族構成×お世話は「辛い」か

(%)

		調査数 (n=)	お世話は「辛い」か					無回答
			辛い 身体的に	辛い 精神的に	がない 時間的余裕	感じていな 特に辛さは		
全体		508	2.6	11.2	11.4	57.3	24.4	
家族構成	親と自分、きょうだい	308	2.3	11.4	9.7	58.1	24.4	
	3世代	102	2.0	8.8	8.8	66.7	20.6	
	ひとり親	78	2.6	11.5	17.9	46.2	28.2	
	その他	19	5.3	15.8	21.1	42.1	31.6	

図表-204 【高校2年生(全日制)】お世話をしている頻度×平日の1日あたりのお世話をしている時間

(%)

		調査数 (n=)	平日の1日あたりのお世話をしている時間					平均(時間)	標準偏差
			未 満 1 日 3 時 間	時 間 未 満 1 日 3 時 間	以 上 1 日 7 時 間	無 回 答			
全体		508	28.3	10.6	3.5	57.5	2.79	3.60	
お世話をしている頻	ほぼ毎日	155	36.8	21.3	5.8	36.1	3.36	4.17	
	週に3~5日	78	32.1	17.9	3.8	46.2	2.62	2.49	
	週に1~2日	83	43.4	6.0	2.4	48.2	1.95	2.73	
	1か月に数日	51	39.2	0.0	5.9	54.9	2.50	4.43	
	その他	16	37.5	12.5	6.3	43.8	2.61	2.87	
	無回答	125	0.0	0.0	0.0	100.0	-	0.00	

図表-205 【高校2年生(全日制)】お世話をしている頻度×健康状態

(%)

		調査数 (n=)	健康状態			
			よい	ふつう	よくない	無回答
全体		7,145	72.0	22.7	5.0	0.3
お世話をしている頻	ほぼ毎日	155	61.9	27.1	11.0	0.0
	週に3~5日	78	55.1	38.5	6.4	0.0
	週に1~2日	83	56.6	31.3	12.0	0.0
	1か月に数日	51	68.6	23.5	3.9	3.9
	その他	16	50.0	25.0	25.0	0.0
	無回答	125	77.6	20.0	2.4	0.0

図表－206 【高校2年生(全日制)】お世話をしている頻度×お世話は「辛い」か

(%)

		調査数 (n=)	お世話は「辛い」か				無回答
			身体的に辛い	精神的に辛い	ない 時間的余裕が	感じていない 特に辛さは	
全体		508	2.6	11.2	11.4	57.3	24.4
お世話をしている頻度	ほぼ毎日	155	5.8	16.1	19.4	66.5	4.5
	週に3～5日	78	3.8	17.9	15.4	67.9	3.8
	週に1～2日	83	1.2	6.0	9.6	81.9	4.8
	1か月に数日	51	0.0	7.8	7.8	82.4	5.9
	その他	16	0.0	37.5	25.0	50.0	12.5
	無回答	125	0.0	2.4	0.0	13.6	84.0

図表－207 【高校2年生(全日制)】平日の1日あたりのお世話をしている時間×健康状態

(%)

		調査数 (n=)	健康状態			
			よい	ふつう	よくない	無回答
全体		7,145	72.0	22.7	5.0	0.3
をあたりの平日のお世話をしている時間	1日3時間未満	144	63.9	25.7	10.4	0.0
	1日3～7時間未満	54	59.3	35.2	5.6	0.0
	1日7時間以上	18	55.6	38.9	5.6	0.0
	無回答	292	65.8	26.0	7.5	0.7

図表－208 【高校2年生(全日制)】平日の1日あたりのお世話をしている時間×お世話は「辛い」か

(%)

		調査数 (n=)	お世話は「辛い」か					無回答
			辛い	身体的に辛い	精神的に辛い	裕がない 時間的余	は感じて 特に辛さは	
全体		508	2.6	11.2	11.4	57.3	24.4	
をあたりの平日のお世話をしている時間	1日3時間未満	144	2.8	11.8	12.5	78.5	0.7	
	1日3～7時間未満	54	0.0	18.5	20.4	66.7	3.7	
	1日7時間以上	18	0.0	11.1	11.1	83.3	0.0	
	無回答	292	3.1	9.6	9.2	43.5	41.4	

図表－209 【高校2年生(全日制)】父母の状況×お世話をしている頻度(日数)

(%)

		調査数 (n=)	お世話をしている頻度(日数)					無回答
			ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	1か月に数日	その他	
全体		508	30.5	15.4	16.3	10.0	3.1	24.6
父母の状況	身体障がい	13	38.5	30.8	7.7	15.4	7.7	0.0
	精神疾患(疑い含む)	21	33.3	28.6	14.3	0.0	14.3	9.5
	その他	38	36.8	23.7	10.5	10.5	18.4	0.0
	無回答	97	27.8	12.4	19.6	16.5	0.0	23.7

図表－210 【高校2年生(全日制)】祖父母の状況×お世話をしている頻度(日数)

(%)

		調査数 (n=)	お世話をしている頻度(日数)					無回答
			ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	1か月に数日	その他	
全体		508	30.5	15.4	16.3	10.0	3.1	24.6
祖父母の状況	高齢(65歳以上)	65	26.2	12.3	35.4	20.0	0.0	6.2
	要介護(介護が必要な状態)	15	26.7	20.0	33.3	20.0	0.0	0.0
	認知症	14	28.6	14.3	28.6	28.6	0.0	0.0
	身体障がい	12	33.3	16.7	41.7	8.3	0.0	0.0

図表－211 【高校2年生(全日制)】世話をしているきょうだいの状況×お世話をしている頻度(日数)

(%)

		調査数 (n=)	お世話をしている頻度(日数)					無回答
			ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	1か月に数日	その他	
全体		508	30.5	15.4	16.3	10.0	3.1	24.6
の状況 るきょうだい 世話をしている	幼い	136	44.9	25.7	18.4	8.8	2.2	0.0
	知的障がい	21	66.7	19.0	14.3	0.0	0.0	0.0
	その他	22	45.5	13.6	22.7	4.5	13.6	0.0
	無回答	56	28.6	10.7	14.3	8.9	1.8	35.7

図表－212 【高校2年生(全日制)】父母の状況×平日の1日あたりのお世話をしている時間

(%)

		調査数 (n=)	平日の1日あたりのお世話をしている時間					平均 (時間)	標準 偏差
			未 満	1 日 3 時 間	時 間 未 満	1 日 3 時 間	以 上		
全体		508	28.3	10.6	3.5	57.5	2.79	3.60	
父 母 の 状 況	身体障がい	13	30.8	30.8	15.4	23.1	3.77	3.11	
	精神疾患(疑い含む)	21	33.3	9.5	4.8	52.4	2.54	2.64	
	その他	38	42.1	5.3	2.6	50.0	2.60	4.49	
	無回答	97	35.1	6.2	1.0	57.7	1.75	2.38	

図表－213 【高校2年生(全日制)】祖父母の状況×平日の1日あたりのお世話をしている時間

(%)

		調査数 (n=)	平日の1日あたりのお世話をしている時間					平均 (時間)	標準 偏差
			未 満	1 日 3 時 間	時 間 未 満	1 日 3 時 間	以 上		
全体		508	28.3	10.6	3.5	57.5	2.79	3.60	
祖 父 母 の 状 況	高齢(65歳以上)	65	40.0	10.8	3.1	46.2	2.26	3.67	
	要介護(介護が必要な状態)	15	33.3	13.3	6.7	46.7	3.68	6.81	
	認知症	14	35.7	7.1	7.1	50.0	4.44	7.42	
	身体障がい	12	33.3	8.3	8.3	50.0	4.33	7.50	

図表－214 【高校2年生(全日制)】世話をしているきょうだいの状況×平日の1日あたりのお世話をしている時間

(%)

		調査数 (n=)	平日の1日あたりのお世話をしている時間					平均 (時間)	標準 偏差
			未 満	1 日 3 時 間	時 間 未 満	1 日 3 時 間	以 上		
全体		508	28.3	10.6	3.5	57.5	2.79	3.60	
の 状 況 の き ょう だ い の 世 話 を し て い る	幼い	136	33.8	22.1	7.4	36.8	3.51	3.60	
	知的障がい	21	28.6	28.6	14.3	28.6	3.50	2.74	
	その他	22	54.5	4.5	0.0	40.9	2.79	5.43	
	無回答	56	23.2	3.6	0.0	73.2	1.83	1.61	



図表-215 【高校2年生(全日制)】父母の状況×お世話は「辛い」か

(%)

		調査数 (n=)	お世話は「辛い」か				無回答
			身体的に辛い	精神的に辛い	ない 時間的 余裕が	感じて いない 特に辛さは感	
全体		508	2.6	11.2	11.4	57.3	24.4
父母の 状況	身体障がい	13	15.4	46.2	46.2	30.8	0.0
	精神疾患(疑い含む)	21	19.0	81.0	19.0	9.5	9.5
	その他	38	2.6	23.7	28.9	60.5	0.0
	無回答	97	1.0	7.2	8.2	62.9	24.7

図表-216 【高校2年生(全日制)】祖父母の状況×お世話は「辛い」か

(%)

		調査数 (n=)	お世話は「辛い」か				無回答
			身体的に辛い	精神的に辛い	ない 時間的 余裕が	感じて いない 特に辛さは	
全体		508	2.6	11.2	11.4	57.3	24.4
祖父母の 状況	高齢(65歳以上)	65	1.5	12.3	13.8	75.4	6.2
	要介護(介護が必要な状態)	15	6.7	13.3	20.0	66.7	6.7
	認知症	14	7.1	28.6	28.6	50.0	14.3
	身体障がい	12	8.3	8.3	33.3	66.7	0.0

図表-217 【高校2年生(全日制)】世話をしているきょうだいの状況×お世話は「辛い」か

(%)

		調査数 (n=)	お世話は「辛い」か				無回答
			身体的に辛い	精神的に辛い	ない 時間的 余裕が	感じて いない 特に辛さは	
全体		508	2.6	11.2	11.4	57.3	24.4
世話を している きょうだいの 状況	若い	136	3.7	8.8	12.5	79.4	3.7
	知的障がい	21	9.5	23.8	19.0	76.2	0.0
	その他	22	9.1	18.2	31.8	59.1	0.0
	無回答	56	3.6	7.1	5.4	60.7	28.6

図表-218 【高校2年生(全日制)】父母の世話の内容×お世話は「辛い」か

(%)

		調査数 (n <sub>II</sub> )	お世話は「辛い」か				
			身体的に辛い	精神的に辛い	時間的余裕がない	特に辛さは感じていない	無回答
全体		508	2.6	11.2	11.4	57.3	24.4
父母 世話の内容	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	115	5.2	13.9	17.4	60.0	15.7
	外出の付き添い（買い物、散歩など）	57	7.0	19.3	22.8	54.4	15.8
	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	48	6.3	43.8	20.8	39.6	8.3
	見守り	18	22.2	50.0	27.8	22.2	22.2
	通訳（日本語や手話など）	24	8.3	25.0	25.0	58.3	8.3

図表-219 【高校2年生(全日制)】祖父母の世話の内容×お世話は「辛い」か

(%)

		調査数 (n <sub>II</sub> )	お世話は「辛い」か				
			身体的に辛い	精神的に辛い	時間的余裕がない	特に辛さは感じていない	無回答
全体		508	2.6	11.2	11.4	57.3	24.4
祖父母 世話の内容	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	25	4.0	20.0	16.0	72.0	4.0
	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	16	6.3	12.5	25.0	62.5	6.3
	外出の付き添い（買い物、散歩など）	19	5.3	15.8	21.1	68.4	5.3
	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	20	5.0	30.0	20.0	60.0	5.0
	見守り	32	3.1	15.6	18.8	71.9	3.1

図表-220 【高校2年生(全日制)】きょうだいへのお世話の内容×お世話は「辛い」か

(%)

		調査数 (n=)	お世話は「辛い」か				
			身体的に辛い	精神的に辛い	時間的余裕がない	特に辛さは感じていない	無回答
全体		508	2.6	11.2	11.4	57.3	24.4
きょうだいへのお世話の内容	家事（食事の準備や掃除、洗濯）	93	8.6	14.0	23.7	64.5	5.4
	きょうだいの世話や保育所等への送迎など	62	3.2	12.9	9.7	80.6	4.8
	身体的な介護（入浴やトイレのお世話など）	19	10.5	10.5	5.3	89.5	0.0
	外出の付き添い（買い物、散歩など）	53	11.3	13.2	18.9	69.8	7.5
	感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	59	6.8	16.9	13.6	71.2	6.8
	見守り	130	3.8	9.2	11.5	79.2	6.2
	無回答	13	0.0	0.0	0.0	30.8	69.2

図表-221 【高校2年生(全日制)】「ヤングケアラー」にあてはまるか×お世話をしている人の有無

(%)

		調査数 (n=)	お世話をしている人の有無		
			いる	いない	無回答
全体		7,145	7.1	92.2	0.7
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	120	40.8	56.7	2.5
	あてはまらない	5,971	4.3	95.5	0.2
	わからない	981	18.2	80.6	1.1
	無回答	73	35.6	34.2	30.1

図表-222 【高校2年生(全日制)】「ヤングケアラー」にあてはまるか×性別

(%)

		調査数 (n=)	性別			
			男性	女性	答えたくない、 わからない、 その他	無回答
全体		7,145	46.8	51.1	2.1	0.0
は ま る か 「 ヤ ン グ ケ ア ラ ー」 に あ て	あてはまる	120	50.0	47.5	2.5	0.0
	あてはまらない	5,971	45.7	52.6	1.7	0.0
	わからない	981	51.9	43.7	4.4	0.0
	無回答	73	58.9	30.1	11.0	0.0

図表-223 【高校2年生(全日制)】「ヤングケアラー」にあてはまるか×家族構成

(%)

		調査数 (n=)	家族構成				
			親と自分、 きょうだい	3 世 代	ひ と り 親	そ の 他	無 回 答
全体		7,145	69.5	17.2	10.6	2.4	0.3
は ま る か 「 ヤ ン グ ケ ア ラ ー」 に あ て	あてはまる	120	65.0	16.7	13.3	5.0	0.0
	あてはまらない	5,971	69.9	17.0	10.6	2.2	0.3
	わからない	981	68.9	17.9	9.7	3.2	0.3
	無回答	73	53.4	20.5	16.4	4.1	5.5

図表-224 【高校2年生(全日制)】「ヤングケアラー」にあてはまるか×健康状態

(%)

		調査数 (n=)	健康状態			
			よい	ふつう	よくない	無回答
全体		7,145	72.0	22.7	5.0	0.3
は ま る か 「 ヤ ン グ ケ ア ラ ー」 に あ て	あてはまる	120	65.0	25.0	10.0	0.0
	あてはまらない	5,971	73.8	21.6	4.4	0.2
	わからない	981	63.0	29.0	7.6	0.4
	無回答	73	57.5	26.0	8.2	8.2

図表－225 【高校2年生(全日制)】「ヤングケアラー」にあてはまるか×出席状況

(%)

		調査数 (n=)	出席状況			
			ほとんど欠席しない	たまに欠席する	よく欠席する	無回答
全体		7,145	76.0	13.9	10.0	0.1
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	120	60.8	22.5	16.7	0.0
	あてはまらない	5,971	77.2	13.0	9.7	0.1
	わからない	981	72.0	17.5	10.3	0.2
	無回答	73	56.2	24.7	16.4	2.7

図表－226 【高校2年生(全日制)】「ヤングケアラー」にあてはまるか×遅刻や早退の状況

(%)

		調査数 (n=)	遅刻や早退の状況			
			ほとんどしない	たまにする	よくする	無回答
全体		7,145	87.4	11.3	1.2	0.1
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	120	76.7	20.0	3.3	0.0
	あてはまらない	5,971	88.6	10.4	0.9	0.1
	わからない	981	82.7	15.2	1.9	0.2
	無回答	73	71.2	17.8	8.2	2.7

図表-227 【高校2年生(全日制)】「ヤングケアラー」にあてはまるか×ふだんの学校生活

(%)

	調査数 (n=)	ふだんの学校生活											
		授業中に居眠りすることが多い	宿題や課題ができていないことが多い	持ち物の忘れ物が多い	部活動や習い事を休むことが多い	提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	保健室で過ごすことが多い	学校では1人で過ごすことが多い	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	特になし	無回答	
全体	7,145	45.3	19.1	13.6	5.9	13.2	1.0	0.8	6.7	7.2	37.6	2.2	
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	120	55.0	19.2	20.0	10.8	20.8	1.7	2.5	8.3	5.0	28.3	0.0
	あてはまらない	5,971	44.6	18.5	13.1	5.3	12.6	0.9	0.5	6.6	7.3	38.3	2.0
	わからない	981	47.6	22.4	15.6	8.4	15.4	1.3	2.0	7.2	6.3	35.8	2.8
	無回答	73	54.8	20.5	11.0	15.1	13.7	4.1	6.8	8.2	9.6	15.1	17.8

図表-228 【高校2年生(全日制)】「ヤングケアラー」にあてはまるか×生活の満足度(10点満点で)

(%)

	調査数 (n=)	生活の満足度 (10点満点で)						
		0~4点	5~7点	8~10点	無回答	平均(点)	標準偏差	
全体	7,145	12.1	44.0	43.5	0.3	6.92	2.16	
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	120	18.3	46.7	35.0	0.0	6.52	2.50
	あてはまらない	5,971	11.2	44.2	44.4	0.1	6.98	2.09
	わからない	981	16.9	43.0	39.8	0.3	6.68	2.43
	無回答	73	16.4	35.6	30.1	17.8	6.17	2.72

図表－229 【高校2年生(全日制)】「ヤングケアラー」にあてはまるか×進路希望

(%)

		調査数 (n=)	進路希望について						
			中学校まで	高校まで	短期大学・専門学校まで	大学・大学院まで	その他	わからない	無回答
全体		7,145	0.1	9.8	11.6	70.8	0.2	7.3	0.3
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	120	0.0	16.7	14.2	58.3	2.5	8.3	0.0
	あてはまらない	5,971	0.0	8.6	11.1	73.9	0.1	6.2	0.1
	わからない	981	0.3	14.6	14.7	55.8	0.2	14.0	0.5
	無回答	73	0.0	26.0	11.0	37.0	1.4	11.0	13.7

図表－230 【高校2年生(全日制)】「ヤングケアラー」にあてはまるか×お世話をしている頻度(日数)

(%)

		調査数 (n=)	お世話をしている頻度(日数)					無回答
			ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	1か月に数日	その他	
全体		508	30.5	15.4	16.3	10.0	3.1	24.6
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	49	46.9	10.2	12.2	8.2	6.1	16.3
	あてはまらない	254	27.2	19.3	16.5	9.4	2.0	25.6
	わからない	179	32.4	12.8	16.8	11.7	3.9	22.3
	無回答	26	19.2	3.8	19.2	7.7	3.8	46.2

図表-231 【高校2年生(全日制)】「ヤングケアラー」にあてはまるか×平日の1日あたりのお世話をしている時間

(%)

		調査数 (n <sub>ii</sub> )	平日の1日あたりのお世話をしている時間					平均(時間)	標準偏差
			未 満 1 日 3 時 間	1 日 3 時 間 未 満	1 日 7 時 間 以 上	無 回 答			
全体		508	28.3	10.6	3.5	57.5	2.79	3.60	
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	49	30.6	22.4	4.1	42.9	3.07	3.46	
	あてはまらない	254	29.9	8.3	3.1	58.7	2.33	2.80	
	わからない	179	27.9	11.2	4.5	56.4	3.37	4.50	
	無回答	26	11.5	7.7	0.0	80.8	1.70	1.20	

図表-232 【高校2年生(全日制)】「ヤングケアラー」にあてはまるか×お世話をしていることで、できないこと

(%)

		調査数 (n <sub>ii</sub> )	お世話をしていることで、できないこと										
			学 校 に 行 き た く て も 行 け な い	ど う し て も 学 校 を 遅 刻 ・ 早 退 し て し ま う	取 れ な い 宿 題 を す る 時 間 や 勉 強 す る 時 間 が	睡 眠 が 十 分 に 取 れ な い	友 人 と 遊 ぶ こ と が で き な い	部 活 や 習 い 事 が で き な い、 も し く は 辞 め ざ る を 得 な か っ た	進 路 の 変 更 を 考 え ざ る を 得 な い、 も し く は 進 路 を 変 更 し た	自 分 の 時 間 が 取 れ な い	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全体		508	1.4	2.0	9.4	7.7	7.5	1.4	2.4	12.2	0.4	55.7	21.3
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	49	6.1	8.2	22.4	18.4	20.4	4.1	6.1	28.6	0.0	32.7	16.3
	あてはまらない	254	0.0	1.6	6.7	4.7	4.7	0.8	0.8	8.7	0.0	61.8	21.3
	わからない	179	2.2	1.1	10.6	8.9	8.4	1.1	3.4	13.4	1.1	56.4	18.4
	無回答	26	0.0	0.0	3.8	7.7	3.8	3.8	3.8	7.7	0.0	34.6	50.0



図表-233 【高校2年生(全日制)】「ヤングケアラー」にあてはまるか×お世話は「辛い」か

(%)

		調査数 (n=)	お世話は「辛い」か				無回答
			身体的に辛い	精神的に辛い	ない 時間的余裕が	特に辛さは 感じていない	
全体		36	13.9	11.1	13.9	58.3	16.7
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまらない	16	6.3	6.3	6.3	68.8	18.8
	わからない	11	18.2	18.2	18.2	45.5	18.2

図表-234 【高校2年生(全日制)】「ヤングケアラー」にあてはまるか×世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを相談したことの有無

(%)

		調査数 (n=)	世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことの有無		
			ある	ない	無回答
全体		508	13.6	64.8	21.7
「ヤングケアラー」にあてはまるか	あてはまる	49	24.5	61.2	14.3
	あてはまらない	254	11.8	66.9	21.3
	わからない	179	14.0	67.0	19.0
	無回答	26	7.7	34.6	57.7

図表-235 【高校2年生(全日制)】「ヤングケアラー」にあてはまるか×相談していない理由

(%)

		調査数 (n=)	相談していない理由									
			誰かに相談するほどの悩みではない	家族以外の人に相談するような悩みではない	誰に相談するのがよいかわからない	相談できる人が身近にいない	家族のことのため話しにくい・話づらい	家族のことを知られたくない (家族の病気や障がいのことを知られたくない)	家族に対して偏見を持たれたくない(親が何もしてくれない、子どもにケアをさせているといったように悪く思われたくない)	相談しても状況が変わるとは思わない	その他	無回答
全体		329	71.4	10.9	4.3	2.7	7.3	2.4	3.3	15.5	3.0	8.8
「ヤングケアラー」 にあてはまるか	あてはまる	30	70.0	16.7	6.7	3.3	20.0	10.0	10.0	26.7	0.0	10.0
	あてはまらない	170	80.0	10.6	2.4	0.6	4.7	1.2	2.9	10.0	3.5	5.9
	わからない	120	65.0	10.8	6.7	5.8	7.5	2.5	2.5	20.0	3.3	7.5

図表－236 【高校2年生(全日制)】「ヤングケアラー」にあてはまるか×学校や周りの大人に  
助けてほしいこと

(%)

		調査数 (n)	学校や周りの大人に助けてほしいこと													
			自分の今の状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談に乗ってほしい	家族の世話をしている同じ境遇の人と話したい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話のすべてを代わりにしてくれる人やサービスがほしい	自分が行っているお世話の一部を代わりにしてくれる人やサービスがほしい	自由に使える時間がほしい	進路や就職など将来の相談に乗ってほしい	学校の勉強や受験勉強など学習のサポート	家庭への経済的な支援	その他	特にない	わからない	無回答
全体		508	9.1	2.6	3.3	2.8	1.6	0.4	15.0	12.8	13.6	8.3	0.0	46.9	9.3	10.2
まるか 「ヤングケアラー」にあては	あてはまる	49	6.1	6.1	12.2	8.2	6.1	2.0	28.6	12.2	12.2	16.3	0.0	42.9	4.1	6.1
	あてはまらない	254	6.7	1.2	1.6	1.6	0.4	0.4	11.0	13.0	13.8	5.9	0.0	54.7	8.3	7.1
	わからない	179	14.0	3.9	3.9	3.4	2.2	0.0	17.9	14.0	15.6	10.6	0.0	39.7	13.4	8.9
	無回答	26	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	3.8	0.0	0.0	0.0	26.9	0.0	57.7

## (2) 健康状態と学校生活等

健康状態をよい(「よい」と「まあよい」の合計)、ふつう、よくない(「あまりよくない」と「よくない」の合計)に分けて、その状況について小学5年生、中学2年生、高校2年生(全日制)別に健康状態がよくない人の特徴があるものをあげると次のとおりとなっている。

### ① 小学5年生(「よい」78.3%、「ふつう」17.5%、「よくない」3.0%)

<b>&lt;健康状態と遅刻・早退&gt;</b>	
・遅刻や早退を「よくする」人のうち 16.1%が、健康状態が「よくない」と回答している。	
<b>&lt;健康状態と学校生活の状況&gt;</b>	
・ふだんの学校生活で、「クラブ活動や習い事を休むことが多い」人の 17.2%、「保健室で過ごすことが多い」人の 16.8%が、健康状態が「よくない」と回答している。	
<b>&lt;健康状態と悩み事・困り事&gt;</b>	
・何らかの悩み事、困り事があると回答した人については、健康状況が「よくない」と回答する人が比較的多い。	
<b>&lt;健康状態と相談相手の有無&gt;</b>	
・「相談相手や話しを聞いてくれる人がいない」人のうち 13.0%が、健康状態が「よくない」と回答している。	
<b>&lt;健康状態と生活満足度&gt;</b>	
・生活満足度が「0～4点」の人のうち 15.0%が、健康状態が「よくない」と回答している。	

図表-237 【小学5年生】遅刻や早退の状況×健康状態

		調査数 (n=)	健康状態 (%)			
			よい	ふつう	よくない	無回答
全体		11,970	78.3	17.5	3.0	1.2
遅刻や早退の状況	ほとんどしない	10,303	80.6	16.1	2.2	1.1
	たまにする	1,427	66.0	25.5	7.2	1.3
	よくする	205	47.3	33.2	16.1	3.4
	無回答	35	62.9	14.3	0.0	22.9

図表-238 【小学5年生】ふだんの学校生活×健康状態

(%)

	調査数 (n=)	健康状態				
		よい	ふつう	よくない	無回答	
全体	11,970	78.3	17.5	3.0	1.2	
ふだんの学校生活	授業中に居眠りすることが多い	699	56.9	32.3	8.9	1.9
	宿題や課題ができていないことが多い	1,521	62.7	28.1	7.5	1.7
	持ち物の忘れ物が多い	3,023	69.4	24.0	5.2	1.4
	クラブ活動や習い事を休むことが多い	209	51.2	28.7	17.2	2.9
	提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い	1,687	64.0	27.1	7.4	1.4
	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	77	57.1	29.9	13.0	0.0
	保健室で過ごすことが多い	125	44.8	36.0	16.8	2.4
	学校では1人で過ごすことが多い	736	58.3	33.0	8.3	0.4
	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	625	61.1	29.9	8.5	0.5
	特にない	7,079	84.7	13.0	1.5	0.8
	無回答	323	78.6	14.6	0.6	6.2

図表-239 【小学5年生】現在、悩んだり困っていること×健康状態

(%)

	調査数 (n=)	健康状態				
		よい	ふつう	よくない	無回答	
全体	11,970	78.3	17.5	3.0	1.2	
現在、悩んだり困っていること	友人との関係のこと	2,021	67.3	23.8	7.9	1.0
	勉強や成績のこと	2,855	67.0	24.8	6.9	1.3
	進路のこと	875	67.0	22.9	9.5	0.7
	学級費など学校で必要なお金のこと	266	62.0	24.8	12.4	0.8
	塾(通信教育を含む)や習い事ができない	162	52.5	30.9	14.8	1.9
	(生活が苦しいなど)家のお金のこと	220	54.1	30.9	14.1	0.9
	自分と家族との関係のこと	670	55.2	30.0	13.1	1.6
	家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)	408	56.6	29.2	13.5	0.7
	病気や障がいのある家族のこと	176	66.5	22.7	10.2	0.6
	自分のために使える時間が少ない	545	61.7	27.5	9.7	1.1
	その他	307	61.6	24.8	12.7	1.0
	特にない	6,882	84.2	13.9	1.0	1.0
無回答	328	77.1	14.6	2.1	6.1	

図表-240 【小学5年生】相談相手の有無×健康状態

(%)

		調査数 (n=)	健康状態			
			よい	ふつう	よくない	無回答
全体		11,970	78.3	17.5	3.0	1.2
相談相手の有無	相談相手や話を聞いてくれる人がいる	3,238	75.3	19.3	4.2	1.2
	相談相手や話を聞いてくれる人がいない	247	53.4	31.6	13.0	2.0
	相談や話はしたくない	1,199	58.3	31.1	9.8	0.8
	無回答	76	68.4	23.7	3.9	3.9

図表-241 【小学5年生】生活の満足度(10点満点で)×健康状態

(%)

		調査数 (n=)	健康状態			
			よい	ふつう	よくない	無回答
全体		11,970	78.3	17.5	3.0	1.2
(10点満点で)	生活の満足度 0～4点	1,055	46.3	37.1	15.0	1.7
	5～7点	2,966	67.0	27.6	4.0	1.3
	8～10点	7,899	86.9	11.1	1.1	1.0
	無回答	50	58.0	22.0	2.0	18.0

② 中学2年生(「よい」75.4%、「ふつう」19.2%、「よくない」4.9%)

<p>&lt;健康状態と遅刻・早退&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻や早退を「よくする」人のうち 26.8%が、健康状態が「よくない」と回答している。</li> </ul> <p>&lt;健康状態と学校生活の状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふだんの学校生活で、「保健室で過ごすことが多い」人のうち 35.2%が、健康状態が「よくない」と回答している。</li> </ul> <p>&lt;健康状態と悩み事・困り事&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何らかの悩み事、困り事があると回答した人のうち、家族との関係や家庭の経済状況などの悩み事・困り事がある人は、健康状態が「よくない」と回答する人が比較的多い。</li> </ul> <p>&lt;健康状態と相談相手の有無&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「相談相手や話しを聞いてくれる人がいない」人のうち 15.3%が、健康状態が「よくない」と回答している。</li> </ul> <p>&lt;健康状態と生活満足度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活満足度が「0～4点」の人のうち 18.7%が、健康状態が「よくない」と回答している。</li> </ul>
---

図表－242 【中学2年生】遅刻や早退の状況×健康状態

(%)

		調査数 (n=)	健康状態			
			よい	ふつう	よくない	無回答
全体		11,116	75.4	19.2	4.9	0.5
状況 遅刻 や 早退 の	ほとんどしない	9,716	78.5	17.4	3.7	0.4
	たまにする	1,198	55.7	32.1	11.6	0.7
	よくする	183	42.6	30.6	26.8	0.0
	無回答	19	42.1	26.3	5.3	26.3

図表－243 【中学2年生】ふだんの学校生活×健康状態

(%)

		調査数 (n=)	健康状態			
			よい	ふつう	よくない	無回答
全体		11,116	75.4	19.2	4.9	0.5
ふだんの 学校生活	授業中に居眠りすることが多い	1,778	64.3	25.4	9.8	0.4
	宿題や課題ができていないことが多い	2,137	62.8	27.2	9.5	0.5
	持ち物の忘れ物が多い	2,263	64.9	26.2	8.3	0.6
	部活動や習い事を休むことが多い	740	57.4	30.4	11.8	0.4
	提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い	2,231	64.3	25.6	9.8	0.4
	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	55	40.0	36.4	23.6	0.0
	保健室で過ごすことが多い	122	32.8	32.0	35.2	0.0
	学校では1人で過ごすことが多い	695	53.5	33.2	12.9	0.3
	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	593	50.9	34.1	14.7	0.3
	特にない	5,801	82.7	14.5	2.4	0.3
	無回答	365	75.9	18.6	1.9	3.6

図表－244 【中学2年生】現在、悩んだり、困っていること×健康状態

(%)

	調査数 (n=)	健康状態				
		よい	ふつう	よくない	無回答	
全体	11,116	75.4	19.2	4.9	0.5	
現在、 悩んだり 困っていること	友人との関係のこと	1,778	59.9	27.9	12.0	0.2
	学業成績のこと	4,855	69.7	22.9	6.9	0.4
	進路のこと	4,678	70.4	22.4	6.8	0.4
	部活動のこと	1,659	64.5	26.4	8.7	0.4
	学費（授業料）など学校生活 に必要なお金のこと	400	58.0	27.0	14.5	0.5
	塾（通信教育含む）や習い事 ができない	237	57.0	28.3	13.9	0.8
	家庭の経済的状況のこと	443	53.0	29.1	17.4	0.5
	自分と家族との関係のこと	713	45.7	34.2	19.6	0.4
	家族内の人間関係のこと （両親の仲が良くないなど）	571	49.2	33.5	16.6	0.7
	病気や障がいのある家族のこと	174	56.3	28.2	14.9	0.6
	自分のために使える時間が少ない	633	55.6	29.4	14.4	0.6
	その他	293	54.3	25.9	19.5	0.3
	特になし	3,861	84.7	13.0	2.0	0.3
	無回答	270	68.5	23.7	3.0	4.8

図表－245 【中学2年生】相談相手の有無×健康状態

(%)

	調査数 (n=)	健康状態				
		よい	ふつう	よくない	無回答	
全体	11,116	75.4	19.2	4.9	0.5	
相談相手 の有無	相談相手や話を聞いてくれる人が いる	5,031	76.6	18.5	4.6	0.4
	相談相手や話を聞いてくれる人が いない	249	50.6	34.1	15.3	0.0
	相談や話はしたくない	1,672	55.0	33.0	11.4	0.6
	無回答	33	78.8	15.2	6.1	0.0



図表－246 【中学2年生】生活の満足度(10点満点で)×健康状態

(%)

		調査数 (n=)	健康状態			
			よい	ふつう	よくない	無回答
全体		11,116	75.4	19.2	4.9	0.5
生活の満足度 (10点満点で)	0～4点	1,365	39.6	41.2	18.7	0.4
	5～7点	4,100	68.4	26.4	4.9	0.3
	8～10点	5,609	89.4	8.5	1.6	0.5
	無回答	42	42.9	31.0	4.8	21.4

③ 高校2年生(全日制)(「よい」72.0%、「ふつう」22.7%、「よくない」5.0%)

<p>&lt;健康状態と遅刻・早退&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻や早退を「よくする」人のうち 24.7%が、健康状態が「よくない」と回答している。</li> </ul>
<p>&lt;健康状態と学校生活の状況&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ふだんの学校生活で、「保健室で過ごすことが多い」人の 43.3%が、健康状態が「よくない」と回答している。</li> </ul>
<p>&lt;健康状態と悩み事・困り事&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>何らかの悩み事、困り事があると回答した人のうち、家族との関係や家族のことなどの悩み事・困り事がある人は、健康状態が「よくない」と回答する人が比較的多い。</li> </ul>
<p>&lt;健康状態と相談相手の有無&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「相談相手や話しを聞いてくれる人がいない」人のうち 16.2%が、健康状態が「よくない」と回答している。</li> </ul>
<p>&lt;健康状態と生活満足度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活満足度が「0～4点」の人のうち 19.9%が、健康状態が「よくない」と回答している。</li> </ul>

図表－247 【高校2年生(全日制)】遅刻や早退の状況×健康状態

(%)

		調査数 (n=)	健康状態			
			よい	ふつう	よくない	無回答
全体		7,145	72.0	22.7	5.0	0.3
遅刻や早退の状況	ほとんどしない	6,246	75.0	21.0	3.8	0.2
	たまにする	807	53.9	33.0	12.6	0.5
	よくする	85	25.9	49.4	24.7	0.0
	無回答	7	42.9	14.3	0.0	42.9

図表-248 【高校2年生(全日制)】ふだんの学校生活×健康状態

(%)

	調査数 (n=)	健康状態				
		よい	ふつう	よくない	無回答	
全体	7,145	72.0	22.7	5.0	0.3	
ふだんの学校生活	授業中に居眠りすることが多い	3,236	67.3	25.9	6.5	0.3
	宿題や課題ができていないことが多い	1,362	62.6	26.9	10.3	0.2
	持ち物の忘れ物が多い	970	61.0	27.2	11.6	0.1
	部活動や習い事を休むことが多い	420	58.3	26.0	15.0	0.7
	提出しなければいけない書類などの提出が遅れることが多い	941	60.6	27.3	11.9	0.2
	修学旅行などの宿泊行事を欠席する	72	43.1	40.3	16.7	0.0
	保健室で過ごすことが多い	60	23.3	33.3	43.3	0.0
	学校では1人で過ごすことが多い	479	54.3	30.9	14.8	0.0
	友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない	512	52.5	33.4	13.9	0.2
	特にない	2,685	80.5	17.2	2.3	0.0
	無回答	159	77.4	16.4	1.9	4.4

図表－249 【高校2年生(全日制)】現在、悩んだり、困っていること×健康状態

(%)

	調査数 (n=)	健康状態				
		よい	ふつう	よくない	無回答	
全体	7,145	72.0	22.7	5.0	0.3	
現在、 悩んだり 困っていること	友人との関係のこと	836	54.3	32.8	12.7	0.2
	学業成績のこと	3,246	66.7	25.7	7.5	0.2
	進路のこと	3,823	68.3	25.2	6.3	0.2
	部活動のこと	1,026	61.6	27.5	10.6	0.3
	学費（授業料）など学校生活 に必要なお金のこと	399	56.4	30.6	12.5	0.5
	塾（通信教育含む）や習い事 ができない	138	58.7	30.4	10.9	0.0
	家庭の経済的状況のこと	370	53.5	33.8	12.4	0.3
	自分と家族との関係のこと	375	44.0	36.0	19.7	0.3
	家族内の人間関係のこと （両親の仲が良くないなど）	337	49.0	35.0	16.0	0.0
	病気や障がいのある家族のこと	103	56.3	26.2	17.5	0.0
	自分のために使える時間が少ない	860	57.3	31.9	10.6	0.2
	その他	123	42.3	30.9	26.8	0.0
	特になし	1,912	81.4	16.5	1.7	0.4
	無回答	147	73.5	19.0	4.8	2.7

図表－250 【高校2年生(全日制)】相談相手の有無×健康状態

(%)

	調査数 (n=)	健康状態				
		よい	ふつう	よくない	無回答	
全体	7,145	72.0	22.7	5.0	0.3	
相談 相手の 有無	相談相手や話を聞いてくれる人が いる	4,120	72.1	23.2	4.6	0.1
	相談相手や話を聞いてくれる人が いない	167	45.5	37.1	16.2	1.2
	相談や話はしたくない	785	54.4	32.7	12.7	0.1
	無回答	14	57.1	28.6	7.1	7.1

図表-251 【高校2年生(全日制)】生活の満足度(10点満点で)×健康状態

(%)

		調査数 (n=)	健康状態			
			よい	ふつう	よくない	無回答
全体		7,145	72.0	22.7	5.0	0.3
生活の満足度 (10点満点で)	0～4点	868	38.5	41.2	19.9	0.3
	5～7点	3,145	66.9	28.8	4.1	0.2
	8～10点	3,108	86.8	11.3	1.8	0.2
	無回答	24	37.5	33.3	4.2	25.0

### (3) 生活の満足度と学校生活等

生活の満足度を「0～4点」、「5～7点」「8～10点」に分けて、その状況を小学5年生、中学2年生、高校2年生(全日制)別に、生活の満足度が低い「0～4点」の人の特徴があるものをあげると次のとおりとなっている。

#### ① 小学5年生(「0～4点」8.8%、「5～7点」24.8%、「8～10点」66.0%)

##### <生活の満足度と遅刻・早退>

- ・遅刻や早退を「よくする」人のうち 29.3%が、生活の満足度が低い「0～4点」と回答している。

##### <生活の満足度と悩み事・困り事>

- ・何らかの悩み事、困り事があると回答した人のうち、家族との関係や家庭の経済状況などの悩み事・困り事がある人は、生活の満足度が低い「0～4点」が比較的多い。

##### <生活の満足度と相談相手の有無>

- ・「相談相手や聞いてくれる人がいない」人のうち 40.1%が、生活満足度が低い「0～4点」と回答している。

図表-252 【小学5年生】遅刻や早退の状況×生活の満足度(10点満点で)

(%)

		調査数 (n=)	生活の満足度(10点満点で)					
			0~4点	5~7点	8~10点	無回答	平均 (点)	標準偏差
全体		11,970	8.8	24.8	66.0	0.4	7.85	2.24
状況 遅刻 や 早退 の	ほとんどしない	10,303	7.3	23.6	68.8	0.3	8.00	2.13
	たまにする	1,427	17.4	31.0	51.2	0.4	7.00	2.57
	よくする	205	29.3	38.5	31.7	0.5	5.88	2.92
	無回答	35	0.0	28.6	45.7	25.7	7.77	2.08

図表-253 【小学5年生】現在、悩んだり困っていること×生活の満足度(10点満点で)

(%)

		調査数 (n=)	生活の満足度(10点満点で)					
			0~4点	5~7点	8~10点	無回答	平均 (点)	標準偏差
全体		11,970	8.8	24.8	66.0	0.4	7.85	2.24
現在、 悩んだり 困っている こと	友人との関係のこと	2,021	21.0	37.8	41.0	0.1	6.56	2.48
	勉強や成績のこと	2,855	18.2	33.8	47.7	0.2	6.87	2.52
	進路のこと	875	21.4	33.0	45.6	0.0	6.65	2.55
	学級費など学校で必要な お金のこと	266	25.9	33.1	41.0	0.0	6.32	2.81
	塾(通信教育を含む)や 習い事ができない (生活が苦しいなど)	162	30.2	33.3	35.8	0.6	5.99	2.86
	家のお金のこと	220	33.6	27.7	38.6	0.0	5.90	3.00
	自分と家族との関係のこと	670	36.6	35.1	28.1	0.3	5.53	2.68
	家族内の人間関係のこと (両親の仲が良くないなど)	408	35.3	37.0	27.5	0.2	5.52	2.74
	病気や障がいのある家族 のこと	176	27.3	29.0	43.2	0.6	6.37	2.77
	自分のために使える時間 が少ない	545	33.0	34.7	31.7	0.6	5.75	2.78
	その他	307	29.0	29.0	41.0	1.0	6.15	2.88
	特にない	6,882	3.2	18.1	78.5	0.2	8.49	1.82
無回答	328	7.0	23.8	62.8	6.4	7.88	2.34	

図表-254 【小学5年生】相談相手の有無×生活の満足度(10点満点で)

(%)

		調査数 (n=)	生活の満足度(10点満点で)					
			0~4点	5~7点	8~10点	無回答	平均 (点)	標準偏差
全体		11,970	8.8	24.8	66.0	0.4	7.85	2.24
相談相手の有無	相談相手や話を聞いてくれる人がいる	3,238	11.1	32.9	55.7	0.3	7.40	2.18
	相談相手や話を聞いてくれる人がいない	247	40.1	35.6	23.9	0.4	5.16	2.90
	相談や話はしたくない	1,199	28.4	38.9	32.7	0.0	6.00	2.63
	無回答	76	17.1	34.2	44.7	3.9	6.84	2.69

② 中学2年生(「0~4点」12.3%、「5~7点」36.9%、「8~10点」50.5%)

<p>&lt;生活の満足度と遅刻・早退&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻や早退を「よくする」人のうち 40.4%が、生活満足度が低い「0~4点」と回答している。</li> </ul> <p>&lt;生活の満足度と悩み事・困り事&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何らかの悩み事、困り事があると回答した人のうち、特に家族との関係や家族のこと、家庭の経済状況などの悩み事や困りごとがある人は、生活の満足度が低い「0~4点」の回答が比較的多い。</li> </ul> <p>&lt;生活の満足度と相談相手の有無&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「相談相手や聞いてくれる人がいない」人のうち 45.4%が、生活満足度が低い「0~4点」と回答している。</li> </ul>
---

図表-255 【中学2年生】遅刻や早退の状況×生活の満足度(10点満点で)

(%)

		調査数 (n=)	生活の満足度(10点満点で)					
			0~4点	5~7点	8~10点	無回答	平均 (点)	標準偏差
全体		11,116	12.3	36.9	50.5	0.4	7.15	2.26
遅刻や早退の状況	ほとんどしない	9,716	10.3	36.2	53.3	0.3	7.31	2.17
	たまにする	1,198	24.0	42.4	32.9	0.8	6.17	2.49
	よくする	183	40.4	40.4	18.6	0.5	5.08	2.75
	無回答	19	10.5	21.1	36.8	31.6	7.31	1.93

図表－256 【中学2年生】現在、悩んだり困っていること×生活の満足度(10点満点で)

(%)

	調査数 (n=)	生活の満足度(10点満点で)						
		0～4点	5～7点	8～10点	無回答	平均 (点)	標準偏差	
全体	11,116	12.3	36.9	50.5	0.4	7.15	2.26	
現在、 悩んだり 困っていること	友人との関係のこと	1,778	28.5	44.2	27.1	0.2	5.79	2.43
	学業成績のこと	4,855	17.4	42.8	39.7	0.2	6.60	2.29
	進路のこと	4,678	16.8	42.2	40.8	0.2	6.65	2.31
	部活動のこと	1,659	23.1	44.1	32.6	0.2	6.16	2.44
	学費(授業料)など学校生活に必要なお金のこと	400	32.5	41.5	25.5	0.5	5.58	2.64
	塾(通信教育含む)や習い事ができない	237	30.8	40.9	27.4	0.8	5.66	2.68
	家庭の経済的状況のこと	443	35.0	42.0	22.8	0.2	5.38	2.65
	自分と家族との関係のこと	713	47.5	41.2	11.1	0.1	4.58	2.47
	家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)	571	44.8	38.5	16.6	0.0	4.88	2.57
	病気や障がいのある家族のこと	174	37.4	36.8	25.9	0.0	5.45	2.50
	自分のために使える時間が少ない	633	34.3	42.0	23.4	0.3	5.46	2.61
	その他	293	29.7	37.5	32.4	0.3	5.98	2.65
	特にない	3,861	5.1	28.3	66.5	0.2	7.96	1.95
	無回答	270	9.3	30.7	53.0	7.0	7.38	2.38

図表－257 【中学2年生】相談相手の有無×生活の満足度(10点満点で)

(%)

	調査数 (n=)	生活の満足度(10点満点で)						
		0～4点	5～7点	8～10点	無回答	平均 (点)	標準偏差	
全体	11,116	12.3	36.9	50.5	0.4	7.15	2.26	
相談 相手の 有無	相談相手や話を聞いてくれる人がいる	5,031	10.2	41.0	48.7	0.2	7.16	2.02
	相談相手や話を聞いてくれる人がいない	249	45.4	41.8	12.4	0.4	4.70	2.48
	相談や話はしたくない	1,672	30.7	44.6	24.4	0.2	5.59	2.49
	無回答	33	21.2	42.4	27.3	9.1	6.07	2.20

③ 高校2年生(全日制) (「0～4点」12.1%、「5～7点」44.0%、「8～10点」43.5%)

<p>&lt;生活の満足度と遅刻・早退&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遅刻や早退を「よくする」人のうち 36.5%が、生活の満足度が低い「0～4点」と回答している。</li> </ul> <p>&lt;生活の満足度と悩み事・困り事&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何らかの悩み事、困り事があると回答した人のうち、家族との関係や自分のために使える時間が少ないなどの悩み事・困り事がある人は、生活の満足度が低い「0～4点」が比較的多い。</li> </ul> <p>&lt;生活の満足度と相談相手の有無&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「相談相手や聞いてくれる人がいない」人のうち 43.1%が、生活の満足度が低い「0～4点」と回答している。</li> </ul>
---

図表－258 【高校2年生(全日制)】遅刻や早退の状況×生活の満足度(10点満点で)

(%)

		調査数 (n=)	生活の満足度(10点満点で)					平均 (点)	標準偏差
			0～4点	5～7点	8～10点	無回答			
全体		7,145	12.1	44.0	43.5	0.3	6.92	2.16	
状況 遅刻 や 早退 の	ほとんどしない	6,246	10.6	43.3	45.9	0.2	7.06	2.09	
	たまにする	807	21.9	49.6	27.9	0.6	6.03	2.33	
	よくする	85	36.5	42.4	20.0	1.2	5.44	2.52	
	無回答	7	0.0	57.1	0.0	42.9	6.25	0.96	



図表－259 【高校2年生(全日制)】現在、悩んだり困っていること×生活の満足度(10点満点で)

(%)

		調査数 (n=)	生活の満足度(10点満点で)					平均 (点)	標準偏差
			0～4点	5～7点	8～10点	無回答			
全体		7,145	12.1	44.0	43.5	0.3	6.92	2.16	
現在、 悩んだり 困っていること	友人との関係のこと	836	30.1	48.7	20.9	0.2	5.62	2.32	
	学業成績のこと	3,246	16.3	48.5	35.1	0.1	6.51	2.16	
	進路のこと	3,823	14.7	48.1	37.1	0.1	6.61	2.13	
	部活動のこと	1,026	20.5	48.4	30.9	0.2	6.23	2.25	
	学費(授業料)など学校生活に必要なお金のこと	399	24.3	40.1	35.3	0.3	6.04	2.53	
	塾(通信教育含む)や習い事ができない	138	29.7	36.2	33.3	0.7	5.88	2.72	
	家庭の経済的状況のこと	370	26.2	43.8	30.0	0.0	5.89	2.50	
	自分と家族との関係のこと	375	42.9	44.8	12.3	0.0	4.81	2.42	
	家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)	337	38.0	44.2	17.8	0.0	5.19	2.50	
	病気や障がいのある家族のこと	103	29.1	44.7	26.2	0.0	5.69	2.53	
	自分のために使える時間が少ない	633	34.3	42.0	23.4	0.3	5.46	2.61	
	その他	293	29.7	37.5	32.4	0.3	5.98	2.65	
	特にない	3,861	5.1	28.3	66.5	0.2	7.96	1.95	
	無回答	270	9.3	30.7	53.0	7.0	7.38	2.38	

図表－260 【高校2年生(全日制)】相談相手の有無×生活の満足度(10点満点で)

(%)

		調査数 (n=)	生活の満足度(10点満点で)					平均 (点)	標準偏差
			0～4点	5～7点	8～10点	無回答			
全体		7,145	12.1	44.0	43.5	0.3	6.92	2.16	
相談 相手の 有無	相談相手や話を聞いてくれる人がいる	4,120	10.6	46.9	42.4	0.1	6.93	1.96	
	相談相手や話を聞いてくれる人がいない	167	43.1	46.7	10.2	0.0	4.76	2.33	
	相談や話はしたくない	785	28.9	49.4	21.5	0.1	5.62	2.45	
	無回答	14	21.4	42.9	28.6	7.1	5.85	2.30	

## 4. 自由意見について

ヤングケアラーへの支援を広げていくために必要だと思うことなどを聞いたところ、下記のような意見が得られた。

### ① 小学生

<b>自身の状況</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・遊ぶ時間がないので困っている。自分の時間がほしい。</li><li>・時間を守って落ち着いて生活がしたい。</li><li>・勉強で分からないことがあったら、分かりやすく教えてくれる人がいたらよいと思う。</li><li>・自分のお母さんやきょうだいのことを知っていて、一緒に介護をできる人がいてほしい。</li><li>・「大丈夫？」より、「大変だったね」と言ってもらう方が少し嬉しい。</li></ul>
<b>助けたい、手伝いたい</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・友達や助けてほしいような人がいたら、すぐに声を掛けたい。</li><li>・家族や友達にも相談できない人がいたら、学校の先生に困っている人がいると知らせたい。</li><li>・障害のある人と交流したい、人の大切さを知りたい。</li><li>・ヤングケアラーの子が毎日学校に行けるような環境にする必要がある。</li><li>・ヤングケアラーへの支援を広げていくためには、困っていたら声をかけたり、単純なことでも困っている人のために手伝ってあげたりすることが必要だと思う。</li><li>・ヤングケアラーの人同士で触れ合ったりして、友達をどんどん作るとよいと思う。</li></ul>
<b>相談</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・なんでも相談できて信頼できる人、優しく相談しやすい人など、相談しやすい環境があればよい。</li><li>・何も言わずに話を聞いてほしい。</li><li>・スクールカウンセラーの人と会いやすくしてほしい(友達に知られたくない)。</li><li>・苦しくなった時に、同じ気持ちの人に相談したら、一人じゃないと思える。</li></ul>
<b>周知等について</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・みんなが、そのことを知っていて協力していくことが大切だと思う。</li><li>・ポスターやホームページなどでヤングケアラーのことを知らせていくとよい。</li><li>・ヤングケアラーという言葉を広げたり、イベントを多く開催したらよい。</li></ul>
<b>支援について</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・料理や洗濯などの家事をしてくれたり、宿題を教えてくれる人を募集したらよい。</li><li>・ヤングケアラーを中心に、ヘルパーさんがつければよいと思う。</li><li>・ヤングケアラーをサポートするボランティア活動や憩いの場づくりをやってほしい。</li><li>・ヤングケアラー専門の介護施設や介護する人を作る。</li><li>・親なしで直接子どもに話を聞いたり、その子どもを保護したりしてくれると嬉しいと思う。</li><li>・ヤングケアラーの人に募金をすればよいと思う。</li><li>・ヤングケアラーを助けている人がお金に困る場合は、募金や食料配布などをして助ければよい。</li></ul>

## ② 中学生

<b>自身の状況</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・身近に自分のサポートや、きょうだいの見守りや相手してくれる人がほしい。</li><li>・1時間でもきょうだいの面倒を見てくれる人がいたら、自分の時間が作れると思うけど、我慢してしまうので頼れる人が近くにほしい。</li><li>・自分のやりたいことが、お世話で制限される問題が解決されるようになってほしい。そして、周りの人と同じ境遇に立てるようにしてほしい。</li></ul>
<b>助けたい、手伝いたい</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・相手の気持を考えて、できるだけ嫌な思いをさせないようにして、手伝いたい。</li><li>・困っている人がいたら、声をかけたり、助けたいと思う。</li><li>・ヤングケアラーの人は自分からヤングケアラーとは言わないと思うので、体調が悪そうとか、悩んでいそうとか、その人の生活の変化に気づかなければいけないと思う。</li><li>・家族の介護やお世話で家で宿題ができない人もいると思うので、もう少し学校で宿題ができるように時間を作ってほしい。</li></ul>
<b>相談</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・自分が辛い時に、気軽に相談できたり、同じ立場にいる感覚で話を聞いてくれたり、対策案と一緒に考えてくれる人がいれば、辛い時期があっても乗り越えられる。</li><li>・人に相談をするのが苦手なので、スクールカウンセラーや先生に話すのが嫌だし、伝わらないことも多いと思う。似ている境遇の友人とはお互いに心の底から共感できる。悩みが解決することはないが、息抜きができる。話を聞く、ただそれだけの存在が必要。</li><li>・家族のことを気軽に相談できる場所がほしい。頼れる大人が身近にいてほしい。</li></ul>
<b>周知等について</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・学校でヤングケアラーについての授業やイベントをしてくれれば関心がわくと思う。</li><li>・経験者から直接話を聞いたり、宣伝するなりしてもっと知ってもらいたいと思う。</li><li>・ヤングケアラーを広めることは大切だが、差別や偏見が生まれないようにしないといけない。</li><li>・ヤングケアラーの間違った情報にならないよう、冊子など見やすい物を使うべきだと思う。</li><li>・専門の教室を開いて、理解を深めたり、話し方などを学ぶ場を作ってほしいと思う。</li><li>・誰かの為に身を削って生活する辛さをもっと知ってほしい。ヤングケアラーが、自分のしたい事をして、進みたい進路を選んで、自分の人生を歩めるよう、支援を怠らないでほしい。</li></ul>
<b>支援について</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・介護センターを増やしたり、介護施設に行きやすくすることが必要だと思う。</li><li>・ヤングケアラーの人が申請したら、無料で利用できる施設があればよい。</li><li>・障害をもつ家族の手伝いで大変な人を助けられる施設などを増やしたほうがよい。</li><li>・お金がかからない自分の子どもに家事をやらせることになるので、難しい家庭には無料で家事をする代理のような人が必要だと思う。</li><li>・募金をすればよいと思う。</li><li>・一つ一つの家に回ってお手伝いをするのは難しいため、経済的な支援をすればよい。</li></ul>

### ③ 高校生

<b>自身の状況</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・自由に勉強できる時間、寝る時間など、自分の時間がほしい。</li><li>・親が外国籍のため、学校からのお知らせのプリントも全部私が目を通して、伝えないといけないことは分かりやすく砕いて伝えています。正直面倒くさいと思いますが、親にそんな気持ちを持つことにも罪悪感を持ちます。難しい話ですが、なにかに活かしてください。</li><li>・精神的に支えてほしい。</li></ul>
<b>助けたい、手伝いたい</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・周りに言いづらいと思うため、周りの人が状況に気付いて直接的でなくとも話を聞いてあげたり、話しかけてみるなどの対策が必要だと思う。</li><li>・優しい気持ちで助け合うことが大事だと思う。悩みを誰かに話せることや、誰かのために何かをすることが出来ればよい。少しの気遣いが誰かのためになると思う。</li></ul>
<b>相談</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・もっと相談しやすい環境を作るべき。</li><li>・直接言うことが難しいのでネットで悩みを打ち明けても、きちんと回答してくれる人がいない。</li></ul>
<b>周知等について</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ヤングケアラーを助けられる、助けを求められる環境を作ることが必要である。</li><li>・ヤングケアラーに関する講演会などを積極的に開いていくべきだと思う。</li><li>・支援を受ける側の人(私にとっての親)に対してその人が頼れる場所が利用しやすくなると嬉しい。子どもだけでは調べても実態がよく分からず、1歩を踏み出すことが難しい。周りの大人が動いてくれると助かる。「このような人がいて、またその人を支えなければならない人もいる」ということが自分自身の問題では無いと思っている人達にも広まってほしい。</li></ul>
<b>学校生活、学習支援</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ヤングケアラーが学校へ通え、宿題の提出日などがその子に合わせられればよいと思う。</li><li>・子ども自身のやるべき事や宿題、部活動などの時間を割いてまで家事をやらせるのは身につけるべきものも身につかないと思うので、そういった部分は援助してほしい。</li><li>・きょうだいを連れて行ってもよい勉強場所があればよい(自分が勉強している間に、きょうだいが遊んで勉強が終わるのを待っている、など)</li></ul>
<b>支援について</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・小さい子どもを、夜遅くまで安いお金で預けられる施設があればよいと思う。</li><li>・地域で高校生が自由に使える公共スペース(勉強など)があるとよいと思う。</li><li>・保育機構に対して支援をして、保育士の待遇を改善するべきである。</li><li>・無料通訳者、公的機関等代理人</li><li>・学費がもっと安くなるとよい。子どもをもつ家庭にもっとよりよい経済支援があるといい。</li><li>・外国籍の母は、文化や言語の違い、信頼できる友人や親戚がいないことで私が話を聞かないと母の心が壊れてしまう。外国籍の人へのサポート(交流会、育児など)をもっとしてほしい。</li></ul>

## 第3章 学校におけるヤングケアラーへの対応に関する調査

### 1. 学校調査の実施概要

#### (1) 調査対象

愛知県内すべての公立小中学校及び高等学校

図表－261 対象校数

	対象数
小学校	965 校
中学校	416 校
全日制高校	159 校
定時制高校	31 校
通信制高校	2 校
合計	1,573 校

#### (2) 実施時期

2021年11月17日(水)～2021年12月24日(金)

#### (3) 調査方法

調査対象校に調査回答フォームのQRコード、URLを記載した調査概要を配布。Web上で回答、回収を実施。

#### (4) 回収状況

図表－262 回収状況

	回収数
小学校	722
中学校	322
全日制高校	131
定時制高校	20
通信制高校	2
合計	1,197

#### ※調査結果の表示方法

- ・集計結果の百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入した値を表記している。  
このため、選択肢ごとの構成比の見かけ上の合計が100.0%にならない場合がある。
- ・報告書中の表において、値の小さい項目は表が省略されている場合がある。

## 2. 学校におけるヤングケアラーへの対応に関する調査結果

### (1) 学校の概要

#### ① 回答者の役職

図表－263 回答者の役職

(%)

	調査数 (n=)	校長	副校長・教頭	主幹・主任教諭	養護教諭	スクールソーシャルワーカー (SSW)	スクールカウンセラー (SC)	その他	無回答
小学校	722	4.7	59.8	29.9	2.1	0.1	0.0	3.3	0.0
中学校	322	4.7	47.5	40.7	2.5	0.0	0.0	4.7	0.0
高校（全日制）	131	3.1	32.8	29.8	21.4	0.8	0.0	12.2	0.0
高校（定時制・通信制）	22	0.0	54.5	13.6	22.7	0.0	0.0	9.1	0.0

#### ② 学校の所在地

図表－264 学校の所在地

(%)

	調査数 (n=)	名古屋	尾張	海部	知多	西三河	東三河	無回答
小学校	722	13.9	27.1	5.8	8.7	27.4	14.1	2.9
中学校	322	13.0	30.1	7.1	9.0	24.8	13.7	2.2
高校（全日制）	131	18.3	26.7	6.1	9.9	24.4	12.2	2.3
高校（定時制・通信制）	22	22.7	27.3	0.0	9.1	27.3	9.1	4.5

※地域区分 名古屋：名古屋市

尾張：一宮市、瀬戸市、春日井市、犬山市、江南市、小牧市、稲沢市、尾張旭市、岩倉市、豊明市、日進市、清須市、北名古屋市、長久手市、東郷町、豊山町、大口町、扶桑町

海部：津島市、愛西市、弥富市、あま市、大治町、蟹江町、飛島村

知多：半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町

西三河：岡崎市、碧南市、刈谷市、豊田市、安城市、西尾市、知立市、高浜市、みよし市、幸田町

東三河：豊橋市、豊川市、蒲郡市、新城市、田原市、設楽町、東栄町、豊根村

③ 学校規模 ※小学校は5年生、中学校・高校は2年生の在籍生徒数

図表－265 学校規模

(%)

	調査数 (n=)	40人 以下	41～160 人	161～ 280人	281～ 400人	401人 以上	無回答
小学校	722	25.1	72.6	1.8	0.1	0.0	0.4
中学校	322	5.0	43.8	43.8	6.8	0.0	0.6
高校（全日制）	131	2.3	9.9	50.4	36.6	0.8	0.0
高校（定時制・通信制）	22	72.7	22.7	4.5	0.0	0.0	0.0

④ 高校での単位制の有無

図表－266 高校での単位制の有無

(%)

	調査数 (n=)	あり	なし	無回答
高校（全日制）	131	3.1	96.9	0.0
高校（定時制・通信制）	22	31.8	68.2	0.0

## (2) 支援が必要だと思われる子どもへの対応

スクールソーシャルワーカー (SSW)・・・児童生徒の最善の利益を保障するため、学校を基盤としてソーシャルワーク(社会福祉)の価値・知識・技術に基づき支援活動を行う社会福祉士等  
 スクールカウンセラー (SC)・・・児童生徒の心のケア、保護者等の悩みの相談や教職員のコンサルテーションに中心的な役割を果たす臨床心理士等  
 (愛知県・愛知県教育委員会「あいちの教育ビジョン 2025－第四次愛知県教育振興基本計画－」)

### ① SSW、SC の配置・派遣状況

SSW の配置・派遣状況については、いずれにおいても「要請に応じて派遣される」(小学校: 70.6%、中学校: 58.7%、高校(全日制): 96.2%)が最も高くなっている。

図表－267 SSW の配置・派遣状況

	調査数 (n=)	常勤している	週に2～3回以上派遣・配置されている	週に1回程度派遣・配置されている	月に数回以下で派遣・配置されている	要請に応じて派遣される	その他	無回答
小学校	722	0.0	0.6	6.5	11.4	70.6	10.4	0.6
中学校	322	3.7	2.2	13.0	6.5	58.7	15.2	0.6
高校(全日制)	131	0.0	2.3	0.8	0.0	96.2	0.8	0.0
高校(定時制・通信制)	22	0.0	9.1	4.5	0.0	81.8	4.5	0.0

SC の配置・派遣状況については、「月に数回以下で派遣・配置されている」が小学校では 68.8%、高校(全日制)では、93.9%と最も高く、中学校では「週に1回程度派遣・配置されている」が 68.9%と最も高くなっている。

図表－268 SC の配置・派遣状況

	調査数 (n=)	常勤している	週に2～3回以上派遣・配置されている	週に1回程度派遣・配置されている	月に数回以下で派遣・配置されている	要請に応じて派遣される	その他	無回答
小学校	722	0.0	1.9	26.7	68.8	2.1	0.0	0.4
中学校	322	13.0	9.9	68.9	7.8	0.0	0.0	0.3
高校(全日制)	131	0.0	5.3	0.8	93.9	0.0	0.0	0.0
高校(定時制・通信制)	22	4.5	9.1	13.6	72.7	0.0	0.0	0.0



## ② SSW、SC の活動内容

SSW の活動内容については、小学校、中学校、高校(全日制)で「児童・生徒の相談対応」「保護者の相談対応」「教職員の相談対応」「外部機関との連絡・調整」が5割を超えており、比較的高くなっている。

図表－269 SSW の活動内容(複数回答)

(%)

	調査数 (n=)	児童・生徒の 相談対応	保護者の 相談対応	教職員の 相談対応	定期的な 児童・生徒との 面談	校内の 会議に 参加	外部機 関との 連絡・ 調整	その他	無回答
小学校	722	51.1	62.9	54.2	21.7	23.4	55.5	12.9	6.5
中学校	322	57.1	64.9	57.5	29.2	40.4	65.2	11.5	8.4
高校(全日制)	131	72.5	66.4	64.9	15.3	24.4	62.6	13.7	3.8
高校(定時制・通信制)	22	77.3	54.5	63.6	27.3	13.6	63.6	9.1	4.5

SC の活動内容については、小学校、中学校、高校(全日制)で「児童・生徒の相談対応」「保護者の相談対応」「教職員の相談対応」が8割を超えており、比較的高くなっている。

図表－270 SC の活動内容(複数回答)

(%)

	調査数 (n=)	児童・生徒の 相談対応	保護者の 相談対応	教職員の 相談対応	定期的な 児童・生徒との 面談	校内の 会議に 参加	外部機 関との 連絡・ 調整	その他	無回答
小学校	722	96.3	98.1	84.2	58.3	26.5	25.3	2.9	0.3
中学校	322	98.1	98.1	87.3	78.6	66.5	36.6	2.8	0.3
高校(全日制)	131	99.2	97.7	93.1	59.5	38.9	21.4	3.8	0.0
高校(定時制・通信制)	22	100.0	81.8	81.8	59.1	22.7	18.2	9.1	0.0

### ③ 支援が必要な子どもや気になる子どもの引継ぎ

支援が必要と思われる子どもや気になる子どもについて、入学時に出身校園から主にどのような引継ぎがあるか聞いたところ、小学校、中学校、高校(全日制)で「登校状況など、前の学校での様子」「子ども本人の発達特性」の割合が比較的高くなっている。

また、高校(全日制)では「引継ぎはないことが多い」の割合が35.9%と高くなっている。

図表-271 支援が必要な子どもや気になる子どもの引継ぎ(複数回答)

(%)

	調査数 (n=)	登校状況など、 前の学校での様子	子ども本人の 発達特性	保護者の病 気や障がい等 の状況	家族構成、 家庭環境	経済的状況	要保護児童 対策地域協議 会(要対協)へ の登録状況	関わりのある 外部機関	その他	引継ぎはない ことが多い	無回答
小学校	722	94.7	96.7	62.9	83.2	46.1	28.4	61.4	0.8	0.0	0.3
中学校	322	98.8	98.1	77.0	93.8	72.4	40.7	73.9	0.6	0.0	0.3
高校(全日制)	131	48.1	55.7	13.0	31.3	11.5	1.5	13.0	4.6	35.9	0.0
高校(定時制・通信制)	22	77.3	81.8	36.4	45.5	27.3	13.6	36.4	18.2	13.6	0.0

#### ④ 支援が必要な子どもや気になる子どもの把握をするためのアンケート実施の有無

支援が必要だと思われる子どもや気になる子どもの把握のためのアンケート実施の有無について聞いたところ、「実施している」は小学生:93.9%、中学校:95.3%、高校(全日制):79.4%となっている。

図表-272 支援が必要な子どもや気になる子どもの把握をするためのアンケート実施の有無

	調査数 (n=)	実施して いる	実施して いない	無回答
小学校	722	93.9	6.0	0.1
中学校	322	95.3	4.3	0.3
高校(全日制)	131	79.4	20.6	0.0
高校(定時制・通信制)	22	81.8	18.2	0.0

#### ⑤ アンケートの確認項目

アンケートを「実施している」と回答した学校に、アンケートでの確認項目(友人関係や学校生活、進路に関する悩みや困りごと以外)を聞いたところ、小学校と中学校では「家庭で困っていること」「家族関係(本人と家族との関係、家族内の人間関係)に関する悩み、困りごと」「困った際の相談相手の有無」の割合が他の項目と比べて高くなっている。また、高校(全日制)では「子どもの健康状態」「困った際の相談相手の有無」の割合が他の項目と比べて高くなっている。

図表-273 アンケートの確認項目(複数回答)

	調査数 (n=)	家庭で困っていること	家族関係(本人と家族との関係、家族内の人間関係)に関する悩み、困りごと	病気や障がいのある家族に関する悩み、困りごと	家庭における家事等の負担	困った際の相談相手の有無	子どもの健康状態	その他	確認していない	無回答
小学校	678	58.8	41.4	7.8	8.3	45.9	27.0	6.2	16.2	0.9
中学校	307	66.8	57.7	10.4	11.7	60.6	30.6	5.5	8.8	1.0
高校(全日制)	104	27.9	26.9	9.6	8.7	45.2	51.9	17.3	18.3	0.0
高校(定時制・通信制)	18	44.4	50.0	27.8	11.1	44.4	55.6	16.7	11.1	0.0

## ⑥ 支援が必要な子どもや気になる子どもの把握をするためのアンケート以外の取組・工夫

アンケート以外で、支援が必要だと思われる子どもや気になる子どもの把握のために行っている取組や工夫について聞いたところ、以下のような回答があった。

<b>本人の状況の把握</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 日常的な観察、声かけ、密なコミュニケーションを行っている。</li><li>・ 通級指導教室担当者、SC、心の教室相談員などによる教室巡回を行っている。</li><li>・ 生徒が記述した生活記録を担当が毎日確認している。</li><li>・ 子どもの様子を把握するため、担当がチェックシートを活用している。</li><li>・ 年に2回「よりよい学校生活と友達づくりのためのアンケート hyper-QU」を実施している。</li><li>・ 相談室に相談ポストを置き、困りごとや悩みごとを訴えることができるようにしている。</li><li>・ 相談受付のため、生徒がスマートフォンやタブレットから「心配な人」と「心配な事」について、いつでも投稿できるフォームを運用している。</li><li>・ 生徒個人のタブレットを利用し、朝の健康観察時、定期的に心の状態を数値で回答してもらい、数値が低かったり、変動のあった子どもについては、教育相談を行ったり、注意深く見守っている。</li></ul>
<b>面談や相談の実施</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 毎月、心のアンケートをもとに教員と生徒の1対1で教育相談を実施している。</li><li>・ SC による新入生の全員面談を行い、生徒の様子を把握するとともに、相談に対するハードルを低くする。</li></ul>
<b>保護者との連携</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 面接週間における生徒本人との面談 ・保護者懇談会を設定している。</li><li>・ 随時、家庭訪問や家庭への連絡を行っている。</li></ul>
<b>校内での連携体制</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 月に1回、全教職員で気になる子どもの様子を情報共有する会を開催している。</li><li>・ 週に1回、管理職、SC、養護教諭、主任による支援会議を実施している。</li><li>・ 全職員による「子どもを語る会」やいじめ・不登校対策委員会、就学支援委員会などを定期的実施し、子どもの様子を把握している。</li><li>・ SC、SSW との情報交換やケース会議を行っている。</li></ul>
<b>外部との連携体制</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 市役所、教育委員会、児童相談所、コミュニティソーシャルワーカー、地域包括支援センター等と連携している。</li><li>・ 医療機関、関係機関と連携し、情報共有や対応策の検討をしている。</li><li>・ 入学前に出身園に聞き取りを行っている。</li><li>・ 民生委員や主任児童委員と定期的に情報交換を行っている。</li></ul>

⑦ 子どもの悩みや家庭状況等を把握する際の、アセスメントシートなどの使用の有無

子どもの悩みや家庭状況等を把握する際に、アセスメントシートなどの様式を使用しているか聞いたところ、いずれにおいても「使用していない」(小学校:80.6%、中学校:71.7%、高校(全日制):70.2)が最も高くなっている。

図表-274 子どもの悩みや家庭状況等を把握する際の、アセスメントシートなどの使用の有無

	調査数 (n=)	県作成の様式を使用 (アレンジしたもの含む)	市作成の様式を使用 (アレンジしたもの含む)	その他の独自の様式を使用	使用していない	無回答
小学校	722	1.0	9.0	9.7	80.6	0.7
中学校	322	1.6	11.8	14.9	71.7	0.9
高校(全日制)	131	20.6	0.8	9.2	70.2	0.8
高校(定時制・通信制)	22	31.8	0.0	9.1	59.1	0.0

(%)

### ⑧ アセスメントシートの項目

アセスメントシートを使用していると回答した学校に、様式に含まれている項目について聞いたところ、小学校・中学校では「精神的な不安定さがある」「家族に関する不安や悩みを口にしている」が高く、他に小学校では「学校を休みがちである」「遅刻や早退が多い」、中学校では「クラスメイトとのかかわりが薄い、ひとりでいることが多い」も高くなっている。

図表－275 アセスメントシートの項目（複数回答）

(%)

	小学校 (n=135)	中学校 (n=88)	高校（全日制） (n=38)	高校（定時制・ 通信制） (n=9)
必要な病院に通院・受診できない、服薬できていない	18.5	23.9	23.7	22.2
精神的な不安定さがある	48.1	52.3	57.9	66.7
給食時に過食傾向がみられる	20.7	19.3	0.0	0.0
表情が乏しい	30.4	26.1	15.8	11.1
家族に関する不安や悩みを口にしている	48.1	46.6	50.0	44.4
将来に対する不安や悩みを口にしている	27.4	38.6	31.6	33.3
極端に痩せている、痩せてきた	18.5	20.5	10.5	11.1
極端に太っている、太ってきた	14.1	19.3	10.5	11.1
身だしなみが整っていない	33.3	26.1	15.8	11.1
虫歯が多い	13.3	13.6	2.6	11.1
学校を休みがちである	54.1	40.9	63.2	55.6
遅刻や早退が多い	47.4	38.6	52.6	66.7
保健室で過ごしていることが多い	34.1	30.7	44.7	22.2
授業中の集中力が欠けている、居眠りしていることが多い	41.5	38.6	28.9	0.0
学力が低下している	41.5	38.6	39.5	44.4
宿題や持ち物の忘れ物が多い	38.5	36.4	28.9	22.2
保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い	25.9	23.9	13.2	11.1
学校に必要なものを用意してもらえない	25.2	12.5	5.3	0.0
お弁当を持ってこない	6.7	9.1	7.9	0.0
部活にはいっていない、休みが多い	8.9	25.0	21.1	0.0
修学旅行や宿泊行事等を欠席する	10.4	12.5	10.5	0.0
校納金が遅れる、未払い	21.5	15.9	10.5	11.1
クラスメイトとのかかわりが薄い、ひとりでいることが多い	44.4	50.0	39.5	22.2
生活のためにアルバイトをしている	4.4	8.0	15.8	44.4
ともだちと遊んでいる姿をあまり見かけない	30.4	28.4	21.1	0.0
無回答	23.0	21.6	23.7	33.3

### (3) ヤングケアラーについて

#### ①「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無

「ヤングケアラー」の定義を示したうえで、該当すると思われる子どもの有無について聞いたところ、「いる」が小学校:26.2%、中学校:57.8%、高校(全日制):61.1%となっている。

図表-276 「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無

	調査数 (n=)	いる	いない	分からない	無回答
小学校	722	26.2	49.3	24.2	0.3
中学校	322	57.8	21.7	20.5	0.0
高校(全日制)	131	61.1	12.2	26.7	0.0
高校(定時制・通信制)	22	81.8	13.6	4.5	0.0

(%)

図表-277 <参考>児童生徒数×「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無

		調査数 (n=)	いる	いない	分からない	無回答
小学校	40人以下	181	14.4	68.0	17.7	0.0
	41~160人	524	30.2	43.3	26.1	0.4
	161~280人	13	23.1	46.2	30.8	0.0
	281~400人	1	100.0	0.0	0.0	0.0
	401人以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0
中学校	40人以下	16	25.0	56.3	18.8	0.0
	41~160人	141	56.7	20.6	22.7	0.0
	161~280人	141	62.4	18.4	19.1	0.0
	281~400人	22	59.1	22.7	18.2	0.0
	401人以上	0	0.0	0.0	0.0	0.0
高校(全日制)	40人以下	3	66.7	33.3	0.0	0.0
	41~160人	13	69.2	7.7	23.1	0.0
	161~280人	66	69.7	10.6	19.7	0.0
	281~400人	48	47.9	12.5	39.6	0.0
	401人以上	1	0.0	100.0	0.0	0.0

(%)

## ② ヤングケアラーの状況について

ヤングケアラーの定義に該当すると思われる子どもが「いる」と回答した学校に、ヤングケアラーと思われる子どもの状況について聞いた結果は、以下のとおりである。

### i) ヤングケアラーと思われる子どもの状況

ヤングケアラーと思われる子どもの状況について聞いたところ、小学校、中学校、高校(全日制)では、「家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」(小学校:78.8%、中学校:83.3%、高校(全日制):70.0%)が最も高くなっている。次いで、「家族の通訳をしている」(小学校:23.3%、中学校:44.6%、高校(全日制):50.0%)が高くなっている。また、高校(全日制)では、「家計を支えるために、アルバイト等をしている」(47.5%)も比較的高くなっている。

図表-278 ヤングケアラーと思われる子どもの状況(複数回答)

	小学校 (n=189)	中学校 (n=186)	高校(全日制) (n=80)	高校(定時制・ 通信制) (n=18)
障がいや病気のある家族に代わり、家事(買い物、料理、洗濯、掃除など)をしている	19.0	25.8	42.5	44.4
家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている	78.8	83.3	70.0	100.0
家族の代わりに、障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている	5.8	10.2	17.5	22.2
目を離せない家族の見守りや声掛けをしている	7.4	9.1	7.5	16.7
家族の通訳をしている	23.3	44.6	50.0	61.1
家計を支えるために、アルバイト等をしている	0.0	1.6	47.5	77.8
アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している	3.2	6.5	12.5	22.2
病気の家族の看病をしている	3.7	8.1	11.3	22.2
障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている	3.7	8.6	17.5	27.8
障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている	2.1	2.2	5.0	5.6
その他	4.8	6.5	3.8	0.0
具体的な状況は把握できていない	1.1	1.1	2.5	0.0
無回答	0.0	0.0	0.0	0.0



## ii) 具体的な支援事例の有無

ヤングケアラーと思われる子どもについて、具体的に支援をしている事例はあるか聞いたところ、小学校と高校(全日制)では「具体的な支援をするほどではない」がそれぞれ 35.4%、45.0%と最も高く、中学校では「支援している事例がある」(37.1%)が最も高くなっている。また、「支援したいが、支援できてない」は小学校:32.3%、中学校:26.3%、高校(全日制):23.8%となっている。

図表-279 具体的な支援事例の有無

	調査数 (n=)	支援している 事例がある	支援したい が、支援でき てない	具体的な支 援をするほ どではない	無回答
小学校	189	32.3	32.3	35.4	0.0
中学校	186	37.1	26.3	36.6	0.0
高校(全日制)	80	31.3	23.8	45.0	0.0
高校(定時制・通信制)	18	38.9	33.3	27.8	0.0

## iii) ヤングケアラーと思われる子どもがいた際の主な相談先

ヤングケアラーと思われる子どもを「支援している事例がある」と回答した学校に、ヤングケアラーと思われる子どもがいた際の主な相談先について聞いたところ、小学校と中学校では「市町村または県教育委員会」「児童相談所」の割合が5割を超えており、他の相談先と比べて高くなっている。

図表-280 ヤングケアラーと思われる子どもがいた際の主な相談先(複数回答)

	調査数 (n=)	市町村または 県教育委員会	市町村の福祉部門 (要対協の調整 機関(虐待対応部門を 除く))	市町村の要対協の調整 機関(虐待 対応部門)	児童相談所	愛知県総合教育センター	教育支援センター (適応指導教 室)	ケースにより、 相談先は異なる	その他	相談先がない (どこに相談した らよいか分からない)	無回答
小学校	61	50.8	39.3	41.0	54.1	1.6	4.9	24.6	8.2	0.0	0.0
中学校	69	65.2	44.9	23.2	50.7	0.0	4.3	24.6	11.6	1.4	0.0
高校(全日制)	25	12.0	20.0	16.0	32.0	8.0	0.0	44.0	28.0	8.0	4.0
高校(定時制・通信制)	7	0.0	42.9	14.3	42.9	14.3	28.6	71.4	14.3	0.0	0.0

#### iv) 支援したいが、支援できてない理由

ヤングケアラーと思われる子どもについて「支援したいが、支援できてない」と回答した学校にその理由を聞いたところ、以下のような回答があった。

<b>家庭内の問題で、状況把握や介入が難しい</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・家庭内の状況が見えにくく、実態を正確に把握できていない。</li><li>・各家庭それぞれの事情があり、介入しづらい。</li><li>・不登校傾向で、家庭訪問等をして子どもや保護者となかなか会えず、連絡も取りづらい。</li><li>・生徒の言葉だけを頼りに、家庭内のことに学校がどこまで踏み込んでよいのか迷う。</li><li>・保護者が子どもに障害のある家族や乳幼児の世話をさせていることを隠すので、実態がつかめない。</li></ul>
<b>子どもや保護者が支援を求めない</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・本人や保護者が問題だと捉えていない。</li><li>・子どもがヤングケアラーであることを保護者が認めない。</li><li>・心配だと感じる点があっても、子どもや保護者から直接的に助けを求められない。</li><li>・本人が保護者・家族にはまだ伝えないでほしいと強く訴えるので、様子を見ている。</li><li>・保護者が学校や他機関等とあまり関わりたくない様子がみられる。</li></ul>
<b>支援方法がわからない</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・相談・連携先がわからない。</li><li>・公的機関に連絡をしても相談だけで終わってしまい、支援する方法がわからない。</li><li>・学校として、子どもに声はかけているが、具体的な支援方法が分からない。</li></ul>
<b>支援のための人員が不足している</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・教員の仕事量が膨大にあるため、支援に手が回らない。</li><li>・支援できるスタッフが不足している。</li></ul>
<b>外国にルーツを持つ子どもへの対応が難しい</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・外国籍の生徒が保護者の通院時等の通訳のために学校を休むことがあるが、他に頼むあてがないようで介入が難しい。</li><li>・家事負担や通訳の程度・頻度の把握が難しい。</li><li>・外国人の両親をもつ家庭との連絡がスムーズにとれない。</li><li>・文化や言語の問題で、なかなか保護者に理解してもらえない。</li></ul>

#### v) 具体的な支援をするほどではないと判断した理由

ヤングケアラーと思われる子どもについて「具体的な支援をするほどではない」と回答した学校に、そう判断した理由を聞いたところ、以下のような回答があった。

<b>子ども自身に困っているという感覚がない、負担が軽い</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・本人に困っている様子がない。</li><li>・学習や生活に支障が出ている状況とは考えられない。</li><li>・家族の世話は日常的ではなく、時々世話をしている程度で、学校にほぼ通えている。</li><li>・本人から支援についての相談が無く、学校生活も滞りなく送れている。</li><li>・本人が困っていると言わないため、家庭での様子が十分に把握できず、家庭へ深く入り込めない。</li></ul>
<b>支援が必要かわからない</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・ヤングケアラーと判断するか否か、悩む事例が多い。</li><li>・たまに理由不明の欠席があるが、ヤングケアラーである可能性があるだけで断言できない。</li><li>・本人から話しを聞いている段階で、まだ具体的な状況を確認するまでに至っていない。</li></ul>
<b>家族や親族の支援がある</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・保護者との連絡が十分に取れ、家族間の支援が可能であることが分かった。</li><li>・近所に住む祖母が定期的に幼いきょうだいの面倒をみにきてくれる。</li><li>・外国にルーツのある家庭の保護者対応について、学校関係のことは最小限で子どもに通訳してもらっているが、それ以外は家庭やコミュニティで対応している。</li></ul>
<b>外部機関の支援に繋がっている</b>
<ul style="list-style-type: none"><li>・市町村が継続的な支援をしている。</li><li>・保護者が児童相談所の指導を受け、生徒の負担が減り、生活面で改善が見られた。</li><li>・外国にルーツのある家庭について、語学相談員による通訳等により、子どもが通訳を担う状況が改善されている。</li></ul>

### ③ ヤングケアラーがいるか分からない理由

ヤングケアラーの定義に該当すると思われる子どもがいるか「わからない」と回答した学校に、その理由を聞いたところ、小学校、中学校では「家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」がそれぞれ 94.9%、92.4%と最も高く、次いで、「ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない」(小学校:37.7%、中学校:33.3%)が高くなっている。

図表－281 ヤングケアラーがいるか分からない理由(複数回答)

(%)

	小学校 (n=175)	中学校 (n=66)	高校(全日制) (n=35)	高校(定時制・ 通信制) (n=1)
学校において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している	20.0	31.8	40.0	0.0
不登校やいじめなどに比べ緊急度が高くないため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる	15.4	18.2	22.9	0.0
家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい	94.9	92.4	97.1	100.0
ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない	37.7	33.3	42.9	0.0
その他	1.1	9.1	0.0	0.0
無回答	1.1	0.0	0.0	0.0

#### ④ ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと

ヤングケアラーを支援するために必要だと思うことを聞いたところ、小学校、中学校、高校(全日制)では、「教職員がヤングケアラーについて知ること」(小学校:85.2%、中学校:86.0%、高校(全日制):87.0%)が最も高くなっている。次いで、小学校と中学校では「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」がそれぞれ 74.4%、73.6%となっており、高校(全日制)では「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」が 79.4%となっている。

図表-282 ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと(複数回答)

	小学校 (n=722)	中学校 (n=322)	高校(全日制) (n=131)	高校(定時制・ 通信制) (n=22)
子ども自身がヤングケアラーについて知ること	74.4	73.6	78.6	81.8
教職員がヤングケアラーについて知ること	85.2	86.0	87.0	86.4
学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること	52.9	42.5	32.1	40.9
SSW や SC などの専門職の配置が充実すること	74.2	70.5	62.6	68.2
子どもが教員に相談しやすい関係をつくること	72.9	68.3	79.4	72.7
ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること	16.2	17.1	14.5	13.6
学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること	38.5	39.1	42.7	45.5
学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること	51.5	58.4	60.3	72.7
ヤングケアラーを支援する NPO などの団体が増えること	25.6	31.4	24.4	31.8
福祉と教育の連携を進めること	5.1	6.5	11.5	13.6
その他	2.1	3.1	7.6	13.6
特になし	0.1	0.3	0.0	0.0
無回答	1.4	0.3	0.8	0.0

ヤングケアラーを支援するために必要だと思うことを、「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無別にみると、ヤングケアラーが「いる」と回答した学校は「いない」と回答した学校よりも、小学校では「ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること」「福祉と教育の連携を進めること」が高くなっており、中学校では「学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること」「学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること」「福祉と教育の連携を進めること」が高くなっている。

図表-283 「ヤングケアラー」の定義に該当すると思われる子どもの有無×ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこと(複数回答)

		調査数 (n=)	子ども自身がヤングケアラーについて知ること	教職員がヤングケアラーについて知ること	学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること	SSWやSSなどの専門職の配置が充実すること	子どもが教員に相談しやすい関係をつくること	ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること	学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること	学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること	ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること	福祉と教育の連携を進めること	その他	特になし	無回答
小学校	いる	189	69.3	81.5	49.7	77.8	68.8	18.5	39.7	56.1	31.2	9.5	3.7	0.0	0.5
	いない	356	77.5	91.3	60.1	74.4	79.8	17.1	38.5	54.2	24.2	3.9	1.1	0.3	1.4
	わからない	175	74.3	77.7	42.3	70.9	64.0	12.0	37.7	41.7	22.9	2.9	2.3	0.0	1.1
中学校	いる	186	69.9	83.9	41.9	74.2	69.4	19.4	43.5	65.6	30.6	8.6	3.2	0.5	0.0
	いない	70	82.9	90.0	54.3	72.9	71.4	14.3	38.6	54.3	32.9	1.4	1.4	0.0	1.4
	わからない	66	74.2	87.9	31.8	57.6	62.1	13.6	27.3	42.4	31.8	6.1	4.5	0.0	0.0
高校 (全日制)	いる	80	76.3	87.5	30.0	66.3	78.8	11.3	45.0	60.0	25.0	13.8	7.5	0.0	0.0
	いない	16	75.0	81.3	43.8	43.8	81.3	18.8	43.8	62.5	18.8	12.5	0.0	0.0	6.3
	わからない	35	85.7	88.6	31.4	62.9	80.0	20.0	37.1	60.0	25.7	5.7	11.4	0.0	0.0

## ⑤ 自由意見

ヤングケアラーに関して、以下のような意見があった。

把握や支援の難しさ、課題
<p>〈家庭への介入が難しい〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・家庭内のことなので、どの程度まで学校が介入すべきなのか判断が難しい。</li><li>・学校での対応がどこまでできるか不安である。家庭への支援・指導を学校が行うことに限界を感じる。</li><li>・保護者との関係性の悪化の恐れもあり、学校による家庭への働きかけは難しい。</li></ul> <p>〈保護者の理解が得にくい〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・保護者に子どもの困っている様子を伝えたり、状況の改善をお願いしたりする際のアプローチの仕方が難しい。</li><li>・外国にルーツのある家庭では、子どもを通訳として通院や役所での手続などで学校を休まざるを得ないときがある。また、幼いきょうだいの世話は年長者がするという保護者の認識があり、登校が満足にできない場合もある。</li></ul> <p>〈実態の把握が難しい〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・子ども自身が、家族の世話をすることが当たり前だと感じていて、自分自身がヤングケアラーだと自覚していない子どもが多いため、把握が非常に難しい。</li><li>・高校生くらいになると、自分自身で家庭問題などを解決したり、我慢したりして、学校に話してもらえないため、実情を把握しづらい。</li><li>・ヤングケアラーは表出しにくい問題のため、確証をもって把握することが難しい。</li><li>・子どもからの情報では、お手伝いの域なのか負担となっているのか、判別がしにくい。</li></ul> <p>〈ヤングケアラーか否かの判断が難しい〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・定義はイメージできるが、実際に子どもがヤングケアラーかどうか、学校で判断するのが難しい。</li><li>・ヤングケアラーと「お手伝い」の間の線引きが難しい。保護者、子ども、学校の間で、捉え方が違うケースが出てくるのではないかな。</li><li>・どこからが子どもの権利侵害なのかを判断するのが難しい。</li></ul> <p>〈学校の負担が大きい〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・様々な仕事を抱えた今の教職員の現状では、この問題に丁寧に対応することは難しい。</li><li>・必要な支援を学校が担うのは、多忙な学校現場が、更に負担を抱えることになる。</li></ul> <p>〈高校での対応の難しさ〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・本人が 18 歳以上だと支援が得られない場合や、家庭内へ学校が介入しづらい場合があり、対応が難しい。</li><li>・中学校を卒業すると、連携する市町村が全県に渡るため、学校だけでの対応は難しい。</li></ul>
支援にあたり必要な施策、取組等
<p>〈相談・支援体制の充実〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・世話をしていることを保護者や本人が隠す傾向もあり、学校だけでの支援の限界を感じた。行政や福祉との連携を進めるため、SSW や SC の配置を充実させてほしい。</li><li>・学校や本人・保護者が相談できる機関が増えるとよい。</li></ul>

- ・児童相談所や福祉に携わる人の数を充実させ、学校が相談したいときにすぐに動ける体制にしてほしい。
- ・市町村の行政機関に、ヤングケアラーに対応する部署ができれば、具体的に支援につながるのではないかと。外国籍の家庭の支援のため、行政の外国人対応の充実も必要。
- ・高校生は、人に相談することに慣れておらず、自分の困りごとを伝えられない。小学生くらいから、相談しやすい環境と、相談を受けたらしっかりと支援につなげられるモデルづくりをして対応することで、「困ったら相談していい」という意識づけをする必要がある。
- ・要介護者に十分な支援がいきわたるための福祉の充実や、要介護状態の保護者に対する資金的援助等、社会的な支援策を充実させることで、早期介入した際に、相談しやすい環境を整備してほしい。
- ・養育支援や外国籍家庭へのサポートがもっと充実すると良い。

#### ＜関係機関の連携強化＞

- ・学校だけでできることは限られている。市町の福祉課など、関係機関がすぐに対応できる仕組みづくりを早急をお願いしたい。
- ・学校卒業後も、当事者の子どもは、社会的経済的自立ができる年齢まで公的で持続的な支援が求められる。医療、福祉、学校が連携できるための調整の役割を担う担当を設置しないと継続的な支援ができない。
- ・家庭環境が大きな要因であると考えるので、市の機関または地区の民生委員の方々と連携を図る必要がある。

#### ＜研修等の実施＞

- ・教職員がヤングケアラーの定義や対応について、学ぶ研修等の機会が必要である。
- ・ヤングケアラーを発見するスキル等を学ぶ機会や情報があるとよい。

#### ＜周知・啓発＞

- ・子ども自身がヤングケアラーの自覚がない場合が多いため、広く周知を図ることが必要である。
- ・保護者が支援を受けやすいように、啓発をしていく必要がある。

### 学校がすべきこと、担うべき役割

#### ＜実態の把握＞

- ・ヤングケアラーと疑われるケースについては、子どもの個別面談を進めたり、校内生活における様子を観察したりして、変化に敏感でなければならない。保護者からの聞き取りも、場合によっては行う必要がある。
- ・大人が良かれと思って対応したことが、その子の生きがいを奪ってしまうこともあるため注意が必要である。その子が何を望んでいるかを的確に把握することが必要である。

#### ＜相談しやすい環境づくり＞

- ・学校では教職員と子どもの関係を良好なものにし、いつでも相談できるよう、継続して取り組んでいく。

#### ＜校内の連携＞

- ・担任の先生たちだけで抱えず、管理職も含め全校体制で意識していきたい。



#### (4) 個別の事例

ヤングケアラーと思われる子どもを「支援している事例がある」と回答した学校に、①支援によって子どもの生活状況や様子等に変化がみられた事例、②支援が困難であった事例について1件ずつ聞いたところ、結果は以下のとおりである。

##### ① 性別

図表－284 性別

	①支援による変化あり n=99	②支援が困難 n=66
女性	61.6	60.6
男性	36.4	37.9
その他	0.0	0.0
無回答	2.0	1.5

(%)

##### ② 学校・学年

図表－285 学校・学年

	①支援による変化あり n=99	②支援が困難 n=66
小学校低学年	8.1	6.1
小学校高学年	32.3	25.8
中学生	35.4	48.5
高校生	23.2	18.2
無回答	1.0	1.5

(%)

### ③ 学校生活の状況

①の事例では「精神的な不安定さがある」(54.5%)が最も高く、次いで「学校を休みがちである」(48.5%)が高くなっている。②の事例では「学校を休みがちである」(75.8%)が最も高く、次いで「精神的な不安定さがある」(48.5%)が高くなっている。

図表－286 学校生活の状況(複数回答)

	①支援による変化あり n=99	②支援が困難 n=66
学校を休みがちである	48.5	75.8
遅刻や早退が多い	39.4	42.4
保健室で過ごしていることが多い	8.1	15.2
精神的な不安定さがある	54.5	48.5
身だしなみが整っていない	21.2	27.3
学力が低下している	27.3	36.4
宿題や持ち物の忘れ物が多い	26.3	19.7
保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い	30.3	33.3
学校に必要なものを用意してもらえない	18.2	27.3
部活を途中でやめてしまった	4.0	4.5
修学旅行や宿泊行事等を欠席する	5.1	16.7
校納金が遅れる、未払い	26.3	19.7
その他	6.1	9.1
無回答	1.0	3.0

### ④ 家族構成

①の事例では「ひとり親家庭」(44.4%)が最も高く、②の事例では「二世帯世帯」(43.9%)が最も高くなっている。

図表－287 家族構成

	①支援による変化あり n=99	②支援が困難 n=66
二世帯世帯	39.4	43.9
三世帯世帯	7.1	10.6
ひとり親家庭	44.4	37.9
その他	8.1	6.1
無回答	1.0	1.5

⑤ ケアの状況

i) ケアの状況の把握

ケアの状況を把握しているか聞いたところ、①、②の事例ともに「はい」の割合がほとんどを占めている。

図表－288 ケアの状況の把握

	①支援による変化あり n=99	②支援が困難 n=66
はい	85.9	83.3
いいえ	13.1	13.6
無回答	1.0	3.0

ii) ケアを必要としている人

ケアの状況を把握していると回答した学校に、ケアを必要としている人を聞いたところ、①の事例では「きょうだい」(58.8%)が最も高く、②の事例では「母親」(61.8%)が最も高くなっている。

図表－289 ケアを必要としている人(複数回答)

	①支援による変化あり n=85	②支援が困難 n=55
母親	49.4	61.8
父親	14.1	10.9
祖母	2.4	5.5
祖父	1.2	1.8
きょうだい	58.8	54.5
その他	1.2	3.6
無回答	0.0	0.0

### iii) ケアを必要としている人の状況

ケアの状況を把握していると回答した学校に、ケアを必要としている人の状況を聞いたところ、①、②の事例ともに「若い」がそれぞれ 49.4%、45.5%と最も高くなっている。

図表－290 ケアを必要としている人の状況(複数回答)

	①支援による変化あり n=85	②支援が困難 n=55
高齢(65歳以上)	3.5	5.5
若い	49.4	45.5
要介護(介護が必要な状態)	5.9	9.1
認知症	0.0	3.6
身体障がい	7.1	7.3
知的障がい	4.7	10.9
精神疾患(疑い含む)	15.3	32.7
依存症(疑い含む)	5.9	7.3
精神疾患・依存症以外の病気	10.6	9.1
その他	24.7	20.0
わからない	4.7	3.6
無回答	1.2	0.0

#### iv) ケアの内容

ケアの状況を把握していると回答した学校に、ケアの内容を聞いたところ、①、②の事例ともに「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」(①63.5%、②65.5%)が最も高く、次いで「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」(①37.6%、②47.3%)が高くなっている。

図表－291 ケアの内容(複数回答)

	①支援による変化あり n=85	②支援が困難 n=55
家事(食事の準備や掃除、洗濯)	63.5	65.5
きょうだいの世話や保育所等への送迎など	37.6	47.3
身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	14.1	12.7
外出の付き添い(買い物、散歩など)	9.4	12.7
通院の付き添い	5.9	7.3
感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	25.9	36.4
見守り	28.2	27.3
通訳(日本語や手話など)	10.6	7.3
金銭管理	5.9	9.1
薬の管理	3.5	3.6
その他	15.3	7.3
わからない	0.0	0.0
無回答	0.0	0.0

### ⑥ ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ

ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけとしては、①、②の事例ともに、「子ども本人から話を聞いた」がそれぞれ 78.8%、84.8%と最も高く、次いで「子どもの学校生活の状況、様子から」(① 46.5%、②42.4%)が高くなっている。

図表－292 ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ(複数回答)

	①支援による変化あり n=99	②支援が困難 n=66
子ども本人から話を聞いた	78.8	84.8
子どもの学校生活の状況、様子から	46.5	42.4
学校での面談やアンケートから	31.3	27.3
養護教諭、SC、SSWからの報告	29.3	27.3
保護者・親族からの相談や保護者の状況から	22.2	27.3
家庭訪問	18.2	19.7
出身校園からの引継ぎ	10.1	18.2
その他	14.1	13.6
無回答	1.0	0.0

図表－293 <参考> ヤングケアラーと気づいた理由・きっかけ(学校種別)(複数回答)

		調査数 (n=)	子ども本人から話を聞いた	子どもの学校生活の状況、様子から	学校での面談やアンケートから	養護教諭、SC、SSWからの報告	保護者・親族からの相談や保護者の状況から	家庭訪問	出身校園からの引継ぎ	その他	無回答
①支援による変化あり	小学校	40	72.5	50.0	27.5	27.5	30.0	20.0	5.0	12.5	0.0
	中学校	36	80.6	47.2	36.1	33.3	19.4	27.8	11.1	11.1	2.8
	高校(全日制)	20	85.0	40.0	30.0	25.0	15.0	0.0	20.0	25.0	0.0
	高校(定時制・通信制)	3	100.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
②支援が困難	小学校	22	81.8	40.9	13.6	22.7	22.7	9.1	4.5	9.1	0.0
	中学校	32	87.5	43.8	34.4	31.3	34.4	28.1	31.3	18.8	0.0
	高校(全日制)	7	71.4	14.3	14.3	14.3	14.3	0.0	14.3	14.3	0.0
	高校(定時制・通信制)	5	100.0	80.0	60.0	40.0	20.0	40.0	0.0	0.0	0.0

⑦ 支援に関わった機関

支援に関わった機関としては、①の事例では「市町村の福祉部門(要対協を除く)」と「児童相談所」(40.4%)が最も高く、②の事例では、「市町村の福祉部門(要対協を除く)」(53.0%)が最も高くなっている。

図表-294 支援に関わった機関(複数回答)

	①支援による変化あり n=99	②支援が困難 n=66
市町村または県教育委員会	35.4	40.9
要保護地域対策協議会(要対協)	16.2	28.8
市町村の福祉部門(要対協を除く)	40.4	53.0
児童相談所	40.4	48.5
その他	21.2	12.1
無回答	14.1	6.1

図表-295 <参考> 支援に関わった機関(学校種別)(複数回答)

		調査数 (n  )	市町村または県教育 委員会	要保護地域対策協議 会(要対協)	市町村の福祉部門 (要対協を除く)	児童相談所	その他	無回答
①支援による変化あり	小学校	40	50.0	27.5	40.0	55.0	20.0	2.5
	中学校	36	36.1	13.9	47.2	36.1	16.7	19.4
	高校(全日制)	20	10.0	0.0	25.0	20.0	30.0	25.0
	高校(定時制・通信制)	3	0.0	0.0	66.7	33.3	33.3	33.3
②支援が困難	小学校	22	45.5	45.5	50.0	40.9	18.2	0.0
	中学校	32	46.9	28.1	59.4	59.4	3.1	6.3
	高校(全日制)	7	14.3	0.0	42.9	28.6	28.6	14.3
	高校(定時制・通信制)	5	20.0	0.0	40.0	40.0	20.0	20.0

⑧ 学校が行った支援、工夫や気を付けたこと、難しかった点、結果と子どもへの変化 ※自由記述

学校が行った支援、支援にあたっての工夫や気を付けたこと、支援にあたり特に難しかった点、支援の結果と子どもへの変化について、以下のような回答があった。

i) 支援によって子どもの生活状況や様子等に変化がみられた事例

■ 小学校

<本人への対応(例)>

学校が行った支援等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任や養護教諭、SC による個別相談</li> <li>・面談、見守り、声かけ、SSW・SC の紹介</li> <li>・個別の学習指導、教育相談</li> <li>・取り出し指導の回数増加</li> </ul>
支援にあたっての工夫や気を付けたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の思いに寄り添えるよう声かけをし、無理をさせない</li> <li>・過度な聞き取りをしない</li> <li>・担任だけでなく様々な役職が話を聞く</li> <li>・教員との信頼関係の構築</li> </ul>
支援にあたり特に難しかった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが困っていることをなかなか話さない</li> <li>・家庭内の課題に踏み込むこと</li> <li>・きょうだいが多く、家庭の事情に配慮して話をするのが難しい</li> </ul>
支援した結果、子どもの変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任等が子どもの思いを受け止めたことで、気持ちが前向きになった</li> <li>・欠席や遅刻が減り、登校時刻も早くなった</li> <li>・無断欠席がなくなった</li> </ul>

<家族への連絡・対応(例)>

学校が行った支援等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との面談</li> <li>・家庭との密な連絡</li> <li>・外国人の保護者と、語学相談員を介した懇談を実施</li> <li>・子どもがきょうだいを世話する時間を制限するよう、保護者に依頼</li> </ul>
支援にあたっての工夫や気を付けたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と学校の信頼関係の構築</li> <li>・別居している祖父母に支援を求めた</li> <li>・親子の話の食い違いが多く、子どもに何度も話を聞いた</li> <li>・本人の意思ではなく、担任からの提案という形で保護者に子どもの家事負担の軽減を依頼</li> </ul>
支援にあたり特に難しかった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人と保護者で話の内容に乖離があり、事実を把握しづらかった</li> <li>・保護者の行動意識に変化が見られにくかった</li> <li>・保護者が都合の悪いことを隠そうとしてうそをつく</li> <li>・家族からの聞き取りの時間の確保が難しかった</li> </ul>



支援した結果、子どもの変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 欠席日数が減った</li> <li>・ 保護者の意識に変容が見られ、本人の精神状態も安定した</li> <li>・ 気持ちが落ち着き、安定しており、遅刻をすることが減った</li> <li>・ 家族の世話を理由とする遅刻がほとんどなくなった</li> </ul>
---------------	--

<外部機関との連携(例)>

学校が行った支援等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭状況を把握した後、市の福祉関係機関につなぎ、支援を検討</li> <li>・ SSW の派遣依頼、要対協への要請</li> <li>・ 行政機関に繋ぎ、就学援助申請の書類作成を援助</li> <li>・ 行政との連携により、放課後児童クラブでの食事提供、ホームヘルパーによる自宅での夕食づくりサポートに繋がった</li> </ul>
支援にあたっての工夫や気を付けたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校、家庭、市の福祉関係機関がそれぞれできることの明確化</li> <li>・ SSW を介した関係者間の情報の共有</li> </ul>
支援にあたり特に難しかった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者が福祉サービスを受けることに消極的</li> <li>・ 保護者が福祉サービスの必要性を感じているかわからない</li> </ul>
支援した結果、子どもの変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校に来られるようになり、勉強の遅れを少し取り戻せた</li> <li>・ 地域の大人や SSW を信頼し、SOS を自ら発信するようになった</li> <li>・ 経済的な心配が軽減され、表情が明るくなった</li> </ul>

■ 中学校

<本人への対応(例)>

学校が行った支援等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担任と毎月教育相談を実施</li> <li>・ 学年主任や養護教諭、県の SC、管理職等との面談による心のケア</li> <li>・ 本人のしたいことと、その実現方法を、選択肢を提示して相談</li> <li>・ 保健室で体と心を休ませる</li> <li>・ 別室登校、夕方登校</li> </ul>
支援にあたっての工夫や気を付けたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共感的に話を聞き、関係職員で情報共有</li> <li>・ 本人の悩み事や困りごとを安心して話すことができる雰囲気作り</li> <li>・ 本人の気持ちを尊重し、自己決定の機会を積み重ねた</li> <li>・ 本人のやりたいことを軸に登校を促した</li> </ul>
支援にあたり特に難しかった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ どこまで家庭の問題に関わってよいのか判断が難しかった</li> <li>・ 本人の欠席が続き、一時期家庭とも連絡が取れなくなった</li> <li>・ 感情表現に乏しく、子どもの気持ちが言葉では伝わらない</li> </ul>
支援した結果、子どもの変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常の学校生活では笑顔も見られ、落ち着いている</li> <li>・ 学校での表情がよくなった</li> <li>・ 家庭の状況も安定し、欠席や保健室登校もほぼなくなった</li> </ul>

<家族への連絡・対応(例)>

学校が行った支援等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SSW、SC が同行しての家庭訪問を定期的を実施</li> <li>・親への協力の呼びかけ、家庭訪問や懇談会で家の様子を聞く</li> <li>・同居していない祖父母に協力を依頼</li> </ul>
支援にあたっての工夫や気を付けたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣に居住する生徒に出会わないよう家庭訪問の時間帯に配慮</li> <li>・保護者にも事情があることを受け止めつつ、生徒の負担感を伝える</li> <li>・保護者の言い分もしっかり聞く</li> <li>・精神疾患のある保護者に対して、祖父母を介して連絡</li> </ul>
支援にあたり特に難しかった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神疾患が疑われる保護者の意識を変えることは、すぐには難しい</li> <li>・本人が世話をしないと妹が困ってしまう</li> <li>・親子が互いの思いを理解できるよう面談で配慮すること</li> </ul>
支援した結果、子どもの変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校中の生徒の表情が明るくなった</li> <li>・早退しない日が増えた</li> <li>・精神的に安定している状態が多く見られるようになった</li> <li>・清潔な身なりで過ごすことができるようになった</li> </ul>

<外部機関との連携(例)>

学校が行った支援等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関の紹介、食糧支援の情報提供</li> <li>・SSW と連携して、市役所の子育て支援課に家庭を繋いだ</li> <li>・保護者の同意を得て、児童相談所へ引率</li> <li>・主任児童委員に繋いだ</li> <li>・校内フリースクールの設立により登校する場所ができ、家庭教育コーディネーターやボランティア学生と連携して心の安定を図った</li> </ul>
支援にあたっての工夫や気を付けたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部機関との連携は担任以外の教員が担当</li> <li>・日本語が十分には理解できない母親に対し、質問に答えてもらえるよう、事前に学校と子育て支援課で連携・情報共有</li> </ul>
支援にあたり特に難しかった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者や本人との連絡がとれない</li> <li>・保護者からの学校生活への理解が得にくかった</li> <li>・保護者が外国籍のため、動いてもらうため粘り強い訪問や連絡が必要</li> <li>・別居している保護者との関係や状態の把握が難しかった</li> </ul>
支援した結果、子どもの変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者と対話ができるようになり、生徒本人は欠席が減り、表情も良好</li> <li>・保護者が学校や子育て支援課に相談するようになり、協力的になった</li> <li>・心の安定が図られ、自力で登校できる日が増えた</li> </ul>

■ 高校

<本人への対応(例)>

学校が行った支援等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面談、カウンセリング</li> <li>・リモートでの学習支援</li> <li>・教員の声掛け、担任・副担任の聞き取り</li> <li>・保健室来室時の心身の健康状態と家庭状況の把握</li> </ul>
支援にあたっての工夫や気を付けたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・焦らず本人の気持ちを尊重しながら支援を続ける</li> <li>・普段と違う様子があれば、校内で情報共有</li> <li>・保護者に連絡する際、事前に内容を本人に伝達</li> </ul>
支援にあたり特に難しかった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンタルの不調が著しく、その原因や本人の訴えの本質を掴みかねた</li> <li>・保護者に家のことは口止めされていると聞き、本人の心情に配慮しながら対応せざるを得ない</li> </ul>
支援した結果、子どもの変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・徐々に安定し、学校生活を送ることができるようになった</li> <li>・欠席はあるが、学校生活は安定している</li> <li>・本人が教員に愚痴や金銭面の不安を言えるようになった</li> <li>・「進学したい」という気持ちを維持し、受験勉強をしている</li> </ul>

<家族への連絡・対応(例)>

学校が行った支援等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の負担を減らすよう保護者に電話で連絡</li> <li>・家族への助言</li> </ul>
支援にあたっての工夫や気を付けたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者を責めるような伝え方を避ける</li> <li>・関係者から直接話を聞き、親族を巻き込んで話を進める</li> </ul>
支援にあたり特に難しかった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者への伝え方</li> <li>・生徒本人の家庭での役割を大幅に軽減することが困難</li> </ul>
支援した結果、子どもの変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弟や妹の世話で欠席や早退をすることは無くなった</li> <li>・学習や部活動への意欲が向上</li> </ul>

<外部機関との連携(例)>

学校が行った支援等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出身中学校や市役所担当者との情報共有</li> <li>・市役所担当者と本人を繋ぐ</li> </ul>
支援にあたっての工夫や気を付けたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員側の役割分担を明確にして対応</li> </ul>
支援にあたり特に難しかった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人に、大人に相談しても仕方ないという諦め感が強く、何に困っているかわかりづらい</li> </ul>
支援した結果、子どもの変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・わずかに教員との会話が増えた</li> </ul>

## ii) 支援が困難であった事例

### ■小学校

#### <本人への対応(例)>

学校が行った支援等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守り、相談</li> <li>・登校できるように教員が迎えに行く</li> <li>・週に一度、SCと個別に相談室で給食を食べる時間を設定</li> </ul>
支援にあたっての工夫や気を付けたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・きょうだいの世話をすること自体を否定しない</li> <li>・秘密を守ることを約束する</li> <li>・給食を食べられる時間や友だちと遊ぶことができる時間など登校しやすいタイミングで迎えに行く</li> </ul>
支援にあたり特に難しかった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校せず、電話や家庭訪問にも中々出ず、毎日の状況がつかみにくい</li> <li>・すぐに改善までにいけないこと</li> </ul>
支援した結果、子どもの変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼いきょうだいの世話をしている状況は変わらない</li> <li>・状況はあまり変わらないが、頑張ろうという気持ちが育ってきている</li> <li>・あまり変化はない</li> </ul>

#### <家族への連絡・対応(例)>

学校が行った支援等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な電話、家庭訪問、保護者への声掛け</li> <li>・保護者の話を丁寧に聞く</li> <li>・学習が遅れることを保護者に丁寧に説明</li> </ul>
支援にあたっての工夫や気を付けたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者との関係を維持する</li> <li>・なるべく保護者に寄り添うような言い方をする</li> <li>・学校への苦情の多い保護者に丁寧に対応する</li> </ul>
支援にあたり特に難しかった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が学校を拒否しないよう対応すること</li> <li>・精神疾患のある保護者とのコミュニケーション</li> <li>・子どもが毎朝叱られて遅刻し、心配だったが家庭に踏み込めない</li> <li>・子どもの学校生活について、保護者の関心が低い</li> </ul>
支援した結果、子どもの変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校はさせてもらえないが、電話で会話したり家庭訪問の際に会ったりすることは継続できている</li> <li>・あまり変化はない</li> </ul>

#### <外部機関との連携(例)>

学校が行った支援等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や関係機関による家庭訪問</li> <li>・児童相談所と連携して、保護者に働きかけ</li> </ul>
支援にあたっての工夫や気を付けたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関や幼いきょうだいが通っている保育園との情報交換</li> <li>・学校だけで問題を抱えない</li> <li>・子どもとの信頼関係の構築</li> </ul>

支援にあたり特に難しかった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が協力的でない</li> <li>・すぐに改善に至らない</li> <li>・保護者に働きかけても一時的にしか状況が改善されない</li> </ul>
支援した結果、子どもの変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別な変化はないが、たまに登校できた時には、学級の友達と楽しそうに過ごしている</li> <li>・子どもの希望で一時保護となった</li> </ul>

## ■ 中学校

### <本人・家族への対応(例)>

学校が行った支援等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話、家庭訪問、タブレットによる会話</li> <li>・宿題の支援、学習支援</li> <li>・体調不良時の自宅への送迎、遅刻時の迎え</li> <li>・本人・保護者との三者面談</li> <li>・親子のカウンセリング</li> </ul>
支援にあたっての工夫や気を付けたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人に寄り添い、温かい姿勢で接する</li> <li>・本人と出来る限り話し、状況把握と支援について相談</li> <li>・疲れている時は声かけをし、保健室で休養させ、養護教諭が話を聞く</li> <li>・家でやることをリスト化し、優先順位を考えるようにした</li> <li>・保護者との良好な関係づくり</li> <li>・家に帰って、本人が保護者から暴力や叱責を受けないよう、報告方法・内容に注意</li> </ul>
支援にあたり特に難しかった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人が家事ときょうだいの世話を当たり前と考え、保護者をあてにせず、学校に相談もしなかった</li> <li>・家族の仕事が忙しくあまり連絡が取れない</li> <li>・保護者の養育能力が低く、子どもへの愛情も乏しかった</li> <li>・保護者の理解が得られない</li> </ul>
支援した結果、子どもの変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まだ安心感を持たせることしかできていない</li> <li>・子どもが不安を訴えても、家計が苦しいため母は夜働くことをやめるつもりはない</li> <li>・洗濯や遅刻に気をつけている時もあるが、本人の意欲が続かない</li> <li>・家庭の状況に変化はないが、家事は生徒本人がやることではないと認識し、自分の人生を考えるようになった</li> </ul>

### <外部機関との連携(例)>

学校が行った支援等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部機関や小学校との連携、ケース会議の実施</li> <li>・教育委員会、子育て支援課等と連携、ケース会議を定期的実施</li> <li>・コミュニティソーシャルワーカー(CSW)、児童課と支援方法を協議</li> <li>・SSW、生徒指導コーディネーターによる他機関との連携</li> <li>・SC、教育サポーターによる面談</li> </ul>
-----------	---

支援にあたっての工夫や気を付けたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関との細かな連携</li> <li>・キーパーソンとなっている祖母の相談を、CSW が受けた</li> <li>・本人の現在状況をタイムリーに捉え、関係機関で情報共有</li> <li>・卒業後も支援が継続できるように、市の関係機関と連携</li> </ul>
支援にあたり特に難しかった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が支援を受けようとしていない</li> <li>・関係機関との連携で、電話では要点が伝わらないことがある</li> </ul>
支援した結果、子どもの変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一時的にしか登校頻度が増えない</li> <li>・現在も支援継続中であり、変化は特に見られない</li> </ul>

## ■ 高校

### <本人・家族への対応(例)>

学校が行った支援等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面談、カウンセリング</li> <li>・学習支援</li> <li>・保護者に医療機関受診を勧めた</li> </ul>
支援にあたっての工夫や気を付けたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡がとれない状況を改善する努力をし、本人とのコミュニケーションを増やした</li> <li>・担任がSSWに電話で相談し、対応の助言を受けた</li> </ul>
支援にあたり特に難しかった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭環境の複雑さ、本人の体調の問題</li> <li>・家庭との連携、家庭の状況把握</li> <li>・保護者が自らの身体の症状に困っておらず受診しなかった</li> </ul>
支援した結果、子どもの変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・状況が目に見えて改善したとは言えないが、卒業に向けた支援を継続</li> <li>・本人は進路実現に向けて落ち着いて取り組んでいるが、家庭環境に変化はない</li> </ul>

### <外部機関との連携(例)>

学校が行った支援等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童相談所と本人をつなぎ、面談</li> <li>・ケース会議、ケアマネ等との情報共有</li> <li>・地域の子育て支援課、出身中学校との連携</li> </ul>
支援にあたっての工夫や気を付けたこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・面談や児童相談所の介入によって、本人が心を閉ざさないように配慮</li> <li>・家族関係や介護負担などの中から、生徒にとっての最善の利益を考え、ケース会議などを通して情報共有しながら探っている</li> <li>・本人の考え方を尊重しつつ、連携を提案すること</li> <li>・本人に期待を持たせるような発言は控え、正確な情報を伝えた</li> </ul>
支援にあたり特に難しかった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の精神状態が悪く、支援を受け入れる余裕がない</li> <li>・複雑な家族関係を考慮する必要がある</li> <li>・本人があまり外部に知られたくなく、自分だけで何とかしようとする</li> <li>・学校や地域でできることの限界を感じた</li> </ul>
支援した結果、子どもの変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人が支援を求めないため、外部機関に繋がっているかわからない</li> <li>・登校はするようになったが、根本的な解決には至っていない</li> </ul>

## 第4章 インタビュー調査

### 1. インタビュー調査の実施概要

家族のお世話をしていたことでの悩みや困り事、ヤングケアラー支援に必要な視点、取組状況や課題等を把握し、具体的な支援策を検討するため、元ヤングケアラー、自治体、関係機関、学校にインタビュー調査を実施した。

#### (1) 調査対象・実施時期

図表－296 調査対象・実施時期

区分	対象	対象数	実施時期
元ヤングケアラー	ヤングケアラーとしての経験を持つ大学生、社会人	計8名	2021年12月～2022年1月
自治体・関係機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 豊橋市こども未来部こども若者総合相談支援センター ココエール</li> <li>・ 豊田市福祉総合相談課</li> <li>・ 愛知県中央児童・障害者相談センター</li> <li>・ 愛知県西三河児童・障害者相談センター</li> <li>・ 県立学校スクールソーシャルワーカー</li> <li>・ 半田市社会福祉協議会</li> <li>・ わいわい子ども食堂・寺子屋学習塾</li> <li>・ 公益財団法人豊田市文化振興財団</li> <li>・ NPO 法人葵風障がい者デイサービスいちほし</li> <li>・ 愛知県居宅介護支援事業者連絡協議会</li> <li>・ 愛知県医療ソーシャルワーカー協会</li> <li>・ 名古屋大学医学部附属病院</li> <li>・ 愛知県重症心身障害児(者)を守る会</li> <li>・ 愛知県自閉症協会つぼみの会</li> <li>・ きょうだい会@Nagoya</li> </ul>	計15か所	2021年12月～2022年1月
学校	アンケート調査を踏まえ、ヤングケアラーの支援策の検討において参考となる取組や事例がある小学校、中学校、高等学校	計10校 小学校3校 中学校4校 高等学校3校	2022年1～2月

#### (2) 調査方法

対面またはオンラインでインタビューを行った。

## 2. 元ヤングケアラーインタビュー調査結果

### (1) インタビュー対象者

以下の8名にインタビューを行った。

図表－297 ケアの対象者及び行っていたケアの内容

	ケアの対象者、行っていたケアの内容
Aさん	難病の妹のケア。食事の手伝い、見守り、判断のサポートなどを担っていた。
Bさん	精神障害、身体障害のある母親のケア。小学校低学年から家事、日常生活のサポートなどを担っていた。
Cさん	脳性麻痺の妹のケア。食事や着替えの手伝い、見守り、身体介助などを担っていた。
Dさん	難病の妹のケア。トイレや入浴介助、移動の支援などを担っていた。
Eさん	精神障害のある弟のケア。弟の精神的ケア、家庭内での関係調整や外部機関への連絡役等を担っていた。
Fさん	知的障害のある兄のケア。常時の見守り、発作時の対応などを担っていた。
Gさん	精神障害のある母親のケア。家事、買い物、入浴やトイレの介助といった身体介助などを担っていた。
Hさん	難病の母のケア。小学校高学年から家事、買い物、弟の世話などを担っていた。

### (2) インタビュー結果

#### ① ヤングケアラーであることの認識

- ・ 妹の存在で自分が困っているとも思わないし、妹をケアしているとも思っていない。(Aさん)
- ・ 他の家庭のことは分からないので、自分にとっては手伝いをするのが当たり前だった。今でもヤングケアラーであったという自覚はあまりない。(Bさん)
- ・ 子どもの頃は自分自身がケアをしていたという意識はなかった。自覚したのは、大人になってヤングケアラーという言葉が出始めた頃からである。(Cさん)
- ・ ヤングケアラーの自覚はなく、生まれたときから妹がいることが日常だったので、当たり前と思っていた。当時、自分がヤングケアラーだと気づいても、否定していたと思う。大人になった自分が「ヤングケアラー」と気づいたときでさえ、辛く混乱したので、子どもの自分に言われると、消化しきれなかったと思う。(Dさん)
- ・ 家事手伝いというイメージで、お手伝いの延長として担っていたため、ヤングケアラーという自覚はなかった。(Hさん)



## ② ケアを担っていることで大変だったこと、辛かったこと

### i) 他の人との違い

- ・ 年齢が上がるにつれ思春期にさしかかり、他の家との違いを意識するようになった。それが一番辛かった。(Fさん)
- ・ 友人が時々学校のノートを持ってきてくれたが、ありがたかったものの、皆と自分の生活が異なることに対する劣等感を感じる瞬間でもあった。ただ、友人がくることで自分が普通ではないと自覚できた面もある。(Gさん)

### ii) ケアの対象者に対する周囲の目

- ・ ケアそのものよりも、周囲の人が障害のある母親のことを「親」として見ていないということが辛かった。周囲の人にちゃんと障害のある母親本人を見てほしいし、母親本人の意思が尊重されるようにしてほしいと、すごく思った。(Bさん)
- ・ ケアをしていてしんどかったこととして、周囲の目があった。妹がいることで、周囲からいろいろと言われることが辛かった。(Dさん)

### iii) 病気や障害、ケアに関する知識がないことによる対応の難しさ

- ・ 自分が親の福祉サービスなどを考えなければならず、それについて若い時は知識がなかったので、大変だった。(Bさん)
- ・ パニック障害が起こった時に、どのように対応したらよいか分からず、やり過ぎすしかなかった。(Bさん)

### iv) 身体的な辛さ

- ・ 昼夜逆転の母と暮らしていることで、生活リズムが崩れて自律神経不調になりメンタルクリニックに通院している。めまいや不眠などの体調不良が辛かった。(Gさん)
- ・ とにかくやるが多かったため、身体が疲れていた。(Hさん)

### v) 精神的なケアをすることの負担

- ・ 一番辛かったことは、母がパニックになった場合にリストカットをし、救急車や警察を呼ばなくてはならなかったことである。また、幾度もリストカットを目前でされるため、自分がリストカットしているような気持ちにもなった。(Gさん)
- ・ 外出しようとする母が自殺行為を働く程度のパニック状態になった。死んでほしくないし、母を失いたくないという思いから、必死にケアをしていた。生活必需品購入のための外出の際には最短時間で帰宅できるように走っていった。(Gさん)

### vi) 学校生活、進路への影響

- ・ 妹が寝ない時にケアをすることで眠れず、学校生活が辛いことはあった。(Cさん)
- ・ 通っていた高校は進学校だったため、宿題が多くやり切るのが大変だった。やり切ることができないと怒られることもあり、辛かった。(Hさん)

- ・ 大学進学に際し、行きたい大学が家から遠く、父親から「家から通えない大学へ行ったら誰が面倒をみるのか」と言われ、行きたい大学をあきらめた。(Hさん)

#### vii) ケアから離れることへの罪悪感

- ・ 兄が施設に入所したことで、自分の役割と思い背負ってきたことが一気になくなり、虚無感に襲われた。自分が楽になるという感情はなく、自分が至らないから家族がバラバラになってしまふという罪悪感が強かった。(Fさん)

#### viii) 大変であると認識していない

- ・ 妹の面倒をみることは当たり前と認識していたため、何を我慢していたのかを自分でも理解していない。(Aさん)
- ・ 自分がしなければ母の負担になるだけであり、妹の世話をすることで「自分が役に立っている」という存在価値を感じている部分もあったため、嫌になったり誰かに助けを求める気持ちになったりしたことはない。(Cさん)
- ・ 小さな我慢はたくさんあったが、ケアをしていたことで大きな我慢はしていない。(Dさん)

### ③ 相談の状況、相談相手

#### i) 相談しようと思わなかった、相談できなかった

- ・ 家庭環境について周りに相談をしたことは一度もない。誰かに相談したほうがいいことだと認識したことがなく、相談したいという気持ちもないし、相談相手もなかった。(Bさん)
- ・ 子どもの世界は狭く、知っている大人は母の知り合いが多く、「お母さん、頑張っているものね」と言われると、相談しようという考えにはならなかった。(Cさん)
- ・ 学業がふるわなくなったときに、担任の先生から理由を聞かれたが、事情を話しても大した反応はなく、「頑張れよ」と言われただけであり、相談できるような状況ではなかった。(Cさん)
- ・ 自分にはそもそも相談する相手がなく、基本的に外とのつながりがなかった。(Eさん)
- ・ 誰かに相談したことはない。家族が介護するのが当たり前で、母と兄が一番大変なのであって、自分に対する眼差しや気遣いはなかったように思う。(Fさん)
- ・ 自分が SOS を出すと母の精神が不安定になりパニックの引き金になるため言い出せなかった。(Gさん)
- ・ 相談といっても何を相談してよいのかわからなかった。母がよくなるように助けてほしいと思っていたが自分を助けてほしいと思わなかった。(Gさん)
- ・ 学校の先生は相談相手にはならなかった。学校へも行けていなかったため相談しづらかった。(Gさん)

#### ii) 学校の先生へ相談

- ・ 小学校時の先生がよい人で、自分のことも気にかけてくれて、妹のことも支援してくれた。その先生については、「自分のことをちゃんと見てくれていた先生」だと思った。(Dさん)

- ・ 高校生の時にストレスでやせてしまい、それに気が付いてくれた先生が学校でご飯を食べさせてくれるなど気にかけてくれた。ただ、学校の先生には状況は話していたが本質的な悩みは話すことはできなかった。言語化することが難しかった。(Hさん)

### iii) スクールカウンセラーへ相談

- ・ 唯一、家庭内の話ができしたのは、高校のときのスクールカウンセリングだった。(Eさん)

### iv) 子ども食堂との関わり

- ・ 子ども食堂を訪問したことをきっかけに市へ連絡が入り、母のケースワーカーとともに市の担当者が来て、自分の話を聞いてくれた。親のことではなく、自分のことを考えてくれる支援者に初めて関わった。(Gさん)

## ④ 受けてよかったと思う支援

- ・ 信頼していた支援者が、自分が外出することにより母が死んでしまうというのは誤った考えであるということを教えてくれたことで、初めて開き直ることができ、自我が出てきた。(Gさん)
- ・ 中学3年間は不登校で卒業後も高校へ進学していなかったが、市の方の支援や学習コーディネーターとの出会いもあり、高校へ進学することに決めた。市の方の支援や学習コーディネーターが高校入試や勉強方法など伴走型で支援してくれた。(Gさん)
- ・ 病院の医療ソーシャルワーカーから紹介されて、ヘルパー、訪問看護のサービスは利用していた。また心臓の病気もあったため、最終的には安否確認や緊急連絡装置の利用もしていた。自分たちが不在の間に何か起きても緊急連絡装置があることで心理的な不安は軽くなった。(Hさん)
- ・ 医療ソーシャルワーカーやリハビリの先生は視野が広くよい先生であった。声掛けはたくさんあり、それに救われたこともあった。(Hさん)

## ⑤ 今後、ヤングケアラーに必要な支援、取組みについて

### i) 周囲の大人がヤングケアラーの SOS のサインを見逃さないこと

- ・ 小学生時代に頻繁に腹痛や頭痛を起こしたり、トイレが近くて病院に連れていかれたりしたこともあった。今考えるとストレスから起こるものではないかと思う。病院で特段診断がでなかったが、体の異変が起きたことについて、何かストレスがあるのではないかと、気にしてくれる大人がいればよかったと思う。(Aさん)
- ・ 先生など子どもと関わる周囲の大人が、子どものヘルプを見過ごさないことが大事である。言葉ではない SOS の出し方として、例えば、いつもは悪いことはしない子どもが悪いことをする場合がある。単なる悪いこと、わがままと流さず、その子どもの背景を見て、言葉にならない SOS を汲み取ってほしい。(Dさん)
- ・ 周囲の大人が、毎日、「今日はどう?」、「何かあった?」と聞いていると、「今日は元気じゃない」と言える日があるかもしれない。そのときのサインを見逃さないでほしい。(Dさん)
- ・ 子どもは自分自身をヤングケアラーと自覚することは難しいため、周りが気付いてあげることが必要である。(Hさん)

## ii) 相談できる人、相談しやすい環境

- ・ もし当時、自分の境遇を理解し、秘密を守ってくれる人がいればきっと話せたと思う。自分のことを見てくれる人がいるというだけでやはり違ったのではないかと思う。(Fさん)
- ・ 常に相談できなくてもいいので、一人でどうしたらよいか悩んだ時や、親が入院することになった時に、相談先の連絡先が分かっているとよい。(Bさん)
- ・ 相談方法は、SNS も含めて複数の媒体があるのがよい。対面で話したい人もいれば、匿名で誰にもなくつぶやくことでスッキリする人もいる。Twitter 等で同じ状況の人とつながることができる、遠慮なく話ができるようになることもある。(Cさん)
- ・ SNS で自分の思いを語っている子も多いが、共通しているのは匿名性。自分の身元がばれないようにしている。とにかく誰かに話を聞いてほしいという思いが強いと感じる。(Fさん)
- ・ 学校にスクールカウンセラーがいたので何度か行こうかと思ったが、スクールカウンセラーはいじめに遭っている子どもが相談に行くイメージが強かったため、行けなかった。自分から行くのはハードルが高いため、スクールカウンセラーの方から来てくれるとよい。(Dさん)
- ・ 家にまで足を運んでくれる人、家庭の現場を知っている人がよい。保健室やカウンセリングの部屋で聞く話では、子どもたちの言葉から背景まで想像しきれない。子どもだからこそ言語化できていないこともたくさんあると思われるので、大人の目で見る必要があると思う。(Fさん)

## iii) 専門職と話ができる機会

- ・ 学校外の専門職、例えばスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが来てくれて、話をしていれば、家庭環境についての相談もできたのではないかと思う。(Bさん)
- ・ 誰かに本質的な話をするには相応の時間がかかるし、聞く側のテクニックも必要である。専門職が時間をとって聞いてくれる場があればよかったと思う。(Hさん)
- ・ 介護の最中だけでなく、グリーフケアのような、介護が終わった後にも心理的な関わりが必要である。特に思春期に、技術のある専門職に話を聞いてほしいと思う。(Hさん)

## iv) 学校の先生の声掛け

- ・ 先生には特に目を配ってほしいと思う。ちょっとした声掛けから心が軽くなることもある。ヤングケアラーには学校の先生が一番身近である。(Aさん)
- ・ まずは学校の担任の先生が気づいてあげることが大事である。(Eさん)

## v) 家庭全体の支援

- ・ 妹よりも先に一緒にケアを担っていた母への支援が必要と思う。母は、妹の体重管理にとっても慎重になっており、神経をとがらせていた。自分も妹ばかりを構う母への寂しさから母に強く当たってしまい、家庭内が殺伐としてしまったこともある。(Aさん)
- ・ 普段障害のある子に手がかかり、障害のない子どもに時間をかけられない場合、レスパイトを利用して親子の時間を作れるとよい。支援が必要なのは自分ではなく家族だ、と思っている子がほとんどではないかと感じる。だから「あなたに支援が必要だ」というメッセージは恐らく受け入れにくい。「家族を助ける方法がある」ということであれば受け入れやすいと思う。(Fさん)

#### vi) 家事などの支援

- ・ 障害福祉サービスでは、障害のある本人のケアだけが対象であり、家族分の洗濯や掃除は対象外である。親が担うべき家事を親が担えない場合に、その家事をサポートできるような制度ができるとよい。(Bさん)
- ・ 障害福祉サービスのヘルパーが来たことで、難病の母親の分については食事の作り置きをしなくてもよくなったが、家族の分は自分で対応する必要があり、それほど負担の軽減にならなかった。(Hさん)
- ・ 家事負担を減らしてくれる支援やサービスがあれば負担が減らせると思う。(Fさん)

#### vii) 同じ境遇の人と話す機会

- ・ 自分と同じ境遇の人と話すことで共感してもらえることがうれしく、集まりに参加することで落ち着くことができている。同じような境遇にある子どもが「行ってよかった」、「楽しい」と思えるような経験を積みればよいと思う。(Dさん)
- ・ ただし、そうした集まりも子どもにとっては未知の世界なので、1人で行くのは難しく、学校の先生など信頼している人が一緒に連れて行ってくれるなら、支援の場に行けると思う。(Dさん)
- ・ イギリスでは学校で障害のあるきょうだいをもつ子どもを定期的を集めて、一緒にランチをする取組が行われている。こうしたヤングケアラーの可能性のある子どもが集まる場は設けてもよいと思う。(Eさん)

### 3. 自治体・関係機関インタビュー調査結果

#### (1) 豊橋市こども未来部こども若者総合相談支援センター ココエール

##### ① 当機関におけるヤングケアラーの把握・支援の状況について

##### i) ヤングケアラーに関する相談等の状況

###### <市民や関係機関からの相談等の状況>

- ・ こども若者総合相談センター ココエール(児童福祉法上の子ども家庭総合支援拠点)はヤングケアラーに関する市の相談窓口となっており、要対協の調整機関でもある。
- ・ 地区担当職員が虐待や生活困窮を含めたさまざまな相談の中で、ヤングケアラーの対応も行っている。要保護児童・要支援児童に登録されている子どもへの支援の一環として、ヤングケアラー支援も行っている。
- ・ ヤングケアラーに関する相談は、小中学校からが多い。また、保健師や保育所からの低年齢児の相談で、年長の子どものヤングケアラーの可能性のあるケースもある。

###### <子ども本人からの相談等の状況>

- ・ ココエールでは子ども専用相談ダイヤルを設け、子どもが無料で相談できるようにしているが、現状では子ども本人からの家事や家族の介護に関する相談はない。

##### ii) ヤングケアラーの事例と対応について

###### <市で行った支援と関係機関との連携>

- ・ 病院から医療ネグレクトケースの通告があった。母親の精神疾患が要因で、自身も適切な医療を受けておらず、家事等も小学生の長子が担っている状態であった。
- ・ 通告を受け、まず児童相談所に医療ネグレクトとして連絡した。ココエールが調整し、長子の小学校、保健所、医療機関等が、情報共有・周知するケース会議を迅速に開催した。
- ・ 母親をまず医療につなぐことが大事という共通認識を持ち、母親の精神面の受診調整は健康増進課が動いた。保健所を中心に親族にも協力を働きかけた。子どもたちへの支援は児童相談所やココエールが役割分担を決めて行い、長子の小学校には見守りの強化を依頼、スクールソーシャルワーカー(以下「SSW」という。)に協力してもらい、長子の気持ちや精神的負担を定期的に把握した。
- ・ 結果、母親は入院して治療することになり、子どもの治療も開始できた。また、祖母による家事の支援で生活が安定してきた。

###### <支援において工夫した点、困難だった点>

- ・ 通告の数か月前から、子どもの救急搬送が続いていたため、病院とも事前に連絡を取り合っていたことから、互いにアンテナを張られており、比較的早期の介入に繋がった。地域の拠点である医療機関の相談部門には要対協のメンバーとして入ってもらっており、心配なケースについては連絡をとるよう心掛けていた。
- ・ 通告があつてからはほぼ毎日、関係機関とやりとりをした。ココエールが行って対応してもらえなければ健康増進課に行ってもらうなど、連携して毎日家庭訪問をし、家族に働きかけた。

- ・ 母親の受診の調整や親族の理解を得るのが困難だった。親族は強引に医療受診を進めることで家族の関係性が崩れることを心配していた。関係機関と親族との信頼関係の構築が大変だった。

#### ＜あったらよかったと思う取組み、支援体制＞

- ・ 通告ケースの子どもは出生時に病気の発症リスクが高かったが、母親の病気や拒否もありその後の受診に繋がらなかった。乳児期の段階で関係機関の関わりができ、保健師の関わりが継続できていれば、もう少し早く介入できたかもしれない。

### ② 当機関におけるヤングケアラーに関する取組みについて

#### i) 庁内・関係機関との連携

- ・ 学校との連携が多いが、相談があった保健師や保育所、SSW などとも連携している。児童相談所とは、虐待対応での連携が中心である。
- ・ 現状では高齢者部門や障害部門とヤングケアラー対応での連携は具体的には取れていないが、地域包括支援センターと情報共有ができていれば早期支援につながり得た事例もあった。地域包括支援センターやケアマネージャーなどにもヤングケアラーへの理解が広がり、相談に繋がるようになるとよい。
- ・ ヤングケアラーについて継続的な情報共有ができる会議体が必要である。要対協では機関の幅が広くないので、重層的支援体制整備事業を含め、定期的に課題を共有できる場が必要と認識している。
- ・ 他機関にヤングケアラーの実状を理解してもらいにくい場合は、具体例を用いて説明すると、そのような子どもがいるかもしれないとイメージしてもらいやすい。

#### ii) 情報発信・啓発活動

- ・ 豊橋市の HP では、厚生労働省のイラストを引用しながらヤングケアラーの説明を掲載している。
- ・ 今年度は社会福祉を専門とする大学教授に講演してもらい、小中学校教員と主任児童委員の合同で研修会を開催しており、報道発表により一部地方紙に取り上げられたことで市民への周知にもつながった。
- ・ 子ども本人からの相談がほとんどないため、子ども自身への認知度向上の取組みとして、毎年度学校を通じて小学校4年生～高校3年生に配布している啓発カードの裏面に、今年度からヤングケアラーについて記載し、家事や介護等の負担があれば相談してほしいという文言を入れた。

### ③ ヤングケアラーを支援するための課題、今後必要なこと

#### i) ヤングケアラー支援の難しさ

- ・ 現状の社会資源で支援できても、家庭がそれを受け入れないことが多く、支援を受け入れてもらえるようにするためのケースワークが難しい。家族との関係性を構築するケースワークが課題である。

- ・ ヤングケアラーの状態から抜け出す支援がいいのか、ヤングケアラーのまま生活の質が向上する方がいいのか、どちらにすればよいかわからないという現場の声もある。ヤングケアラーがいることで家庭内のバランスが取れていたり、子ども自身に諦め感があったりする場合などは特に支援が難しい。
- ・ 家庭内のことは本人が言わなければ分からないが、信頼関係がないと聞き出すことができない。当事者が安心できる状況になって初めて状況が把握できた事例もある。
- ・ 純粋にヤングケアラーだけの問題は発見しにくい。ネグレクトなどの課題と結び付けて対応する方が関係機関との共有や介入がしやすく、連携の必要性を他機関に説明しやすい。
- ・ 手伝いとヤングケアラーの線引きがどこにあるのか難しいが、強制的、継続的なものは手伝いとは違う。家族の中で役割交代があるかどうかもヤングケアラーと手伝いの違いになる。

## ii) ヤングケアラー支援における正しい理解の促進

- ・ 子どもの権利と繋げて話をすることで、ヤングケアラー対応の必要性の理解に繋がりやすい。
- ・ ヤングケアラーである状況を本人が気づきにくいいため、本人が言わないからといってヤングケアラーではないわけではない。
- ・ 現状を否定的に捉えるのではなく肯定的に捉えている子どももいるので言葉のかけ方に気を付ける。
- ・ 「きょうだいがいなければいいのと思ったことは一度もないし、その子のおかげで医療の道に進んだ」といった声を紹介すると、ヤングケアラーであることは本人の力になることもあるということも伝わりやすくなる。当事者の声には発信力があるので、それによって社会的認知度が正しく上がるとよい。

## iii) 支援体制の充実

- ・ 緊急性の高い虐待対応を優先せざるを得ないので、ヤングケアラー対応に手が回らないのが現状である。例えば、虐待チームとヤングケアラーチームに分けるなどして、職員数を増やすなども考えられる。当事者支援でピアサポートの居場所づくりなどもできればよいが、事業として進めるマンパワーの余力がない。

## iv) ヤングケアラーへの支援における課題や特性を踏まえた支援の充実

- ・ 家事など、子どもの負担になっているが公的サービスがない・入れにくい部分での支援が課題である。障害や高齢のサービスにつなげられればよいが、それらにひっかからないケースは支援が難しい。
- ・ ヤングケアラーになる前に、家族の課題に気づいて支援していく必要がある。学校や保育所が些細なことから未然に問題を防ぎ、子どもが小さい頃から家族機能を作っていく支援が必要である。
- ・ ヤングケアラーであったことからの回復の支援も必要である。その後自分の家族をどのように捉えていくのかといったプログラムをつくるなどが必要である。
- ・ それぞれの自治体がそれまで培っていた議論や各部門の強弱を含めて、その自治体が始めやすい取組から実施しながら、将来も取り組める支援を定着させていければよい。



## (2) 豊田市福祉総合相談課

### ① 当機関におけるヤングケアラーの把握・支援の状況について

- ・ 福祉の総合窓口として、属性や世代を問わず、どんな相談でも受けとめる体制となっている。
- ・ 複合的課題、複雑な課題のある世帯の支援をするため、窓口で相談を受け、適切に支援機関に繋ぐ体制をとっている。特にヤングケアラーに特化しているわけではなく、包括的支援体制の中で対応している。
- ・ 高齢者や障害者の虐待、子どもの不登校、子どもがいる世帯の生活困窮、環境的に不衛生な家など、養育環境の課題等について相談がある。

### ② 当機関におけるヤングケアラーに関する取組みについて

#### i) 庁内・関係機関との連携

##### <連携先>

- ・ 学校、不登校支援のパーク豊田、児童相談所、豊田市こども発達センター、子どもの権利擁護相談室からの相談がある。その他、障害の福祉事業所や地域包括支援センターからも世帯に気になる子どもがいるということで、相談が入ることがある。子ども食堂や子どもの学習支援事業の関係者及び利用者や保護者からも直接相談が入ることもある。
- ・ 福祉総合相談課が民生委員・児童委員等を対象にヤングケアラーをはじめ様々な課題について呼びかけており、ヤングケアラーがいると思われる世帯について相談が入ることもある。
- ・ 生活困窮に関する相談支援は、福祉総合相談課が豊田市社会福祉協議会に委託しており、経済的に困窮している世帯の相談も含めて連携している。
- ・ 福祉総合相談課の事業である学習支援の会場が市内6か所あり、学習支援コーディネーターにそこに来ている子どもの様子を聞くなど、連携して支援を行っている。
- ・ 学校とは、ある世帯についてのケース会議の場で話し合う機会はあるが、直接的な関わりは不登校支援機関のパーク豊田を通じて行うことが多い。子どもの学校生活全般については、豊田市教育委員会の学校教育課に相談することもある。
- ・ 医療機関の相談室から、家族の受診がきっかけで、ヤングケアラーと疑われる事例の相談が来ることもある。

##### <連携方法・頻度>

- ・ 生活困窮に関しては月1回定例会を実施している。また、重層的支援体制の中で、月1回、各セクションから報告を受ける会議がある。
- ・ 子ども食堂は市内 27 か所で月1回行っているが、代表者から気になる子どもがいると聞くと、こちらから現場に赴き、相談を受けている。
- ・ 子どもの学習支援コーディネーター連絡会が年1～2回あり、子どもの状態を聞いている。
- ・ 民生委員・児童委員とは月1回ほど定例の地区協議会があるので、そこで気になる世帯の相談を受ける。
- ・ 福祉総合相談課は要対協にも参画している。

##### <連携にあたっての工夫・課題>

- ・ 豊田市では重層的支援推進事業を実施しており、当課は多機関調整管理者である。本人の同意が得られない場合は支援会議、同意が得られる場合は重層的支援会議という位置付け

で、関係者で話し合う会議体を 2021 年度に整備し、実施している。福祉関係機関、保健部（精神関係）、子ども（子育て関係）、介護、社会福祉協議会が主なメンバーとなっており、会議には民生委員や学校にも参加してもらっている。

- ・ 各部・各課の子どもセクションとヤングケアラーの視点を持って話し合う場を設けなければ、家庭内に潜在化した問題の実態把握は難しい。

## ii) 情報発信・啓発活動

- ・ ヤングケアラー支援においては地域との連携が重要なので、子ども食堂等、地域の子どもの居場所や民生委員・児童委員と協力し、地域で子どもを見守る体制を作っている。
- ・ 地域の支援力を強化するため、民生委員・児童委員の部会で子どもの貧困対策に関する研修を行い、その中で民生委員・児童委員が支援に関わったヤングケアラーの事例などを紹介する取組も始めた。見守りの中で、ヤングケアラーのような状態の子どもがいて心配しているといった声が、研修後の情報交換の場で挙がってくる。

## ③ ヤングケアラーを支援するための課題、今後必要なこと

### i) ヤングケアラーへの支援における行政の役割と連携体制の構築

- ・ まずはヤングケアラーの支援における行政の役割を十分認識することが重要である。
- ・ 福祉の制度利用や地域の協力による見守りなど支援の手段はあるが、子ども部や教育各部等それぞれの強みを生かした連携体制をとり、ヤングケアラーを支援に繋ぐことや、そのための体制整備を進めることが課題である。
- ・ 各関係機関が個々に対応し、連携が不十分で支援策が明確でないため、対応が遅れてしまう。各ケースについて本当にこの支援で良いのか、他に手段や方法がないのかと悩み、負担が大きい役割なので、地域や関係機関と共通認識を持ち、協力体制を構築していくことが必要である。

### ii) 世帯分離をせざるを得ない場合の子どもへの支援体制の充実

- ・ 親子を世帯分離しなければ子どもを救えないケースもあるが、未成年者にとってひとり暮らしは負担が大きい。児童相談所に高校生以下の子どものためのショートステイや入所施設はあるが、シェルターとしての役割が強く、通学やアルバイトも制限されるため、より自由に生活できるような子どものグループホーム(子どもたちが食事は共にできて個室がありプライバシーが確保できるような施設)があればよい。
- ・ 家事ができない子ども、サポートや見守りを受けつつ、人とコミュニケーションできる機会を持ちながら生活でき、大人がいつも支えてくれるような場所が望ましい。

### iii) 学校における相談しやすい環境づくりと福祉との連携体制の構築

- ・ 子ども達は学校の教員を信頼しているので、ヤングケアラーの状態は当たり前のことではなく、助けを求めてよいというメッセージを発信してもらい、子どもの気持ちを安心させてほしい。各教員がヤングケアラーについて認識を高め、その視点を持って子どもと関わってもらいたい。

- ・ 個人情報の問題により、学校から福祉の制度に繋ぐハードルが高くなっていると思われるが、気になる子どもがいればまずは相談してもらいたい。本人の同意がなくても対応できる支援会議という体制を整備しているので、積極的に学校との協力体制を築いていきたい。
- ・ 学習支援に来ている小学校低学年の子どもが、学校は勉強を教えてくれる場で家のことを相談する所ではないと思っていたと話していた。中には教員に相談しにくい子どももいるが、特にヤングケアラーは親との信頼関係を越えて相談してもらうことが重要なので、常に相談をしても大丈夫だということを学校側から呼びかけていく教育が必要である。

#### iv) 子ども自身への情報発信・啓発と相談できる環境の確保

- ・ 子どもたちが相談できる場所が明確になることが必要である。
- ・ 家族のことを困りごととして相談することをためらう子どもや、家族を傷つけたり、他の大人に相談することで家族との関係性が悪くなるのではないかと思っている子どももいる。ヤングケアラーの啓発においては、学校の教員など子どもに関わり子どもが信頼している人から発信していくことが大切である。普段から子どもに接している子ども食堂のボランティアなどもその役割を担い、子どもの困りごと気づく仕組み作りができるとよい。

### (3) 愛知県中央児童・障害者相談センター

#### ① 当機関におけるヤングケアラーの把握・支援の状況について

##### i) ヤングケアラーに関する相談等の状況

###### <虐待通告での把握>

- ・ 印象としては虐待相談のネグレクトケースの中で、ヤングケアラーの可能性が高い子どもの相談がみられる。
- ・ 昨年頃からヤングケアラーが注目されるようになり、特にきょうだいのケースに注目するようになった。身体的虐待を受けた子どもの場合、その子どもへの支援を集中的に行っていたが、よく話を聞くと、そのきょうだいが、大人がすべきことを担っていたり、親の精神疾患のサポートを行っていたりするケースなどが散見される。

###### <学校からの相談での把握>

- ・ 児童相談所は学校から様々な相談を受けており、その中にヤングケアラーの要素が含まれていることがある。
- ・ ヤングケアラーの相談というよりは、「年下のきょうだいの世話をさせられていて、学校に行けない」「手伝いをしないことで親に叱責されて叩かれる」など、ぐ犯、不登校、家に寄りつかない、障害、養護、虐待などの相談の中に、ヤングケアラーの可能性のある子どもが何人かいるという印象である。

##### ii) ヤングケアラーの事例と対応について

###### <ケースの傾向>

- ・ 家の手伝いを過剰にさせられ、それに子どもが反抗したことにより叩かれ、身体的虐待として児童相談所につながるケースも見られる。

- ・ 祖父母の介護をしているというケースはほとんどなく、年下のきょうだいの面倒をみているケースが多い。中にはそれが原因で不登校となり、学校から児童相談所に連絡が入ったことでネグレクトが発覚し一時保護したものの、その後も改善が見られないためきょうだい全員を施設入所としたケースもあった。

#### <不登校のケース>

- ・ 不登校の子どもは、最近では地域の適応指導教室で対応することが多いため、児童相談所にはあまりつながらない。児童相談所に相談されるのは学校では連絡が取れなくなったケース等が多い。
- ・ そのような子どもや家族に話を聞くと、子ども自身に「学校に通いたくない」という気持ちがあり、親は「学校に行ってもよいが、行かないなら家のことをしなさい」といっているなど、親子間で「それでよい」となっていることも多く、介入して支援するのが難しい状態になっていることもある。
- ・ そういうケースでは、児童相談所としては「家事を多くやらされていること」にはあまり焦点を当てず、子どもにとってより良い方向への解決に結びつきやすいところから入るようにしている。家族にも子どもにも、「学校に行けるなら行くほうがよい」、「学校でなくても適応指導教室など外に出られればよい」、「そのためにできることは？」と伝えながら関わるようにしている。

#### <高年齢児のケース>

- ・ 高年齢児の場合には、アルバイトを生活費に入れているが、子どもは「アルバイトのお金を取られるのも嫌。でも生活費だから仕方ない」と思っており、親は「生活が困窮しているので、お金を入れてもらわなければならない」などの話が出てくることもある。
- ・ しかしそれを主訴とした相談はあまりなく、親子間のあつれきで相談があったケースなどで児童相談所が介入して詳しく聞く中でそのような話が出てくることもある。
- ・ こういったケースでは、児童相談所が間に入って親子間で話し合いの場を設けるとともに、子どもが大学進学を望んでいる場合は、奨学金や、自立援助ホームに入所して社会的養護自立支援事業を活用するなど、道が開けるような提案をすることもある。

## ② 当機関におけるヤングケアラーに関する取組みについて

### i) 要対協との役割分担

- ・ 児童相談所では様々な相談を受けるが、児童相談所は虐待の重篤なケースを優先して関わっているため、比較的軽微なケースは市の要対協につないで支援されることが多い。
- ・ 児童相談所の資源は施設や里親等の入所支援が中心であり、児童相談所のみで在宅ケースを支えるのは現実的ではない。在宅ケースは市町村がもつ資源で支えており、施設からの在宅復帰の際には要対協における個別ケース検討会議が重要となるため、ここでの検討をもっと充実できればよいと思う。入所中から何回か個別ケース検討会議を開催し、在宅での生活を想定したうえで各機関ができる支援等のメニューを出し、それを保護者とすり合わせる事が重要である。
- ・ 在宅復帰時の児童相談所の役割としては、施設から在宅に戻ってもしばらくの間は継続指導として家庭にしっかり入ることが一般的である。ただし、重篤ケースの緊急対応を行っているため、在宅ケースの支援をあまり長期間は行えないことが児童相談所としての課題となっている。

## ii) アセスメント

- ・ 今のところ、ヤングケアラーを把握するための視点は、アセスメントシートに入れていない。
- ・ 児童相談所は緊急性が高いケースも多くスピード感が重要視されるため、アセスメント項目が多いと活用しにくい面もある。ヤングケアラーについては緊急のアセスメントシートで判断するよりも、その後の処遇を決める会議で検討する方がよいように思う。

## iii) ヤングケアラーへの支援について

- ・ 児童相談所は問題解決を行う機関として、今は、検証時期を決めて目標が達成できているかを確認し、達成すれば終結することが一般的な関わりになっている。継続的に話を聞き、子どもの自己実現(自分の力で洞察して旅立っていく)を支援していくことまでは、できていないのが実態である。そのような状況の中でヤングケアラーに対する支援についてどのような役割が果たせるか検討する必要がある。

## ③ ヤングケアラーを支援するための課題、今後必要なこと

### i) 利用しやすいサービスの充実

- ・ 身近にお金がかからないサービスがあれば、親も抵抗なく利用できると思う。
- ・ 小さい子どもの世話をさせるケースが多いため、保育園への送迎サービスがあるとよいと思う。診断は受けていないが軽うつ状態が疑われる親、朝起きることができない親、支度ができない親など、送迎ができないために登園させない親も多い。
- ・ 見守りサービスもあるとよい。現在もトワイライトステイやファミリーサポートはあるが、ファミリーサポートは料金が高く利用できる人が少ないため、補助があるとよい。またトワイライト先は近くにないため、里親宅でトワイライトができればよい。
- ・ 行政の窓口には行くことを負担に感じる人も多いため、行政で手続きをしなくても気楽に利用できる仕組みがあればよい。

### ii) ワンストップの相談窓口の設置

- ・ ネグレクトの保護者に障害サービスや保育所の手続きなどのサービス利用に関する案内をするが、保護者は疲れていて余裕がなく、窓口を転々とするのが難しい場合もあり、子育てに関するワンストップの窓口が必要である。

### iii) 子どもへの周知と相談窓口の設置

- ・ 現状、子どもからの相談がほとんどないのは、子どもに児童相談所がどのようなところか伝わっていないからではないかと思う。
- ・ 敷居を低くするためにも、児童相談所虐待対応ダイヤル「189」や SNS で「こんなことで困っていませんか」などの例示を出して広告するとよいのではないか。
- ・ 「誰にも知られないところで相談したい」と思う子どももいるが、現状、相談所では問題を解決するためには親も含めて相談していくことが望ましいと考えており、原則的には子どもの了解を得て親と共有していく。

- ・ そのため、相談窓口は児童相談所に限らず、匿名性の高い空間での相談や、同じ境遇の子どもが集まる場所で話ができる窓口もあると安心して相談できると思う。

#### iv) 職員の専門性の向上

- ・ 今はまだ児童相談所の職員に十分な共通理解ができておらず、ヤングケアラーからの相談があってもきちんと対応できるか懸念される。
- ・ 関係機関はヤングケアラーという言葉は知っており、次に必要な支援という認識はもっているが、具体的なアクションまではとれていないように感じる。児童相談所がヤングケアラーとして支援が必要と思っても、市役所の保育部門や障害部門など、サービスをもっている部門が同じ意識をもたなければ、十分な支援ができない。
- ・ 市町村の要対協など、様々な機関が集まって情報交換できる場があるため、研修などを行って、ヤングケアラーの概念や気を付けて見る視点などを共有することが、連携の第一歩だと思う。
- ・ 子どもの相談を受けるには、専門的なテクニックが必要である。今後、子ども家庭総合支援拠点が整備されれば市町村にも心理職が配置されると思うが、児童相談所の心理司と一緒に研修する等により専門性を高め合えたらよいのではないかと。またその研修などを通じて、当事者である元ヤングケアラーの生の声を学べるとよいと思う。

### (4) 愛知県西三河児童・障害者相談センター

#### ① 当機関におけるヤングケアラーの把握・支援の状況について

##### i) ヤングケアラーに関する相談等の状況

- ・ 「ヤングケアラー」という言葉での相談は少ない。世間一般に認識が浸透していないのではないかと。増えている印象はない。
- ・ 身体的虐待がきっかけで児童相談所が子どもに面接をした際、幼いきょうだいの面倒を見ているといったヤングケアラーが疑われる話を聞くことはあるが、学校からの相談事例としてはあまりない。

##### ii) ヤングケアラーの事例と対応について

- ・ ヤングケアラーの傾向として、3人以上の子どもを持つ多子家庭や外国籍の家庭のケースが多いと感じる。
- ・ 外国籍の家庭で年上の子どもが親の仕事を手伝い、2番目の子どもが1番下の子どもの面倒をみるケースがあり、市からの通告を受けて子どもを一時保護して保護者面接・指導したが、外国籍のため日本の児童虐待に関する認識も理解も浅い中での行動であったため、日本のルールを説明し、理解を深めてもらう必要があった。
- ・ 幼いきょうだいの面倒を見ていた中学生から、警察に相談があり、児童相談所から保護者への生活改善指導を行ったものの改善が見られず、本人から再度児童相談所に相談があったケースもあった。このケースのように児童相談所で対応したことがある子どもには「何か困ることがあったら学校の先生や児童相談所に相談するように」と子ども自身がSOSを出せるよう助言している。

## ② 当機関におけるヤングケアラーに関する取組みについて

### i) 児童相談所としてのヤングケアラーへの支援

- ・ ヤングケアラーだからといって支援が大きく変わることはない。障害を抱える親に対して、サービスにつながっていない場合に、個別ケース会議を開いて検討・対応するといったケースの対応と変わらない。
- ・ 支援的なアプローチの仕方はあるかもしれないが、追い込むようなことをすると関わりを閉ざす可能性もあるため難しい。介入するのではなく寄り添った支援が必要である。

### ii) 児童相談所内での理解・認知度向上

- ・ 児童相談所の会議の中で話題にしていることはあるが、現場の福祉司や関係機関等での認識は十分ではなく、ヤングケアラーに対する支援の手段や手法が見えていない部分が多い。
- ・ 児童相談所職員が増えている中で、ヤングケアラーに関する研修をする機会は必要なことと感じている。

## ③ ヤングケアラーを支援するための課題、今後必要なこと

### i) 児童相談所が介入することの難しさ

- ・ 親なりにがんばっているが実態としてヤングケアラーに該当する場合もある。その場合に結果として子どもの権利侵害をしているとしたら虐待に該当するため児童相談所として介入するが、そこまでではない場合の関与は難しい。
- ・ アセスメントする上でヤングケアラーの話は出るが、児童相談所としては一時保護をはじめとした子どもの視点に立った支援が最優先になる。しかし、「ヤングケアラー」は大人が抱えている問題に起因し影響を及ぼしているため、子どもに対しての直接支援というよりも要因を探った上での支援を考える必要があり、個々の大人側の問題に向き合い対処しないと改善につながらない。

### ii) ワンストップの相談窓口とコーディネート機能の設置

- ・ ヤングケアラーの支援は、市町村での高齢福祉や障害福祉のサービスの中での支援が中心となると思われるため、市町村におけるワンストップでの相談体系を確立させることが必要であり、児童相談所もその一端を担う必要がある。
- ・ 現在は要対協がコーディネートしている面もあるが、地域によって規模に差があるため対応・支援に差が生じる恐れもあるし、要対協も抱える案件が多く対応が難しいと思われるため、要対協とは別に窓口を設置し、コーディネーターを配置することにより、児童相談所と市町村とが連携しながら対応できる体制となることが望ましい。

### iii) 手帳未所持等でも利用できるサービスの提供と、継続的なアプローチ

- ・ 手帳を所持していない場合はサービスが使えないため、直接的にヘルパーなどが介入して家事等の援助をするような仕組みがあるとよいのではないかと思う。
- ・ しかし、そもそも「支援が必要」という認識に乏しい家庭が多い。家庭に介入してほしくないと思う親も少なくないため、制度があってもどこまで使えるかは不明である。特に、親側のニーズ

がない場合や、大人の精神障害のケースは介入が難しく支援につなぐことが困難であり、粘り強く保護者にアプローチをしながら投げかけることが大切である。

#### iv) 外国籍の家庭への支援の充実

- ・ 外国籍の世帯で親が日本語を話せない場合、市役所の通訳にも協力してもらって対応しているが、通訳を介して話をするためかなり時間がかかる。自動翻訳機も使用しているが通じない場合もあり、指導するのに苦労している。
- ・ 虐待の指導をする上で、外国籍の場合は言葉の問題があるため、外国語でのチラシも活用して啓発するなどの工夫を行っている。

### (5) 愛知県立学校スクールソーシャルワーカー(総合教育センター勤務)

#### ① 県内のスクールソーシャルワーカーの状況について

##### i) SSW の配置状況

- ・ 愛知県立高校全体で SSW は9名おり、拠点校に8名、総合教育センターに1名配置されている。拠点校以外の学校は総合教育センターSSW が派遣要請に応じて、周辺の拠点校から SSW を派遣している。
- ・ また、9名とは別に県教育委員会で県立特別支援学校に2名の SSW を配置している。
- ・ 県立学校の SSW は社会福祉士または精神保健福祉士の取得が要件である。
- ・ 義務教育課程では、現在 SSW がいない市町もあるが、県教育委員会義務教育課では、全市町に SSW が配置されるよう取組みが進められている。しかし市町によっては福祉の専門職以外の人が担っていたり、SSW に期待される役割が異なっていたり、また、SSW スーパーバイザーの有無もあり、地域差があるのが実態である。

##### ii) 派遣状況

- ・ 派遣要請は平均で月 10 件程度。昨年度までは各拠点校の教頭が SSW を派遣するシステムだったが、今年度から総合教育センターSSW が派遣調整を行っている。
- ・ SSW は年間 560 時間勤務と決められており、その中で勤務日数や勤務時間の調整は各 SSW が行っている(長期休暇などを除くと概ね週2日程度の勤務)。
- ・ 支援の流れは、教員の話聞いて一緒にアセスメントし、学校内で対応できることを整理し、学校で対応が難しい部分を SSW が関係機関と調整する。また、先生の話聞いてから、直接生徒自身や保護者と面接したり、関わっている先生方や時には生徒本人も交えてケース会議を行ったりする。拠点校の SSW は相談室に来た当該学校の生徒や教員から直接相談を受けることもある。
- ・ SSW は子どもに会い、家庭訪問をすることも期待されているが、高校は通学エリアが広いので家庭訪問が難しい場合が多い。
- ・ 派遣依頼があっても、教員と SSW のアセスメントが一致した場合は必要な社会資源等の情報を伝えたり、日頃から関わりのある教員に動いてもらって後日また様子を確認したりすることもある。



- ・ 迅速な対応が必要な場合は、総合教育センターの SSW から学校に直接児童相談所に連絡するよう依頼したり、総合教育センターの SSW 自身がすぐに学校訪問して対応することもある。

### iii) SSW に関する学校側の理解

- ・ SSW について全く知らない教員も多く、どのようなケースを相談すればよいかわからない、あるいは SC との違いを知りたいとの話もよくある。毎年 30 校に対して SSW についての研修を実施しており、研修を終えた学校からは相談される機会が増えている。
- ・ 一緒にケースに関わった経験のある学校は、SSW の活動を理解してもらっている。

## ② ヤングケアラーについて

### i) ヤングケアラーの把握、支援の状況

#### <ヤングケアラーの認識>

- ・ 最近、教員から「ヤングケアラーだと思う」と相談されるケースが増えた。ただ、言葉だけが先行してしまい、子ども本人や家族の思いが置きざりになっている感がある。

#### <ヤングケアラーの把握・支援における SSW のかかわり>

- ・ 欠席や成績不振、提出物が出せない、金銭関係の問題などから、ヤングケアラーであることが分かる場合がある。派遣の場合は教員からの相談を受けてはじめて把握することになるが、拠点校の SSW の場合は教員や生徒の話を直接聞いたり、学校での生活を観察したりする中で把握することもある。
- ・ ヤングケアラーの可能性のある場合の SSW のアプローチとしては、子ども本人と話せる関係性があればそれとなく話を聞く。本人と関係ができていないときに心配だからといって SSW が突然子ども本人に話しかけてしまうと、それが理由で学校に行きづらくなる場合もあるため、まずは教員から情報収集をし、関係のある教員に声をかけてもらって SSW に相談してみるよう促してもらい、あるいは教員と一緒に相談に来てもらうなど、慎重に対応している。
- ・ SSW やスクールカウンセラー(SC)に会ってきなさいと言われると抵抗感を抱く子どももいるので、相談することが特別なことではなく、例えば開放された相談室に気軽に話しに行ったり、話せなくてもゆっくりできる空間があったりすると支援につながりやすくなる。
- ・ 子どもが自分のことを話したい時に話したい人に話せるよう、そこまで見守ることも大切。危険なときは SSW から関わるセーフティーネットができるとよい。

### ii) ヤングケアラー支援における SSW の取組みについて

#### <学校での取組み>

- ・ 家での生活支援は地域や市町の専門職に任せて、学校では学校ができる支援をする。例えば、SSW は教員に子どもの生活の困難さを理解してもらい、その上で学校ができる支援と一緒に考える。家の事情で遅刻した子に「遅刻するな」と叱責するのではなく、「よく来たね」と声掛けしてもらいなど、学校内でその子が生活しやすいよう配慮した対応ができるようになる。
- ・ 学校が安全で安心で子どもが助けを求められる場所になるためには、まず子どもと教員との信頼関係が重要である。そのためにも子どもの生活を理解することは必要である。

### <学校でのアセスメント力の向上>

- ・ 大人と子どもでは見えている生活が異なるため、子どもたちから見える生活を知ることが必要である。
- ・ 学校から見て問題のある行動が、実は家庭でのストレスのはげ口となっている場合もある。事象としての行動をただ指導するのではなく、子どもの背景を理解し、生徒指導と支援とを併せて行う必要がある。
- ・ 学校は子どもたちの SOS 行動に気づきやすい環境にあるため、教員と SSW が事象でとらえるのではなく子どもの生活する背景を見る視点を共有していくことが子どもの生活を守る支援につながる。

### <SSW 間における情報の共有・引継ぎ>

- ・ 配慮の必要な子どもについての中学校から高校への引継ぎ内容は、学校によってばらつきがある。また、生徒の居住地と高校が地域的に離れていると、居住する市町と小中学校とでできていた連携が高校で途切れることも少なくない。
- ・ このような支援の途切れをなくすためにも、中高の SSW 間での情報共有・引継ぎを行えるようになることよい。

## ③ ヤングケアラーを支援するための課題、今後必要なこと

### i) SSW の全校配置

- ・ SSW はヤングケアラーに限らず高校生の場合、自立支援を目的として将来を見据えた関わり方をしている。一人一人の可能性を考え、伴走しながら支援していくことが望ましく、そうした丁寧なワークをするためには各校に SSW が配置されるとよい。

### ii) 途切れのない支援体制の構築

- ・ ヤングケアラーは複合的な課題であり、ぴったりと利用できる法制度はなく、絡み合った課題を整理し、それに見合った機関が集まり、知恵を出し合う多職種連携が必要。ケースによって関係する機関は異なってくる。
- ・ 特に高校生は 18 歳になると適用される法制度が変わったり、居住地域により利用可能なサービスが変わったりするため支援の難しさを感じる。
- ・ 要対協は市町により高校生の扱いが異なるのが実態である。積極的に関わってくれる市町もあれば、高校になると終結されてしまう場合もある。
- ・ 高校生は将来の自立に向けてとても大切な時期であるにも関わらず、地域や年齢のはざままで最も隙間に落ちやすいことを知ってもらいたい。

### iii) 相談しやすい窓口・場の設置

- ・ ヤングケアラーに限定せず、高校卒業後に相談しやすい総合相談窓口があるとよい。学校に通っている間は、ある程度教員が日常のしんどさを聞いてくれるが、卒業後はそのような機会がなくなる。

- ・ 現状、高校生の年代が気軽に相談できるのは若者サポートステーションくらいしかない。生活の雑多なことを相談できる場所が必要である。地域のボランティアなどインフォーマルな支援もあるとよい。
- ・ SNS での相談は子どもの抵抗感が大きく下がるので良いきっかけとなる。ただし、対話にならなければ伴走できないので、最終的に直接会えるところまでつなげたり、つながっている実感を持てたりするとよい。

#### iv) 「子どもに対する支援」についての理解促進

- ・ 子どもに関わる人には、「普通」の感覚が子どもによってそれぞれ違うことを知ってほしい。一人ひとりの生活を尊重しながら関わっていくことが必要である。
- ・ 学校は子どもが毎日来る場所なので、我慢しすぎず助けを求められる場であってほしい。
- ・ どの子どもにも、相談するのは特別なことではないという認識を高校生の間に身に付けてもらいたい。
- ・ 家族のために頑張ってきた子どもの生活を、ヤングケアラーと決めつけて、それまでの生活を否定しないでほしい。
- ・ 心や体が傷つく場合には介入が必要だが、その場合も子どもの思いに寄り添い、彼らの自立を促すために、SSW だけでなく現場の教員や関係機関が、子どものために、という思いで連携できるとよい。
- ・ 子どもの話をしっかり聞く。どんな生活をしているのか、どんなことを思い、どんな希望を持っているかを教えてもらうということから始める。

### (6) 半田市社会福祉協議会

#### ① 当団体について

- ・ 当社会福祉協議会(以下、「社協」という。)の特徴は、相談支援に特化していることである。住民の困りごとを分野、制度に関わらず把握し、解決に向けて地域と一体になって取り組んでいる。なお、介護保険に関する事業は廃止している。
- ・ 組織としては、総務グループ、権利擁護グループ、地域包括支援センター、障害者相談支援センター、ボランティア地域ささえあいセンターがあり、ボランティア地域ささえあいセンターの中に、重層的支援体制整備事業(現在、移行準備事業)のコミュニティソーシャルワーカー(以下、「CSW」という。)として社会福祉士、精神保健福祉士などの専門職を3名配置している。

#### ② ヤングケアラーについて

##### i) ヤングケアラーの把握、支援の状況

###### <ヤングケアラーの認識と相談体制>

- ・ 今年度、CSW の活動の開始後にヤングケアラーの認識や把握が顕著に進んだ。
- ・ CSW 配置前は、学校によって社協の認識に差異があり、社協を全く知らない学校もあれば、何かあればすぐに連絡してくれる学校もあった。また、10 年以上前は「学校のことは学校内で解決する」という風土があったが、最近では「子どもだけではなく家庭や地域の問題が背景にあ

り、学校だけでは対応が難しい」との考え方に変わってきており、社協と学校でケースを共有し、共に考えて動くという関係ができてきた。

- ・ 重層的支援体制整備事業と CSW の活動を周知したことにより、「そういう制度ができたのか」と関心を持ってもらえるようになり、これまで関わりのなかった学校とも連携がとれるようになった。それにより学校からの相談件数が増え、現在の相談件数の半数を占めている。社会の仕組みが変わるタイミングは重要である。
- ・ 社協の CSW が毎週定例のケース会議に参加したり、定例ではないものの必要に応じて参加している学校もある。重層的支援体制整備事業により相談のチャンネルが確立され、教育と福祉の連携パターンが格段に増えた。

#### <ヤングケアラーの把握>

- ・ ヤングケアラーの把握については、障害のある子どもを支援する中でケアに関わるきょうだいを発見する場合と、学校からの相談を受け CSW が対応する場合がある。
- ・ 障害のある子どもからの場合は、親が医療的ケアを必要とする子どもや発達障害の子ども世話が中心となり、そのきょうだいに手をかけてあげられないと相談にくるケースや、障害のあるきょうだいの世話することで友達付き合いができなくなったというヤングケアラーのケースなどがある。中にはきょうだいばかりを見て自分のことを見てくれないという親への反発から、不登校になるケースもある。
- ・ 急に不登校になったり、成績が下がったことをきっかけに教師やSSWがその理由をきくと、「母親が病気で介護をしている」「生活困窮世帯で共働きの両親に代わって家事等をしている」等の状況が確認されたこともある。
- ・ コロナ禍で困窮世帯が増えており、本人はヤングケアラーという認識がないまま、今まで以上に家のために自分の勉強時間や遊び時間を犠牲にしている子どもが増えているように思う。

#### <ヤングケアラーへの支援>

- ・ ケアの内容を含め、家庭内の状況について「知られたくない」と思っている子どもや家庭も多いため、その思いに風穴を開けるところから入る必要がある。支援が必要な状況かを把握し、「この状況を何とかするために私たちがいる」と伝え、子どもが「困っている。助けてほしい」と言いやすい雰囲気を作ることが重要である。
- ・ ヤングケアラーへの支援は、子どもだけを見ていても解決しない。子どもへの直接支援というより、世帯全体への支援が中心になる。支援後の親子関係等にも影響するため、サービスを入れるにしても慎重に、またそれが家族にとってどうプラスになるかをしっかり説明するようにしている。
- ・ 子どもが家のことをすることを美談にしている親もおり、ヤングケアラーの状況から抜けきれなくなっている要因にもなっていると思われる。しかし、そうした親の考えを否定すると関係が切れてしまうので、親へのアプローチの仕方は重要である。現状認識と、子どもの頑張りに対する評価、子どもの犠牲が伴っていること、子どもの困りごと手伝いたいということを、親に分かってもらえるような言葉で丁寧に説明することを心掛けている。

- ・ また、制度の利用だけでは限界がある。家族機能が低下しているなら、地域でそれをどう補完するかを考える必要がある。社協が持っている民生委員・児童委員、子育て支援のボランティアや NPO 等とのネットワークを活かして支援をお願いすることがある。

## ii) ヤングケアラーの把握・支援にあたっての課題

- ・ 親にヤングケアラーの重大性の自覚がなく、支援を拒否するケースは解決が困難である。義務教育の間に解決できなければ関わりが難しくなる。このような子どもが進学も就職もできなくなり、中卒無業者となり、将来の 8050 問題に発展していくのではないかと懸念している。
- ・ 支援においては、きめ細かく、様々な情報共有が必要であるが、個人情報保護が課題になるため工夫が必要だと考えている。

## ③ ヤングケアラーを支援するための課題、今後必要なこと

### i) 市社会福祉協議会としての役割

#### <生活面への支援の声掛け>

- ・ 義務教育の期間は、親が支援を拒否する場合でも教師が家庭訪問する等により、登校できるよう丁寧にアプローチをしているが、学校は生活面の支援は難しいため、その役割を社協の CSW が担っている。CSW が関わるケースでは、家庭訪問をして「心配している、気にかけている」というメッセージを送り続けている。

#### <学校内の福祉相談窓口(LINE 相談、なんでも相談窓口)>

- ・ 「親が SOS を出さない限り、子どもからは発信できない」という構図を打破して、「子どもから声を聴く」「子どもから SOS を発信する」ための取組を行っている。
- ・ 市内の全小中学校でコミュニティ・スクール活動を取り入れており、その一環として、小学校 1 校が LINE 相談およびなんでも相談窓口という福祉の相談窓口を開始して、熱心に取り組んでいる。

#### ■LINE 相談

- ・ 事務局は社協。LINE 相談の QR コードを掲載したチラシを各学期の長期休み前に配布し、困ったことがあったら LINE で相談できることを周知。件数はそれほど多くないが、子ども自ら相談してくることがある。

#### ■なんでも相談窓口(2021 年 10 月開始)

- ・ 週に1回学校の空き教室(多目的室)を活用して実施。ソーシャルワーカー志望者の大学生5~6人がボランティアで担当している。相談窓口だと子どもは入りにくいいため、普段は作業(折り紙、ポスター作り、名札作りなど)も行い、子どもに手伝いの声かけなどをして、子どもが入りやすい雰囲気づくりをしている。
- ・ また、子どもが来ても「深刻な相談に来た」という雰囲気は絶対に出さず、他の子どもに悟られないように配慮している。
- ・ なんでも相談窓口を増やすにあたっての課題は人材であり、学生や地域の仲間をどう増やすかが重要である。なんでも相談窓口を「支援困難事例に対応する敷居の高い相談窓口」とせず、SOS をキャッチするだけの機能とすれば、一般の人でも対応できる。そのような裾野の広げ方が大事である。

## ii) 連携すべき機関等・役割分担

### <子ども食堂との連携>

- ・ 心配な子どもたちを拾い上げる場所として子ども食堂は鍵になる。子ども食堂が相談窓口の機能も持てば、かなりの確率で困っている子どもをキャッチでき、ヤングケアラーと思われる子どもも把握できるのではないか。現在連携している相談機能を兼ね備えた子ども食堂は、深刻な子どもがいると声かけして話を聞き、学校や社協につないでくれている。今後、困っている子どもの早期発見・早期介入ができるよう、ネットワークをしっかりと構築しなければならないと思う。

### <市、要保護児童対策地域協議会との連携>

- ・ CSW の仕事を始めてから、市の子育て支援部門との連携が増え、要対協に上がってくるケースに関わることも増えた。
- ・ 子どもの支援は、生まれたときから始まっている。行政には異動があるため継続的な支援が難しいが、社協は異動がないためそこを補完することになる。しかし、行政の力は大きいので、福祉系専門職の異動は再考の必要があると思う。

### <児童相談所との連携>

- ・ 現在、児童相談所は非常に忙しいため、「最後の手段としてしか児童相談所にはお願いできない」と思うようになっている。
- ・ 児童相談所と連携しやすく、継続的支援が必要な子どもに対応しやすくなるよう、児童相談所職員の異動や人員体制の充実を検討してほしい。

### <ヤングケアラーへの理解、啓発>

- ・ 「子どもが家族のために一生懸命頑張っているのは美德」と捉えるのではなく、「本人がよくても、子どもにそこまで強いるのはよくない。子ども時代にしかできないことがたくさんある。それができないのは大人の責任である」と、ヤングケアラーが問題であることを、社会全体にしっかり浸透させる必要がある。
- ・ ヤングケアラーという言葉が社会に出てきたことはよいことで、風向きが変わるのではと期待している。まずは啓発が大事である。
- ・ 啓発は、マクロとミクロの両方で行う必要がある。マクロの啓発としては、マスコミや公共広告機構を活用した一大キャンペーンを打つ必要がある。ミクロの啓発としては、社協や NPO の役割として身近な地域(学校単位や町内会単位)でヤングケアラーへの理解を丁寧に広めていく必要がある。

### <学校種に応じた相談機能の構築>

- ・ 相談機能は学校種に応じて仕組みを変える必要がある。小学校の相談窓口は遊びなどのカジュアル性を重視し、中学校ではそれを発展させた心地よい居場所をつくり、高校ではもっと個別支援ができる形がよい。
- ・ 特に、高校では、「先生以外で相談できる人、頼りになる大人」として、SSW に期待したい。

## (7) わいわい子ども食堂・寺子屋学習塾

### ① 当団体について

- ・ 寺小屋学習塾は国の生活困窮者自立支援制度に基づく名古屋市の学習支援事業である。
- ・ 2013年に、学習支援、子ども達の居場所づくり、家庭への支援の三本柱を主な目的としたモデル事業を名古屋市が始め、当団体は2014年度より受託している。すべての区に広がったのは2015年、2016年からはひとり親家庭の学習支援と合体して名古屋市内150か所で開催されている。
- ・ わいわい子ども食堂は、学習支援をする中で夏休みになると痩せる子どもがでてきたことから、子ども食堂が必要だと思い開始した。
- ・ わいわい子ども食堂は、北医療生協という学習支援を行っている団体、名古屋法律事務所の友の会ホウネット、保育園を運営している名古屋北福祉会の3つが協働して実施している。

### ② ヤングケアラーについて

#### <ヤングケアラーの把握>

- ・ 受託事業を開始してから7～8年になり、40～50名の子どもに出会ったが、その中の10名程度がヤングケアラーの状況にある子どもであった。
- ・ その中では、きょうだいの世話をしている子どもが多く、その他、家事をしている子ども、精神疾患をもった親の世話をしている子ども、親の代わりにお金を稼いでいる子ども、金銭管理をしている子どもなどがおり、子どもが担っていることが重複しているほど支援が必要な状況にある子どもといえる。
- ・ 家にいると家事や介護をせざるを得なくなるため、塾の開始時間より早く来ていた子どももいた。また家事や介護が要因で小学生のうちから不登校になり、中学以降もほとんど学校に行けなかったことで現在でも読み書きができず、履歴書が書けないためアルバイトや免許取得が難しい状況にある子どももいる。

#### <ヤングケアラーへの支援>

- ・ 寺子屋学習塾に加え、小学生からの学習支援を自主的に週1回行っている。
- ・ 子ども達の居場所、逃げ場所になるように心がけている。家にいると家事を担うことになるため居場所としての機能をもっている。また、そういう家庭では、食事に関する課題も大きい。
- ・ そのため、コロナにより学校が一斉休校になった際にも上記自主的な塾は週1で再開させた。また冬休み・夏休み・テスト期間中も上記自主的な塾は週1回開催するようしており、ごはんの提供と学習支援を行っている。
- ・ 加えて、1年ほど前からフードバンクより提供された食料を家庭に届けている。

### ③ ヤングケアラーを支援するための課題、今後必要なこと

#### i) 学校における早期発見・相談体制の充実

- ・ ヤングケアラーの早期発見が可能なのは学校である。学校がもう少し早く深く関われば読み書きができないといったような状況にはならなかったのではないかと思う子どももいる。
- ・ 子どもからさまざまな話を聞くためには継続的な長い付き合いが必要である。SCとひと月に2回程度面談をするという話を聞いたことがあるが、どこまで話しているかは不明である。地域で

のサポートは週1回程度が限界だが、学校は毎日通う場所であるため、子どもたちのアラートに気づける鍵だと思う。そのためにも、子どもの話を聞く場所が学校内にもっと必要なのではないか。

- ・ 学校にももう少し福祉の視点があるとよい。現在名古屋市ではSSWや「子ども応援委員会」が配置されており、いずれも大活躍していると感じるが、カバーしきれてはいないと思う。忙しいとは思いますが、教員にも「福祉の視点」を持ってもらえたら、より子どもたちの状況に気づき、必要な支援につなげることができるようになるのではないか。

## ii) 地域における子どもたちの居場所の充実と情報提供

- ・ 子ども食堂の形態は、少人数で週1回のところや100人超の規模で月1回のところなど様々である。大規模の場合はきょうだいが多いなど、よほど目立つ子どもでないと感じにくいだが、少人数で毎回同じ子が来る場合は1年もたてばだんだん子どもや家庭の状況がわかってくる。ただ、分かったとしてもいきなり声をかけたり、ヤングケアラーが担う家事やケアを軽減するための直接的な支援に関わることは難しく、家庭への介入は行政にお願いをしたい。
- ・ 家庭への介入は難しくとも、保護者と一定の関係ができることで「子どもが塾に行けるように」と気を使ってくれる親もおり、子どもたちにとっての「居場所」づくりにつながる。また、子ども達は同じような境遇の子を見分ける力があるのか、そういう子どもに気が付くと自分たちの居場所に連れてきたりすることもあり、きっかけができるとそこから徐々につながり広がっていくと思う。
- ・ 子どもたちを地域の居場所につなげていくためにも、県内の子ども食堂や学習支援等がどこにあるのかを把握している行政で、資源マップを作成し、情報発信してもらいたい。

## iii) 学習支援の充実

- ・ ヤングケアラーの子どもは家で勉強をする場所(空間・時間)がなく、宿題ができないことは当たり前となっている場合が多い。学習の遅れは不登校につながるなど、子どもの将来の選択肢にも大きく影響する可能性が高いので、子どもたちが勉強できる場所を増やしていく必要があると思う。

## iv) ケースワーカーとの連携

- ・ 学習支援の案内を出すために、名古屋市内のひとり親家庭は把握しているが、生活保護家庭とのかかわりはケースワーカーに集約されており、学習支援の案内をするかの判断はケースワーカーに委ねられている。しかし、最近生活保護家庭の子どもへの参加が少なくなっていると感じているため、ケースワーカーとの連携も必要ではないかと感じている。

## v) 行政の積極的な関わり

- ・ 子育てのネットワークをつくるため、子育て交流会を企画して関係者に声をかけたところ、社協や子ども応援委員会のソーシャルワーカーは参加してくれたが、行政の子ども支援担当課の職員は不参加であった。行政にも地域の団体とつながる、積極的に地域に出ていくような動きを期待したい。



- ・ 学校と学習支援機関とがよい関係性を築くと様々なことが良い方向へ向かうことを実感している。そのため、学校との日常的なつながりや関係性を構築したいと思っているので、その実現のためにも行政に協力をお願いしたい。
- ・ 行政に協力を依頼したいものの、どこが担当部署なのかが分からないのが実態である。また、要対協という仕組みがあることも知らなかった。行政と地域で活動している団体などと連携しながら、よりよい支援体制を構築していくためにも、行政側の仕組みについてぜひ情報発信をお願いしたい。
- ・ ヤングケアラーに相当する子どもの中には児童相談所にお世話になった経験のある人も多くいるため、施設退所後のフォローについても検討してもらえればと思う。

## (8) 公益財団法人豊田市文化振興財団

### ① 当団体について

#### i) 事業概要

- ・ 愛知県発注の「若者・外国人未来応援事業」を受託し、主に高校中退者及び中学卒業後進路未定者を対象として高卒認定試験合格を目的に学習支援『若者未来塾(以下、未来塾)』を実施している。あわせて、授業に遅れがちな中学生を高校進学に導くための支援と、学校の授業についていけない外国籍の子に対して学習言語としての日本語の習得に向けた日本語学習支援を行っている。
- ・ 「若者・外国人未来応援事業」は単年度契約で実施期間が限定されるため、当財団の公益目的事業を組み合わせ、通年型の支援を可能にしている。
- ・ 未来塾は週2日平日夜間と月2日土曜昼間に実施している。教員 OB、現職教員、大学生の学習支援員を配置している。
- ・ 豊田地区は学習者が30人ほど参加している。
- ・ 生活に関することや友達付き合いで悩んでいる子どもに対して世間話を通じて相談にのったりもする。
- ・ 未来塾がある青少年センターは豊田市駅前にある。

#### ii) 未来塾に通う子どもの特徴

- ・ 高卒認定試験を目指している子どもは日本人が多いが、高校に在籍している子どもは外国人が多い。全体としては外国人が多い。

### ② ヤングケアラーについて

#### i) ヤングケアラーの把握、支援の状況

- ・ 学習支援に通う高校生(外国籍)に1人該当する者がいる。中学生の頃より未来塾に参加している。中学3年当時は高校進学が危惧された状況だったが、高校進学を果たし現在高校2年生になった。高校進学後未来塾を訪れる回数が減っており、学校からは「成績が芳しくないの学習支援で補えないか」との連絡を受けていたが、足が遠のいたままだった。理由は父母が離婚し父子家庭になってしまったことで、家事や弟妹の面倒を見なければいけないとのことだった。父親が家にいるときは未来塾に参加できる状況だったが、未来塾以外の支援を具体

的に提案できなかった。未来塾に参加している近所の友達(外国籍)を通じて参加を促している。

- ・ 外国人のヤングケアラーに対する地域の支援は難しいが、外国人には外国人のコミュニティがあるため、そのような所から情報を聞き出して働きかけをしている状況である。協力してもらっている友達も外国人コミュニティのつながりである。
- ・ その他、過去に同じような理由でヤングケアラーだった人が、当時学校で勉強できなかったことから、20歳を超えた今学びなおしをしている例もある。

## ii) 支援にあたっての課題

### <言葉の壁>

- ・ 外国人だと言葉の壁があり、両親に情報が行き届かず支援が受けにくい場合もある。支援員の中に県立高校の教諭がいるが、その学校は外国人の入学枠があり、外国人の人数も多いため、様々な国の言語の通訳がいる。支援員の先生はその通訳を通して両親と話をすることもあるが、リアルタイムでの相談は難しいようである。
- ・ この未来塾に来る外国人の生徒は片言の日本語しか話せない子どもも多い。そのような場合は言葉が通じるきょうだいを介して、両親に相談したりする。

### <物理的なアクセスの問題>

- ・ 来ている子どもは豊田市駅を利用している。しかし、アクセスが難しく、オンラインでみている子どももいる。その子どもは元ヤングケアラーだが、生活保護を受けているため電車代が負担できず、オンラインで対応している。しかし、オンラインだけでは教える方も教わる方も難しい。
- ・ 豊田市は公共交通事情が脆弱である。豊田市駅を介して様々な場所へつながる形だが、普段から豊田市駅を使う生活を送っていないとここまでの距離や時間が障壁となる。車がなかったり、家族の送迎がないと難しい。

### <支援につながることの難しさ>

- ・ 高卒認定試験のための勉強については、愛知県のさまざまところで実施しており、最近では愛知県の教育委員会が中心となってインターネットで情報を発信している。その情報を通じて保護者からの問い合わせもある。また、豊田市内の高校と連携しており、中退する場合は先生が未来塾のことを必ず伝えてくれる仕組みになっているので、本人と保護者には伝わっている。
- ・ しかし、ヤングケアラーのように保護者が介在しない場合は、なかなか子どもに届きにくいと思う。また、外国人の子どもにもどの程度理解してもらえているのはわからない。当団体では、ポルトガル語とスペイン語に訳したリーフレットと一緒に配布している。

## iii) 関係機関との連携状況・課題

- ・ 豊田市国際交流協会および外国人支援団体から学習支援をしてほしいとつないでもらったことがある。
- ・ 未来塾のあるセンターには「若者サポートステーション」があり、そちらでは総合相談窓口業務を担っており、必要に応じて相談し、助言を得たり、関係機関につないでもらったりしている。

- ・ 所管課の次世代育成課が行っている子ども・若者支援地域協議会のネットワーク会議を通じて、不登校の子どもとの相談が来るときもある。
- ・ ネットワーク会議は年2回の担当者会議と年度当初に代表者会議が行われている。しかし最近、コロナの影響でネットワーク会議自体が開催できていない。
- ・ 連携はあるものの、どこまで連携できているかという問題はある。すべての案件を解決しているわけではなく、関係機関につないだ後の情報までは伝わってこなかったり、紹介を受けた子どもが未来塾に来なかったりということはある。未来塾に来た子どもに対しては学習支援をするし、関係機関に紹介した子どもについては子どもに確認を取っているが、会議としてのフォロー体制は難しい。個人情報があるため難しい問題である。

### ③ ヤングケアラーを支援するための課題、今後必要なこと

#### i) ヤングケアラーという言葉の影響

- ・ ヤングケアラーという言葉が世間に知れ渡ったことで身近な問題と認識されるようになったと感じる。
- ・ 今まで知られていなかった苦労している子ども達の存在が知られるという意味ではよいが、プライバシーがどこまで保障されるかが問題である。その家族にとって負担になるべきではない。専門家である必要はないが、窓口になる人は信頼できる人であるべきだ。

#### ii) ヤングケアラーの支援の課題・今後必要なこと

##### <支援を行う団体が増えること>

- ・ 一般的ではあるが、支援には信頼関係が一番大切である。当団体で学習支援をしている先生は学校教員をしていて退職している人も数名いるが、子どもに寄り添うことに長けている。
- ・ 同じような支援の仕組みがもっと多くの拠点があればよい。多くの外国人が居住する豊田市保見地区では交流館を会場に同じような取組みをしている団体が複数ある。

##### <中退後の子どもを支援すること>

- ・ 高校退学者に対して、学校から未来塾のことを紹介する仕組みが西三北地区の公立高校では構築されている。ただし、未来塾に来てくれるかどうかは本人次第になる。退学したときには退学した理由があり、すぐに勉強をやる気にはならないので、未来塾に来るまでに2～3年かかることもざらにある。その期間が短くなるような支援があるとよいと思っている。
- ・ 在学中は相談窓口があるが、卒業後の相談窓口はどうなるのかという問題がある。

##### <相談に来られていない人の存在>

- ・ 実際どの程度の人が相談にも行けずに困っているのかという実態が不明である。当団体に相談に来る子どもはセーフティーネットにかかっておりまだ恵まれていると感じる。相談する場所も機会もわからずに困っている人は地区のコミュニティからも外れていると思う。

#### iii) 連携のために必要なこと

- ・ ヤングケアラーの存在が分かった時に具体的に誰に相談すればよいのかわからないので教えてほしい。現状では、当団体がヤングケアラー専門ではないため、当団体が可能な支援の

みにとどまる。話をきいて相談にのる、学習支援の背中を押してあげることがまずできることと思う。

- ・ 保護者の理解がないと動かないことが多い。当団体は学習支援が主のため、つなぎ先がわかるだけでもよい。それぞれの機関でできる範囲のことをやればよいと思う。
- ・ また、関係機関へつないだあと、その後フィードバックがないため事例の積み重ねができていない。つなぎ先がわかりにくいという悪循環になっている。情報共有可能な場があれば解決が早くなるのではないか。
- ・ 外国人の場合、保護者の日本語が片言では真に伝わっているのかがわからない。そういった場合、事例の蓄積があると何かしら解決に導くことができるのではないか。
- ・ 最近では県議会でヤングケアラーが議題に出ている。様々な所で話題にすることにより知恵が集まるのではないか。

#### iv) 支援してほしいこと

- ・ 一番支援してほしいことは予算である。学習支援について、回数や場所を増やすにはそれなりの予算が必要である。行政が正しく理解をして予算をつけてほしい。
- ・ 県や市の担当課と当団体とでコミュニケーションの頻度を増やしたい。話す回数が増えることでつながりが増える。要支援者がたらいまわしになる事は避けたい。

### (9) NPO 法人葵風障がい者デイサービスいちほし

#### ① 当団体について

##### i) 事業の立ち上げについて

- ・ 当法人では、障がい児の放課後等デイサービス、相談支援を行っており、最近では保育所等訪問支援も行っている。
- ・ 法人の立ち上げ以前は地域の子供達の見守りなどの自立支援を行っていたが、その中で「子どもの食の問題」「生活ができていない」こと、更にそこに障害が含まれていることを感じ、法人を設立して放課後等デイサービスを始めた。

##### ii) 事業概要

- ・ 当初は学校からの紹介により、生活困窮など大変な家庭の子供達を受け入れていたが、その中で食事ができていない、あるいは支援費や学校費が払えない家庭があることや、支援が届いていない家庭があることを把握した。そこで、コミュニティーカフェを運営することで、学校に行けていない子供達や、障がいをもつ子供達、高齢者など、地域における「自立」を支える活動を開始した。
- ・ また、同時期に県から子供食堂の提案があったので並行して運営しており、その施設の目の前が通学路のため、子供達の日常を見ながら地域と共に子供達を支えている。
- ・ その他、地域包括支援センターや民生委員、福祉委員とともに子供の居場所づくりを行ったり、放課後等デイサービスでは児童相談所の緊急保護児を受けたり、相談支援もしている。

## ② ヤングケアラーについて

### i) ヤングケアラーの把握、支援の状況

- ・ 近所に市営住宅があり、独居高齢者や生活保護家庭、母子家庭が多いため、食事(弁当)支援を行ったり、子ども食堂を開いている。また月に1回フードパントリーとして食材を配布しており、それらの活動の中で話を聴いていると、ヤングケアラーと思われるケースもある。
- ・ 学校からの不登校児の相談を受けて訪問してみると、きょうだいのケアが理由で不登校になっている事例もあった。きょうだい間の世話は当たり前であると認識している親もまだおり、下のきょうだいを保育所に送ってから学校に行くように言われ、遅刻することで勉強についていけなくなり、その子自身も学校に行きたくないと思うようになり不登校になった。
- ・ 対象児童などは食事が取れていないわけでもなく、子ども本人としても親の助けになりたいという思いがあり一生懸命親の指示に従っているので、支援につなぐこともできず地域で見守りをするしかできていないが、団体としてはあなたたちのことが大事ということを伝えるようにしている。
- ・ 祖父母と生活している小学生の子どもが祖父母の介護を担うようになり、祖父母と共依存の関係になっていたケースもあった。祖父母は包括支援センターを通じて介護サービスにつなぎ、子どもは放課後等デイサービスにつなぐことで距離をとって生活できるようにし、子どもには自分の生活を大切にしよう伝えたこともあった。
- ・ 職員の中に民生委員を兼務している人がいることによる地域とのつながりは大きい。別の地域の子どもの民生委員を介してつながることもある。

### ii) ヤングケアラーの把握・支援にあたって大事にしていること

- ・ きょうだいのケアをしている場合、行政支援ではなく地域で支える、見守っているという形になる。受験生なのに学校に遅れてしまう子どもに対しては、「少しでもテストに間に合うなら学校に送っていくけどどうする？」と本人の希望を聞いたうえで子どもが送ってほしいと言えば民生委員が学校まで送っている。子どもがやってほしいと思うことを少しでもサポートできればと思って活動している。
- ・ 親は人に頼ることに慣れていないので、なかなか自分から相談に来るのは難しい。しかし、つかず離れずずっと関わっていれば、親の気持ちが変わったタイミングで相談に来てくれるということを経験した。
- ・ サービスの枠組みを作れば作るほどそこから漏れる子どもが出てくる。支援者や民生委員が、関わりすぎず、離れないよう、ほどほどに関わっていくことが大事だと感じている。そのためには根気が必要であり、また予算のつかないことをすることの難しさがある。当団体だけではできないので、包括支援センターや地域、児童相談所など関係機関と連携しながら切れぬ支援をすることが重要であると考えている。

### iii) ヤングケアラーの把握・支援にあたっての課題

- ・ 小・中学生までは学校の先生や地域の目が届くが高校生になると難しい。
- ・ 親の意識として「誰かに頼む・頼る」ことが難しいのではないかと感じる。親としてのプライドもあるかもしれない。子どもをサポートしたいと思っても「うちの子は結構」と断られることもある。

- ・ 子どもが親だけでなく他の大人や地域とつながることにより将来の選択肢は増えるが、その関係性を築くことが難しい。また子どもが関係性を築くことを親が拒否しがちである。
- ・ 市営住宅に暮らす人は祖父母の世帯から住んでいるケースが多く、世代が変わっても生活保護が継続しているケースが多い。他を頼ってでも別の道が拓けることを教える第三者の存在が必要と感じる。助けを求められる相手ができるにはそれなりの関係性を築く必要があるが、時間とお金が足りないのが現状である。子ども達は純粋なため、小さいうちに関わって、よい関係を築いていきたい。
- ・ ヤングケアラーという言葉が独り歩きするのはよくない。そう呼ばれている子どもは家族のために何かをしたいという気持ち強い。それに対して地域・支援機関が関わっていくことが必要と思う。

### ③ ヤングケアラーを支援するための課題、今後必要なこと

#### i) 行政との関係

- ・ 包括支援センター、児童相談所、地域の役割分担を紐解きながら動いているつもりである。お互い無理も言えない。ただ、枠ができることで枠外をどうするかということを行政には整理してほしい。グレーゾーンを減らす努力が必要である。
- ・ 我々の支援が正しかったのか不安になることも多いので、相談させてもらえる場があるとありがたい。現状でも市に相談して協力してもらっているが、行政の方の担当が変わってしまうと、これまでの経緯が引き継がれないので不安である。行政側とも情報共有しながら、行政ができないことを我々の団体でできるよう役割分担できるといい。

#### ii) 学校との関係

- ・ 放課後等デイサービスをしていることもあり、難しい家庭を先生が気にしてつなげてくれる学校もある。市の中央部に位置しているため「どこでも迎えに行くことは可能」な旨伝えている。
- ・ 子ども食堂の利用者の中で目につくことがあった場合、先生に相談をすることもあり、学校からの情報共有もある。

#### iii) コーディネーターの重要性

- ・ 地域の方は支援機関などどのように関わってよいのかわからないと言われることも多い。また、活動の中で様々なケースを目の当たりにすることがあるが、法人の中でしかそれを共有できていない。しかし、コーディネーターがいれば研修等を通じて地域や支援機関など様々な人との関わりができてくるのではないか。
- ・ 子どもの成長は早い。支援していると、「この1,2年がとても大切」ということを痛感する。行政が関わると対応が後手にならざるを得ない。今したいことを今できるようにするためにコーディネーターが必要と思う。

#### iv) 子どもを支援する上で必要な資源

- ・ 子どもにとって食事は重要である。ただ単に食料を渡すのではなく、デイサービスでは仮想通貨をつくって子ども達が働くという形式にし、その通貨で支援物資(米など)を家庭に持ち帰ってもらうなどの工夫をしている。
- ・ 固定の場所があり、そこに助けを求められる、いつでも行ける場所があることが大事だと思う。難しいが少なくとも地域に1か所そのような場所があるとよい。ただ、その活動には、時間だけでなく心の負担もある。必要ではあるが誰にでもできることではないため、実際にそのような環境をつくるのはとても難しいことであると感じる。

### (10) 愛知県居宅介護支援事業者連絡協議会

#### ① 当団体について

- ・ 愛知県居宅介護支援事業者連絡協議会は、愛知県内の居宅介護支援事業所がより質の高い適切な介護サービスを提供できる環境づくりを図ることにより介護保険制度の円滑な運用に資すること、及び高齢者福祉の増進に寄与することを目的としている。
- ・ 介護支援専門員に対する研修の実施のほか、ケアマネが日々の業務で困ったことを相談できる電話相談窓口を県からの委託で週2回、3時間半対応している。

#### ② ヤングケアラーについて

##### i) ヤングケアラーの把握状況

- ・ 協議会の運営委員にヤングケアラーの事例を知っている人がいるか聞いたが、「いる」と回答したのは1委員のみであり、事業所約 280 件の利用契約中の数件であるだけであった。
- ・ 当地域は農村部まではいかないが、名古屋通勤圏内の立地であり、都心部に比較して三世帯同居も多いかもしれないという地域性はあるかもしれないが、全体としてヤングケアラーに当てはまるものは数としてはほとんどないかと思われる。

##### ii) ヤングケアラーの支援事例と課題等

###### <ヤングケアラーへの支援事例>

- ・ 高次脳機能障害の母親の介護を子どもたちが担っていたケースがあった。子どもたちは問題なく通学できていたが、就職する段階になり、主に介護を担っていた長男が母の介護のために夜勤の仕事を選択するなど、それぞれやりたいことができないことから家庭の状況が崩れたことがあった。
- ・ 訪問介護や病院受診時の介助サービスをいれるとともに、家庭内で困ったことがないか確認したり、子どもたちだけで抱えなくてよいことをケアマネとヘルパーから訪問時に常に声掛けしたりするようにしたが、介護保険は時間区切りで一部分に関する支援であり、訪問サービスは特に縛りが強い。また、通所サービスに行ける人の場合には、通所の人に介助者も自分の時間が確保できるが、通所に合わない人は利用が困難で介助者の負担が増えるなど、サービスがニーズに合わない場合もある。
- ・ 高次脳機能障害関連のサービスは都会に比べると地方では少なく、高次脳機能障害者向けの訪問型サービスがあるとよいと感じた。

- ・ 要介護4の母親の介護を息子と孫がしているケースでは、息子からの利用者への虐待が疑われたため、地域包括支援センター、介護高齢課、生活保護課が関わり、特養に入所させ、世帯分離させたことがあった。

#### ＜ヤングケアラーへの支援における課題＞

- ・ 居宅介護支援事業所としては本人の思いを尊重すべき立場であるため、孫は祖母と一緒にいたいと思っていたとしても、我々はそれを叶えることができなかった。また、孫のことを児童課に相談したが、孫本人から SOS がなければ介入できないと言われ、気がかりではあったが何もできなかった。小学生など自身の意思決定などが難しい年代とは違い、高校生はある程度自分の意思を表現できるので、本人が必要としないところに介入できないという課題もある。
- ・ 生活保護を受給していたため生活保護のケースワーカーも面談等はしていたが、世帯主ではない孫への関わりは難しかった。また特養への入所によりケアマネやヘルパーの関わりもなくなったため家庭をフォローすることができなくなってしまった。多様な機関が家庭に関わっていても、支援の直接の対象者ではない未成年の孫を支援する人は誰もいないという状況であり、孫のフォローは誰が担うべきだったかと考えている。

#### iii) ヤングケアラーの支援におけるケアマネージャーの役割

- ・ 使命感を持って手伝っている子どもたちを気に掛けることもできる。未成年の家族全員には会う機会がない場合もあるが、会える範囲で話を聞くこともできる。
- ・ 利用者の病歴、生活歴を確認するなか、家族、子どもの状況も確認している。一度の面接で収集しきれないが、2回、3回の訪問で収集していくのがケアマネの仕事だと思っており、現在もそうしているが、今後さらに注意して取り組むべきかと感じる。
- ・ ケアマネは家を訪問するので子どもについても気にはするが、担当する利用者との利害関係も出てくるため、そこを客観的に見られるところにつなぐところまでが役割だと思う。

### ③ ヤングケアラーを支援するための課題、今後必要なこと

#### i) 多様な機関・専門職による支援体制

- ・ 厚労省が描くイメージを見るとヤングケアラーはかわいそうなイメージで受け止めるが、共働きで祖父母に世話になった子どもでそのかわりに世話をしたいと考える子もおり、すべてのヤングケアラーに支援は必要ではない。
- ・ ただ、ヤングケアラーの家庭には、困窮、虐待など課題が多数絡んでいる可能性があるため、行政や地域包括支援センター、保健センターなど様々な専門職を集めたうえでタッグを組み、方向性を検討する必要がある。誰が招集し、打ち合わせの音頭をとるかなどが明確になっているとやりやすい。
- ・ ケアマネから地域包括支援センターに相談し、地域包括支援センターから行政に相談する流れがあるとよい。
- ・ 認知症や高齢者であれば認知症初期支援チームが中心に動く、虐待事例は虐待の報告から実践していくためのマニュアルがあるが、ヤングケアラーは件数が少ないこともあり、動きを一緒にやっという顔の見える関係づくりには至っていない。そのあたりが各市町でできるようになるとよい。



- ・ 介護保険サービス利用中はつながっているが、終結後どうなっているかわからないケースがよくある。地域包括支援センターもずっと見てまわるわけにもいかないため、支援が途切れやすいようにするためにも多機関・多職種による支援体制が必要である。

## ii) 学校との連携

- ・ 学校に通っている子どもの場合は、学校教育担当者や保健センターなどとの連携も必要である。専門職はいるが、ケアマネがそこにつながる機会は少ない。
- ・ 虐待や認知症など普段から顔見知りの人は集まりやすいが、子どもが絡むとなかなか教育系の課までつながりにくい。高齢と障害などは件数が多いが、高齢と子どもは各市町ではまだ難しい。
- ・ 子どもの関連の担当課と顔見知りになってフットワーク軽く連携できる関係作りができるとよい。
- ・ 子どもが学校内で吐露しているところをスクールカウンセラーや担任教諭などが聞いてくれているとすると、学校教育関連の課などになるだろうが、高校生になると私立に行くこともあり、管轄だけでは把握が難しいかもしれない。理想としては各市町村に窓口があるとよい。

## (11) 愛知県医療ソーシャルワーカー協会

### ① 当団体について

- ・ 一般社団法人愛知県医療ソーシャルワーカー協会の会員数は約 750 名で、医療機関や在宅クリニック、老人保健施設、病院に併設している事業所のケアマネージャー、学生、大学教員等が会員である。
- ・ 各医療機関内での医療ソーシャルワークが活動の中心であり、医療ソーシャルワークに関わる組織の委員会への参加や、子どもや高齢者に対する虐待などの会議にも出席している。

### ② ヤングケアラーについて

#### i) ヤングケアラーの把握、支援の状況

##### <ヤングケアラーの認識>

- ・ 国がヤングケアラーの調査結果を公表して以降、日本医療ソーシャルワーカー協会を中心に活動が盛んになっており、日本医療ソーシャルワーカー協会が医療ソーシャルワーカー(MSW)を対象とした実態調査を実施している。(ヒアリング実施時点で集計中。)
- ・ 各都道府県のヤングケアラーに対する支援について、全国の MSW 同士で情報共有を始めた。
- ・ 2年に1度の診療報酬の改定にあわせて、日本医療ソーシャルワーカー協会からヤングケアラーに対する支援を評価項目に追加してほしいとの要望を出している。

##### <ヤングケアラーへの支援状況>

- ・ MSW は、入院や外来患者やその家族に経済面などの生活課題がある時や、あると思われる時に関わり、どう制度を使えるかを検討し、各専門機関と連携し、課題を解決することを目指す。これまで、その対象がたまたま子どもという場合はあったが、ヤングケアラーという枠組みでの支援はしていなかった。

- ・ あくまで患者自身を対象とした制度活用であり、家族への支援はそれに付随する部分に留まるため、家族である子ども本人への支援を主目的として行うことは現状では難しい。
- ・ 医療機関ごとのマニュアルや対応はあるが、MSW のヤングケアラーに対する支援のガイドラインは存在しないため個別の対応となっている。

## ii) ヤングケアラーの把握・支援にあたっての課題

- ・ ヤングケアラーの認識については、医師によって意識の差は大きいと思われる。精神科の場合は結構敏感かもしれないが、その他の診療科の場合は親に付き添ってくる子どもをヤングケアラーとして認識するのは難しいのではないかと。
- ・ 日中に子どもが付き添いで来ていたり、子どもが手続きを代行しているようなことがなければ、医者や看護師は問題に気付きにくい。
- ・ 入院機能がない医療機関や外来で子どもが付き添いで来ていてもそれは「一人であることは難しいから親についてきた」ケースの可能性もあり支援に結びつけるべきかの判断が難しい。入院に際して、キーパーソンとして子どもがあがることで、はじめて課題として認識され得る。その時に医療機関側が、子どもが介護を行っている可能性を疑い、そこから MSW が介入し、ケースの発見に至ることも少なくない。
- ・ ただ、一時的に介護者になるのか、常時介護者になるのかによっても支援の仕方や関わり方が変わってくる。親の病気や障害の状態にもよるため判断が難しく、継続的に支援をしたり、その他虐待等の複数の課題がないかを見極める必要がある。

## ③ ヤングケアラーを支援するための課題、今後必要なこと

### i) 医療ソーシャルワーカー協会、MSW として担うべき役割

- ・ MSW の支援では、はじめに患者やその家族の生活情報を把握する。家族構成、同居家族の人数、日中の暮らしはアセスメント項目として必ず確認をするので、その中でヤングケアラーかもしれないという気付きはある。医療機関によっては診療報酬の中に入退院支援加算というものがあり、退院困難な要因の有無スクリーニングがされている。その項目に該当すると MSW が介入して、小児、家族状況、同居家族の障害の有無、経済的困難など必要な情報を得ることになっている。
- ・ だからこそ、ヤングケアラーとはどのようなものか、MSW が知っている必要がある。研修などで知る機会は多くなっているが、今後は各医療機関での具体的なケースで生じた課題を医療ソーシャルワーカー協会として取りまとめ、他機関と共有する仕組みが必要である。
- ・ 入院施設がある医療機関には MSW が、精神科の病院には精神保健福祉士 (PSW) がいるが、内科や整形外科、開業医は MSW をほぼ配置しておらず、子どもが親に付き添って来ても、そこから支援に繋げるのは難しいと思われる。
- ・ ただ、医師会にも MSW が配置されているので、医師会の MSW が、MSW がいない開業医などに対して支援することは可能である。愛知県医師会の MSW の役割は主に難病の生活相談であるが、各地域の医師会の配置する MSW は、在宅医療のコーディネーターなどが中心ではあるものの、開業医の相談窓口としての役割も持っているため、それを活用できればよいと思う。

## ii) 他機関との連携

- ・ 医療機関からのアプローチは患者を介しての視点になってしまうが、教育機関からは子どもの視点でのケアが可能である。現状は学校でヤングケアラーとして把握していても必ずしも医療機関へ共有されるわけではないが、今後は医療機関と教育機関の連携が重要になると思う。
- ・ MSW からの学校への連絡は、個人的にはハードルが高いとは考えていない。子どもが患者の場合は、医療機関から学校へ連絡しているため、つながりがないわけではない。SSW や SC といった専門職がいることで連携がしやすくなるが、現在は愛知県に SSW が少なく、SSW の有無について地域差もある。病気に関する医者判断も含め、MSW が専門性を発揮できるようになるとよい。
- ・ 児童相談所や要対協とは、ケースによって連携をとり、相談をしている。ヤングケアラーへの支援だからといって連携するハードルが高くなるというわけではない。

## iii) ヤングケアラーへの理解と重層的な体制の構築

- ・ ヤングケアラーとされる子ども達の中にはそれが当たり前と思って生活している場合もあり、言葉だけのイメージが先行することは危険である。親が悪いということではなく、子どものがんばりを評価して受け止め、その中で課題に向き合い、必要な支援をアセスメントしていくことが必要である。誰かが責められることのない環境を作るべきである。
- ・ 様々な職種がヤングケアラーの視点を持つことで、早期に支援に繋ぎ、子どもの負担を軽減できる可能性がある。MSW は医療に関わる部分での支援となるため、ヤングケアラーは MSW だけでは解決できない部分があり、地域としてヤングケアラーを支援する視点が必要である。
- ・ MSW 関係の様々な団体があるため、ヤングケアラーについての共通認識と教育機関等と同じ温度感を持っていく必要があるのではないかと。民生委員、児童委員が地域にいると思うので、地域の見守りや近隣からの情報提供も必要である。都市部では近所との関わりが薄いこともあるので、地域でインフォーマルなサービスがあるとよい。各機関で課題があることだけでも共有することが必要ではないかと。
- ・ ヤングケアラーに対して重層的に支援ができるような体制や、関わる機関・人々が共通の視点を持てる体制があれば良い。そのためにはマニュアルなどが必要ではないかと思う。

## (12) 名古屋大学医学部附属病院

### ① 当団体について

#### i) チャイルド・ライフ・スペシャリストとは

- ・ チャイルド・ライフ・スペシャリストは北米の専門資格で、医療環境にいたり、ストレスの高い状況にある子どもの心理社会的ケアを担う専門職である。ほとんどは病院に勤務している。

#### ii) 主な活動場所、活動内容

- ・ 普段は名古屋大学医学部附属病院小児科病棟で長期入院している子どもと一緒に遊んだり、子どもが検査や処置、手術する際の心理的なサポートを行っている。

## ② ヤングケアラーについて

### i) ヤングケアラーの把握、支援の状況

#### <支援を行っている子ども>

- ・ 当病院でヤングケアラーと思われる子どもは、当病院に入院している子どものきょうだいである。
- ・ 名古屋大学附属病院に病気や障害で入院中の子どものきょうだい児を病院に招いて、一緒に遊んだり、病院内を探検したり、親とすごす時間を確保したりする「きょうだいの会」を2010年より定期的で開催している。
- ・ 病気や障害のことをきょうだい児にもきちんと説明することが重要であるという理解は広がってはいる。「自分のせいで兄は病気になったのではないか」「自分が元気で学校に行くのは申し訳ない」「自分はいいい子でいなければならない」など、きょうだいは様々な感情を抱く可能性があるが、病院の職員はきょうだい児に会う機会が少なく、病気や治療について説明したり、きょうだいの気持ちを聴いたり、直接きょうだいの支援をすることが難しいという課題を感じている。
- ・ 患者の入退院により家族の生活が変化することで、きょうだいはストレスフルな状況になり、学校に行きにくくなったり、宿題を忘れていたり、友達とのもめごとなどが増えたりすることがある。そのようなときに学校が家族の背景を知っておくことで、対応を変えてもらうことができる。そのため、長期入院になって患者が院内学級に転校するときや、退院して学校に戻るときなどに学校に情報共有を行う際には、必ずきょうだい児のことも話し、支援を依頼している。

#### <「ヤングケアラー」と「支援を必要とする子ども」の存在>

- ・ 当病院では、ヤングケアラーとして実際にケアを担っているきょうだい児もいるが、実際にケアを担ってなくても「ヤングケアラー」として認識してほしいと言われることもある。病気や障害をもつ子どもが優先されることで、きょうだいが自分の生活を我慢したり、したいことができない状態に置かれていることに気づいた。

#### <「ヤングケアラー」への支援の必要性>

- ・ きょうだい児のケースではあるが、母親は「兄は祖母宅に預けているが、いい子にしている困らせることがない。病気の弟が外泊で帰ると優しくしてくれる」と言っていたが、ある朝兄が泣きながら「両親と弟に、自分ごみ箱に捨てられる夢を見た」と母親に電話をかけたというエピソードがあった。そのような思いをさせていたことに気づいて、母親も辛かったと思う。
- ・ 親の注意や関心が、病気や障害のある子どもに向きがちで、物理的にも親と過ごす時間が減ることで、子どもが「自分は必要な存在ではない」「自分は親に愛されていない」など、自分を否定し、自己肯定感をもてない経験を日々していることを示唆した夢だと思われるが、親が気づかないうちに子どもが抱えきれないほどの負担を感じている可能性があるということだと思う。
- ・ 母親からの相談で多いのは、きょうだい児が「学校に行きたがらない」「不登校になっている、なりそう」「ごはんが食べられず(拒食症気味)精神科を受診している」「円形脱毛症」「チックの症状が始まった」「心因性嘔吐」などであり、子どもから出るそういうサインに早く気づいて対処することがとても重要だと感じる。

## ii) ヤングケアラーの把握・支援にあたっての課題

### <きょうだい児に関する親の対応>

- ・ 当病院では感染対策として基本的に 15 歳未満の子どもの面会を制限しているため、院内できょうだいに会う機会が少ない。そのため実際は母親や父親に、きょうだいが抱えるかもしれない問題やきょうだいのニーズを伝えて、「きょうだいも頑張っている」ことを共有し、両親を通してきょうだいにも支援を届けたいと思っている。
- ・ 普段からきょうだいについて母親や父親に声掛けをすることで、「きょうだいのことで誰かに頼ってもよい」と思え、必要な時には助けを得られそうな人を思い浮かべてもらえればと思っている
- ・ 4月10日のきょうだいの日には、きょうだいの子どもにプレゼントを送り、「なかなか会えないが応援している」というメッセージを伝えている。

### <病院の職員体制不足>

- ・ 入院中の子どもに付き添うため、きょうだい児の運動会や、卒園式、卒業式に行けない親もいる。入院中の子どもの精神的な安心のためでもあるが、日々の入院生活の中で子どものケアを付き添いの親に頼っている部分があるのが実態であり、病院側もきょうだい児がいるという前提で、体制等を整えていく必要があると思う。

## ③ ヤングケアラーを支援するための課題、今後必要なこと

### i) チャイルド・ライフ・スペシャリストとして担うべき役割

- ・ きょうだいの会を作ったからと言って、十分な支援ができていないわけではなく、きょうだいの会がないから支援ができないとも言えない。
- ・ 家族との会話の中で、どれだけきょうだいに関する会話ができるか、きょうだいが病院に面会に来たとき、名前を呼んで声かけができるかなどに病院職員の力量が問われていると思う。

### ii) 子どもの所属機関や地域における理解促進・認知度の向上

- ・ きょうだい児への支援の必要性について、行政、保育園、学校などでの理解が広がることで、障害や病気のある子どもを見る病院と、きょうだい児を見る学校や保育園等との連携ができればよいと思う。また、病院からももっとアプローチできる機会を増やしていくことが必要である。
- ・ きょうだいからの SOS をきちんと受け止められる大人が増えてほしい。
- ・ 実際にきょうだい児に多く関わるのは地域であるが、病院だけでは認知度向上等の取組みにも限界がある。当病院以外の対象となる子どもにも支援の取組みを拡げていく必要があると思う。もし、県などの行政が、きょうだい支援についてのチラシを配布したり、講演会などを主催したりしてくれれば、「きょうだいにも関わりが必要」というメッセージが広く伝わることを期待できるのではないかと。
- ・ 問題を物理的に解決しようとするのが難しく、どうなれば解決と言えるかも分からないが、物理的には変えられない状況や難しいことがあっても、子どもが「自分も大事な存在」「支えられている」という気持ちを育めるようにすることが重要である。

- ・ 行政等がイベントをする場合には、当事者の声を聞いてほしい。支援者がよかれと思ったことが、かえって本人たちを傷つけてしまうこともあるので、そのステップを踏むことはとても大切である。

### (13) 愛知県重症心身障害児(者)を守る会

#### ① 当団体について

- ・ 愛知県重症心身障害児(者)を守る会(以下「守る会」)は、身体・知的ともに障害がある「重症心身障害児(者)」の親の会である。
- ・ きょうだい児たちは日頃から皆我慢していると思われるので、きょうだい児たちで出かけるなど交流の機会を設けている。

#### ② ヤングケアラーについて

- ・ 守る会ではヤングケアラーの話はほとんど聞かない。小さな頃から一緒にいるので家族内でのケアは生活の一部で普通のことであるからだと思う。また高齢者の介護は期間限定だが、障害のある子どもの介護は生まれたときから死ぬまでであり、期間限定ではないという違いもあるのではないか。そのため、ヤングケアラーという言葉は広がっているが、守る会のきょうだい児は自分をヤングケアラーと思っていないようで、本人たちの意識は特に変化は見られない。

#### ③ ヤングケアラーを支援するための課題、今後必要なこと

##### i) ショートステイ、レスパイトサービスの充実

- ・ 障害のある子のケアは 24 時間である。そのため母親が病気で寝込むなどすると見かねて子どもたちが世話をするなど、家庭内での日常のケアのバランスが崩れた場合、切羽詰まったときに子どもたちがケアすることが多い。
- ・ ヘルパーが家の中の介護にももう少し入れるとよい。夫の単身赴任などにより母親一人で子育てしている人もいるが、すぐ手助けしてくれる制度があれば子どもたちの負担は減る。
- ・ いずれにしても、親に心の余裕が必要である。母が病んでしまうと難しい。子どもたちは、お母さんは大変だから自分が我慢しなければ、手伝わなければ、という気持ちになる。だからこそ、心の余裕がなくなる前に、社会からの手助けが届くような制度が必要だと思う。
- ・ この 20 年間でサービス利用の状況は大きく変わり、生活介護もデイサービスも増えて事業所を選択することができるようにまでなっているが、ショートステイ、レスパイトはもっと充実させる必要がある。3か月前でも予約できないなど、本当に使いたいときに使えなければ、仕方なくきょうだい児に世話を頼まざるを得なくなってしまう。
- ・ 大きな施設のショートステイを増やすのは難しいだろうが、生活介護の中のショートステイを制度化して運用できるようにし、生活介護の子たちがそこで泊まれるようになるのが望ましい。
- ・ 他人である事業者が家に入ることをきょうだい児が嫌がることもある。特に小さな子どもの通所サービスはまだ少ないので充実してほしい。

## ii) サービスや制度に関する情報発信の充実

- ・ 家庭内でのケアでは、しんどくなってからサービスを使うのではなく、いつでも使ってよいのだと知ってもらうことが重要である。小さな子にでもサービスを使えることをもっと周知してもらいたい。
- ・ 守る会でも様々な制度があることを知らない人も多い。行政でも聞かなければ教えてくれないが、障害の有無やその家族がいるかについて行政は把握していると思うので、できればこちらから聞かなくても困っていないか声掛けしてもらいたい。ただ行政は担当者が頻繁に変わるので情報を知らないこともあるのが残念である。
- ・ 行政等に相談しづらい、という人もいる。自身で行政に電話をかけるのが大変な場合は、守る会で代わりに電話をかけ、行政から連絡してもらうこともしており、それにより新しいつながりができることもある。そのため行政に相談に来ない等、何も動きのない人を拾い上げ、守る会にそういう人の情報を教えてくれれば、こちらからアプローチもできるかもしれない。
- ・ 高齢者はインターネットを見ない人が多いが、年に何度かの会報に情報を流すと手紙が返ってくることもある。アナログでも一方的でも情報を流し続けることが重要である。
- ・ 家族がサービスを利用していないのは、サービスを知らないからである場合が多い。要介護度の認定がなければ使えないなど制度の説明をしてもらえれば変わるのではないか。特に親の介護でヤングケアラーになっているのなら制度でいくらかでも支援はできる。

## iii) 学校を通じたサポート体制の強化

- ・ ひとり親なのか、障害のあるきょうだいがいるかといった家庭状況について、学校はよく知っていると思う。もう少し学校の教員が気に留めてくれて、教員と親との間に信頼関係を築くことができれば、教員からももう少し踏み込んだ相談や支援につなげていけるのではないか。
- ・ 子どもや家庭をサポートできそうな使えそうな情報は、学校を通して配布してもらい、個人面談の際などに声掛けしてもらえたらと思う。親身になって考えてくれていると思えるかは大きい。

## iv) 「サービスを利用する」ことについての保護者の理解の促進

- ・ 子どもを預けることに「自分が怠けている」と罪悪感をおぼえる母親は多い。また預けると子どもがかわいそうだと考える親もいる。しかし、障害のある子たちは知らない人に触られることへの拒否感が強く、慣れるのに時間がかかるうえに、介護する人も大変であり、緊急で突然知らないところに預けられるほうが子どもの負担も大きい、ということを親が理解しておく必要がある。それでもサービス利用に抵抗をもつ場合には、泊りの用事をつくるなどして預けざるを得ない状況を作り、一度預ける経験をさせるなど支援する側の工夫も必要である。
- ・ 一度サービスを使えば皆もっと早く使えばよかったと言う。とにかく母親・家族の時間的・精神的余裕が重要であり、その余裕をつくるためにも抱え込むのではなく誰かに助けを求めることやサービスをうまく使用することが必要である。
- ・ また、“あるある話”をできると、自分一人ではないのだとほっとするものである。同感してくれる人がいるのは支えになるし、支えになることがあれば余裕ができるので様々なことが回り出す。よって、守る会などでのつながりがあることは大切である。

#### v) ヤングケアラーに「気づく」きっかけづくり

- ・ ネット上で様々な事例を動画で流すという方法もどうか。“こんなことで困ってないですか”と、ヤングケアラーのことをわかっていない人にもわかるようなものを流す。皆自分の家しか知らないものでそれが当たり前で普通だと思っているが、動画を見て自分の家の状況は当たり前ではないのかも、と気づく可能性もあると思う。

### (14) 愛知県自閉症協会つぼみの会

#### ① 当団体について

##### i) 事業概要

- ・ きょうだい会は自閉症協会主催の活動で、自閉症協会に加入する自閉症児のきょうだいの小中学生を対象とし、年に数回、話し合いや遊びの場を設ける活動をしている。2004年に活動開始し、参加者の登録は現在12人、数名のボランティアとともに運営している。
- ・ 活動開始のきっかけは、きょうだいの支援について書いた自身の修士論文で、論文で書いたことを実践するために、元々つながりのあった自閉症協会に依頼し、協会内で活動を開始した。
- ・ きょうだい会に参加する子どもたちにとって、ボランティアのおにいさんおねえさんが自分たちと一緒に遊んでくれることが単純に楽しい様子。
- ・ ボランティアも同じ境遇の“きょうだい”であることを子どもたちも認識しており、各自が感じていること等を共感してもらえるので、大人が入らなくても子どもたち同士で話しができている。

##### ii) 子どもたちの入会のきっかけ

- ・ 会報の案内を見て保護者が申し込んでいると思われる。上のきょうだいが先に参加し、後から下のきょうだいが参加するケースもある。また学習会や講演会で話を聞いたり、その記事が掲載された新聞を見たりした保護者が申し込んだ可能性もある。

#### ② ヤングケアラーについて

##### <ヤングケアラーという言葉の認識>

- ・ きょうだい会に来ている子どもは、広義ではヤングケアラーかもしれないが、ヤングケアラーときょうだい会の子たちとは異なる。
- ・ きょうだい会の子どもたちは、家で様々な手伝いをし、きょうだいの面倒もみているだろうがそれに大きな時間を割いているわけではなく、会に参加するだけの余裕もある。また、自閉症協会に入っているということは、親同士が情報交換しようと考えている余裕のある層であり、さらにきょうだいにサポートが必要であると考えている人たちであるため、きょうだい会には比較的家庭が安定している方が来ていると思う。

##### <ヤングケアラーと思われる子どもへの支援>

- ・ きょうだい会は普段の活動以外で特に何かをすることはなく、会に来た時に楽しんでもらい、発散してもらおう場所であり、活動の中で日常の話を聴くことが中心であるため、ヤングケアラーだからということでの具体的な支援はない。



- ・ もう少し踏み込んで聞いたほうがよいと感じた場合には、活動の終了後にボランティア同士で共有し、次回こういうことを聴いてみようかと話すことはしている。

### ③ ヤングケアラーを支援するための課題、今後必要なこと

#### i) 医療と福祉との連携

- ・ 最近では放課後等デイサービス等、障害のある子を放課後にみてる場が増えており、親ときょうだい児とで過ごす時間がとれるとの話も聞いている。ただ、放課後等デイサービスなどのサービスを利用できるのはある程度重い障害の人であるため、そうしたサービスを受けられない人のケアをしている人たちがヤングケアラーとして辛い思いをしているのではないかと思う。
- ・ ケアを受けなければならない人たちが医療や福祉につながる事がまず必要なことであり、ケアのサービスを充実させ、ケアの負担をどう軽減するかをしっかりと検討する必要がある。そのためにもケアが必要な人に対する医療と福祉との連携が重要ではないか。

#### ii) 学校と福祉との連携

- ・ 学校から福祉等への連携を図るためには、教員と専門職とをつなぐ人が必要ではないか。特別支援教育コーディネーターが動く学校も出てきており、このような職員をできれば専任で配置することが必要だと思う。
- ・ SC は常駐で配置されていない場合も多いが、もう少し気軽に話ができる雰囲気が学校の中にあつたらよいと思う。また、SSW も常駐でなくてもよいが、様々な制度を知っており、それらにつなげることができる立場の人がもう少し学校の中で動けるようになるとよいと思う。特にヤングケアラーへの支援にあたっては、教員のみでの対応は難しいため、担任などがヤングケアラーに気付いた時に専門職につなぐためにどう動けばよいか、各学校の環境に合わせて検討するのが第一歩だと思う。学校内においても SSW 等の専門職と一緒に支援ができる環境づくりが必要ではないか。

#### iii) インフォーマルな相談の場づくり

- ・ SC はいじめられた子が行くところのようなイメージもあり若干敷居が高くなっているが、学校側の運用の仕方や雰囲気づくりでそのイメージは変わると思う。フォーマルな支援も大事だが、SC がフォーマルに話を聞く場と併せてインフォーマルに相談できる場があるとよい。
- ・ ピアサポートに子どもがつながるには親の認識が必要だが、親が認めなくても子どもが直接受けられるサポートなどがあるとよい。学校がそれを支援できる唯一の場でもあると思う。横浜には週1回、ボランティア団体がお茶を飲みながら話を聞いてくれる“居場所カフェ”のようなものを置いている単位制の高校がある。NPO が受託して運営しているのだろうが、そういうものが中学校・高校にできてもよいのではないか。
- ・ “居場所カフェ”は、専門職がスーパーバイズしながら、専門職以外が友だち感覚で聞いてくれるようなインフォーマル感があるとよい。そのため全員が専門職である必要はないが、ある程度全体を見て、子どもに合わせた対応を整理できる人が一定数必要だと思う。
- ・ LINE 相談は大勢の居場所に行けない子どもにとってはよい。ただ、回線がいっぱいでつながりにくかったと聞いたこともあり、相談員の質も含め、もう少し相談環境の整備が必要である。

- ・ 中高生なら自分たちで SNS 等へ書き込み、似た境遇の人とつながることもできると思う。

#### iv) 親への支援

- ・ 子どもにはサービスを受けさせず、家庭内で何とかしたいという親も一定数いる。ヤングケアラーがいる家庭にも、サービスが使えるのに使っていないというケースもあると考えられる。
- ・ 放課後等デイサービスなどのサービスの利用は、家族のケア負担軽減の意味も大きいですが、障害のある子ども本人の社会性の獲得等のための部分も大きいということを、親に理解してもらうことも必要である。

#### v) 子どもを含めたヤングケアラーに対する理解の促進

- ・ 子どもたちは「自閉症のおともだち」「発達障害のおともだち」などの本が学校図書室に置いてあれば手にとって読んでみる。ネット社会とはいえ、新聞、テレビ、本などアナログ媒体の力も大きい。
- ・ 行政にはまず、情報提供、広報にしっかり取り組んでもらいたい。行政主導による講演会や学習会も期待するところである。

### (15) きょうだい会@Nagoya

#### ① 当団体について

##### i) 事業概要

- ・ 18歳以上のきょうだい(障害や病気をもつ兄弟姉妹がいる人)を対象とした自助会であり、月1回、きょうだい会、交流会を隔月で交互に開催し、各自の体験や悩みを話し共有することで居場所になることを目的として開催している。また、年1回特別勉強会を開催している。

##### ii) 参加者の状況

- ・ 350名程度のメーリングリスト登録者がおり、毎月メーリングリストで当月のイベント案内を送信して希望者が申し込む。各回の参加者の平均は15名程度である。
- ・ 新規参加者の募集は、チラシ、HP、ツイッターが中心で、名古屋大学病院にはチラシを置いてもらっている。毎月2~3名程度が新規参加者である。
- ・ 話しやすい場となるよう、1グループ7~8人に分けて会の運営者が各グループに参加して進行等を行っている。5名で運営しているため、会の規模をどの程度拡大するかが今後の課題である。
- ・ 参加者はきょうだい児ではあるものの、自身も精神障害や発達障害をもっているなど特別な配慮の必要な人もおり、「きょうだい」というだけでなく、当事者である人もいるというのが、運営において難しいと感じている点である。

## ② ヤングケアラーについて

### i) ヤングケアラーの把握、支援の状況

#### <「ヤングケアラー」に関する情報発信>

- ・ “きょうだい”を伝えるための情報発信においては、「重たい」「かわいそうな人たち」という印象を与えないようチラシ等のデザインを工夫している。
- ・ 情報発信の方法によっては親が責められてしまう可能性もある。「本当はお母さんにこうしてもらいたかった」などの子どもの言葉も、「親が悪い」というイメージがついてしまうと親はそれを受け入れにくくなってしまうと思われる。そのため、「家族が皆大変だったから社会に助けを求めていきましょう」という情報の出し方となるよう配慮が必要であると考えている。
- ・ 子どもを対象とした「ピア」の場合、子どもが参加したいと思っても子どもだけで選択できるものではなく、きょうだいにも支援が必要と考える親でなければこういう場にもつなげることができない。家庭内で抱えるのではなく外につなげていくためにも、親が受け入れやすいヤングケアラー像の発信が必要である。

#### <ヤングケアラーの定義>

- ・ 「うちの子は苦労かけないように育てている」という気持ちの親が一定数いるが、当事者である子どもにしかわからない部分がある。また「苦労していなければきょうだいではない」という認識の親もいる。これはヤングケアラーの定義にも共通する。ヤングケアラーはそもそもケアを担っていることを前提としているが、障害や病気をもつ家族がいる時点で既に気遣いや心理的なところでの負担はあるということの理解を拓げていく必要がある。

#### <ヤングケアラーへの支援の視点>

- ・ 自分のせいでは家族が分断されるのでは、と思うと自分から言い出すことは難しい。特にある程度の年齢になるとその傾向が強くなると思う。障害のあるきょうだいはその子にとっても大事な家族であり、自分一人が幸せになればそれでいいと思っている子どもはいない。自分としても守りたい大事な家族でもあり負担でもあるから悩んでいる状況であるため、「あなたの幸せのために」ではなく、「家族皆が楽になるために」というゴールのイメージを最初に伝えることが重要だと思う。
- ・ 生まれた時から障害をもつ家族がいる場合には、ケアの負担を自覚できておらず、ケアのない生活がイメージできないこともある。そういうケースでは、たとえ年齢の高い子どもであっても、「どうしたいか」の自己選択が必ずしもできるわけではないということに留意する必要がある。
- ・ きょうだいへの支援においては、「きょうだいでもよかった」と思えることを増やしてあげたいと思って子どもたちに関わっている。辛いことばかりで、できればそういう境遇には陥りたくなかったという子がほとんどだが、きょうだいでもよかった、と思えることを大人が提供してあげることは大事であり、それが大人になった時の心の支えになると思っている。ヤングケアラーへの支援において子どもに向き合うときにも同じような意識が必要ではないか。

### ii) 「ピア」の場の必要性

- ・ きょうだい会には、大人対象と子ども対象の活動がある。大人対象のものは、これまでの辛かった経験を吐き出してこれからと向き合っていく場というセラピー寄りのものだが、子ども対象の活動は、自分だけではないと思える、そして心に余地をつくることでストレスへの抵抗力を

持てるような支援の場を提供することで、自分の人生を生きていけるようサポートする、という予防的アプローチを行っている。

- ・ 人に勧められて参加するのではなく、自発的に参加するのであれば継続的な参加は難しいという印象がある。自分で来る人は悩んだ末に参加申し込みをして葛藤があるなかで参加しているので、自分の中で自分の思いと向き合い始めることができている、それを改めて人に話すことで自分だけではなくてよかったと少しほっとしているように思う。

### ③ ヤングケアラーを支援するための課題、今後必要なこと

#### i) 「子どもらしい生活を送れているか」という視点を大切にしたい支援対象者の考え方

- ・ 「ヤングケアラー」の中にきょうだいが含まれているかわからないが、漏れているならば入れてほしい。ただ、きょうだいだからこそ必要な支援もあるので、きょうだいへの支援についても別途検討してもらいたい。
- ・ 狭間にいる人からすると、「自分はどちらだろう」という気持ちもある。対象者ごとの各々の特性に合わせた支援は必要だが、完全に線引きをしたり、支援対象者を限定したりするのではなく、重なる部分やグレーな部分も必要だと思う。
- ・ ケアを必要とする家族がいる家庭への支援では、ケア対象者とケアを担っている人への支援に偏りがちだが、ケアに直接かかわっていない子どもたちを含めて家族が機能不全となっていないか、機能不全にならないように過度な我慢をしている子どもがいないかも確認し、必要なサポートをしてもらいたい。それはヤングケアラーの家庭も、きょうだいがいる家庭も同様である。学校等においても、ヤングケアラーかどうかではなく「子どもらしい生活を送れているか」の視点で見てもらいたい。
- ・ 今ケアをしているかだけでなく、今後その可能性がある「潜在的ヤングケアラー」についても支援が届くようにしてもらいたい。

#### ii) 子どもの視点を取り入れた支援策の検討

- ・ ヤングケアラーもきょうだいも、子ども自身の人生において競争を求められる社会と、ケアをする優しい価値観が求められる社会という、両極のような世界で揺らぎながら生きており、その狭間にいることが子どもらしく過ごせないひとつの要因になっていると思う。
- ・ ヤングケアラーへの支援の必要性等、これからの社会のあり方としてよい意見がたくさん出てきている一方で、現実が追い付いていない部分もあると感じる。このような境遇で生きている子どもにどういった支援が必要なのか、現実の課題と向き合った策を検討してもらいたい。
- ・ 大人が必要だと思う支援と、子どもが求めている支援は違うところもある。子ども自身や、子どもと常に関わっている人、子どもの心理をわかっている専門家などに入ってもらおう等、子どもの視点を常に取り入れながら施策の検討を進めてもらいたい。

#### iii) 「子ども」中心の「継続的」な支援

- ・ 支援が入ることにより、急に家族が分断するようなことがあると、自分が限界だったから家族が切り離されてしまったのだという罪悪感を持つ可能性があるため、アフターフォローとしてその子に対する伴走的な関りが必要だと思う。

- ・ 「ケア」の負担が解消されたとしても、自分の人生を生きていくという道筋が見えないままとならないよう、家族だけでなく子どもに対するフォローが大切である。
- ・ 支援が途切れないようにするためにも、また子どもが選択できるようにするためにも、複数の支援者・大人との接点を持てるような体制整備が必要ではないか。

#### iv) サードプレイスとなる支援の場

- ・ 学校で先生たちが気づき、そこで支援を受けられるのが理想だが、一方でそれをきっかけとして周りにも情報が広がってしまい、「かわいそうな子」「特別な子」として見られてしまうのではないかということ懸念し、話せないこともある。そのため、サードプレイスとなるような、日常からは距離をおいたところで支援を受けられる場があることが心の安心材料になると思う。
- ・ ヤングケアラーの支援においても、同様の場があるとよいのではないか。

#### v) 家庭の状況が把握できる学校での積極的なかかわり

- ・ 学校は、家族の状況は把握できていると思う。
- ・ 学校等で気づいた場合には、本人の希望如何に関わらず、SC やピアサポートの場につながるなど、まずは一人で抱え込ませない状況に持つていく必要があると思う。また、そういう新しい「場」に最初に行くときには、一緒に話してくれる大人が付いていってくれるような配慮もあるとよい。

#### vi) 社会全体の理解・啓発

- ・ 福祉サービスは、できるところまで家族でやり、家族でできないところを補うという印象があるためか、現状は家庭内でのケアに限界を迎えることがサービス利用のきっかけになっていることも多いが、ヤングケアラー支援に求められるのは予防的アプローチかと思う。
- ・ サービス利用は、介護負担を減らすためだけでなく、介護していることによって不足しているものを補うという考え方、例えばケアを気にせずにする親子の時間をつくるためのレスパイト等を目的とするような活用も必要だと思う。予防的なサービス利用をすることで、家族全体がバランスをとれるような形になるとよい。そういう方向にシフトしてくるとヤングケアラーの生きづらさは軽減されていくと思う。
- ・ 日本は「家族のことは家族で」という価値観のある国なので、家族が何もかも背負ってしまう傾向にある。この 10 年ほどで変わってきているとはいえ、世間的な部分で家族が負っている精神的負担はまだまだ大きいと感じる。大人は世間体を気にしたり、周りとの調和を取るために、円滑に、できる限り家の中で解決しようという気持ちが働くかもしれないが、そういう価値観は大人以上に子どもには深く植えつけられてしまうので、大人の意識改革が必要である。
- ・ ヤングケアラーの言葉が注目されたことで、ひとり親家庭の親等から働き方の見直しについての人事部への相談が増えているらしく、ヤングケアラーを発見する場となり得る。ただ、相談を受けても対応の仕方が分からず困っているケースもあるらしい。企業が相談できる場所を設けて周知することも必要ではないか。

## 4. 学校インタビュー調査結果

### (1) 名古屋地域 小学校

#### ① ヤングケアラーの対応事例

##### i) 事例の概要、把握した経緯

- ・ 知的障害のある弟がおり、母子家庭で母親が働いていること、また弟が一人になると勝手に外出してしまうことがあるため、弟が学校を休む場合は兄も休む必要があるという話を担任が母親から聞いた。
- ・ 弟の世話をしていることを学校が把握する前から、兄が「家には帰りたくない」「家が好きではない」「弟が好き勝手なことをする」と話しているのを聞いてはいた。

##### ii) 支援の状況

- ・ 母親の話聞いた担任から教務主任に相談があり、管理職に相談してすぐに SSW につないだ。
- ・ SSW から母親に連絡してもらって面談を行い、障害のある子どもを預かる近隣の病院や、利用中のデイサービスで学校を休む際に預かってもらえるサービスがあることを説明してもらった。母親もそのようなサービスの存在は把握していたが、積極的に利用することを考えていなかったということであったが、SSW の助言を受け入れて、サービスを利用することとなった。
- ・ 母親は兄に負担感があることは薄々感じていたが、学校等の外部の人に指摘され、初めてそれが良くないことであると認識したようであった。

##### iii) 支援による変化

- ・ 欠席日数が減少し、日常で声掛けをする際にも表情が良くなったと感じる。
- ・ 母親から話を聞くまで、欠席理由を学校側が把握できていなかったことが反省点である。

##### iv) 支援にあたり困難だった点、支援時にあれば良かった取組み

- ・ SSW は学校からの要請に応じて派遣されている。この事例では SSW と円滑に連携できたが、区全体で SSW が1名しかいないためスケジュールの確保が難しく、依頼しても次回の面談は1か月後、といったこともある。SSW を増員し、いつでも派遣してもらえる体制を整えてもらいたい。現在5人程度の子どもについて SSW に相談しているが、本当はもう少し相談したい子どもがいる。

#### ② ヤングケアラーの把握、支援体制

##### i) 把握・支援体制

###### <スクリーニング会議>

- ・ ヤングケアラーの把握に特化したものではないが、支援の必要な子どもの発見のためにスクリーニング会議を行っており、子ども全員の日常生活について点数化し、校内の全教職員(担任・学年主任・管理職・養護教諭・栄養教諭で構成)で対応を協議している。さらに、校内だけ

での対応が難しい子どもについては1,2学期の終わりにはSSWやSCを交えて対応を協議する校内チーム会議を開催している。

- ・ スクリーニングは市が設置する子ども応援委員会が用意したシートを使用している。子どもが抱える問題、宿題や必要書類の提出状況、出席・欠席日数等を点数化することで、子どもが社会生活に支障をきたしているケースを客観的に把握することができる。一昨年度から始めて、これまでに10人程度が支援につながっている。

#### ＜その他気になる子どもの把握の取組＞

- ・ 悩みごとがないかを聞くアンケートを実施している。
- ・ 子ども達には、悩みがあれば担任に限らず養護教諭など、話しやすい先生に相談してほしいと伝えている。
- ・ 毎月、全教職員で協議をする場を設けており、気になる子どもやトラブルについてはそこで必ず情報共有をしている。

### ii) 関係機関との連携

- ・ SCは年間140時間と勤務時間が決まっており、年度当初に1年分の日程が調整される。今年度は2週間に1度、5時間程度の来校予定が組まれたが、保護者にはあらかじめその日程を伝え、保護者側から相談の希望を受けている。また学校側から子どもや保護者に相談を勧めることもある。SCとの相談は長期にわたって継続的に行われることが多いため、現在の派遣頻度では新規の子どもの相談を受け入れることが難しくなっている。毎週派遣をしてもらえれば状況が変わってくると思われる。
- ・ 様々な組織につながると、誰をどこにつないだか混乱してしまうため、なるべく一本化するようにしており、現在は子ども応援委員会につないでいる。

### ③ ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと

#### i) ヤングケアラーに関する教職員の意識の向上

- ・ 管理職が日頃からヤングケアラーの視点を持って子どもや保護者を見たり、教職員にヤングケアラーに関する情報の提供を行ったりしていることもあり、校内でヤングケアラーという言葉や概念は浸透してきている。管理職が意識を高めることで担任レベルにも浸透していくのではないかと。実際に担任からもヤングケアラーの可能性のある事例の相談が来るようになってきている。

#### ii) ヤングケアラーの把握のための取組みの強化

- ・ スクリーニングをより精密に活用していきたい。
- ・ 今後さらにアンケートや調査を行うことは子どもにも負担になるので、既存のものを活用してより良いものにしていくことが重要である。
- ・ 担任は、学級の子どもの間に問題が生じるのは自分の指導に問題があるからだと考えて一人で抱え込んでしまう場合がある。そのような担任の意識を取り除き、問題を迅速に校内で共有・把握できるようにすることが必要である。担任にも、問題を校内で共有できてよかったと思ってもらえるようにしたい。

### iii) 学校への専門職の配置

- ・ 教職員側は、ヤングケアラーについてどのような機関と連携できるのか、学校として何ができるのかを理解できていないため、SSW に頼り、支援の中で学んでいくしかない状況である。時間があれば研修等にも参加したいが、日々の業務との兼ね合いからそのような時間をとることが難しいので、教職員が専門知識を習得するよりも、専門職を学校に配置することが現実的である。県や市町村には人員の拡充を希望する。
- ・ ヤングケアラーの支援に当たっては、子どもと保護者に最も近い立場である学校が子どもの状況を素早く感知して、しかるべき機関に橋渡しすることが重要だと考えている。

### ④ ヤングケアラーの支援で難しい点、課題と感じていること

- ・ 現在でも把握できていないヤングケアラーの事例があると思われる。スクリーニングはあくまで学校生活に支障のある子どもの把握手段であるため、ヤングケアラーそのものを把握するためのものではなく限界がある。ヤングケアラーの把握のための手段があると良い。
- ・ 家庭の事情には踏み込みづらいため、学校生活に支障が出ていない時点で子どもに対して「家族のことで困っていることはないか」という直接的な質問をするのは難しい。現状では学校を休みがちになった時点で初めて「家のこと？学校のこと？」と理由について質問をしている。
- ・ 子どもがヤングケアラーを自認していないことが多いと思われるが、どのように子どもの理解を促すかが課題である。下手にラベリングをしてしまう懸念もあるため慎重にする必要がある。
- ・ 紹介した事例では保護者の理解もあり、支援につなぎやすかったが、中にはサービスを受けることを恥ずかしいことだと考える人もおり、抵抗感を取り除くのが難しい。

## (2) 西三河地域 小学校

### ① ヤングケアラーの対応事例

#### i) 事例の概要、把握した経緯

- ・ 学校の欠席が多く、母親の出産時には2か月ほど学校を休んだ。また登校しても朝から寝ていたり、給食を食べる量が非常に多かったりしたことから、本人に話をきいたところ、ネグレクトではないかということになり、市に連絡し、そこから児童相談所につないでもらった。
- ・ 児童相談所での調査の結果、家事やきょうだいの世話を担っていたことが分かった。

#### ii) 支援の状況

- ・ 学校と市で家庭訪問をしながら状況を見守っていたところ、両親が生まれて間もない赤ちゃんを上の子どもたちに預けて夜間に外出している状況が確認されたため、子どもたちは全員、児童相談所に一時保護された。
- ・ 学校に通う子どもたちは現在家庭復帰しているが、月1回の要対協のケース会議で支援方針を確認しながら、児童相談所や子育て支援課は保護者への支援・指導を中心に、学校は子どもへの支援・指導をするという役割分担をしてフォローしている。
- ・ 学校では子どもの自立を助けることを目的として、養護教諭とともに学校独自のチェックシートをつくり、子ども自身に食事の時間や内容、歯磨きの有無などを毎日記入させ、確認しながら生活指導を行っている。きょうだいで一緒に取り組むことで継続していけるよう工夫した。



### iii) 支援による変化

- ・ 現在は毎日学校に通えており、父親が夕飯を用意してくれているようである。

### iv) 支援にあたり困難な点、支援時にあればよかった取組みなど

- ・ 子どもは自分の家庭が当たり前だと思っており、困っているという感覚がないため SOS を自ら出せない。その環境が当たり前ではないということを感じさせるのが難しい。

## ② ヤングケアラーの把握、支援体制

### i) 把握・支援体制

- ・ 子どもの様子を注意深く見守ることを大切にしている。遅刻や欠席が目立ってきたり、元気が無かったり、朝から眠そうだったり、給食を過度に食べたり、服装が季節に合っていないかったり等、気になることがあれば家庭に連絡することになっている。
- ・ 家庭に連絡すると、親が遅くまで仕事をしていることや、子どもに学校を休ませてきょうだいの面倒を見させていること等を話してもらえることもある。そういった状況が確認できた際には、市の担当課や児童相談所へ連絡している。
- ・ 校内の体制としては、毎週木曜日に、気になる子ども・家庭について共有する「子どもを語る会」を実施しており、SCも同席している。その他、教職員のみで年3回、教育支援委員会、いじめ不登校対策委員会を開催し、担任等が一人で抱えないように教職員間で情報を共有する場を設けている。
- ・ 学校生活に支障が出るようなものはお手伝いではないと思うが、ヤングケアラーかどうか迷うときは、複数の教職員のみで見て検討することを大事にしている。
- ・ ヤングケアラーかどうかの線引きは難しいが、コロナ禍で親の収入が減り、長時間働かなくてはならなくなって帰宅が遅くなり、子ども自身が洗濯などを行っている家庭もある。体育の授業の際に体操服を用意できない家庭も増えてきていることが気になっている。

### ii) 相談員の配置

- ・ 市独自で「こころの相談員」を市内の全小学校に配置しており、本校ではおおむね週に3回、2～5限目に来校している。
- ・ 相談員は、相談室で相談に来る子どもを待っているのではなく、家庭科の実技の授業に参加したり、給食を子どもと一緒に食べたりするなど、教室に足を運んで積極的に子どもと交流しており、子どもが自由に話をできるようにしている。
- ・ 子どもにはなんでも相談してよいと伝えているが、家庭の話をする子どもが多いようであり、対応が必要と思われる内容があれば担任に報告してもらい、連携して対応するようにしている。
- ・ 相談員は専門資格を有しているわけではないが、年に2回、市主催の研修を受講している。

### iii) 関係機関との連携

- ・ 学校では対応が難しい保護者への支援については、担任・保護者の個別懇談会時に相談窓口を紹介したり、市の福祉総合相談センターの職員に懇談会に同席してもらったりすることもある。

- ・ 多忙な児童相談所の職員にも時間を作って来校してもらい、子どもの様子を観察してもらう等、情報共有をしながら連携を進めている。
- ・ 心配な家庭が多い地域のため、家庭をサポートできる資源として市にどのようなものがあるかを考え、それぞれの機関等と連携してもらえるように取り組んでいる。

### ③ ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと

#### i) 通訳の配置等の外国人家庭への支援

- ・ 外国人家庭もあるので、学校に通訳がいるとよい。
- ・ 市では日本語の初期指導教室を作っており、他の地域と比べて支援は手厚いと思うが、ポルトガル語が中心でありスペイン語やタガログ語の支援は薄い。
- ・ 外国人家庭の中には、子どもを働き手として考えるのが当たり前だという家庭もあり、日本では違うのだということを親に教えることが必要である。

#### ii) 「食」に関する支援

- ・ 子どもの「食」が一番心配である。ご飯を食べていたとしても、菓子パンやコンビニ弁当だったりする子どももいる。月に1回子ども食堂でお弁当が配られているが、その時間帯に親がおらず、もらいに行けない家庭もある。
- ・ 地域としてのサポート体制はあっても、親のプライドなどがあって支援につながらない場合もある。支援につなぐためにも、地域の民生児童委員、児童厚生員から声をかけてもらえるとうれしい。

### ④ ヤングケアラーの支援で難しい点、課題と感じていること

#### i) 親の理解を得ることの難しさ

- ・ 市や児童相談所から学校に連絡があるケースよりも、あざを作って登校したり、朝ごはんを食べてこなかったり、前日と同じ服を着ているなど、学校が子どもの状況に気づき、市や児童相談所に通告するケースの方が多い。
- ・ 学校から市や児童相談所に通告をすると、学校が親から非難されることもある。そういったケースでは、法律上学校には通告義務があることや、子どものことを第一に考えているだけで親を責めているわけではないということを伝えるが、理解してもらうのは大変である。家庭で困っていることや手伝えることはないかという話をしたり、市や児童相談所に入ってもらって話をしたりすることもあるが、親に理解してもらうには時間がかかる。

#### ii) 早期・予防的段階では支援につながりにくい

- ・ 学校で子どもの変化に気がついた時点で対応することができていれば問題として大きくならなかったのではないかと思うケースもあるが、児童相談所をはじめとする関係諸機関は多忙を極めており、深刻な事案でないとなかなか動いてもらえないのが現状である。

### (3) 西三河地域 小学校

#### ① ヤングケアラーの対応事例

##### i) 事例の概要、把握した経緯

- ・ 精神疾患のある母親から学校への苦情や要求の連絡が頻繁にあり、母親の話から家庭の状況が把握できたため、学校として家庭を支援することとなった。
- ・ 母親は家事をしないことがあり、高校生の姉と本校に通う子どもが自分達で家事をしなければならないことがあった。また、母親の感情の起伏が激しく、子ども達は家庭で常に気を遣っていた。
- ・ 子どもは遅刻や欠席、体調不良が多く、校納金や必要書類の提出の遅れなども多々見られた。

##### ii) 支援の状況

###### <学校内の体制>

- ・ 母親の精神的なケアのために、要望を可能な限り受け入れ、粘り強く話を聞いて対応することを学校として心掛けている。担任が窓口になっているが、担任が一人で抱え込んで疲弊しないようにするため、校長、教頭、経験のある教員、特別支援教育コーディネーターなど他の教員が協力して話を聞いている。

###### <SSW の活用>

- ・ 市の教育委員会に SSW の派遣を依頼し、教頭、SSW、母親の3人で面談を行って母親に SSW を紹介した。その後、学校に相談できない家庭のこと等は母親から直接 SSW に相談が行くこともある。
- ・ 子どもは通級指導教室に通っているため、SSW にも月1回来てもらい、子どもとの関係づくりを依頼している。また母親から学校への苦情などが入った場合には SSW に連絡し、情報共有のために来てもらうこともある。
- ・ SSW から精神疾患の知識を教えてもらい、対応方法について助言をもらうなど、学校側も母親を受け入れるために理解を深めることができた。

###### <関係機関等との連携による支援>

- ・ 緊急性の高いの事情が生じた際には、市や児童相談所に協力を仰ぎ、児童相談所が中心となって、本校、SSW、姉の高校の担任・学年主任、市、民生委員が参加したケース会議を行ったこともある。他機関とのケース会議等を通して、子どもの生育歴や過去の相談経緯等、新たに分かった情報もあった。
- ・ 市の教育委員会にも母親からの苦情があったため、教育委員会とも連携し、母親への対応について丁寧に助言・指導をしてもらった。
- ・ 民生委員が時折家庭訪問をしており子どもとの関係性が構築されたため、緊急時に子どもが直接民生委員に助けを求めて連絡することもあった。休日などは学校に連絡ができないため、親身になってつながってくれる人が学校以外にいと、子どもが困ったときに連絡がしやすい。
- ・ 子どもの進学先の中学校とは、家庭の情報について校長同士で情報共有をしている。

- ・ 数年前に母親から市に相談があり、要対協の管理ケースとして1年程度は継続対応をしていたが、その後管理ケースではなくなった。福祉サービスの利用を母親側が拒否したため、現在は他機関とのつながりはない状況である。
- ・ 保健所の職員を招き、「心の病」というテーマで全職員向けの研修を行った。今後も似たような事例があった場合に対応ができるよう、精神疾患について理解を深めた。

### iii) 支援による変化

- ・ 学校が母親の話をじっくり聞いて受け止めるようにしたことで、母親は精神的に安定した。また、学校の教員に加え、SSW など相談できる相手が増えたことも安定につながった。
- ・ 昨年度と比べて子どもの欠席日数は大幅に減り、学級内での人間関係も良好で学校での表情も非常に良い。体調も安定し、落ち着いて学校生活が送れている。母親の精神状態の安定が子どもの安心に繋がっており、母親が落ち着いていれば料理や家事などもしてもらっており、子ども達の負担も減っている。

### iv) 支援にあたり困難な点、支援時にあればよかった取組みなど

- ・ 当初、精神疾患のある母親への対応方法を学校として見誤り、母親からの行き過ぎた要求を毅然とした態度で拒否していたが、学校が母親を責めていると捉えられてしまい、母親と担任の関係性の構築がうまくいかなかった。
- ・ 母親を SC につなごうとしたが、関係性の構築がうまくいかず、母親がすぐに拒否してしまったため、相談は継続できていない。

## ② ヤングケアラーの把握、支援体制

### i) 把握・支援体制

- ・ ヤングケアラーに限らず、毎朝役職が教室を巡回しながら子どもの様子を確認し、気になる子どもがいないか確認している。
- ・ 学期に1回「生活アンケート」を行い、気になる回答をした子どもには担任が個別に話を聞いている。今年度は「家の仕事をする事で自分のやりたいことができなかつたり、困ったりしたことはありますか」という、ヤングケアラーに関する項目も加えた。
- ・ 月1回の職員会で、気になる子どもについて全職員で情報共有をしており、経験の豊富な教員や管理職が助言をしている。

### ii) 関係機関との連携

- ・ SSW は学校から要請して派遣してもらった仕組みになっている。本校では、家庭環境に踏み込んでもらいたい場合に依頼をしており、この3年で依頼した事案は2件程度である。
- ・ SC は市の教育委員会から月に1回派遣されており、5～6人の保護者のカウンセリングを行っている。子どものカウンセリングをすることもあるが、毎回希望者が一杯なので、月に2回くらいの派遣になると一人一人にじっくり対応できるのではないかと思う。

- ・ 学校から少し離れたところに学童保育施設があり、保護者の迎えが遅いなどの気づきについて学校側に情報提供がある。学童の先生は子どもが気軽に話ができる存在だと思うので、ヤングケアラーのことを知ってもらえると良い。

### ③ ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと

#### i) 学校におけるヤングケアラー対応指針の作成

- ・ どのような子どもに対し、どう対応すればよいかわかるよう、小中学校でのヤングケアラー対応の指針、具体例があるとよい。きょうだいの世話をしているも困っている感覚のない子どもや、日常的ではないがたまに家族の世話をしているといった子どもについては、ヤングケアラーとしての認識を持つべきかわからず、学校として判断が難しい。

#### ii) 他機関との連携、子どもが助けを求められる場所

- ・ 家庭に介入することのできる機関と連携ができるとよい。
- ・ 普段からつながりのある人や機関でなければ、いざという時に子どもから SOS が出しにくいため、日常的に子どもとつながりを持つ人や機関が必要である。
- ・ 市の悩み相談ダイヤル等は子どもとのつながりが薄いので、子どもが困ったときに気軽に連絡できる場所ではない。

#### iii) ヤングケアラーの啓発活動

- ・ 県や市にはヤングケアラーの啓発活動を進めてほしい。世間一般が問題を認識すれば子どもにも伝わり、家族の世話をすることは当たり前ではないと気付ける。

### ④ ヤングケアラーの支援で難しい点、課題と感じていること

- ・ ヤングケアラーと手伝いの線引きが曖昧で、何をヤングケアラーと捉えて対応するかという判断が難しい。また、家庭内の事情に踏みこむことも難しいと感じる。
- ・ 子ども達が、家族の世話は子どもが担うべきものではないという認識を持たなければ、ヤングケアラーであるという事実は表出しにくい。ただし、家族の世話をすることが当たり前となっている子どもに対して、どのようにその認識を持ってもらえば良いかがわからない。

## (4) 尾張地域 中学校

### ① ヤングケアラーの対応事例

#### i) 事例の概要、把握した経緯

- ・ 学校で記入してもらっている生活記録で、妊娠中の母親に替わって毎日家事をしており、それが原因で宿題ができていないという状況が分かった。
- ・ 母親の出産直前にはほぼ毎日遅刻をするようになり、体調不良を理由に一度保健室に立ち寄って養護教諭に話を聞いてもらい、心を落ち着かせてから教室に向かう日が続いた。そこで、保育園児のきょうだいの弁当を作るなど家事をしてから通学している実態が確認された。
- ・ また、外国人家庭であり、家族が病院を受診する際の通訳も行ってた。

- ・ 家庭内では子どもが家事をするのは当たり前とされており、家事をするよう頼まれ、褒められることもなかったようで、生徒は精神的にも辛そうな状況であったが、メンタル面でのケアの対象とはなっておらず、SC への相談に至らなかった。
- ・ 近隣に親戚が住んではいたが、母親の出産前は特に助けてはもらえていなかったようである。
- ・ 入学時に、出身の小学校から家事をしていたという情報は引継がれていた。また、母親の妊娠以前から、きょうだいの世話のために学校を休んでいたこともあったようである。

## ii) 支援の状況

- ・ 学校では、生徒の様子を見守りながら、担任や養護教諭が話を聞くことで、生徒の精神面でのサポートを行った。
- ・ 母親に福祉サービスを紹介したこともあったが、日本語が片言でありうまく伝わらなかった。父親は日本語を話せるが、仕事が夜勤で学校との関わりは薄く、両親とコミュニケーションをとることが難しかった。
- ・ 県から派遣された語学相談員を介して福祉サービスを紹介しようとしたが、生徒本人が利用しなくて大丈夫だと言ったため、学校として強く申し出ることはしなかった。担任から母親に国際交流協会を紹介したこともあるが、生徒の通訳を介してでありうまく伝わったかは分からない。

## iii) 子どもの変化

- ・ 出産後、母親が家に戻ってから親戚が1か月程度手伝いに来てくれており、その間は生徒の負担も軽減された。しかし親戚の手伝いがなくなってからは、以前のように苦痛を訴えることはないものの、また負担が増えているようである。

## iv) 支援にあたり困難だった点、支援時にあれば良かった取組みなど

### <家庭への介入が困難>

- ・ 学校には、家庭を支援するための十分な人員がいない。また、家庭内に介入するための決定的な要素もない。加えてコロナ禍ということもあり、学校としてどこまで踏み込んでよいのか悩んだ。
- ・ 特に外国人家庭は親の言うことを聞くのが絶対であるという価値観のところも多く、考え方の違いを踏まえたうえで対応しなければならない。親に問題を伝えても、家族のルールであると言われると学校としてそれ以上踏み込むことは難しい。

### <言語の問題>

- ・ SSW は月1～3回程度来校しており、情報は共有している。ただ、外国人家庭については通訳とともに対応してもらう必要があることから、日程の調整などが難しく、実際に動いてもらうまでの依頼は行っていない。
- ・ 市が配置している「心の教室相談員」が毎日数時間常駐しているため、今回の事例でも相談員の家庭訪問を検討したが、言語の問題から実施できなかった。

### <あればよかったと思う支援等>

- ・ 毎週 SC が来校し、相談ができるようにはなっているがメンタルケアが必要な面談者が多く、たいてい予定が埋まっている。SC に相談しやすい環境があれば、本生徒についても相談できたかもしれない。
- ・ 母親が出産で入院している時に、病院側からも家族の状況について気にかけてもらえるとうよかった。
- ・ 子ども食堂は本校から少し遠く、本校の生徒はほとんど利用していない。本ケースの子どもや家族も、子ども食堂のことは認識していなかったが、もう少し身近にあればつなげられたかもしれない。

## ② ヤングケアラーの把握、支援体制

### i) 把握・支援体制

- ・ ヤングケアラーに限らず、いじめや不登校などに関して月に2回程度ケース検討会行っており、主要な問題を整理し、分担を決めて対応するようにしている。
- ・ ケース検討会の参加者は、担任、養護教諭、生徒指導担当者、教頭、特別支援教育コーディネーター、その他関係者であるが、月に1回は、SC、SSW、心の教室相談員にも参加してもらい助言をもらっている。
- ・ 加えて、毎週月曜日に生徒指導部会を開催し、各学年の生徒指導・養護教諭・適応指導教室の先生が集まり、学年間の生徒指導諸問題、いじめ・不登校等の子どもの情報共有をしている。
- ・ 学期に1回は、いじめ・不登校対策委員会として全教職員で生徒の情報共有をしており、この場でも SSW から指導助言をもらっている。

### ii) 関係機関との連携

- ・ 外国人家庭に関する課題については、国際交流協会と連携することがある。市町を超えて知り合い同士助け合っている家庭もあるが、国際交流協会につながっていると学校も連携がしやすい。ただ、国際交流協会はほぼボランティアの状態であるため、学校から通訳依頼をしても日程調整に手間取ることがあり融通が利かないのが課題である。
- ・ 県からポルトガル語、スペイン語、フィリピン語の語学相談員が月に1回、3時間半程度学校に派遣されており、その際に進路や家庭のことを本人や保護者と相談している。語学相談員は様々なケースを知ったうえで対応してくれているので、大変頼もしい。しかし、1回に最大3人程度しか対応ができず、語学相談員と保護者の日程調整が大変であるため、派遣の頻度を増やしてもらえるとありがたい。
- ・ ヤングケアラーに限らず虐待や暴力など緊急性の高い事案は、市に連絡してケース会議を開いてもらい、対応を依頼することもある。

### ③ ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと

#### i) 教職員の理解

- ・ 今回の県のアンケート調査で配布されたアセスメントシートを職員へ周知した。家庭内の事情で担任がヤングケアラーと気付かないケースもあり得るので、今後アセスメントシートを活用して、ヤングケアラーに当てはまる事例があれば報告するよう定期的に呼びかけていきたい。

#### ii) 語学相談員との連携強化

- ・ 学校側は子どもに伝えれば通訳をしてくれて親にも伝わると考えてしまうが、子どもに都合の悪いことや、親に言いにくいことは伝えないこともある。そのため、三者面談等に語学相談員に同席してもらえるとありがたく、市町で配置してもらえたらよい。
- ・ 通訳をする人が制度等の知識を持っていることが望ましい。

#### iii) 県や市町村における支援体制の充実

- ・ 行政の市民窓口には通訳が1人しかいないため、増員してもらいたい。
- ・ 家族のケアをしている子どもの発達が気になるケースも多い。家庭への福祉サービスや発達支援サービスが充実し、子どもが教育を受ける機会を十分に確保することが必要である。
- ・ 通信制高校に入ったり、高校に進学できなかったりすると、中学校卒業後は大人が本人と直接会って教育や支援をする機会がなくなる。そのような子ども達や家庭とのつながりを維持することが必要である。

### ④ ヤングケアラーの支援で難しい点、課題と感じていること

- ・ 学校から支援を申し出ても、家庭から断られるとその先介入することが難しい。生徒や保護者の困りごとにうまく踏み込んでいく教員のスキルが必要であるが、教育現場は若い人が多くなっており、経験のある教員が少ないことが課題である。
- ・ 学校は教育の場であるため、全職員で家庭への支援に主眼を置いて対応することは難しい。教員とは違う立場で、客観的に学校内で生徒の様子を観察し、支援をすることができる立場の人員が充実すると良い。

## (5) 西三河地域 中学校

### ① ヤングケアラーの対応事例

#### i) 事例の概要、把握した経緯

- ・ 複雑な家庭環境であるという話は出身小学校から聞いていたが、本校入学後も、衣服に汚れがあったり、体臭がきつく入浴していないと思われる様子であったため、虐待を疑い、担任が親との面談を行った。
- ・ 虐待ではなく、不衛生なのは怠惰な生活が原因であること、親とけんかして家出をし、一時保護や施設入所となった経験があること、昼夜逆転の生活になって学校を休むことがあるといったことが分かった。
- ・ ヤングケアラーといえるかは微妙だが、一時期母親が体調を崩し、通院に付き添ったり、母親が入院している間、家事をしたりきょうだいの面倒をみたりしていた。



## ii) 支援の状況

- ・ 学校から市に相談、市から児童相談所に連絡が行き、児童相談所が深く関わるようになった。親と児童相談所にも関わりがあったため、現在も児童相談所が中心に支援を行っている。そのため、本校の SC と SSW はほぼ関わりがない。
- ・ 家庭側からの依頼により、家族会議に学年主任が参加することがある。
- ・ 卒業後は就職を希望しているため、ハローワークに同行するなど職探しをサポートしている。

## iii) 支援にあたり困難な点、支援時にあればよかった取組みなど

- ・ 母親には精神疾患があり、家庭に養育能力がないため、連絡がつきにくい。
- ・ 近所に祖母も住んでいるが、子どもと祖母の折り合いが悪いため、関わってもらうことが難しい。

## ② ヤングケアラーの把握、支援体制

- ・ 生徒指導部会を週2回、学年主任と管理部門との役職者会を週1回、職員会議を月1回開催している。また「気になる子どもを語る会」を月1回開催している。
- ・ 子どもについて気になることがあれば学年主任に報告することになっており、役職者会には SC が参加しており、SSW も参加することがある。
- ・ SSW には生徒指導部会に参加してもらっており、気軽に相談できる関係性ができている。また、学校内での共通理解を図るため、学校独自のアセスメントシートを作成し、生徒指導部会で活用している。
- ・ SC は週1日勤務の非常勤が2名おり、毎週2日間 SC がいる体制となっている。
- ・ 全校で 800 名程度の生徒がいるが、ヤングケアラーと認識している生徒はいない。不登校の子どもについては長期休暇(夏休みなど)には担任が定期的に連絡したり、部活を通じて様子を把握することもある。また、担任だけに任すのではなく複数人で対応するようにしている

## ③ ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと

### i) 教職員のアセスメント力の向上

- ・ 顕著な例があまりないためヤングケアラーに特出した研修はしていないが、怠惰で休んでいるのか家事で休んでいるのかの見極めをしてしっかり支援していく必要がある。

### ii) 食事や学習支援の場の充実

- ・ 本校は不登校の生徒が多く、学校の近くの子ども食堂に通っている子どももいる。この子ども食堂は民生委員が中心となって学習支援もしてくれている。
- ・ 民生委員と学校との会合を年2~3回開催しており、その時に子どもの様子などを聞くことがある。また本校の子どもが来たときに子ども食堂からその報告をもらうこともあり、子どもたちの居場所となり得る場所が充実し、地域における見守りの体制ができてくることが望ましい。

### iii) 児童相談所の体制の充実

- ・ 本校からは最初に市に相談するが、本校からの相談ケースは市から児童相談所につながるケースが多いため、児童相談所とは頻繁に連絡を取り合っている。しかし、児童相談所は様々な事例を抱えており多忙であるため、児童相談所の人員配置を厚くしてもらいたい。

### iv) 常勤 SC の配置

- ・ 現在 SC との面談は予約制であり、生徒にも保護者にも対応してもらっている。また、家庭訪問も依頼している状況である。SC を頼ってくる子どもも多いため、SC の常勤化が必要である。

### v) 子ども自身のヤングケアラーについての理解

- ・ ヤングケアラーに関して、子どもは認識していないと思う。特に本校の生徒にはそこまで困っている子は見当たらない。
- ・ ヤングケアラーに関して説明することは大切である。まだできてはいないが、定義など教える機会をつくる必要性は感じている。

## ④ ヤングケアラーの支援で難しい点、課題と感じていること

### i) 学校では関われない家庭も多い

- ・ 経済的な支援は学校ではできないため、そこは行政にお願いしたい。
- ・ 難しいケースが多く、学校として何からすればよいかわからないことも多いが、粘り強く接していくことが必要であると思っている。しかし、難しい家庭の場合には、児童相談所との関係がよくないケースもあり、そういう家庭の場合には見守るしかできない。また、刺激しない方がよい場合もある。
- ・ 学校としては、保護者と連絡をとれる関係づくりが大切であると思っている。また、学級担任だけに頼るのではなく組織で対応することが重要である。

### ii) 教員の観察力が求められる

- ・ 昔は校内暴力が多かったが、近年は心が病んで不登校になったり、非社会的になったりする子が多い。校内暴力と違って顕著に表れないため、また根が深く対応が難しいと感じている。
- ・ いじめアンケートを通じて子どもの状況把握に努めているほか、年に3回ほどある教育相談（個人面談）や生活日記を通じて困りごとを探っている。生活日記は毎日記入してもらっており、その自由記述欄に困っていることを書く生徒もいる。

## (6) 西三河地域 中学校

### ① ヤングケアラーの対応事例

#### i) 事例の概要、把握した経緯

- ・ 学級での個人面談の際、生徒から担任に「自分ばかりが幼いきょうだい達の世話をさせられる。家の中はゴミだらけでひどい状況になっている」と相談があった。生徒の話では、両親は遅くまでパチンコに行っていることが頻繁にあるとのことだった。

- ・ 今年度になり、生徒に登校しぶりがみられたり、欠席も増えたりしたため、それが更に悪化する恐れがあったことから、学校として早期対応が必要と考えた。

## ii) 支援の状況

- ・ 学校への相談と同時に、生徒自身が児童相談所にも電話相談しており、結果的に一時保護となった。児童相談所は一時保護中に学校と情報共有し、家庭内の衛生状況や養育のしかた等について両親に指導を行った。
- ・ 学校では、ケース会議(校長、教頭、生徒指導主事、学年主任、担任、養護教諭、生徒指導コーディネーター、SSW、SC が参加)を開催した。当該生徒の困っている状況の背景を踏まえ、様々な角度から対応策の検討を行い、SSW には関係機関との連携調整を依頼した。
- ・ 担任、養護教諭、SC が生徒との面談を行って状況把握に努めるとともに、面談以外でもこまめに生徒に声かけをした。

## iii) 支援による変化

- ・ 児童相談所の指導により家庭内の衛生状態が改善され、両親の帰宅時刻も以前より早くなったことで、生徒の困りごとは一時的には解消された。しかし、数か月後、また同じ困りごとを訴えてきた。家庭の継続的な支援が必要だと考える。

## iv) 支援にあたり困難な点、支援時にあればよかった取組みなど

- ・ 一過性の課題ではないため、長期的に家庭を支援しなければならない。本人の中学校卒業後の支援を公的機関がどのようにつなげていくかが課題である。

## ② ヤングケアラーの把握、支援体制

### i) 把握、支援体制

#### <面談、アンケート>

- ・ 生徒の困りごとを把握するため、本校では個別面談を各学期1回以上実施したり、困りごとに関するアンケートを行ったりしている。

#### <校内の検討体制・生徒指導コーディネーターの配置>

- ・ 学校では担任が、面談やアンケート等で生徒が困っている状況を把握した時点で、些細なことでも職員室や学年会議で話題にすることを重視している。また、毎週の相談部会(教頭、各学年主任、養護教諭、教育サポーター、SC、SSW が参加)で協議し、必要に応じてケース会議にかける。
- ・ SSW と SC は毎週2日程度勤務し、情報交換会や会議にも積極的に参加している。
- ・ SC の業務としては、生徒や保護者へのカウンセリングが中心であるが、生徒や保護者との関係に悩む教員の相談にも乗っている。生徒や保護者からのカウンセリングのニーズは非常に高く、調整が大変である。予算に限りがあるが、来校頻度が上がるとありがたい。
- ・ 本校には生徒指導コーディネーターが1名配置されている。本校の生徒指導コーディネーターは元校長であり、退職後しばらく教育事務所の相談員を担っていた。これまでの経験を活

かし、深刻な事例での支援策(特に学校内外の連携)について助言を受けている。また、SSWと時間を合わせてケース会議や情報交換会に参加している。

#### <教員向けの研修等>

- ・ 教頭が職員会議等で、子どもの困りごとや悩みごとについてどう寄り添うかについての研修を行い、文部科学省の資料等を用いてヤングケアラーの事例も紹介した。また、今年度はSSWやSCがアセスメントシートの作成やWISC検査結果の見方、ケース会議の有効性についての研修を行った。
- ・ 研修については、職員会議後の10～15分で行うなど、準備も含めて職員の負担が大きくなるよう工夫しており、研修講師は主に教頭やSSW、SC、ミドルリーダー(30～40代の中堅教諭)が担っている。
- ・ 研修ではないが、生徒のSOSサインについての受け取り方や生徒がサインを出しやすい関係づくりなどについても適宜教頭から各教員に話をしている。

#### <アセスメントシートの活用>

- ・ ヤングケアラーに特化したものではないが、市がSSWスーパーバイザーの指導のもとで作成したアセスメントシートを使って、支援が必要な子どもの把握を行っている。本人の生い立ちや家族関係、家族の状況、きょうだいの様子等の項目を時系列や関連図で記入していくようになっており、子どもの背景を把握するには大変有効なシートとなっている。
- ・ アセスメントシートについては、今年度、本校が市内のモデル校として活用しており、市内の学校に広げている。
- ・ アセスメントシートを活用することによって、問題を抱える生徒の表面だけでなく、背景まで理解した寄り添いができるようになってきた。担任が家庭訪問した際、子どもや家族への声かけの仕方を意識して工夫できるようになった。若手職員の育成のためにも有効である。

### ii) 関係機関との連携

- ・ 生徒の卒業後、進学先の学校とは、気になる生徒のことや支援の仕方などについての情報共有を行っている。
- ・ 中学校卒業後も家庭支援がつながるように必要なケースについては、市の担当課職員にも、本校のケース会議への参加を依頼している。また、当該生徒や保護者と市の関係者を学校の場でつなぎ、卒業後にSOSが出しやすい環境を整えている。

### ③ ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと

- ・ 今年度、市の子ども・若者総合相談センターが新設された。中学校卒業後も長くつながりをもてるのは市の子ども・若者総合相談センターや担当課であるため、そういった機関と学校との連携を強化したい。
- ・ センターは設置されたばかりであるが、既に保護者からの相談が多く入っていると聞いている。中学校卒業後の引きこもりや高校中退者の相談窓口が少ないため、ニーズが高くなるのではないかと。

- ・ 関係機関と学校との連携においては、当該ケースに対する温度感の共有が重要である。電話連絡だけではなく、ケース会議等で対面による話し合いの機会を設けることで、より深い関係性が継続できると考えている。

#### ④ ヤングケアラーの支援で難しい点、課題と感じていること

- ・ 教員が生徒との会話等から、ヤングケアラーに該当するのではと思っても、生徒に困っているという感覚がなかったり、家事等をする中で自己肯定感が高まっていたりすることもあった。困っている生徒の力になりたいという教員側の思いだけで行動するのではなく、本人の心境を十分に理解し、どう寄り添うか生徒の側に立って考えていくことが大切である。
- ・ 生徒が困りごとを「親には伝えないでほしい」と話したため、若い教員が一人で抱えてしまったケースがあった。生徒との信頼関係を保ちつつ、どう保護者や周囲に伝えるのか、連携をとるのか、校内での研修を積んでいきたい。
- ・ 家庭内の実態は外部から見えにくいいため、学校がそれを完全に把握することは困難である。また家庭内の状況が把握できたとしても、教員がそこに介入していくことに難しさを感じている。だからこそ、これまで当該家庭と接してきた市の機関や小学校との連携を図っていくことが重要になると考えている。

### (7) 東三河地域 中学校

#### ① ヤングケアラーの対応事例

##### i) 事例の概要、把握した経緯

- ・ 転入後、登校しない日が続いたことから、担任が家庭訪問をして本人から話をきいたところ、母親が働いておらず家事もしていないことがわかった。
- ・ 転校元の学校に問い合わせたが、不登校でありかつ突然引越ししたりしており、状況が把握されていなかった。
- ・ 母親が車の所持にこだわっているため、生活保護の受給もできていない。

##### ii) 支援の状況

- ・ 市が何度も家庭訪問したが、「周りからの関わりがわずらわしい」と感じているようで、うまく支援につながらず半年ほどそのような状況が続いていた。
- ・ 本人も学校に通う気がなくなってきたため、担任が差し入れをもって家庭訪問したり、学校に呼んで話をしたりするなど、本人との関係づくりに重点を置いて継続的に関わりを持ち続けた結果、少しずつ心を開いてくれるようになり、登校できる日が増えてきていた。
- ・ その後、弟の不登校とネグレクトの可能性が疑われたことから行政の介入を検討していたところ、知らない男の人が定期的に家に来ていることが分かったが、確定的なことがなく児童相談所も踏み込めていなかった。しかし本人よりその男の人からの性被害を受けたとの話が出たため、警察に相談し一時保護となった。
- ・ 一時保護期間中に児童相談所が、母親、市、学校が同席する場を作り、心配ごとの確認をするとともに、児童相談所と市が定期的に家庭訪問を行って、母親に「知らない人を家に入れな

い「食事をつくる」「家をきれいにする」等、改善することを約束してもらい、保護解除となって現在は自宅で生活できている。

### iii) 支援による変化

- ・ 保護されると制限がかかるため自分に不都合が生じるケースもある。そのため、本人が学校に対して事実を隠してしまうのではないかとということが一番の心配であった。
- ・ 現時点はそのような兆候はなく、学校に来ることができる時間も増え、家庭訪問も穏やかに迎えてもらっているためよい方向に行っていると思う。

### iv) 支援にあたり困難な点、支援時にあればよかった取組みなど

- ・ 家庭の問題のため、把握したとしても学校としてできることが少ない。母親に「働いてほしい」とは言えず、「食事をつくってほしい」といっても「つくっている」と返答されればそれ以上は踏み込めない。支援先を紹介することはできるが、支援先が分かっても本人が望まなければ支援にはつながらない。
- ・ 市で生活保護を探ってはいたが強制力がないため、家庭内に課題があることはわかっているが一時保護に至るまで介入できなかった。
- ・ 食事が無いことや、家が雑然としていることが当然であり、お菓子を食べたことがなく、食事は1日3食であることも知らなかった。こういう子どもの場合には世間一般の当たり前を理解してもらい、改善が必要であると思ってもらうことが大変である。

## ② ヤングケアラーの把握、支援体制

### i) 把握・支援体制

- ・ 生徒と担任での1対1での面談を行い、心配な状況にある生徒については、週1回開催する生徒指導部会で必ず話題にしている。
- ・ 教員1人で抱え込まないよう、複数人で対応するようにしている。
- ・ SSW が定期的に関わってもらえれば心強いが、現状はそのような体制にはないため、特別支援のコーディネーターが代わりにその役割を担っている。
- ・ SC は週1回来校しているため、心配な生徒や家庭については SC につなぎ、SC がアセスメントを行っている。これにより、発達や知的の課題がわかり、特別支援学級や通級のサポートにつながっている。

### ii) 関係機関との連携

- ・ 本校でのケースではないが、児童相談所や市、警察につないだ経験はあり、関係機関とのつながりは大切であると感じているが、そういった経験がある学校ばかりではないため、SSW のような知識や経験がある人が学校に配置されている環境を整えることが重要であると思う。

### ③ ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと

#### i) 教職員の理解

- ・ 教職員のヤングケアラーに対する理解が必要である。「家の手伝いをしてえらいね」という状況ではない家庭は多々あると思われ、その可能性を教職員はもっておく必要がある。現時点で研修を行う予定はないが、会議などで話題にするなど情報提供をしていきたい。

#### ii) 学校からの相談窓口の設置

- ・ 学校で把握ができたとしても、家庭の問題であるため学校での指導や対応は難しい。
- ・ 市や警察に繋げていけるようにするためにもこれらの機関とのつながりは大切であるが、「ここに相談すれば」という窓口があるとわかりやすい。学校としては日々状況を確認し、情報としてあげておく場があるだけでも心強い。

#### iii) 教職員が一人で抱え込まないようにするための配慮

- ・ 担任が負担を背負ってしまうことがないよう、教員自身も安心して相談できる学校内での環境づくりも必要である。夜7～8時でなければ家庭訪問できない家庭もあり、ほとんどが時間外の対応になる。攻撃的な家庭や連絡がとれない家庭もあるため、教職員が一人で抱え込まないようにしなければならない。

#### iv) 子どもからの相談に応じてあげられる環境づくり

- ・ 子どもが助けてほしいとカミングアウトしても、大人側で助けてあげられる体制が整っていないと一時保護には至らない。子ども達が一大決心して相談しているにもかかわらず、一時保護先がなく保護に至らない場合があることは避けたい。一時保護する場所が少ないと言われるため、そのような子どもが避難できる場所が増えるとういと思う。
- ・ 相談してよい思いをしなかったとなると次につながらない。次に相談してもらえなくなる可能性もある。相談することで何かが変わるということ子ども達に目に見えるようにすることが大事である。
- ・ 大人から子どもたちへ「大丈夫だよ」と言ってあげる取組みが広がっていけばと思う。
- ・ 学校内においても、子どもたちがこころを休める場所をつくっていくことが必要である。コロナの状況もあって、保健室で相談しにくい環境にあるが、相談対応は保健室の本来の業務ではないため、保健室以外でそのような場所を確保できるように努めている。

### ④ ヤングケアラーの支援で難しい点、課題と感じていること

- ・ 本件だけのことでなく、支援が必要だと思う子どもや家庭に対して何とかできればと思うが、学校でできることは限られている。やれることを精一杯やることしかできない。
- ・ 教員が生徒一人一人に対して全力で心を配り、信頼関係を築くことが大切である。ただ、情や思いだけに頼ってしまわないような仕組みがあればと思うが難しい。

## (8) 名古屋地域 高等学校

### ① ヤングケアラーの対応事例

#### <事例1>

##### i) 事例の概要、把握した経緯

- ・ 遅刻・欠席が多く、学納金の遅れや未払いもみられた生徒であり、担任との面談で本人にその理由を聞いたところ、きょうだいが多くその面倒を見ていることで遅刻や欠席せざるを得ないこと、両親の収入だけでは足りず、アルバイトをしていることが分かった。

##### ii) 支援の状況

- ・ 本人から話を聞いた担任と養護教諭から SC に相談してみることを提案し、SC につないだ。また SC が SSW に依頼し、SSW からの提案等を受けながら、本人から進路や目標、本心等を引き出していった。
- ・ SSW により、生活保護の関係で生徒本人が毎月担当ケースワーカーと話ができていたことも分かった。

##### iii) 支援による変化

- ・ 進路や目標について話をしていたことで気持ちが前向きになり、落ち着いて生活できるようになった。
- ・ 卒業を控え、自分のまわりの人間関係が変わってしまうことから、多少の不安定さがみられる。

##### iv) 支援にあたり困難な点、支援時にあればよかった取組みなど

- ・ 継続的に話を聞くことにより信頼関係が生まれて話を引き出すことができたが、信頼関係をつくるまでに相当の時間がかかった。
- ・ 生徒本人に話をするだけのエネルギーがない時もあり、「話をしよう」と気持ち的に立ち上がれるような場面をつくることにも苦慮した。

#### <事例2>

##### i) 事例の概要、把握した経緯

- ・ 欠席日数が多かった生徒について、知的障害のあるきょうだいの世話をするためであることが担任との面談時にわかった。

##### ii) 支援の状況

- ・ 母親にも連絡をしたが、本人と直接話をしてほしいといわれた。親として子どもにかかわるという意識があまりないようで、子どもも親に期待していない状況であった。
- ・ 生活保護を受けており市の担当者とのつながりはあったため、生徒はそれ以外の人のかかわりは不要と考えており、SC や SSW に相談することも勧めたが、外の人に話をしたくないと拒否をした。



### iii) 支援にあたり困難な点、支援時にあればよかった取組みなど

- ・ 親との関係性から大人は信用できない存在であるため、誰かに頼るのではなく、自分で何とかするという想いが強い。支援につなげるためには、大人への信頼を取り戻すことが必要であり、時間をかけて対応するしかないと思う。
- ・ 本人は困っていないのかもしれないが、周りからみると支援が必要な状況であるため何とかしてあげたいと思うが、本人の気持ちとの溝を埋めることが難しい状況が続いている。

## ② ヤングケアラーの把握、支援体制

### i) 把握・支援体制

#### <把握状況・体制>

- ・ 生徒が相談できる窓口として、保健室や相談部がある。
- ・ 精神健康アンケートを実施しているが、精神面での把握を目的とした内容になっているため、ヤングケアラーを把握することは難しい。
- ・ そのため、今回県が実施した学校へのアンケート調査の設問を用いて、本校の1～2年生を対象としたヤングケアラーに関するアンケート調査を独自で実施した。本校はヤングケアラーと思われる子どもが多く、もっと高い割合の結果が出るかと思ったが、生徒によって設問の文言の解釈が異なったり、教員側はヤングケアラーだと思っていても生徒本人はそう認識していないケースもあるなど、正確に実態を把握することの難しさを感じた。

#### <情報共有体制>

- ・ 個人情報でもあるため、全校会議等での共有はしておらず、担任会や学年会で情報共有を行っている。また、担任と養護教諭で相談することもある。

#### <SSW・SC>

- ・ 生徒の悩みや困りごとについて、本人からの申し出や担任が気になった生徒がいる場合には、SC や SSW につなぐようにしている。
- ・ 本県の SSW は、SSW1人あたり 17～19 校を担当しており、学校からの依頼によって日程調整を行って来校してもらう。現在は月1回程度の来校である。どの機関がどのような役割を担っているかという知識が学校側に乏しい場合があるので、SSW の知恵を借りて吸収していきたい。
- ・ 緊急対応を要する場合には、県に依頼し SC を派遣してもらうこともある。
- ・ SSW と一緒に子ども・若者総合相談センターへ行くなど、外部と連携するケースもある。区役所の担当者と話す場に SSW に立ち会ってもらうこともある。

### ii) 関係機関との連携

- ・ 子ども・若者総合相談センターや区役所等、関係機関を訪問する際には SSW に同行してもらうこともある。
- ・ 児童相談所や区役所とは密に連絡を取り合っており、互いに情報共有を行っている。また、生徒の状況によっては医療機関との連携や、出身校への情報提供依頼をすることもある。

### ③ ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと

#### i) 教員がイメージを持ちやすい研修

- ・ 本県では各校1回、SSW に関する1時間強の研修があるが、SSW とは何かの説明であったため具体的にどうすればよいかイメージしにくいとの意見があった。事例紹介を通じて、SSW に繋げるべきケースなどの説明があるとよい。

#### ii) 学校と市、関係機関間での連携強化

- ・ 市と学校との連携を強化していく必要がある。
- ・ 学校から市に情報提供を行う場合、通告か情報共有かの判断は市側で決めるといわれてしまうと、情報提供を行うことをためらってしまうことがある。学校がなぜ市に連絡をしてきているのかの意図を汲んでもらいたい。
- ・ 市と学校との間に信頼関係ができることが大切であり、それができれば役割分担もしやすくなるのではないかと。
- ・ 複数機関が学校に集まり、情報共有・共通認識を持つ機会が必要である。区役所や児童相談所、中学校、その他の機関が迅速に連携をとれる体制を構築できるとよい。

#### iii) 子どもたちへの情報提供

- ・ ヤングケアラーに限ったことではないが、福祉サービスや相談窓口などを知らない子どもたちが多くいる。そういうサービス等があることを子ども自身が知ることで、子どもたちの選択の幅が広がる。
- ・ 学校に相談できなかつたとしても、どこかにはつながっていけるよう、子どもたちへの情報発信を行うことが重要ではないかと。

#### iv) SSW の配置の充実

- ・ 教員は子どもの支援の専門家ではなく、かつ多忙であるため、教員だけで対応するには限界がある。
- ・ 全校一律は難しいと思うが、様々な悩みや家庭の事情を抱える子どもの多い高校には SSW を常駐させるなど、体制強化を検討してもらいたい。

#### v) 子どもにとって教員は「信頼できる人である」と思ってもらえる関係性の構築

- ・ 小さい頃から「先生は信頼できる存在」という認識を子どもが持っていてくれれば、何かあった時に相談することができるが、その経験がなければ、相談したり周りの大人に頼ったりすることが難しい。
- ・ 小学生の段階から、先生に頼って助けてもらうという経験を積み重ねて中学校・高校に進学してほしい。

#### ④ ヤングケアラーの支援で難しい点、課題と感じていること

##### i) 家庭の事情に踏みこむことへのためらい

- ・ 担任が各生徒に行う教育相談の内容について生徒自身に確認したところ、「小学校から高校まで家庭の様子を聞かれることがほとんど無かった」と言っている生徒が少なくなかった。教員側に生徒のプライベートを深く聞くことへのためらいがあるのではないかな。

##### ii) 出身校からの情報の引継ぎが不十分

- ・ ヤングケアラーであることを把握している小中学校も多いと思うが、高校にはその情報が引き継がれていない。そのため、子ども本人が話さなかったり、ヤングケアラーであると認識できていなかったりすると高校側としては実態が把握できない。
- ・ 中学校から特別支援計画を引継ぐことはあるが、家庭環境の引継ぎに関する書類はない。

### (9) 西三河地域 高等学校

#### ① ヤングケアラーの対応事例

##### i) 事例の概要、把握した経緯

- ・ 両親と子どもが3人の外国人家庭。子どもたちは日本語が堪能だが、両親はほとんど日本語を話すことができない。
- ・ 高校3年の4月頃に校内で生徒が泣いており理由を聞いたところ、中学生と小学生の弟の学校からの手紙を両親に渡しても理解できないため、自分が全て翻訳して説明し、代筆して提出しなければならず、勉強の時間が取れない日が続いており、今後も同じ状況が続くのかと思っただけで不安になったとのことだった。
- ・ 加えて両親が夜勤の際にはきょうだいの食事の世話や洗濯等の家事も担っており、それも負担・不安の要因になっていた。

##### ii) 支援の状況

- ・ 担任から管理職に相談があり、すぐに市に相談したところ、語学指導員がいるとの返答があり、学校からの手紙の翻訳を依頼して対応してもらえるようになった。
- ・ 両親が不在時の家事については、子ども・母親・担任で三者面談を行って事情を説明したところ、改善されていると聞いている。
- ・ 事情を把握した4月の段階で SSW につなぐことも検討したが、母親に外部の人間が関わることへの抵抗感があるため SSW への相談はしなかった。

##### iii) 支援にあたり困難な点、支援時にあればよかった取組みなど

- ・ 通訳であればすぐに支援策は思いつくが、家事になると家庭のどこまで踏み入っていいのか悩ましい。
- ・ きょうだいの通う小中学校にも連絡をしたが、両親が日本語を話せないことについて把握していなかったことが分かった。

- ・ 本市の場合は市に相談すれば家庭のことについての対応はしてもらえるようだが、地域が異なると同じ組織ではないためうまくいかないこともある。地区毎の事例を知ることができると支援に繋げていきやすくなるのではないかな。
- ・ つながりがあれば相談しやすいが、どの学校も常に行政機関とつながっているかというところではないのが現状である。

## ② ヤングケアラーの把握、支援体制

### i) 把握・支援体制

- ・ 教育相談委員会という会議体を設けているほか、毎週決まった時間に管理職と学年主任が集まり、気になる生徒の情報共有を行っている。
- ・ 気になる生徒の情報や緊急を要することについて学年主任に報告するよう全教職員に伝え、情報があがってくるようにしている。
- ・ 教職員がどのようなケースを報告・相談すればよいか分かるよう、「明確に理由がわかっていたとしても3日以上連続して休んでいる生徒」「生徒から相談があったケース」「他の生徒からの情報」「保護者からの相談のケース」「担任の先生が見ていて元気がないケース」については相談してほしいと具体的に説明している。
- ・ 課題が複数ありそうな込み入ったケースの場合には、県が作成したアセスメントシートを担当が作成して学年主任に渡してもらっている。SSWへ依頼時にもこのアセスメントシートで情報提供を行っている。
- ・ 地区の生徒指導委員会相談部会(校内の会議ではなく、各校の生徒指導主事や相談係が集まる会議)として事例集のようなものをつくればと思うが、そこまでの事例がまだない。本校は、家族状況も比較的落ち着いていることが多く、ヤングケアラーに該当するような状況の生徒はほとんど在籍していないとの認識である。

### ii) 関係機関との連携

- ・ 教育相談委員会は職員のみでの参加である。SSWに相談しているケースはあるが、会議への出席依頼が必要なレベルではないため、この3年間は参加依頼の実績はない。
- ・ 自殺願望があった生徒について、親に迎えに来てほしいと連絡したが「そのまま帰してほしい」と取り合ってもらえなかったことがある。対応についてSSWや児童相談所とも相談したが答えを導くことができず、一晩中、学校で生徒に付き添うことを考えたが、最終的には心療内科をもつ救急病院が緊急対応で入院させてくれることになった。「病院」という選択肢もあることが分かったことは大きかった。

## ③ ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと

### i) 教員を対象としたヤングケアラーに関する研修の実施

- ・ ヤングケアラーの認知度が上がったことにより、教員もヤングケアラーではないかということについては認識できるようになってきているが、実際に担当生徒がそうであったとわかった時に「どうしたらよいか」ということまでのイメージは持っていない。

- ・ 今年度、いつも相談している SSW に学校に来てもらい、全教員に対して SSW の仕事についての講演をしてもらった。そこで実際の事例を紹介してもらったが、少々極端なケースであったため、教員にとっては自分がどうしたらよいかを想像するには難しかったかもしれない。
- ・ この研修をきっかけに SSW に気軽に相談するという意識になってきている。管理職と SSW とにつながりがあることも職員に伝わり、教員も SSW に相談しやすい空気が生まれている。

## ii) 事例の共有等を通じた、県内ネットワーク構築に向けた取組みの実施

- ・ 支援を必要とする家庭や子どもが多くいる学校に勤務をしていると、ケースを通じて児童相談所や市の福祉課、SSW とのつながりができる。
- ・ 「集金ができない」「父母から虐待を受けているようだ」「子どもが行方不明になった」「自殺をほのめかしている」などのケースにどう対応したらよいかについて、定時制ではどこも同じような悩みを抱えているため、校長会・教頭会でケースについて互いに相談したり、事例集を作成して共有したりするなど、連携しながら対応することができていた。
- ・ しかし、全日制は学校数も多く、また支援を必要とするケースも少ないため話題にもあがりにくく、ネットワークを構築しにくい。そういう子どもがいた場合にしっかり支援につなげていけるようにするためにも、学校同士の横のネットワークがうまくつくれるとよいと感じる。教頭会の場に SSW に来てもらい、管理職が知っておくべきことを研修してもらえるとよいと思う。
- ・ 西三河地域では3地区に分かれて教頭会を行っているが、それでも人数が多いため細かい話はできない。やはり市町村レベルでなければ実動はうまくいかないと思う。
- ・ 次年度から市町村別等でコーディネーターを配置し、教育事務所もしくは児童相談センター所管別で連絡会議を設ける予定である。

## iii) SSW の充実

- ・ 以前に比べてかなりの人数の SSW を配置してもらっているが、それでも SSW 自身のオーバーワークは気になっている。SC を兼ねた SSW の数が増えればよいと考えている。

## iv) 支援を必要とする子どもの早期把握・早期対応が重要

- ・ 児童相談所や一時保護所でも高校生が増えてきている。幼い頃から様々な状況にあっても、高校生になって初めて認識する・されるケースがある。しかし、高校生になってからでは対応できる期間が短くなってしまうので、早期に把握し、支援につなげていくことが重要である。

## ④ ヤングケアラーの支援で難しい点、課題と感じていること

- ・ 校内では通訳を介す必要があるケースはほとんどないが、本県は学校に通う年代の外国籍の子どもの数は日本一である。
- ・ そのため、定時制では通訳を雇うことが必須であり、今年から登録制になったが、それまでは通訳を自分たちで探さなければならなかった。また、授業開始前に登校してもらい、通訳を介して事前学習を行うことも日常的に行われているため、学力は問題ないが日本語を話すことができないために普通高校に入ることができない外国人家庭の子どもの対象として特別枠を

設けて入学させる仕組みもあり、定時制か外国人選抜の高校への進学を自ら選択する外国籍の子どもも多い。

- ・ また、定時制では入学時に親が日本語を理解できるかを確認し、できない場合は通じる言葉に訳した文書(6言語程度)を配布しているが、外国籍の子どもが多く通う小・中学校でも行っていると思う。ただ、全日制でそのような子どもに出会っていない先生はほとんど把握していないと思われ、学校や教職員によって持っているノウハウの差が大きいことが課題である。

## (10) 東三河地域 高等学校

### ① ヤングケアラーの対応事例

#### <事例1>

##### i) 事例の概要、把握した経緯

- ・ 両親がおらず、成人した兄と妹の3人で暮らしており、本校の生徒が家事を行い、アルバイトをして家計を支えていた。
- ・ 中学校からも家庭の状況と本人が精神的に不安定な状態にあることは聞いていたが、入学直後から学校で急に倒れたり、泣き出したりするなど精神的な不安定さが顕著にみられていた。
- ・ 本人の話では、親戚や祖父母の援助がなく、母親代わりとしてしっかりするようにと言われていたため、プレッシャーを感じながら「自分がしなければ」と強く思っているとのこと。
- ・ なお、妹も本校の生徒だが、中学時代から非行的行動が多くみられたことから、現在も市が関わっている。

##### ii) 支援の状況

- ・ SCが本人からの聴き取りを行ったが、うまく話すことができず、ただ不安が大きいことや色々なことが怖いということしか言わなかった。
- ・ そのため、担任が毎日丁寧に本人の話を聞いて時間をかけて関係性を築いたことで、生育歴や、現在家事を1人でしていること、きょうだいの世話で追い詰められていることを話してくれるようになり、少し落ち着きが出てきた。
- ・ しかし現在は卒業を控え、今まで理解してくれていた担任などがいなくなることを不安に思っていたり、自分が家を離れるときょうだいが暮らしていけなくなるため希望通りに就職ができなかったことから、精神的に不安定な状況になっており、今後のことについて本人と一緒に考えているところである。

##### iii) 支援にあたり困難な点、支援時にあればよかった取組みなど

- ・ 教員が付き添うので心療内科を受診するよう勧めたが、以前受診した際の印象が大変悪かったようで通院を拒否していた。
- ・ 経済的に安定していないため、本人が「お金がないからアルバイトを休めない」と言っており、学校としては解決が難しい。

## <事例2>

### i) 事例の概要、把握した経緯

- ・ 外国人家庭の生徒で、多くの親戚と同居しており、本校の生徒が家事や親・親戚の通訳を担っていた。
- ・ 入学当初から、親や親戚が市や病院、在留カードの書き換えなどに行くときには通訳をするために同行しており、学校を休むことが頻繁にあった。また、本人の体調面で不安なところもあった。

### ii) 支援の状況

- ・ 学校で話を聞いたり、病院を紹介したりすることしかなかった。
- ・ 保護者会で、担任から保護者に「学校優先でお願いします」と話したが、保護者は家事や通訳をすることはその生徒の仕事だと考えており、改善されなかった。

### iii) 支援にあたり困難な点、支援時にあればよかった取組みなど

- ・ 家族の世話が continuing することで、本人は学校を休むことに抵抗を感じなくなっている。しかし、学校としては家庭内に入って支援することは難しい。

## ② ヤングケアラーの把握、支援体制

### i) 把握・支援体制

- ・ 本校は、ヤングケアラーと思われる生徒がとても多く、きょうだいの送迎や家族の通訳のために遅刻・早退をする生徒、障害のあるきょうだいの世話のために働かなければならない生徒などがいる。
- ・ 毎日生徒が書く生活の記録を確認し、生徒の状況について教員間で話をしたり、各学期で実施する担任面談で、家庭の状況や進路について深く聴くことで生徒の状況を把握するようにしている。また、定期的にアンケートを行い、その結果について各担当で話し合っただけで状況に応じて対応を検討している。
- ・ 本校は職員数がそれほど多くなく、皆が同じ職員室にいるため、日常的な情報交換が行えている。
- ・ 本校は不登校経験者が多く、教育相談の対象になる生徒が多い。生徒との面談等は担任が中心になって行い、教育相談に上がってくるケースについては必要に応じて SC につなぎ、継続的な支援が行えるようにしている。しかし、対象生徒数が多く、全員を SC につなぐことはできず、学校の集団生活に適応できない生徒を優先せざるを得ない。家族との関係性がよくない生徒などは、長期的なカウンセリングが必要であるが対応しきれないのが現状である。
- ・ 現在 SSW が配置されていないが、本校には SSW が必要であるため、要望を出している。

### ii) 関係機関との連携

- ・ 市の子どもの担当課に相談はしているが、忙しいようで、なかなか密なコミュニケーションはとれていない。

### ③ ヤングケアラーの支援にあたって必要なこと

- ・ 住まいから金銭面のことまで様々な困難を抱えている生徒がいるため、どのように対応すればよいか困ることが多く、相談できる場所をつくってほしい。

### ④ ヤングケアラーの支援で難しい点、課題と感じていること

#### i) 家庭の事情が複雑で解決が難しい

- ・ ヤングケアラーの認識が広がっていくことで、ヤングケアラーと思われる子どもたちへの支援が進んでいけばよいと思うが、家庭の状況が複雑で、複数の課題があるケースも多く、「解決する」ことはとても難しい。
- ・ 生徒にパニック発作等の身体的な症状が出てきて初めて状況を把握することもある。また、把握したとしても解決策が見つからないことや、解決するまでに時間を要することも多く、その間に生徒の体調や精神状態が悪くなってしまうこともあり、支援の難しさを感じている。

#### ii) 保護者の理解を得ることが困難

- ・ 子どもは親を助けてくれる存在であり、子どもを働かせたり、学校を休ませたりすることを悪いことと認識していない親もいる。子どものアルバイト料を学校の授業料に充てていたり、生活費で使っているケースも多くみられ、卒業後も子どもを近くに置いて、いつでも経済的に助けてほしいと考えているようである。
- ・ 外国人家庭の場合には、その国の文化もあり、子どもに対する考え方が日本と異なっていることも多く、学校の思いを汲み取ってもらえないことにジレンマを感じている。

#### iii) 本人の状況を受け止めることの難しさ

- ・ 生徒に優しい言葉をかけるだけでは、解決しない問題が多い。教員は「何とかして助けたい、支援したい」と思って声かけするが、本人が抱える背景の重さから、結局何もできないままになってしまったことがあり、結果として、先生に頼ってもやっぱりだめなんだと、生徒に思わせてしまった。
- ・ 教育相談をしていると、切り立った山の上に頑張って立っているような生徒をよくみるが、支えすぎることによって倒れてしまうこともあり、そのバランスが難しいと実感している。



## 第5章 調査結果の考察

### 1. 小・中・高校生の生活実態に関するアンケート調査より

#### (1) お世話をしている家族が「いる」子どもの割合とお世話による影響

- 自身が家族の中でお世話をしている人が「いる」が、小学5年生:16.7%、中学2年生:11.3%(2020 全国調査:5.7%)、高校2年生(全日制):7.1%(2020 全国調査:4.1%)であった。お世話を必要とする人は、きょうだい、母親が多く、お世話の内容としては、家事、外出の付き添い、感情面のサポート、見守りが多かった。
- お世話の頻度や時間、お世話をする事の辛さについての回答では、「週3日以上」「1日3時間以上(平日)」「時間的余裕がない」「精神的に辛い」と回答した子どもがおり、早期の支援が必要な子どもが一定程度いることが把握された。
- 一方、本県の調査結果では、世話の頻度や時間、世話による生活への支障、世話の辛さといった、家族の世話をを行うことによる負担度については、下表のとおり中高生ともに全国調査の結果を下回っている。

図表-298 「家族の世話の状況」についての全国調査との比較

家族の世話の状況		小5	中2	高2全日制
頻度	週3日以上	49.2% ( — )	48.0% (63.0%)	45.9% (64.5%)
時間	平日1日3時間以上	20.2% ( — )	16.5% (33.5%)	14.1% (35.1%)
支障の有無	生活に困り事がある	23.9% ( — )	23.3% (31.3%)	23.0% (31.9%)
精神的負担	辛さを感じている	17.2% ( — )	15.0% (26.3%)	18.3% (31.9%)

( )は、2020 全国調査

- このように、本県の調査結果では、強度の負担を感じている層は全国調査より少なく、全国調査で把握しきれなかった“負担の軽度な層”が一定程度含まれていると考えられる。こうした“負担の軽度な層”に関しては、未来ある子どもたちが希望に満ちた生活を送るためにも、未然防止の観点での支援が必要となる。
- なお、お世話をしていることでやりたいことができないことは、「自分の時間が取れない」「睡眠が十分に取れない」「勉強する時間が取れない」といった回答が多くなっている一方、半数以上が「特にない」との回答(小学5年生:60.9%、中学2年生:56.8%、高校2年生(全日制):55.7%)であった。しかし、このことは、子どもにとっては現在の状況が当たり前となっており、「やりたいこと」等を考えたことがない子どもが存在する可能性があることを考慮する必要がある。

- お世話をしている家族が「いる」子どもの、現在の「生活の満足度(10 点満点)」の平均は、小学5年生:7.43 点(お世話をしていない子ども:7.94 点)、中学2年生:6.75 点(お世話をしていない子ども:7.21 点)、高校2年生(全日制):6.61 点(お世話をしていない子ども:6.95 点)となっており、小中高校生ともに、家族の世話をしていない子どもと比較すると 0.3～0.5 点ほど低い結果となっている。この点数の差は、必ずしも大きなものではないが、家族の世話が、生活の満足度に影響を及ぼす要素の一つになっていると考えられる。
- また、将来の進学希望について、高校2年生(全日制)の大学・大学院への進学希望は、家族の世話をしていない子どもが 71.9%であるのに対し、家族の世話をしている子どもは 60.0%と約 12%低い結果となっており、家族の世話をしていることが、子どもの将来の選択肢に影響することが懸念される。

## (2) ヤングケアラーの自覚と認知度

- 自分がヤングケアラーに「あてはまる」と回答した子どもは、小学5年生:2.9% 中学2年生:2.2%(2020 全国調査:1.8%)、高校2年生(全日制):1.7%(2020 全国調査:2.3%)であり、昨年度の全国調査と大きな差は見られなかった。
- また、「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがある子どもは、小学5年生:24.7%、中学2年生:29.3%(2020 全国調査:15.1%)、高校2年生(全日制):32.9%(2020 全国調査:12.6%)であり、内容も知っている子どもはさらに少ない。昨年度の全国調査と比較すると、「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがある子どもの割合は増加しているものの、7割程度の子どもたちは「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがない状況にある。
 

- ・ 「ヤングケアラーという言葉を知ったことがあり、内容も知っている」との回答は、小学5年生で 8.9%、中学2年生で 13.7%、高校2年生(全日制)で 16.8%、高校2年生(定時制)で 9.8%、高校2年生(通信制)で 23.1%。
  - ・ 「ヤングケアラーという言葉を知ったことはない」との回答は、小学5年生で 74.4%、中学2年生で 69.9%、高校2年生(全日制)で 66.1%、高校2年生(定時制)74.0%、高校2年生(通信制)で 66.7%。
- 子ども自身が「ヤングケアラー」に対する正しい理解を進めるためには、子どもの年齢に応じてわかりやすく周知を行うとともに、周りの大人の理解を深めていくことが重要である。
- また、子どもの意見の中に「ヤングケアラー」ということでバカにされたくないといったことがあげられていたり、相談できない理由として、家族のことを悪く思われたくないといった意見も少なからずある。「ヤングケアラー」という子どもの存在を知ってもらうこととあわせて「ヤングケアラー」やその家族について正しい理解につながる情報発信が必要である。

## (3) お世話の悩みについての相談状況

- お世話の悩みを相談したことがあるのは、小学5年生は 29.7%となっている一方で、中学2年生は 14.5%、高校2年生は 13.6%にとどまる。相談相手としては、大半が「家族」であり、その他では半数前後が「友人」をあげているが、「学校の先生」をあげる人は2割前後にとどまる。
- 「学校の先生」は子どもが接する最も身近な「大人」であるが、学校だけでは限界があるため、

さまざまな場面で、話を聞いてくれる、安心して相談できる「大人」を増やしていくことが重要であり、子どもが相談方法を選べるようにしていくことが望まれる。

- 今回の調査において、困りごとや悩みのある子どもが相談したい方法としては、「面接」による相談をあげる人が最も多いが(小学5年生:36.4%、中学2年生:33.8%、高校2年生(全日制):38.3%)、中高生では「SNS相談」との回答も3割程度ある。
- なお、子どもが期待する SNS は、相談のしやすさという点では有効な手段であるが、お互いに相手の顔が見えないことの難しさもあり、信頼できる機関が適切に対応できる体制を整えながら、進めていくことが必要である。

#### (4) ヤングケアラー支援において必要な視点

- 子どもが学校や周りの大人に助けてほしいこととして、「自分の今の状況について話を聞いてほしい」「自由に使える時間がほしい」「進路や将来のことについて相談にのってほしい」「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」が多くなっている。また、多くはないものの、家族のお世話についての相談、家族の病気や障害についての説明などを希望する人や、世話の全てや一部を代わってくれることを希望する人、同じ状況の人と話をしたいとする人など、子どものニーズもさまざまである。また、子どもの自由意見の中にも、「子どもだけでは何とかしたくても情報がなかったり、子どもだけで解決することができない、一歩踏み出すためにも大人に手伝ってほしい」といった声も聞かれた。
- ヤングケアラーといっても子どもが置かれている状況は一様ではなく、子どもが担っている家族のお世話の中で何を負担に感じるかは子どもや家庭によっても異なるものであり、内容や時間、頻度等をもって一律に支援の必要性や、必要な支援を判断することはできない。子ども自身は認識できていなかったとしても、周りの大人が気づき、声をかけてあげられ、子どものニーズや意向を確認しながら、一緒に考えることができる環境づくりが求められる。
- また、子どもの意見の中には、そっとしておいてほしい、お世話を面倒と思うことに罪悪感を持つといった、とても切実で複雑な気持ちを語る意見もあり、子どもの気持ちに寄り添いながら、解決できることを一緒に考えていく対応が重要である。

## 2. 学校へのアンケート調査・インタビュー調査より

### (1) 「ヤングケアラーの可能性のある子どもは身近にいる」という意識が必要

- 小中学校と全日制高校でも 50 人に1人程度は自分のことを「ヤングケアラー」と思っている子どもがいるという調査結果であり、どの学校でもヤングケアラーがいる可能性がある。
- 一方、学校調査でヤングケアラーと思われる子どもがいるとの回答は、小学校は3割弱、中学校と全日制の高校で6割程度であった。

- ・ ヤングケアラーと思われる子どもが「いる」と回答した学校は小学校で 26.2%、中学校で 57.8%、高校(全日制)で 61.1%。高校(定時制・通信制)では 81.8%。
- ・ 一方、自分がヤングケアラーに「あてはまる」と回答した子どもは小学5年生で 2.9%、中学2年生で 2.2%、高校2年生(全日制)で 1.7%、高校2年生(定時制)で 4.9%、高校2年生(通信

制)で7.7%。小中学校と全日制高校では約50人に1人は該当すると思っている子どもがいる。

- 子どもが担うケアは、年齢が高くなるにつれ役割と負担が大きくなり、問題が顕在化しやすくなると考えられるが、顕在化していなくても困りごとを抱えている子どもがいると認識することが必要である。

## (2) 学校で抱え込まず早期に福祉につなぐ体制づくり

- ヤングケアラーと思われる子どもがいても、「学校でできることは限られている」「家庭内のことなので学校が介入するのは難しい」との回答が多く見られる。インタビューにおいても、「家庭内の実態は外部から見えにくいいため、学校がそれを完全に把握することは困難である。また家庭内の状況が把握できたとしても、教員がそこに介入していくことに難しさを感じている」との意見があった。
- 学校でできることを冷静に見極めることが必要であり、学校外とも連携して支援策を検討することが重要である。
- 一方、ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこととして「福祉と教育の連携を進めること」との回答は、高校で1割程度であり、小中学校では1割に満たない。
- 早期に福祉・専門職につなぐことも、学校ができる支援の1つであり、「学校で抱え込まずに早期に福祉につなぐ」ことが必要である。

## (3) スクールソーシャルワーカーの役割

- インタビュー調査において、福祉とのコーディネート役をスクールソーシャルワーカー(SSW)に期待する学校が多かった。アンケートでも、ヤングケアラーを支援するために必要だと思うこととして「SSWやSCなどの専門職の配置が充実すること」との回答は6割を超えており、学校と福祉をつなぐ役割をSSWが担える環境が望ましい。SSWを積極的に活用することで、学校内での福祉的支援や関係機関に関する理解につながっていくことが期待できる。

## (4) 教職員のヤングケアラーに関する理解の促進

- 「どの学校にもヤングケアラーがいる可能性がある」ことを前提とし、学校内外でヤングケアラーについての研修等の機会を増やすことが必要である。
- インタビューでは、研修を実施したことにより、ヤングケアラーへの理解が深まり、SSWに相談しやすくなったとの意見があった。
- 知識だけではなく「学校・教職員が何をしなくてはいけないか」を伝える内容であることが重要との意見もあり、研修等の内容には工夫が必要である。

## (5) 子ども自身のヤングケアラーに関する理解

- インタビューにおいて、「子どもは、自分の家庭が当たり前だと思っており、困っているという感覚がないためSOSを自ら出せない」との意見があったが、第三者から見ると支援が必要

な状態であったとしても、子ども自身が家族の世話を当たり前のことと思っているケースがある。また、外からは分かりにくくても、悩みや不安を抱えている子どもがいる可能性がある。

- ヤングケアラーを支援するために必要なこととして、「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」との回答が7割を超える高い割合であったが、「家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」ヤングケアラーへの支援においては、子ども自身が自分の状況に気づき、自ら相談できる・支援を求められるようになることも重要である。
- また、「福祉サービスや相談窓口などを知らない子どもたちが多くいる。そういうサービス等があることを子ども自身が知ること、子どもたちの選択の幅が広がる」との意見もあり、支援を受けることやその選択肢を子ども自身に伝えていくことも必要である。

### 3. 関係機関へのインタビュー調査より

#### (1) ヤングケアラーへの支援における基本的な考え方の確認

##### <家族全体への支援が必要>

- ヤングケアラーへの支援は子どもだけではなく、世帯全体への支援が必要となるため、家族全体をアセスメントしたうえでの支援方針の検討が必要である。
- また、支援後の親子関係等にも影響するため、福祉サービス等をいれるとしても慎重に行う必要があり、「家族みんなが楽になるために」と目標のイメージを最初に伝え、家族にとってどのようにプラスになるのかをしっかりと説明することが重要である。元ヤングケアラーからも、「支援が必要なのは自分ではなく家族だと思っている子どもがほとんどで、あなたに支援が必要だといわれても受け入れづらく、家族を助ける方法があるといわれると受け入れやすいのではないか」との意見があった。
- ケアを必要とする家族がいる家庭の支援においては、ケアの対象者とケアを担っている人への支援に偏りがちだが、ケアに直接かかわっていない子どもたちにも精神的な負担などが生じている可能性があり、家族全体の状況を確認したうえで必要な支援を行うことが求められる。

##### <「ケアからの解放」だけが、ヤングケアラーへの支援ではない>

- ヤングケアラーは、ケアから解放されたとしても、ケアを担っていた期間で経験できなかったことや精神的な影響、また、ずっと担っていたケアという役割から解放されることでの喪失感などが新たに生まれる可能性がある。
- 福祉サービス等をいれることによるケアからの解放、負担軽減は必要な支援ではあるが、同時に自分の家族をどのように捉えていくのか、そして子どもがその先の自分の人生を考えていけるようにしていくための支援も必要である。
- また、家庭の状況やケアの内容によっては、サービス利用だけでは解決できないことも多いと考えられる。しかし、物理的には変えられない状況があったとしても、子ども自身が「自分も大切な存在」であり、まわりの人たちに「支えられている」「支えてもらえる」という気持ちを育めるようなかわりを持つことも重要な支援の1つである。

### <家族へのアプローチの方法が課題>

- 福祉サービス等の活用できる社会資源があっても、家族がそれを受け入れないことも多いのが実態である。
- 外部のサービスを使うには「きっかけ」が必要との意見もあった。急に知らないサービスを使わなくてはならない状況は、依頼する側もケアを受ける人にとっても不安が大きいものであり、また一度サービスを使うと「もっと早くに使えばよかった」という意見も多く、「いざという時のために」一度使ってみることを勧めるなど、支援する側の工夫も必要である。

## (2) 子どもに対する支援として必要なこと

### <子どもの居場所、子どもと社会の接点を増やしていくことが必要>

- 子どもにとっては、いつでも行ける、助けを求められる決まった場所があることが大切である。また、家庭や学校等の日常とは少し距離のあるサードプレイスがあることが安心感にもつながると考えられ、そのような場所を増やしていくことが重要である。
- 子どもにとって「食」と「学習」は、子どもの健康や将来の進路に大きく影響するものであるため、居場所を兼ねた子ども食堂や学習支援の充実が望ましい。
- 一方で、人が集まる場所には行けない、行きたくない子どももいることから、LINE や SNS を活用した相談であったり、誰かにつながったりすることができる場もあるとよい。
- 子どもたちが人や社会との接点を持てる多様な「場」をつくることで、子どもが選択できる環境としていくこと、またそこでつながれた人たちとのかかわりの中で、「相談する・支えてもらう」ことが特別なことではないという認識を持てるようになることが期待される。

## (3) ヤングケアラー支援において学校に期待される役割

### <学校は、子どもにとって安全・安心で、助けを求められる場>

- 子どもが家庭以外で多くの時間を過ごす学校は、子どもにとって安全で安心できる場所であり、また助けを求められることができる場である必要がある。だからこそ、学校において、ヤングケアラーのように子どもらしい生活が過ごせていない状態は当たり前のことではなく、助けを求めてよいというメッセージを学校から発信していくことが大切である。
- 市町村・学校によっては、子どもが相談しやすい環境づくりとして、こころの相談員を配置し授業等に参加しながら子どもが相談しやすい関係性をつくっていたり、空き教室を利用してなんでも相談室を設置し、学校内で外部の人に相談できるようにするなどの取組みが行われているが、学校において子どもたちが気軽に話すことのできる雰囲気づくりが期待される。

### <学校での早期発見・早期対応の実現>

- 子どもが毎日通う学校は、ヤングケアラーをはじめ困りごとを抱える子どものアラートに気づきやすい場所である。また、家庭状況についての情報も有しているため、それらの情報をもとに子どもの様子を気に留めることが、支援を必要とする子どもや家庭の早期発見につながると考えられ、学校におけるアセスメント能力の向上が期待される。
- また、医療や福祉、保健等の関係機関と学校との連携がより一層重要になると考えられ、教員と専門職をつなぐ SSW のようなコーディネーターが必要である。

#### (4) 支援にあたる関係機関に求められる役割とそのため必要な取り組み

##### <関係機関におけるヤングケアラーの把握と支援につなぐ力の向上が必要>

- 様々な職種がヤングケアラーについての視点を持つことで、支援を必要とする子どもを早期に把握し、支援につなぐことができ、子どもの負担を軽減できる可能性がある。
- 介護や障害、医療のいずれにおいても、利用者・患者の家族構成や日々の生活の状況についてはアセスメント項目として確認を行うため、ケアマネや MSW、相談員等が「ヤングケアラー」を知っていることにより支援を必要とする子どもの存在に気づける可能性が高まることが期待できる。
- 一方で、ヤングケアラーの存在が分かった時に、具体的に誰に相談すればよいか、市町村の担当課が分からないといった意見もあり、関係機関と連携すべき担当部署や窓口の明確化が必要である。

##### <関係機関間で「お互いを知る」ことが途切れない・円滑な支援体制の構築に>

- 「つなぐ」ことにより、その後の支援の状況が分からなくなるケースもあり、特に各機関の支援対象者への支援が終結するとその家庭との関わりが途切れるため、その後の継続的な見守り等ができなくなるとの声もある。
- ヤングケアラーは複雑な課題を抱えているケースが多く、利用できる法制度も複雑であるため、各機関の専門職が関わりながら重層的な支援ができることが望ましい。関係機関におけるヤングケアラーへの支援についての理解を深めるためにも具体的な事例を共有して積み重ねていくことが必要との意見もあり、定期的・継続的に情報共有できる場の設置を検討することが求められる。
- また、制度の利用だけでは限界があり、制度では手の届かない部分を地域でどのように支援していくかを考えていくことも重要である。






# 市町村相談窓口一覧

市町村	窓口	電話番号	相談時間
名古屋市	区役所民生子ども課・支所区民福祉課	—	8:45~17:15 (平日)
	名古屋市子ども・若者総合相談センター	052-961-2544	10:00~17:00 (平日) 10:00~17:00 (土曜日)
豊橋市	こども若者総合相談支援センター	0532-54-7830	9:00~19:00 (平日) 9:00~17:00 (土曜日、日曜日)
岡崎市	家庭児童課	0564-23-6745	8:30~17:15 (平日)
一宮市	子ども家庭相談課	0586-28-9141	8:30~17:15 (平日)
瀬戸市	子ども・若者センター	0561-88-2636	9:15~18:00 (平日) 9:15~18:00 (第1日曜日、第3土曜日)
半田市	子育て相談課	0569-84-0657	8:30~17:15 (月・火・木・金) 8:30~19:15 (水)
春日井市	子ども政策課	0568-85-6229	9:00~17:00 (平日)
豊川市	子育て支援課	0533-89-2133	8:30~17:15 (平日)
津島市	子育て支援課	0567-24-1111	8:30~17:15 (平日)
碧南市	こども課	0566-41-8810	9:00~17:00 (平日)
刈谷市	子育て推進課	0566-62-1061	8:30~17:15 (平日)
豊田市	子ども家庭課	0565-34-6636	8:30~17:15 (平日)
安城市	子育て支援課 児童家庭係	0566-71-2272	8:30~17:15 (平日)
西尾市	家庭児童支援課	0563-56-3113	8:30~17:00 (平日)
蒲郡市	子育て支援課	0533-66-1108	8:30~17:15 (平日)
犬山市	子ども未来課 児童担当	0568-44-0322	8:30~17:15 (平日)
常滑市	子育て支援課	0569-47-6150	8:30~17:15 (平日)
江南市	こども政策課	0587-54-1111	8:30~17:15 (平日)
小牧市	子育て世代包括支援センター	0568-71-8613	9:30~17:00 (平日)
稲沢市	福祉総合相談窓口	0587-32-1484	8:30~17:15 (平日)
新城市	こども未来課 児童養育支援室	0536-22-9918	9:00~17:00 (平日)
東海市	女性・子ども課 家庭児童相談	052-689-1080	9:00~17:00 (平日)
大府市	福祉総合相談室	0562-45-6219	8:30~17:15 (月・火・木・金) 8:30~19:15 (水)
知多市	子ども若者支援課	0562-36-2657	8:30~17:15 (平日)
知立市	子ども課家庭児童相談室	0566-95-0162	9:00~17:00 (平日)
尾張旭市	子育て相談課	0561-53-6102	9:00~17:00 (平日)

市町村	窓口	電話番号	相談時間
高浜市	福祉まると相談グループ	0566-52-9610	8:30~17:15(平日)
岩倉市	福祉課 社会福祉グループ	0587-38-5830	8:30~17:15(平日)
豊明市	子育て支援課 子ども家庭相談係	0562-91-0008	9:00~17:00(平日)
日進市	家庭児童相談室	0561-73-1402	8:30~17:15(平日)
田原市	子育て支援課	0531-23-3513	8:30~17:00(平日)
愛西市	子育て支援課	0567-55-7118	8:30~17:15(平日)
清須市	子育て支援課	052-400-3535	9:00~17:00(平日)
北名古屋市	家庭支援課	0568-22-1111	8:30~17:15(平日)
弥富市	児童課	0567-65-1111	8:30~17:15(平日)
みよし市	子育て支援課	0561-32-8034	8:30~17:15(平日)
あま市	子育て支援課	052-444-3173	8:30~17:15(平日)
長久手市	子ども家庭課 家庭児童相談室	0561-63-9500	9:00~17:00(平日)
東郷町	子育て応援課	0561-56-0736	8:30~17:15(平日)
豊山町	福祉課 子育て支援係	0568-28-0936	8:30~17:15(平日)
大口町	福祉こども課	0587-94-1222	8:30~17:15(平日)
扶桑町	福祉児童課	0587-93-1111	8:30~17:15(平日)
大治町	子育て支援課	052-444-2711	8:30~17:15(平日)
蟹江町	子ども課	0567-95-1111	8:30~17:15(平日)
飛島村	福祉課	0567-52-1001	8:30~17:15(平日)
阿久比町	子育て支援課	0569-48-1111	8:30~17:15(平日)
東浦町	児童課	0562-83-3111	8:30~17:15(月・火・木・金) 8:30~19:15(水)
南知多町	健康子育て室	0569-65-0711	8:30~17:15(平日)
美浜町	健康・子育て課	0569-82-1111	8:30~17:15(平日)
武豊町	子育て支援課	0569-72-1111	8:30~17:15(平日)
幸田町	福祉課	0564-64-0210	8:30~17:15(平日)
設楽町	町民課	0536-62-0519	8:30~17:15(平日)
東栄町	住民福祉課	0536-76-0503	8:30~17:15(平日)
豊根村	住民課	0536-85-1313	8:30~17:00(平日)

# 児童相談所 一覧

児童相談所	管轄地区	電話番号	相談時間
児童相談所虐待対応ダイヤル「189」	管轄の児童相談所に電話を転送します。  子ども虐待防止 オレンジリボン運動	189	24時間・年中無休
愛知県中央児童・障害者相談センター	瀬戸市、尾張旭市、豊明市、日進市、清須市、北名古屋市、長久手市、東郷町、豊山町	052-961-7250	8:45~17:30 (平日)
愛知県海部児童・障害者相談センター	津島市、愛西市、弥富市、あま市、大治町、蟹江町、飛島村	0567-25-8118	8:45~17:30 (平日)
愛知県知多児童・障害者相談センター	半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町	0569-22-3939	8:45~17:30 (平日)
愛知県西三河児童・障害者相談センター	岡崎市、西尾市、幸田町	0564-27-2779	8:45~17:30 (平日)
愛知県豊田加茂児童・障害者相談センター	豊田市、みよし市	0565-33-2211	8:45~17:30 (平日)
愛知県新城設楽児童・障害者相談センター	新城市、設楽町、東栄町、豊根村	0536-23-7366	8:45~17:30 (平日)
愛知県東三河児童・障害者相談センター	豊橋市、豊川市、蒲郡市、田原市	0532-54-6465	8:45~17:30 (平日)
愛知県一宮児童相談センター	一宮市、犬山市、江南市、稲沢市、岩倉市、大口町、扶桑町	0586-45-1558	8:45~17:30 (平日)
愛知県春日井児童相談センター	春日井市、小牧市	0568-88-7501	8:45~17:30 (平日)
愛知県刈谷児童相談センター	碧南市、刈谷市、安城市、知立市、高浜市	0566-22-7111	8:45~17:30 (平日)
名古屋市中央児童相談所	千種区、東区、北区、中区、昭和区、守山区、名東区	052-757-6111	8:45~17:15 (平日)
名古屋市西部児童相談所	西区、中村区、熱田区、中川区、港区	052-365-3231	8:45~17:15 (平日)
名古屋市東部児童相談所	瑞穂区、南区、緑区、天白区	052-899-4630	8:45~17:15 (平日)

## 全国共通相談窓口

窓口	電話番号	相談時間
児童相談所相談専用ダイヤル 【厚生労働省所管】	0120-189-783	24時間・年中無休
24時間子どもSOSダイヤル 【文部科学省所管】	0120-0-78310	24時間・年中無休
子どもの人権110番 【法務省所管】	0120-007-110	8:30~17:15 (平日)





問13 問12で「1. いる」と回答した方にお聞きします。お世話の状況についてお教えてください。

① お世話を必要としている方 (あてはまる番号すべてに○)

1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. きょうだい 6. その他

② お世話を必要としている方の状況やあなたが「お世話について教えてください。お世話を必要としている方が2人以上いる場合はそれぞれの方について教えてください。

お世話を必要としている方

a) あなたが行っているお世話の内容を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 家事 (食事の準備や掃除、洗濯) 7. 見守り

2. きょうだいの世話や保育所などへの送迎など 8. 通訳 (日本語や手話など)

3. 身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など) 9. お金の管理

4. 外出の付き添い (買い物、散歩など) 10. 薬の管理

5. 通院の付き添い 11. その他 ( )

6. 感情面のサポート (感情を聞く、話し相手になるなど)

b) お世話を必要としている方の状況を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 高齢 (65歳以上) 4. 認知症 8. 依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑い含む)

2. 若い 5. 身体障がい 9. 7、8以外の病気

3. 要介護 (介護が必要) 6. 知的障がい 10. その他 ( )

7. 精神疾患 (疑い含む) 11. わからない

★以下は、お世話を必要としている方が2人以上いる場合も、それぞれの方ごとではなく全員まとめてお答えください。

③ お世話は誰が行っていますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 母親 4. 祖父 7. 自分のみ

2. 父親 5. きょうだい 8. 福祉サービス (ヘルパーなど) を利用

3. 祖母 6. 親戚の人 9. その他 ( )

④ お世話はいつから行っていますか。お世話を始めた年齢を教えてください。(はつきりとわからない場合は、だいたいの年齢でかまいません)

( ) 歳から

⑤ お世話をしている回数を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. ほぼ毎日 3. 週に1～2日 5. その他 ( )

2. 週に3～5日 4. 1か月に数日

⑥ 平日にお世話はどれくらい行っていますか。1日あたりの時間を教えてください。(日によって異なる場合は、この1か月の中で最も長かった日の時間を教えてください)

1日 ( ) 時間程度

問14 お世話をしていることで、やりたいけど、できないことはないことはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 学校に行きたくても行けない 6. クラブ活動や習い事ができない、もしくはやめるしかなかった

2. どうしても学校を遅刻、早退してしまう 7. 進路の変更を考えた

3. 宿題をする時間や勉強する時間が取れない 8. 自分の時間が取れない

4. 睡眠が十分に取れない 9. その他 ( )

5. 友人と遊ぶことができない 10. 特にない

問15 お世話をすることについて、「辛い」と思うことがありますか。(あてはまる番号1つに○)

1. よく辛いと思うことがある 4. ほとんど辛くはない

2. ときどき辛いと思うことがある 5. わからない

3. あまり辛くはない

問16 問15で「1.」「2.」と回答した方にお聞きします。それはどのようなときですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 自分の時間がほしいと思うとき

2. 友人と遊びたいとき

3. 学校の勉強や宿題をしないといけないとき

4. 疲れているとき

5. お世話の内容が大変なとき → (どのようなこと)

6. その他 ( )

問17 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。(あてはまる番号1つに○)

1. ある ⇒問18へ

2. ない ⇒問19へ

問18 問17で「1. ある」と回答した方にお聞きします。それは誰ですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 家族 (父、母、祖父、祖母、きょうだい) 9. ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人

2. 親戚 (おじ、おばなど) 10. 役所や保健センターの人

3. 友人 11. 学習支援、子ども食堂などの人

4. 学校の先生 (保健室の先生以外) 12. 近所の人

5. 保健室の先生 13. SNS 上での知り合い

6. スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー 14. 電話相談 (チャイルドラインあいちなど)

7. 塾や家庭教師、習い事の先生 15. その他 ( )

8. 医師や看護師、その他病院の人

問19 問17で「2. ない」と回答した方にお聞きします。相談していない理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 誰かに相談するほどの悩みではない 7. 家族に対し偏見を持たれたくない

2. 家族以外の人に相談するような悩みではない (朝が何してもくれない、子どもにケアをさせていると)

3. 誰かに相談するのがよいかかわからない いったよに悪く思われたくない

4. 相談できる人が身近にいない 8. 相談しても状況が変わると思わない

5. 家族のことのため話にくい、話づらい 9. その他 ( )

6. 家族のことを知られたくない (家族の病気や障がいのことを知られたくない)

問20 問17で「2. ない」と回答した方にお聞きします。お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいませんか。(あてはまる番号1つに○)

1. いる

2. いない

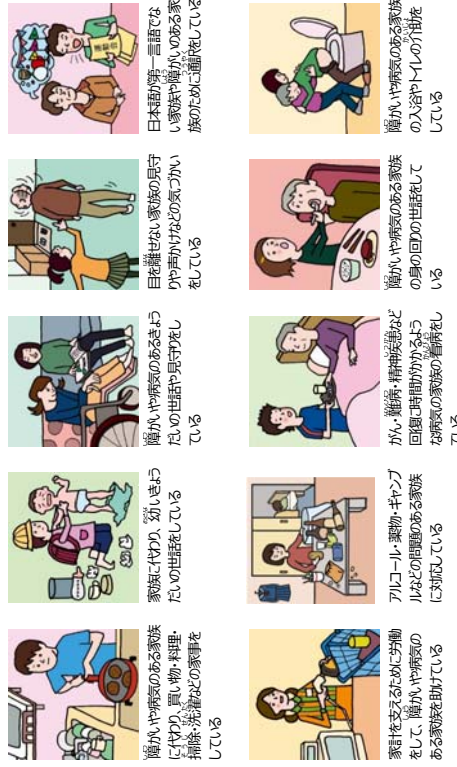
問21 学校や周りの大人に助けを求めていることなどはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 自分の今の状況について話を聞いてほしい
2. 家族のお世話について相談のつてほしい
3. 自分と同じようにお世話をしている人と話したい
4. 家族の病気や障がい、お世話の方法などについてわかりやすく教えてほしい
5. 自分が行っているお世話のすべてを代わってほしい
6. 自分が行っているお世話の一部を代わってほしい  
⇒具体的にどんなお世話、もしくはどんなときですか  
( )
7. 自由に使える時間がほしい
8. 進路や将来のことについて相談のつてほしい
9. 学校の勉強や受験勉強など学習のサポート
10. 家の生活などのお金の支援
11. その他 ( )
12. 特いない
13. わからない

#### IV. ヤングケアラーについて

ヤングケアラーとは、「ふつう本来は大人がやっている家のお世話を、子どもが代わりにやっていたり、お手伝いに時間などがとられ、子ども自身がやっていたことができなくなるなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことをいいます。

(ヤングケアラーのイメージ 例)



©一般社団法人日本ケア・連盟

問22 あなた自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。(あてはまる番号 1つに○)

1. あてはまる
2. あてはまらない
3. わからない

問23 「ヤングケアラー」という言葉をこれまで聞いていたことがありましたか。(あてはまる番号 1つに○)

1. 聞いたことがあります
2. 聞いたことはあるが、よく知らない
3. 聞いたことはない

問24 問 23 で「1. 聞いたことがあります、内容も知っている」「2. 聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した方にお聞きします。

「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(あてはまる番号すべてに○)

1. テレビや新聞、ラジオ
2. 雑誌や本
3. SNSやインターネット
4. 広報やチラシ、掲示物
5. イベントや交流会など
6. 学校
7. 友人・知人から聞いた
8. その他 ( )

自由記述欄 (ヤングケアラーへの支援を広げていくために必要だと思われることや、要望などなんでも)

周りの大人や学校に期待すること、周りにこのような人がいたらできること、ヤングケアラーへの支援に必要なことなど、自身がヤングケアラーかどうかにかかわらず、自由に思うことをお書きください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

## 「中高生の生活実態に関するアンケート調査」調査票

本アンケート調査は任意の調査です。(アンケート調査の目的などについては、別紙をご覧ください)

アンケート調査に回答してもよいですか。(あてはまる番号1つに○)

2. アンケート調査に回答する 2. アンケート調査に回答したくない

### I. 基本情報

問1 あなたの学年を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 中学2年生 3. 高校2年生(定時制)  
2. 高校2年生(全日制) 4. あてはまるものはない

問2 あなたの性別を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 男性 2. 女性 3. 回答したくない、わからない、その他

問3 現在住んでいる市町村を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

※愛知県内の市町村の選択はより回答(名古屋市はさらに区を回答)

問4 現在一緒に住んでいる家族について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 母親 5. 兄・姉 ⇒ ( )人  
2. 父親 6. 弟・妹 ⇒ ( )人  
3. 祖母 7. その他 ( )  
4. 祖父

問5 あなたの健康状態について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. よい 4. あまりよくない  
2. まあよい 5. よくない  
3. ぶつづ

### II. ふだんの生活についてお伺いします。

問6 学校への通学状況等について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

① 出席状況

1. ほとんど欠席しない 2. たまに欠席する 3. よく欠席する  
② 遅刻や早退の状況

1. ほとんどしない 2. たまにする 3. よくする

問7 部活動(学校外での活動を含む)に参加していますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 参加している 2. 参加していません

問8 ふだんの学校生活等において、以下の中であてはまるものはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 授業中に居眠りすることが多い 6. 修学旅行などの宿泊行事を欠席する  
2. 宿題や課題ができていないことが多い 7. 保健室で過ごすことが多い  
3. 持ち物の忘れ物が多い 8. 学校では1人で過ごすことが多い  
4. 部活動や習い事を休むことが多い 9. 友人と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない  
5. 提出しなければいけない書類などの提出が遅れること 10. 特にな  
が多い

問9 現在、悩んだり困っていることはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 友人との関係のこと 8. 自分と家族との関係のこと  
2. 学業成績のこと 9. 家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないな  
ど)  
3. 進路のこと 10. 病気や障がいのある家族のこと  
4. 部活動のこと 11. 自分のために使える時間が少ない  
5. 学費(授業料)など学校生活に必要なお金のこと 12. その他( )  
6. 塾(通信教育含む)や習い事ができない 13. 特にな  
い  
7. 家庭の経済状況のこと

問10 問9で1~12のいずれかを回答した方にお聞きします。回答した悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人がいますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 相談相手や話を聞いてくれる人がいる  
2. 相談相手や話を聞いてくれる人がいない  
3. 相談や話はしたくない

問11 問9で1~12のいずれかを回答した方にお聞きします。回答した悩みや困りごとについて、家族の人以外に相談をする時に、相談したい方法がありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 面接(直接対面で話す) 5. SNS相談(LINE、チャットなど)  
2. 電話相談(フリーダイヤル(通話料がかからないもの) ) 6. その他( )  
の) ) 7. 特にな  
い  
3. 電話相談(通話料のかかるもの)  
4. メールでの相談

問12 問11で2~5のいずれかを回答した方にお聞きします。電話やメール(SNS)で相談する環境はありますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 相談できる手段(携帯やタブレット、PC)はある  
2. 相談できる手段(携帯やタブレット、PC)はない

問13 進路希望についてお伺いします。あなたは将来どの学校まで行きたいと思いますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 中学校まで 4. 大学・大学院まで  
2. 高校まで 5. その他( )  
3. 短期大学・専門学校まで 6. わからない

問14 あなたは今の生活(学校生活や家族のことを含めて)にどのくらい満足していますか。たいへん満足は10点、まったく満足していないを0点とすると何点でしょうか。(あてはまる点数1つに○)

まったく満足していない	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	点
たいへん満足												点



**Ⅲ. 家庭や家族のことについてお伺いします。**

**問15 家族の中にあなたがお世話をしている人はいいますか。(あてはまる番号1つに○)**

(ここで「お世話」とは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話、日本語ができない家族の通訳(役所・役場などでの手続きなど)大人の用事や通訳の時の通訳)などをすることを指します。

(具体的な「お世話」の例として、家事(食事前の準備や掃除、洗濯、きょうだいの世話や保育所等への送迎など、身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)、外出の付き添い(買い物、散歩など)、通院の付き添い、感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)、見守り、通訳(日本語や手話など)、金銭管理、などがあります)

1. いる ⇒問 16へ
2. いない ⇒問 24へ

**問16 問15で「1. いる」と回答した方にお聞します。お世話の状況についてお教えてください。**

- ① お世話を必要としている方 (あてはまる番号すべてに○)
  1. 母親
  2. 父親
  3. 祖母
  4. 祖父
  5. きょうだい
  6. その他
- ② お世話を必要としている方の状況やあなたが行っていらっしゃるお世話について教えてください。お世話を必要としている方が2人以上いる場合はそれぞれの方について教えてください。

お世話を必要としている方	a) あなたが行っているお世話の内容を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)
※ お世話をしている人が複数いる場合、それぞれについてお教えてください	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家事(食事前の準備や掃除、洗濯)</li> <li>2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など</li> <li>3. 身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)</li> <li>4. 外出の付き添い(買い物、散歩など)</li> <li>5. 通院の付き添い</li> <li>6. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)</li> <li>7. 見守り</li> <li>8. 通訳(日本語や手話など)</li> <li>9. 金銭管理</li> <li>10. 薬の管理</li> <li>11. その他( )</li> </ol>

b) お世話を必要としている方の状況を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢(65歳以上)</li> <li>2. 若い</li> <li>3. 要介護(介護が必要な状態)</li> <li>4. 認知症</li> <li>5. 身体障がい</li> <li>6. 知的障がい</li> <li>7. 精神疾患(疑い含む)</li> <li>8. 依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)</li> <li>9. 7、8以外の病気</li> <li>10. その他( )</li> </ol>

★以下は、お世話を必要としている方が2人以上いる場合も、それぞれの方ごではなく一括でお答えください。

- ③ お世話は誰と行っていますか。(あてはまる番号すべてに○)
  1. 母親
  2. 父親
  3. 祖母
  4. 祖父
  5. きょうだい
  6. 親戚の人
  7. 自分のみ
  8. 福祉サービス(ヘルパーなど)を利用
  9. その他( )

④ お世話はいつから行っていますか。お世話を始めた年齢を教えてください。(はつきりとわからない場合は、だいたいどの年齢でかまいません)

- ( ) 歳から
- ⑤ お世話をしている頻度を教えてください。(あてはまる番号1つに○)
    1. ほぼ毎日
    2. 週に3～5日
    3. 週に1～2日
    4. 1か月に数回
    5. その他( )

⑥ 平日にお世話はどれくらい行っていますか。時間を教えてください。(日によって異なる場合は、この1か月の中で最も長かった日の時間を教えてください)

1日( ) 時間程度

**問17 お世話をしていることで、やりたいけど、できていないことはありますか。(あてはまる番号すべてに○)**

1. 学校に行きたくても行けない
2. どうしても学校を遅刻・早退してしまう
3. 宿題をずる時間や勉強する時間が取れない
4. 睡眠が十分に取れない
5. 友人と遊ぶことができない
6. 部活や習い事ができない
7. 通路の変更を考えざるを得ない、もしくは通路を変更した
8. 自分の時間が取れない
9. その他( )
10. 持病がない

**問18 お世話をすることに辛さを感じていますか。(あてはまる番号すべてに○)**

1. 身体的に辛い
2. 精神的に辛い
3. 時間的余裕がない
4. 特に辛さは感じていない

**問19 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。(あてはまる番号1つに○)**

1. ある ⇒問 20へ
2. ない ⇒問 21へ

**問20 問19で「1. ある」と回答した方にお聞します。それは誰ですか。(あてはまる番号すべてに○)**

1. 家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)
2. 親戚(おじ、おばなど)
3. 友人
4. 学校の先生(保健室の先生以外)
5. 保健室の先生
6. スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー
7. 塾や家庭教師、習い事の先生
8. 学校の先輩
9. 医師や看護師、その他病院の人
10. ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人
11. 役所や保健センターの人
12. 学習支援や子ども食堂などの人
13. 近所の人
14. SNS上での知り合い
15. 電話相談(チャットラインあいちなど)
16. その他( )

**問21 問19で「2. ない」と回答した方にお聞します。相談していない理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)**

1. 誰かに相談するほどの悩みではない
2. 家族以外の人に相談するようは悩みではない
3. 誰に相談するのかわからない
4. 相談できる人が身近にいない
5. 家族のこのため話にくい・話づらい
6. 家族のことを知られたくない
7. 家族に対して偏見を持たれたくない
8. 相談しても状況が変わると思わない
9. その他( )

**問22 問19で「2. ない」と回答した方にお聞します。お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みや愚痴を聞いてくれる人はいませんか。(あてはまる番号1つに○)**

1. いる
2. いない

問23 学校や周りの大人に助けられていることや、必要としている支援はありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 自分のいまの状況について話を聞いてほしい	7. 自由に使える時間がほしい
2. 家族のお世話について相談のってほしい	8. 進路や就職など将来の相談のってほしい
3. 家族のお世話をしている同じ境遇の人と話したい	9. 学校の勉強や受験勉強など学習のサポート
4. 家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	10. 家族への経済的な支援
5. 自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	11. その他 ( )
6. 自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	12. 特になし
	13. わからない

⇒具体的にどんなお世話、もしくはどんな時ですか  
( )

#### IV. ヤングケアラーについて

ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話を日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないうなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことをいいます。

(ヤングケアラーのイメージ 例)

家事を支えるために労働にむかひ、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている	家族に代わり、お風呂・掃除や家事のある家族たいの世話をしている	家族に代わり、お風呂・掃除や家事のある家族たいの世話をしている	障がいや病気のある家族の身の回りのお世話をしている	障がいや病気のある家族の身の回りのお世話をしている	障がいや病気のある家族の入院やトイレの介抱をしている
アルバイト・パート・アルバイト・パート・アルバイト・パート	アルバイト・パート・アルバイト・パート・アルバイト・パート	アルバイト・パート・アルバイト・パート・アルバイト・パート	アルバイト・パート・アルバイト・パート・アルバイト・パート	アルバイト・パート・アルバイト・パート・アルバイト・パート	アルバイト・パート・アルバイト・パート・アルバイト・パート

©一般社団法人日本ケアラー連盟

問24 あなた自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか。(あてはまる番号 1 つに○)

1. あてはまる
2. あてはまらない
3. わからない

問25 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(あてはまる番号 1 つに○)

1. 聞いたことがあります、内容も知っている
2. 聞いたことはあるが、よく知らない
3. 聞いたことはない

問26 問25で「1. 聞いたことがあります、内容も知っている」「2. 聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した方にお聞きします。「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(あてはまる番号すべてに○)

1. テレビや新聞、ラジオ	5. イベントや交流会など
2. 雑誌や本	6. 学校
3. SNS やインターネット	7. 友人・知人から聞いた
4. 広報やチラシ、掲示物	8. その他 ( )

自由記述欄 (ヤングケアラーへの支援を広げていくために必要だと思うことや、要望等なんでも)

周りの大人や学校に期待すること、周りにこのような人がいいたらできること、ヤングケアラーへの支援に必要なことなど、自身がヤングケアラーかどうかかわからず、自由に思うことをお書きください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

「高校生の生活実態に関するアンケート調査」調査票

本アンケート調査は任意の調査です。(アンケート調査の目的などについては、別紙をご覧ください)

アンケート調査に回答してもよいですか。(あてはまる番号1つに○)

1. アンケート調査に回答する
2. アンケート調査に回答したくない

I. 基本情報

問1 あなたの年齢を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 18歳以下
2. 19歳以上

問2 あなたが入学した年を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 2021年4月1日以降
2. 2020年4月1日以降
3. 2019年4月1日以降
4. 2018年4月1日以降
5. 2017年4月1日以降
6. 2017年3月31日以前

問3 あなたの性別を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 男性
2. 女性
3. 回答したくない、わからない、その他

問4 現在住んでいる市町村を教えてください。(あてはまる番号1つに○)

※愛知県内の市町村の選択はより回答

問5 現在一緒に住んでいる家族について教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 母親
2. 父親
3. 祖母
4. 祖父
5. 兄・姉 ⇒ ( ) 人
6. 弟・妹 ⇒ ( ) 人
7. その他 ( )

問6 あなたの健康状態について教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. よい
2. まあよい
3. ふう
4. あまりよくない
5. よくない

問7 現在在籍している学校に入学した理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 学習スタイルが自分に合っている(登校頻度など)
2. 自分に合った授業内容が提供されている
3. 集団生活に入らなくてもよい
4. 仕事やアルバイト、自分のやりたいこと等と両立しやすい
5. 家族の世話や介護と両立しやすい
6. 全日制高校に通っていたが辞めた
7. 高校進学が過去になかった
8. その他 ( )

問8 問7で「全日制高校に通っていたが辞めた」と回答した方にお聞きします。その理由は何か。(あてはまる番号すべてに○)

1. 通学スタイルが自分に合わなかった(登校頻度など)
2. 授業内容が自分に合わなかった
3. 集団生活が自分に合わなかった
4. 経済的理由で通えなくなった
5. 家族の世話や介護をする必要があった
6. トラブル等が理由で退学になった
7. その他 ( )

II. ふだんの生活についてお伺いします。

問9 部活動(学校外での活動を含む)に参加していますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 参加している
2. 参加していない

問10 現在、悩んだり困っていることはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 友人との関係のこと
2. 学業成績のこと
3. 進路のこと
4. 部活動のこと
5. 学費(授業料)など学校生活に必要なお金のこと
6. 塾(通信教育含む)や習い事ができない
7. 家庭の経済状況のこと
8. 自分と家族との関係のこと
9. 家族内の人間関係のこと(両親の仲が良くないなど)
10. 病気や噂いのある家族のこと
11. 自分のために使える時間が少ない
12. その他 ( )
13. 持たない

問11 問10で1~12のいずれかを回答した方にお聞きします。回答した悩みや困りごとについて、相談に乗ってくれたり、話を聞いてくれる人がいますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 相談相手や話を聞いてくれる人がいる
2. 相談相手や話を聞いてくれる人がいない
3. 相談や話しただくない

問12 問10で1~12のいずれかを回答した方にお聞きします。回答した悩みや困りごとについて、家族の人以外に相談をする時に、相談したい方法はありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 面接(直接対面で話す)
2. 電話相談(フリーダイヤル(通話料がかからないもの))
3. 電話相談(通話料のかかるもの)
4. メールでの相談
5. SNS相談(LINE、チャットなど)
6. その他 ( )
7. 持たない

問13 問12で2~5のいずれかを回答した方にお聞きします。電話やメール(SNS)で相談する環境はありますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 相談できる手段(携帯やタブレット、PC)はある
2. 相談できる手段(携帯やタブレット、PC)はない

問14 あなたは今の生活(学校生活や家族のことを含めて)にどのくらい満足していますか。たいへん満足していますか。満足は10点、まったく満足していないを0点とすると何点でしょうか。(あてはまる点数1つに○)

まったく満足していない	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
たいへん満足											

### Ⅲ. 家庭や家族のことについて伺います。

※18歳以下の方 → 問15へ

※19歳以上の方 → 問24へ

#### 【18歳以下の方】

問15 家族の中にあなただけがお世話をしている人はいいますか。(あてはまる番号1つに○)

(ここで「お世話」とは本来大人が担当と想定されている家事や家族の世話、日本語ができない家族の通訳(役所・役場などでの手続など)大人の用事や通院の時の通訳)などをすることです。

(具体的な「お世話」の例として、家事(食事の準備や掃除、洗濯、きょうだいの世話や保育所等への送迎など、身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)、外出の付き添い(買い物、散歩など)、通院の付き添い、感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)、見守り、通訳(日本語や手話など)、金銭管理、などがあります)

1. いる ⇒問16へ

2. いない ⇒問17へ

問16 問15で「1. いる」と回答した方にお聞きします。お世話の状況についてお教えてください。

① お世話を必要としている方 (あてはまる番号すべてに○)	
1. 母親	2. 父親
3. 祖母	4. 祖父
5. きょうだい	6. その他
② お世話を必要としている方の状況やあなたが行っているお世話について教えてください。お世話を必要としている方が2人以上いる場合はそれぞれの方について教えてください。	
お世話を必要としている方	
a) あなたが行っているお世話の内容を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)	
1. 家事(食事の準備や掃除、洗濯)	7. 見守り
2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など	8. 通訳(日本語や手話など)
3. 身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)	9. 金銭管理
4. 外出の付き添い(買い物、散歩など)	10. 乗の管理
5. 通院の付き添い	11. その他( )
6. 感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	
b) お世話を必要としている方の状況を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)	
1. 高齢(65歳以上)	4. 認知症
2. 若い	5. 身体障がい
3. 要介護(介護が必要)	6. 知的障がい
	7. 精神疾患(疑い含む)
	8. 依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)
	9. 7、8以外の病気
	10. その他( )

★以下は、お世話を必要としている方が2人以上いる場合も、それぞれの方ごとではなく一括でお答えください。

③ お世話は誰が行っていますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 母親	4. 祖父	7. 自分のみ
2. 父親	5. きょうだい	8. 福祉サービス(ヘルパーなど)を利用
3. 祖母	6. 親戚の人	9. その他( )

④ お世話はいくら行っていますか。お世話を始めた年齢を教えてください。(はっきりとわからない場合は、だいたい年齢でかまいません)

( ) 歳から		
⑤ お世話をしている頻度を教えてください。(あてはまる番号1つに○)		
1. ほぼ毎日	3. 週に1～2日	5. その他( )
2. 週に3～5日	4. 1か月に数日	

⑥ 平日にお世話がどれくらい行っていますか。時間を教えてください。(日によって異なる場合は、この1か月の中で最も長かった日の時間を教えてください)

1日( ) 時間程度

※以下の質問は、18歳以下の方全員へ回答ください

問17 お世話をしていることで、やりたいけど、できていないことはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 特別にお世話をしている人はいない ⇒問33へ	7. 当初通っていた学校を辞めた
2. 学校に行きたい日に行けない	8. 部活や習い事ができない、もしくは辞めざるを得なかった
3. 学校に行き日(日)に遅刻や早退をしてしまう	9. 進路の変更を考ざるを得ない、もしくは進路を変更した
4. 授業を受ける時間や課題をする時間、勉強する時間が取れない	10. 自分の時間が取れない
5. 睡眠が十分に取れない	11. アルバイトや仕事をすることができない
6. 友人と遊ぶことができない	12. その他( )
	13. 特にできていないことはない

問18 お世話をすることに辛さを感じていますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 身体的に辛い	3. 時間的余裕がない
2. 精神的に辛い	4. 特に辛さを感じていない

問19 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。(あてはまる番号1つに○)

1. ある ⇒問20へ
2. ない ⇒問21へ

問20 問19で「1. ある」と回答した方にお聞きします。それは誰ですか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	9. 医師や看護師、その他病院の人
2. 親戚(おじ、おばなど)	10. ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人
3. 友人	11. 役所や保健センターの人
4. 学校の先生(保健室の先生以外)	12. 学習支援や子ども食堂などの人
5. 保健室の先生	13. 近所の人
6. スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	14. SNS上での知合い
7. 塾や家庭教師、習い事の先生	15. 電話相談(チャットラインあいちなど)
8. 学校の先輩	16. その他( )

問21 問19で「2. ない」と回答した方にお聞きします。相談していない理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 誰かに相談するほどの悩みではない	7. 家族に話しにくい理由を挙げたい(あてはまる番号すべてに○)
2. 家族の人に相談するような悩みではない	(親が何もしてくれない、子どもにケアをさせていると
3. 誰に相談するのがよいかわからない	いったように悪く思われたい)
4. 相談できる人が身近にいない	8. 相談しても状況が変わると思わない
5. 家族のことについて話したい、話したい	9. その他( )
6. 家族のことを知られたくない	(家族の病状や噂のことを知られたくない)

問22 問 19 で「2. ない」と回答した方にお聞きします。お世話を必要としている家族のことや、お世話を必要としている家族の悩みや愚痴を聞いてくれる人はいますか。(あてはまる番号 1 つに○)

1. いる
2. いない

問23 学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 自分めいまの状況について話を聞いてほしい
  2. 家族のお世話について相談にのってほしい
  3. 家族の世話をしている同じ境遇の人と話したい
  4. 家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりや
  5. 自分が持っているお世話をすべてを代わりにや
  6. 自分が持っているお世話を一部を代わりにや
  7. 自由に使える時間がほしい
  8. 進路や就職など将来の相談にのってほしい
  9. 学校の勉強や受験勉強など学習のサポート
  10. 家族の経済的な支援
  11. その他 ( )
  12. 特にない
  13. わからない
- ⇒具体的にどんなお世話、もしくはどんな時ですか ( )

※18 歳以下の方 → 問 33 へ

【19 歳以上の方】 18 歳までのことを思い出してお答えください。

問24 あなたが 18 歳までの時、家族の中にあなたが世話をしていた人はいましたか。(あてはまる番号 1 つに○)

(ここで「お世話」とは本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話、日本語ができない家族の通訳 (役所・役場などでの手続など大人の用事や通院の時の通訳) などをすることです。)

(具体的な「お世話」の例として、家事 (食事の準備や掃除、洗濯)、きょうだいの世話や保育所等への送迎など、身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など)、外出の付き添い (買い物、散歩など)、通院の付き添い、感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)、見守り、通訳 (日本語や手話など)、金銭管理、などがあります)

1. いた (現在はお世話をしていない)
2. 現在まで継続してお世話をしている
3. いなかった ⇒問 26 へ

問25 問 24 で「1. いた」、「2. 現在まで継続してお世話をしている」と回答した方にお聞きします。おおよそ 18 歳までの時に行っていたお世話の状況についてお答えください。

① お世話を必要としていた方 (あてはまる番号すべてに○)	1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. きょうだい 6. その他
② お世話を必要としていた方の状況やあなたが行っていたお世話について教えてください。お世話を必要としていた方が 2 人以上いる場合はそれぞれの方について教えてください。	a) あなたが行っていたお世話の内容を教えてください。(あてはまる番号すべてに○) 1. 家事 (食事の準備や掃除、洗濯) 7. 見守り 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など 8. 通訳 (日本語や手話など) ※ お世話をしていた人が複数いる場合、それぞれについて回答ください 3. 身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など) 9. 金銭管理 4. 外出の付き添い (買い物、散歩など) 10. 薬の管理 5. 通院の付き添い 11. その他 ( ) 6. 感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)
b) お世話を必要としていた方の状況を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)	1. 高齢 (65 歳以上) 4. 認知症 8. 依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (縦い含む) 2. 幼い 5. 身体障がい 9. 知的障がい 3. 要介護 (介護が必要) 6. 知的障がい 9. 7、8 以外の病気 な状態) 7. 精神疾患 (縦い含む) 10. その他 ( )

★以下は、お世話を必要としていた方が 2 人以上いる場合も、それぞれの方ごとではなく一括でお答えください。

③ お世話は誰と行っていましたか。(あてはまる番号すべてに○)	1. 母親 4. 祖父 7. 自分のみ 2. 父親 5. きょうだい 8. 福祉サービス (ヘルパーなど) を利用 3. 祖母 6. 親戚の人 9. その他 ( )
④ お世話はいつから行っていましたか。お世話を始めた年齢を教えてください。(はつきりとわからない場合は、だいたい年齢をかまいません)	( ) 歳から 1. ほぼ毎日 3. 週に 1～2 日 5. その他 ( ) 2. 週に 3～5 日 4. 1 か月に数日
⑥ 平日にお世話はどれくらい行っていましたか。時間を教えてください。(就いている範囲をかまいません)	1 日 ( ) 時間程度

※以下の質問は、19歳以上の方全員にご回答ください

問26 18歳までの頃に、お世話をしていたことで、やりたいけど、できていなかったことはありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 特にお世話をしている人はいなかった
2. 学校に行きたい日に行けなかった
3. 学校に行く日に遅刻や早退をしてしまった
4. 授業を受ける時間や課題をする時間、勉強する時間が取れなかった
5. 睡眠が十分に取れなかった
6. 友人と遊ぶことができなかった
7. 通っていた学校を辞めた
8. 部活や習い事ができなかった、もしくは辞めた
9. 進路を変更した
10. 自分の時間をすることができなかった
11. アルバイトや仕事をすることができなかった
12. その他 ( )
13. 特にできていないことはない

問27 18歳までの頃に、お世話をすることに辛さを感じていましたか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 特にお世話をしていた辛さを感じていなかった
2. 身体的に辛かった
3. 精神的に辛かった
4. 時間的余裕がなかった
5. お世話をすることに、特に辛さは感じていなかった

問28 当時、お世話を必要としていた家族のことや、お世話を誰かに相談したことはありましたか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 特にお世話をしていた人がいなかった ⇒ 問 32 へ
2. あった ⇒ 問 29 へ
3. なかった ⇒ 問 30 へ

問29 問28で「2. あった」と回答した方にお聞きします。それは誰でしたか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 家族 (父、母、祖父、祖母、きょうだい)
2. 親戚 (おじ、おばなど)
3. 友人
4. 学校の先生 (保健室の先生以外)
5. 保健室の先生
6. スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー
7. 塾や家庭教師、習い事の先生
8. 学校の先輩
9. 医師や看護師、その他病院の人
10. ヘルパーやケアマネ、福祉サービスの人
11. 役所や保健センターの人
12. 学習支援や子ども食堂などの人
13. 近所の人
14. SNS 上での知り合い
15. 電話相談 (チャイルドラインあいちなど)
16. その他 ( )

問30 問28で「3. なかった」と回答した方にお聞きします。当時、相談していなかった理由を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

1. 誰かに相談するほどの悩みではなかった
2. 家族以外の人に相談するような悩みではなかった
3. 誰かに相談するのがよいか分からなかった
4. 相談できる人が身近にいなかった
5. 家族のこのため話しくなった、話しづかった
6. 家族のことを知られたいくなかった (家族の病気や障がいのことを知られたいくなかった)
7. 家族に対して偏見を持たれたいくなかった (親が何してもいい、子どもにケアをさせているといつかどうにか悪く思われたいくない)
8. 相談しても状況が変わるとは思わなかった
9. その他 ( )

問31 問28で「3. なかった」と回答した方にお聞きします。お世話を必要としていた家族のことや、お世話を誰かに相談したことはありましたか。(あてはまる番号すべてに○)

1. いた
2. いなかった

問32 18歳までの頃に、お世話をしていることで、学校や周りの大人に助けてほしいことや、必要としている支援はありましたか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 特にお世話をしていた
2. 自分のいまの状況について話を聞いてほしい
3. 家族のお世話について相談してほしい
4. 家族の世話をしている同じ境遇の人と話したかった
5. 家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい
6. 自分が行っているお世話をすべてを代わってくれる人やサービスがほしい
7. 自分が行っているお世話を一部を代わってくれる人やサービスがほしい ⇒ 具体的なことなお世話、もしくはどんな時でしたか ( )
8. 自由に使える時間がほしい
9. 進路や就職など将来の相談にのってほしい
10. 学校の勉強や受験勉強など学習のサポート
11. 家族への経済的な支援
12. その他 ( )
13. 特になかった
14. わからない

※19歳以上の方 → 問 34 へ

## IV. ヤングケアラーについて

ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話を日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないうなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことをいいます。

(ヤングケアラーのイメージ 例)



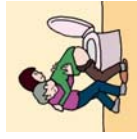
障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている

家族に代わり、炊き出しの世話をしている

障がいや病気のあるまよひや声かけなどの気づかされていない世話を担当している

日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために翻訳をしている

障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている



家族を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている

アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している

がん・難病・精神疾患など慢性疾患のある家族の看護をしている

障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている

障がいや病気のある家族の入院や療養の世話をしている

©一般社団法人日本ケアラー連盟

※18歳以下の方

問33 あなた自身は「ヤングケアラー」にあてはまると思いますが。(あてはまる番号1つに○)

1. あてはまる
2. あてはまらない
3. わからない

※19歳以上の方

問34 18歳までのあなたは自身は「ヤングケアラー」にあてはまったと思いますか。(あてはまる番号1つに○)

1. あてはまった
2. あてはまらなかった
3. わからない

全員にお聞きします

問35 「ヤングケアラー」という言葉をこれまで聞いたことがありましたか。(あてはまる番号1つに○)

1. 聞いたことがあり、内容も知っている
2. 聞いたことはあるが、よく知らない
3. 聞いたことがない

問36 問35で「1. 聞いたことがあり、内容も知っている」「2. 聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した方にお聞きします。「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(あてはまる番号すべてに○)

1. テレビや新聞、ラジオ
2. 雑誌や本
3. SNSやインターネット
4. 広報やチラシ、掲示物
5. イベントや交流会など
6. 学校
7. 友人、知人から聞いた
8. その他 ( )

自由記述欄 (ヤングケアラーへの支援を広げていくために必要だと思うことや、要望等なんでも)

周りの大人や学校に期待すること、周りにこのような人がいたらできたらできること、ヤングケアラーへの支援に必要なことなど、自身がヤングケアラーかどうかにかかわらず、自由に思うことをお書きください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

## 学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査

### I. 基本情報

問1 ご回答された方の役職をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 校長
2. 副校長・教頭
3. 主幹・主任教諭 (具体的に: )
4. 養護教諭
5. スクールソーシャルワーカー (SSW)
6. スクールカウンセラー (SC)
7. その他 ( )

問2 貴校の学校区分をお教えてください。(あてはまる番号1つに○)

1. 小学校
2. 中学校
3. 義務教育学校 (小学1～6年生)
4. 義務教育学校 (中学1～3年生)
5. 高等学校

問3 問2で「5. 高等学校」と回答した方にお聞きます。貴校に設置している課程についてお教えてください。

① 課程 (あてはまる番号すべてに○)

1. 全日制
2. 定時制
3. 通信制

② 単位の有無 (あてはまる番号すべてに○)

1. あり
2. なし

問4 貴校の所在地をお教えてください。

( ) 市・町・村

問5 小学校については小学5年生、中学校については中学2年生、高等学校については高校2年生の人数についてお教えてください。

(令和3年5月1日時点) ※義務教育学校の場合は、小学5年生、または中学2年生

( ) 人

### II. 支援が必要だと思われる子どもへの対応についてお伺いします。

1. 支援体制について

問6 SSW、SCの派遣・配置状況をお伺いします。

(1) SSWの派遣・配置状況 (あてはまる番号1つに○)

1. 常勤している
2. 週に2～3回以上派遣・配置されている
3. 週に1回程度派遣・配置されている
4. 月に数回以下で派遣・配置されている
5. 要請に応じて派遣される
6. その他 ( )

(2) SCの派遣・配置状況 (あてはまる番号1つに○)

1. 常勤している
2. 週に2～3回以上派遣・配置されている
3. 週に1回程度派遣・配置されている
4. 月に数回以下で派遣・配置されている
5. 要請に応じて派遣される
6. その他 ( )

問7 SSW、SCの活動内容をお伺いします。

(1) SSWの活動内容(あてはまる番号すべてに○)

1. 児童・生徒の相談対応
2. 保護者の相談対応
3. 教職員の相談対応
4. 定期的な児童・生徒との面談
5. 校内の会議に参加
6. 外部機関との連絡・調整
7. その他( )

(2) SCの活動内容(あてはまる番号すべてに○)

1. 児童・生徒の相談対応
2. 保護者の相談対応
3. 教職員の相談対応
4. 定期的な児童・生徒との面談
5. 校内の会議に参加
6. 外部機関との連絡・調整
7. その他( )

2. 支援が必要だと思われる子どもの把握について

問8 支援が必要と思われる子どもや気になる子どもについて、入学時に幼稚園・保育所、小学校、中学校から、主どのような引継ぎがありますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 登校状況など、前の学校での様子
2. 子ども本人の発達特性
3. 保護者の病気や障がい等の状況
4. 家族構成、家庭環境
5. 経済的状況
6. 要保護児童対策地域協議会(要対協)への登録状況
7. 関わりのある外部機関
8. その他( )
9. 引継ぎはないことが多い

問9 支援が必要だと思われる子どもや気になる子どもを把握するために、貴校では、子どもの悩みや困りごとを聞くようなアンケートを実施していますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 実施している
2. 実施していない

問10 問9で「実施している」と回答した方にお聞きます。アンケートでは、友人関係や学校生活、進路に関する悩みや困りごと以外に、下記にあげるような項目を確認していますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 家庭で困っていること
2. 家族関係(本人と家族との関係、家族内の人間関係)に関する悩み、困りごと
3. 病気や障がいのある家族に関する悩み、困りごと
4. 家庭における家事等の負担
5. 困った際の相談相手の有無
6. 子どもの健康状態
7. その他( )
8. 確認していない

問11 貴校ではアンケート以外で、支援が必要だと思われる子どもや気になる子どもの把握をするために、行っている取組や工夫はありますか。

( )

問12 貴校では、子どもの悩みや家庭状況等を把握する際に、教職員(SSWやSC含む)はアセスメントシートなど何らかの決まった様式を使用していますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 県作成の様式を使用(アレンジしたものの含む)
2. 市作成の様式を使用(アレンジしたものの含む)
3. その他の独自の様式を使用
- 具体的に( )
4. 使用していない

※次の設問は、郵送している「ヤングケアラー」の早期発見のためのアセスメントシートをご覧の上、ご回答ください。

郵送しているアセスメントシートは、厚生労働省 2019 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業において、「ヤングケアラー」と思われる子どもの早期発見につなげるために活用することを目的に作成したものであり、「本来守られるべき子どもの権利」が守られているかという観点から項目を作成しています。

問13 問12で「1. 県作成の様式を使用(アレンジしたものの含む)」2. 市作成の様式を使用(アレンジしたものの含む)」3. その他の独自の様式を使用」と回答した方にお聞きます。お使いのアセスメントシートでは、郵送しているアセスメントシートに記載している下記の視点の項目は含まれていますか。含まれている項目すべてに○をつけてください。

1. 必要が病院に通院、受診できない、服薬できていない
2. 精神的な不安定さがある
3. 給食時に過食傾向がみられる
4. 表情が乏しい
5. 家族に関する不安や悩みを口にしている
6. 将来に対する不安や悩みを口にしている
7. 極端に痩せている、痩せてきた
8. 極端に太っている、太ってきた
9. 身だしなみが整っていない
10. 虫歯が多い
11. 学校を休みがちである
12. 遅刻や早退が多い
13. 保健室で過ごしていることが多い
14. 授業中の集中力が欠けている、居眠りしていることが多い
15. 学力が低下している
16. 宿題や持ち物の忘れ物が多い
17. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い
18. 学校に必要なものを用意してもらえない
19. お弁当を持ってこない
20. 部活にはいていない、休みが多い
21. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する
22. 校納金が遅れる、未払い
23. クラスメイトのかわりが薄く、ひどいことが多い
24. 生活のためにアルバイトをしている
25. ともだちと遊んでいる姿あまり見かけない

### Ⅲ. ヤングケアラーについてお伺いします。

問14 ヤングケアラーとは、「本来大人が担うと想定されている家事や家族の世帯などを日常的に行っていることにより、子ども自身がやりたいことができないなど、子ども自身の権利が守られていないと思われる子ども」のことを言います。ヤングケアラーの定義を踏まえて、以下の設問にお答えください。

(ヤングケアラーのイメージ(例))



©一般社団法人日本ケアラー連盟



ヤングケアラーの定義を見て、現在、貴校にヤングケアラーと思われる（可能性も含めて）子どもはいますか。（あてはまる番号1つ

に○）

1. いる →問 15 へ
2. いない →問 17 へ
3. 分からない →問 16 へ

**問15 問14で「1. いる」と回答した方にお伺いします。**

(1) ヤングケアラーと思われる子どもの状況は下記のうちどれですか。（あてはまる番号すべてに○）

1. 障がいや病気のある家族に代わり、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている
2. 家族の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている
3. 家族の代わりに、障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている
4. 目を離せない家族の見守りや声掛けをしている
5. 家族の通訳をしている
6. 家事を支えるために、アルバイト等をしている
7. アルコール、薬物、ギャンブルなどの問題のある家族に対応している
8. 病気の家族の看病をしている
9. 障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている
10. 障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている
11. その他（ ）
12. 具体的な状況は把握できていない

(2) 貴校において、ヤングケアラーと思われる子どもに対して、具体的に支援している事例はありますか。（学校による直接的支援のほか、関係機関へつないだものも含む）（あてはまる番号1つに○）

1. 支援している事例がある →問 15 (3) へ
2. 支援したいが、支援できていない →問 15 (5) へ
3. 具体的な支援をするほどではない →問 15 (6) へ

(3) **問 15 (2) で「1. 支援している事例がある」と回答した方にお伺いします。**ヤングケアラーと思われる子どもの事例について、

① 支援によって子どもの生活状況や様子等に変化がみられた事例、② 支援が困難であった事例をお教えください。 ※ 支援事例が1件しかない場合は、①②どちらかのみでの記入でかまいません。

**【事例1】 支援によって子どもの生活状況や様子等に変化がみられた事例**

※ 学年、学校生活の状況は、支援を行った当時について、ご回答ください。

性別 (1つに○)	1. 女性	2. 男性	3. その他
学年 (1つに○) ※	1. 小学 ( ) 年	2. 中学 ( ) 年	3. 高校 ( ) 年
学校生活の状況 ※ (すべてに○)	1. 学校を休みがちである 2. 遅刻や早退が多い 3. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い 4. 保健室で過ごしていることが多い 5. 学校に必要なものを用意してもらえない 6. 精神的な不安定さがある 7. 部活を途中でやめてしまった 8. 身だしなみが整っていない 9. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する 10. 学力が低下している 11. 校納金が遅れる、未払い 12. 宿題や持ち物の忘れ物が多い 13. その他 ( )		
家族構成 (すべてに○)	1. 母親 2. 父親 3. 祖母 4. 祖父 5. きょうだい 6. その他 ( )		
家庭でのケアの状況	① ケアの状況を把握しているか → はい・いいえ ② 「はい」の場合、ケアの具体的な内容 (ケアを必要としている人ごとに、状況、ケアの内容を回答) ※ a) はそれぞれの中で1つ回答、b), c) はあてはまるものすべて回答		
1	a)	b)	c)
...	a)	b)	c)
a) ケアを必要としている人	b) ケアを必要としている人の状況		
1. 母親	1. 高齢 (65歳以上)		
2. 父親	2. 幼い		
3. 祖母	3. 要介護 (介護が必要な状態)		
4. 祖父	4. 認知症		
5. きょうだい	5. 身体障がい		
6. その他 ( )	6. 知的障がい		
c) ケアの内容			
1. 家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	7. 見守り		
2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など	8. 通訳 (日本語や手話など)		
3. 身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など)	9. 金銭管理		
4. 外出の付き添い (買い物、散歩など)	10. 薬の管理		
5. 通院の付き添い	11. その他 ( )		
6. 感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	12. わからない		
ヤングケアラーと気づいた理由、きっかけ (すべてに○)	1. 子ども本人から話を聞いた 2. 子どもの学校生活の状況、様子から 3. 学校での面談やアンケートから 4. 養護教諭、SC、SSW からの報告 5. 保護者・親族からの相談や保護者の状況から 6. 家庭訪問 7. 出身校園からの引継ぎ 8. その他 ( )		
支援に関わった機関 (すべてに○)	1. 市町村または県教育委員会 2. 要保護地域対策協議会 (要対協) 3. 市町村の福祉部門 (2を除く) 4. 児童相談所 5. その他 ( )		
学校で行った支援			
支援にあつての工夫や気をつけたいこと			
支援にあたり、特に難しかった点			
支援した結果、子どもへの変化			

**【事例2】支援が困難であった事例**

※学年、学校生活の状況は、支援を行った当時について、ご回答ください。

性別 (1つ○)	1. 女性	2. 男性	3. その他
学年 (1つ○)	1. 小学 ( ) 年	2. 中学 ( ) 年	3. 高校 ( ) 年
学校生活の状況 (すべて○)	1. 学校を休みがちである 2. 遅刻や早退が多い 3. 保健室で過ごしていることが多い 4. 精神的な不安定さがある 5. 身だしなみが整っていない 6. 学力が低下している 7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い 8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い 9. 学校に必要なものを用意してもらえない 10. 部活を途中でやめてしまった 11. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する 12. 校納金が遅れる、未払い 13. その他 ( )		
家族構成 (すべて○)	1. 母親	3. 祖母	5. きょうだい
	2. 父親	4. 祖父	6. その他 ( )
家庭でのケアの状況	①ケアの状況を把握しているか → はい・いいえ ②「はい」の場合、ケアの具体的な内容 (ケアを必要としている人ごとに、状況、ケアの内容を回答) ※a)はそれぞれの際に1つ回答、b)、c)はあてはまるものすべて回答 1 a) <input type="checkbox"/> b) <input type="checkbox"/> c) <input type="checkbox"/> ... a) <input type="checkbox"/> b) <input type="checkbox"/> c) <input type="checkbox"/> a) ケアを必要としている人 b) ケアを必要としている人の状況 1. 母親 1. 高齢 (65歳以上) 7. 精神疾患 (縦い含む) 2. 父親 2. 幼い 8. 依存症 (縦い含む) 3. 祖母 3. 要介護 (介護が必要な状態) 9. 7、8以外の病気 4. 祖父 4. 認知症 10. その他 ( ) 5. きょうだい 5. 身体障がい 11. わからない 6. その他 ( ) 6. 知的障がい		
ケアの内容	c) ケアの内容 1. 家事 (食事の準備や掃除、洗濯) 2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など 3. 身体的な介護 (入浴やトイレのお世話など) 4. 外出の付き添い (買い物、散歩など) 5. 通院の付き添い 6. 感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど) 7. 見守り 8. 通訳 (日本語や手話など) 9. 金銭管理 10. 薬の管理 11. その他 ( ) 12. わからない 5. 保護者・親族からの相談や保護者の状況から 6. 家庭訪問 7. 出身校園からの引継ぎ 8. その他 ( ) 4. 児童相談所 5. その他 ( )		
ヤングケアラーと気づいた理由、きっかけ	1. 子ども本人から話を聞いた 2. 子どもの学校生活の状況、様子から 3. 学校での面談やアンケートから 4. 養護教諭、SC、SSWからの報告 1. 市町村または県教育委員会 2. 要保護地域対策協議会 (要対協) 3. 市町村の福祉部門 (2を除く)		
支援に関わった機関	1. 市町村または県教育委員会 2. 要保護地域対策協議会 (要対協) 3. 市町村の福祉部門 (2を除く)		
学校で行った支援			
支援にあたっての工夫や気を付けたこと			
支援にあたり、特に難しかった点			
支援した結果、子どもへの変化			

(4) 「ヤングケアラー」と思われる子どもがいた際、主にどこで相談していますか。 (あてはまる番号すべてに○)

- 市町村または県教育委員会
- 市町村の福祉部門 (3を除く)
- 市町村の要対協の調整機関/虐待対応部門
- 児童相談所
- 愛知県総合教育センター
- 教育支援センター (適応指導教室)
- ケースにより、相談先は異なる
- その他 ( )
- 相談先がない (どこに相談したらよいか分からない)

(5) 問15(2)で「2. 支援したいが、支援できていない」と回答した方にお伺いします。その理由をお教えください。

\_\_\_\_\_

(6) 問15(2)で「3. 具体的な支援をするほどではない」と回答した方にお伺いします。そのように判断された理由をお教えください。

\_\_\_\_\_

問16 問14で「3. 分からない」と回答した方にお伺いします。その理由をお教えください。 (あてはまる番号すべてに○)

- 学校において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している
- 不登校やいじめなどに比べ緊急度が高くないため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる
- 家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい
- ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない
- その他 ( )

問17 ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うことはどのようなことですか。 (あてはまる番号すべてに○)

- 子ども自身がヤングケアラーについて知ること
- 教職員がヤングケアラーについて知ること
- 学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること
- SSW や SC などの専門職の配置が充実すること
- 子どもが教員に相談しやすい関係をつくること
- ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること
- 学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること
- 学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること
- ヤングケアラーを支援する NPO などの団体が増えること
- 福祉と教育の連携を進めること (具体的に: )
- その他 ( )
- 特になし

問18 ヤングケアラーに関してご自由に意見をお書きください。

\_\_\_\_\_

★2021年12月～2022年2月ごろに、学校での取り組みについてヒアリングを予定しています。ヒアリングにご協力いただける場合は、学校名をご記入ください。別途ご連絡させていただきます。

所在地: \_\_\_\_\_ (市・町・村)  
 学校名: \_\_\_\_\_  
 連絡先 電話: \_\_\_\_\_  
 メールアドレス: \_\_\_\_\_

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。



愛知県ヤングケアラー実態調査報告書

2022年3月発行

愛知県福祉局児童家庭課

〒460-8501 愛知県名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話 052-954-6281(ダイヤルイン) FAX 052-971-5889

E-mail [jidoukatei@pref.aichi.lg.jp](mailto:jidoukatei@pref.aichi.lg.jp)

<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/jidoukatei/>



児童家庭課ホームページ

